

平成十九年三月
津山郷土博物館紀要第二十一号

寛政九年（一七九七）

津山松平藩町奉行日記 十五

津山郷土博物館



津山松平藩町奉行日記 十五

目次

町奉行御用日記

寛政九年

.....1

凡例

一、本書には、津山郷土博物館に所蔵する愛山文庫から、「町奉行日記」寛政九年正月〜十二月を収録した。

一、本文の表現は、つとめて原文の形にしようとしたが、読解の便宜を図って、つぎの点に留意した。

1 平出・欠字は、省略した。

2 漢字は、原則として常用漢字（人名用漢字を含む）に改めたが、他は正字体とした。

3 誤字・脱字と思われる場合は、右傍らに（ママ）と注記した。なお、誤字ではあるが、沙駄・留主居・算様・百性については筆者が常用としており、煩雑さを避けるため、注記しなかった。

4 近世期一般に慣用されていた左記のような文字・用語等は、そのまま記載した。

体てい 扣ひかえ 暖あつかり 歎なげ 喧嘩けんか 音物いんもの 稠敷ちゆうぢき 又候またう 風かぜ 嵐あらし 舂ちゆう 鹿か 持かぎ 糶ちやう 綺き

5 変体がなは、原則としてひらながに改めたが、助詞等に用いられている、而（て）、江（え）、者（は）、茂（も）、与（と）及び片仮名のニ、并は、小活字で示した。

ろ（ろより）、メ（しめ）、メ（して）、仄（とも）は、例外として残した。

6 訂正・削除がある場合、消された文字の左側に見消記号（々）を付し、右側に訂正の文字を記した。また、消された文字が不明の場合はその文字を■で示した。

7 虫損・破損などで解読できない文字は、字数を推定して「」で括り虫損・破損によらない場合は、右傍らに（不評）と注記した。

8 日記の表紙・奥書等は、その部分を□で囲み、（表紙）のように注記した。

9 日記の天の小口には小見出しの付箋が貼られており、はがれて各丁の綴じ目に挟んであるものも多いが、元の場所に残っていて文字を記してあるものは、その箇所に○◎として示した。

10 記載を配慮すべき地名・固有名詞は□□のようにした。

一、本資料中に、封建的身分差別を表現する名辞・賤称が認められるが、事実に基づく科学的な歴史研究を進める立場から、これらをそのまま掲げた。もとより我々は、この不当な差別を容認するものではなく、科学的な歴史認識を通じて差別意識の根絶にいたることを望んでいる。読者においても、この立場を理解し、この資料を正しく利用されることを期待する。

一、本書の翻刻・編集は乾康二が担当した。

寛政九_{丁巳}年

町奉行御用日記

五十

正月ヨリ

十二月マ「」

増見右門

正月 大

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 佐々木右近

大年寄 玉置源五兵衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

正月元_{壬寅}旦 快晴

一年頭御祝儀御嘉例之通惣登城御礼式諸事別帳之通無滞相済

正月二日 快晴

一大年寄早朝罷出町方御静謐之段相届候

一御用初ニ付登城諸事別帳御嘉例之通無滞相済

一御蔵米六拾七匁町米六拾三匁

一海老原極人殿犬病付候段申来非人差向候様大年寄へ申達候処八人

差出候得共及暮得不打殺尚又明朝差出候様ニ申付置

一新職人町髪結藤吉義旧年他参留ニ申付置候所右相手人屋伝兵衛義

組合預けニ申付候旨郡代所へ申来候付藤吉義も又々組合預申付候

様大年寄へ申達候

正月三日 晴夜雨

正月四日 曇少雨

一牢舍人弥市乙松常蔵臈半差越候ニ付入可遣之旨伺出其通宜取計遣

町奉行御用日記

寛政九_{丁巳}年

正月ヨリ

寛政九_{丁巳}年

増見右門

候様申達ス

一去年中之錢相場書三通例年之通大年寄差出

正月五日 快晴

一先格之通大年寄札元諸吟味年頭初^ニ謁盃遣又礼式別帳之通

大年寄 藏合孫左衛門 斎藤孫右衛門 玉置源五兵衛

札元 武田七郎兵衛 茂渡庄右衛門 茂渡藤右衛門

川口藤左衛門 玉置卯左衛門 山本三右衛門

山本三郎左衛門 妹尾平兵衛 三船八郎右衛門

札元見習 茂渡兵吉

諸吟味並 久山勘八

諸吟味 官田喜左衛門

当病不参 札元見習 玉置忠四郎

一大年寄組中牢屋三軒屋^ニ例年之通年礼^ニ相越候

一勝山渡部唐兵衛榊原九郎左衛門^ノ例年之通年頭祝書来及相答

一西川平沢助八富田与次左衛門^ノ例年之通年頭祝書来及相答

正月六日 曇

一先格之通御藏元町年寄問屋大保頭目明年礼受之諸事別帳之通無滞

相済但町年寄四拾人罷出尤当病姫路屋患三郎^并町年寄当病三拾式

人也尤年寄筆頭ハ平野屋助左衛門檉野屋茂一郎稻実屋義七郎三人

也

一今日^ノ昼夜廻り差出候事

一牢浚伺出昼廻り百藏為治差向候所無別条段届出候

正月七日 快晴

一生野御代官稻垣藤四郎手代中沢良右衛門高橋督三郎勝部三五兵

衛^ノ作州東北条郡塔中村口留番所^ニ而取上候運上錢銀^ニ直し^ニ相

用候間去年中錢相場書與印^ニ而相廻候様申来例年之通差遣候

一坪井瀧口儀右衛門^ノ例年之通年頭祝書来及相答

一左義長町触例歳之通差出又

一博奕打磯之丞取迹し候山本与三七家来彦藏義預け申付置候処叱之

上差免候様大年寄へ申達候

一堺町稻実屋義七郎義京都木屋町桑田屋平兵衛方へ十八日計之逗留

^ニ而明後九日出立之願大年寄差出承り届

正月八日 曇

一御用日登城

一備前邑久郡五明村徳兵衛弟藤九郎義茅町麩屋元治養子^ニ昨年引受

候処此度離縁仕親元へ差戻度願御用番御聞濟^ニ付大目附へ差出置

御聞届申達候

一二階町嶋本屋音治義南京操芝居二月中旬比晴天十五日興行支度願

御用番中へ差出置

一芝居興行^ニ付候^而歌舞妓ハ風義不宜候^ニ付先三四会も操芝居^并

北条芝居^ニ限り申付度弁書郡代寺社取次相談之上於別席御内意申

達候所^而御免被成候上ハ何そ事出来候得^者出来之上之取計と一

学殿被仰聞御不承知之御様子^ニ相見へ候^ニ付右弁書不差出相止候

一來ル十六日登城之町人名面書付御奏者番伊達与吉郎へ差出候処左

之通被申聞候

年頭登城之町人ハ年々差定り候事故以後ハ不相伺十六日^ニ登

城為致置何れ^及登城之上不參相調名面書御奏者番^江差出候様
可致候

取計候様ニ申達候

正月十三日 晴

一 例歳之通町人登城ニ付御門通行之名面書中奥目附^江差出候処右之
通御奏者番々被申聞候間以後^著御門通行之名面書不差出候間其段
御心得置御取計候様ニ中奥目附土岐雄助後藤郷助へ申達置候

正月九日 曇 晚少雨

一 御蔵米六拾五匁五步町米六拾匁五五步

正月十日 風烈

一 備前渡部利右衛門竹内又右衛門ノ爰元油屋善右衛門出訴之義ニ付
源太郎恵助差出置候所未罷帰不吟味^ニ差出手間入候事哉如何と
乍挨拶昨晚飛札差越候ニ付最早段々片付今少^ニ相成候間自是可得
御意と下案相認御用番中へ相伺候処右下案ニ御添削被成御差戻し
被成其通相認返書差遣候

一 錢通用百匁文ニ相成候段大年寄届出候

正月十一日 晴

一 牢番足輕内田利兵衛義久々病氣御奉公難相勤番代仕度旨先日已來
小頭ノ内意申出再心致保養相勤候様ニ申達候得共^著貧病^ニ無
余義趣ニ申聞候付不得止事内意之趣承り届候処今日番代之願書又
六ノ差出候ニ付承り届勝手次第番代之もの相願候様ニ申達ス

正月十二日 晴

一 安岡町松屋伊助と申もの老人小児家内五人之処伊助義中風付甚難
洪暮兼親類町内ノ救遣候得共行届兼歎書差出何れとも致難きもの
ニ付先ツ先格之通工面物を以四拾匁計差遣置可申旨大年寄伺出宜

一 御用日登城

一 久世手代ノ昨年添簡持原田村幸七ノ二階町森屋兵八^江馬代差滞之
義未兵八不罷帰余り延引ニ相成候ニ付其段久世手代貝塚五郎蔵内
藤大右衛門へ可申遣下案相認御用番中へ相伺候処其旨取計候様被
仰出右ニ付明朝立飛脚被仰付被下候様大目附へ申達候^付
一 祇園三位之御札例歳之通蔵合方へ參候段申出候ニ付取ニ被遣可被
下之旨御奏者番伊達与吉郎へ申達ス

正月十四日 曇

一 旧年取逃候安岡町村永屋甚吉義夜前於黒沢辺召捕連帰候段大年寄
届出候ニ付昼廻嘉七文蔵差向左之通申付

手錠組合預け申付候 安岡町村永屋甚助
但組合願ニ寄^而腰繩付取計候

甚吉義取逃候段ハ不埒 同町村永屋恵助
至極ニ候得共甚吉義召連来候ニ付
手錠組合預ケ差免候

甚吉同居取計 同町 村永屋兵吉

不宜候ニ付組合預ケ申付候得共甚吉義
召連来候事故組合預ケ差免候

右之段御用番^著大目附へ手紙^ニ相届候

一 宮田喜左衛門妻出産ニ付血忌引込候段大年寄々届出候

正月十五日 曇

一 久世^江差遣候飛脚今朝帰り入御念御事と返書申越候

正月十六日 曇

一御具足御祝頂戴例歳之通無滞相濟

一大年寄札元諸吟味御用達御蔵元町医年頭御祝義申上御奏者番伊達与吉郎謁例歳之通於席々無滞相濟

大年寄 當請 蔵合孫左衛門 斎藤孫右衛門 玉置源五兵衛

札元 武田七郎兵衛 茂渡庄右衛門 茂渡藤右衛門

川口藤左衛門 玉置卯左衛門 山本三右衛門

山本三郎左衛門 妹尾平兵衛 三船八郎右衛門

札元見習 茂渡兵吉 玉置忠四郎

諸吟味並 久山勘八

諸吟味 當請 宮田左衛門

御用達並 木屋太兵衛

御蔵元 能の屋文五郎 病中姫路屋惠三郎

町医師 柳瀬元柳 中嶋宗元 當請 北山修齋

高島生齋 渡部玄端 北山修伯

例歳之通当年も揃之名面付一通当病之名面付一通両通ニ御奏者番へ差出候所伊達与吉郎が出仕不参共席順ニ一紙ニ相認当病之ものハ上ニ当病と記差出候様被申聞認直し差出尤以来年々右之通ニ認出候様被申聞郡代中江も申達候

一牢舎人弥市口中痛候由医師願出大年寄へ申付ル

正月十七日 晴

一牢舎人弥市義吉武修格致診察候処為指事ニ而無之候得とも捨置候も如何哉之旨容鉢書大年寄が差出候ニ付郡代所へ申通候処治療申付呉候様ニ申来候ニ付其段申付候

一宮田喜左衛門血忌差免候段大年寄へ奉書差遣候

正月十八日 快晴

一御用目登城

一昨辰年中人別改書左之通御用番中へ差出

一出生 百七拾老人内 男六拾四人 女八拾二人

一他所引請 百拾九人内 男五拾八人 女五拾一人

一 貳百九拾人

一他所へ引越九拾七人内 男六拾三人 女三拾四人

一死失 貳百四拾三人 内 男百貳拾三人 女百二十人

一 三百四拾人

差引 而 五拾人減

一二階町嶋木屋音治南京操芝居願去ル八日差出置候所御聞届被成候間可申付旨御用番中被仰出右願書大目附へ差出置御聞届申達候

一操綿改之義致箱訴仍之存寄書去冬差出置候所今日松岡治部助被差戻右書付之趣ニ而何れ共不相決文段ニ而不宜候間勘定奉行と遂熟談如何取計可然と致一決候書付認差出候様松岡治部助が被申聞候

一播州広峰魚住藏人が例歳之通年頭祝書来及相答

正月十九日 雨

一人屋伝兵衛喧嘩一件之もの共今日可遠吟味呼出置候得共雨天ニ付致延引候

正月廿日 雨

一西川平沢助八高橋金治が富田与次左衛門致退役高橋金治跡役ニ相

成候案内之書状来及相答

一 林田町上田屋三之丞義去ル十三日安岡町村永屋甚吉を黒沢^ニ而年寄組合共召捕罷歸り懸ケ一宮^ニおゐて右三之丞同類引纏振喧嘩致懸ケ甚吉を可取迹手段致し右始末甚不埒之趣^ニ相聞候段小頭又六申出候^ニ付禁足申付置組合共々も入念心付候様^ニ大年寄^江申達候尤始^屋廻り差向同人々組合預ケ^ニ申付帰候得共手違之義故尚又禁足と申付候

正月廿一日快晴

一 三船新治義是迄之居宅ハ百藏拜領屋敷^ニ而新治株之拜領屋敷地面^ニ為治脇^ニ有之候得共今般広原分小田中村金藏東隣之地面相調普請仕度尤右^ニ付母妻義郷中之人別^ニ入申度旨小頭又六^ハ願出承り届ル

一 御作事^ハ致借用候箱番所小沢横番所出来^ニ付其段申出候間御作事奉行西村治太夫^江為御引取候様^ニ手紙^ニ申達候

一 勝間田町北側^ニ而高野屋伊助後家家屋敷表口巷間半裏行拾巷間但式歩半役東隣ハ西屋清八西隣ハ吉田屋与三兵衛也右家屋敷代銀百拾匁^ニ相極同町吉田屋与三兵衛へ売渡度願承り届^{正月廿七日}状差出候

一 林田町北側側^ニ而榎原屋喜助所持之家屋敷表口四間裏行拾五間五尺但本役也東隣ハ作人文太郎西隣ハ山本与三右衛門持家也右家屋敷

代銀式百五拾匁^ニ相極同町鍵屋敷七^江売渡度願承り届^{二月十日}状差出候

一 美濃職人町南側西角^ニ而沢田屋善助家屋敷表口拾間裏行六間但巷間役也右家屋敷十六年巳前寅正月元魚町藤野屋多吉取次^ニ而巷貫七百匁之質物^ニ書入候処今般元利返弁致取戻し候段届書差出但南

隣ハ綿屋佐助東隣^ニ吉田屋平吉也

一 江戸御奏者番小須賀貢^ハ大年寄共歳末献上物遂披露候段返書来大年寄へ相渡候

一 暮六半時頃市村九助長屋出火之由^ニ而致出役候処蒲団少々くすばり候計^ニ而早速もみ消候得共火消ハ大方集り候^ニ付例之通^ニソ為引取歸り懸ケ御用番へ相届大目附^江以使相届候

正月廿二日 晴

一 江戸小勘者相田茂市神村平兵衛^ハ大年寄歳末年頭献上物代式百疋之由申越大年寄へ相渡候処石代金即刻差出候^ニ付則明廿三日之御便^ニ相廻候

一 人屋伝兵衛喧嘩一件之もの共人屋義兵衛^ハ忤伝兵衛美濃職人町髪結藤吉元魚町吉田屋伝藏九時^ハ呼出し立合例之通^ニ而遂吟味候

正月廿三日 曇

一 御用日登城

一 淑姫様御義一橋様^江御縁談相済候処去十一月十五日御結納被為済候由^ニ付御祝頂戴仕度配當場願出候段大年寄申出大目附^江相尋候処申来候由^ニ付其段御用番中^江申達候所御聞濟^ニ付尚又其旨大目附へ申達置御聞濟之段大年寄へ申達^ス勘定奉行へも手紙^ニ而申達置候

一 桶屋町出抜御裁際^ニ綿入羽織老ソ^{但表御能行茶裏後黄小紋}落し有之桶屋町作人長吉新魚町作人太兵衛兩人^ニ而去ル十四日晚方拾^ハ候由桶屋町年寄預り置候段届書差出御用番中^江届書持出口達^ニ而申達先格之通建札可申付旨相伺候処御聞濟^ニ付大目附へ差出置先格之通

建札取計候様ニ大年寄へ申付候

正月廿四日 晴

一郡代所々草加部村金治出牢差紙相廻り認かへ出番百蔵差向出牢取計之

一大目附廻状到来鉄砲并網わなほこ等之殺生去々歳御法度被仰出候通弥心得違無之候様堅相守候様御触書写取町方組中江も相廻候

一今九時々小頭代兼部屋目附孫八書役新左衛門大年寄源五兵衛諸吟味喜左衛門出番百蔵為治立合左之もの共呼出し遂吟味候

安岡町村永屋甚吉

勝間田町鞍屋善助

材木町 平吉

橋本町朝倉屋与十郎

石垣雲平長屋住作兵衛

林田町上田屋三之丞

右之内甚吉平吉作兵衛三人後手錠ニソ差返ス

正月廿五日 晴

一安岡町村永屋甚吉材木町平吉後手錠申付置候所腹痛仕針治仕度旨願出候ニ付番新治差向ヶ前手錠ニ相直候

一九時過々上原彦蔵同道ニ而近藤伊左衛門於宅綿改之義申談ル

正月廿六日 晴

一小川兼助前関貫番所焼失番人焼死之段宮部隆助小川兼助ヶ手紙ニ而明ヶ六時。申来組中并大年寄へ出役候様ニ申遣置罷出候所七ツ

半時頃ヶ出火ニ而近隣打寄消留番所不残致焼失番人者二三間程飛

出し而仰ニ伏し焼死居候右番所者堺町引受之処ニ而大年寄源五兵

衛塚町年寄召連罷出候ニ付夫々手宛申付隆助兼助へ及挨拶尤隆助ヶ番人付置候由ニ付最早引受候間番人為引取候様ニ還右衛門へ

及挨拶見分可有之候間夫迄ハ比似ニ而差置候様ニ大年寄へ申含置引取引懸ヶニ御用番一学殿江罷越右之旨相届置大目附佐々木右近

方へ立寄右之段相届右ニ付立合見分可被差出哉如何と相尋候所五ツ半時御徒目附下目附可差出被申聞罷帰り部屋目附三船孫八見分

差出所御徒目附山田新三郎下目附本沢茂市罷出遂見分候尤別条無之候ハ、直ニ取捨可申付旨大目附へ懸合置候間孫八ヶ別条無之候

ハ、取片着申付候様申含差出即刻取片着申付ル且又右ニ付箱番所被仰付被下候様ニ大目附へ申達候所承知ニ而候右焼死候番人ハ元

魚町山田屋源治借屋住佐七と申ものニ而一久世塚谷屋忠平と申もの郷宿御用達被仰付候旨吹屋八左衛門同道

ニ而案内ニ来候一 大目附佐々木右近ヶ後藤屋孫市甥和助亀吉兩人出奔もの、所不遠

慮致徘徊候由被申聞依之召捕候様ニ月明へ可申付旨又六へ申付ル一 石垣雲平長屋住作兵衛後手錠難渋之旨申出候ニ付昼廻り嘉七文蔵

差向相糺及白状候者前手錠ニ致し遣候様申含差向候所東新町地子居茶屋卯助と申もの致参会候旨及白状依之前手錠ニ直し遣置直ニ

宇助召捕ニ東新町へ罷越候処宇助義致出奔候由ニ付稠敷尋申付置引取候段嘉七文蔵届出候

正月廿七日 曇

一 東新町地子居馬方宇助義夜前廻りヶ尋申付置候所不相知旨年寄届

出候ニ付尋申付候様大年寄へ申達候

一 德守宮地子居中田屋弥助義宮脇町新角屋庄九郎養子ニ仕度人別人願差出先日寺社取次細江武助と引合置候付承り届ル

一 新魚町肥後屋卯吉所持之旅人旅籠屋株去ル丑歳ノ当巳ノ歳迄五ヶ年之間橋本町長崎屋代助へ貸置候処年限来候ニ付肥後屋卯吉方へ取返し届書差出

一 伏見町徳^鳴屋忠七借屋住文蔵義独身者ニ候所極月罷出不罷帰候ニ付

一 伏見町徳屋忠七借屋住文蔵義独身者ニ候所極月罷出不罷帰候ニ付

一 高石垣番賃銀当月半月分九匁大年寄差出

一 古道具屋仲ケ間改帳老冊例歳之通差出候

正月廿八日 晴

一 御用日登城初之廿八日ニ付麻上下着用

一 中之町飯綱屋新七取辻候番人共御叱書付を以御用番中へ相伺候候伺之通被仰出候ニ付大目附へ達置候猶又取計之上可相達事

一 大阪辻能雲州へ相越候ニ付花能十日興行仕度小姓町伊勢屋十蔵内意之趣大年寄申出於別席一学殿へ申達候所段々芝居と差添候ニ付

無用之旨御沙駄ニ付其段申達候

一 三軒屋番中尾藤助出勤届出候

一 牢舎人惣社村和七裕入遣度伺出承り届ル

一 牢舎人竹田村長一昨日ノ絶食之旨届出郡代所へ申遣

一 惣社官芝居被仰付候段細江武助ノ通用有之

正月廿九日 晴

一 小頭又六部屋目附孫八書役新左衛門出番百蔵為治大年寄源五兵衛

諸吟味喜左衛門立会左之通書役申渡之

中之町飯綱屋新七

飯綱屋新七取辻

組合当番人

不埒ニ付手錠懸ケ追込申付候

但日数十日

久屋又兵衛
粟井屋茂市

非番組合

飯綱屋新七何れ^茂へ

預け中取辻し不埒ニ付

追込申付候

但回数五日

喜作
宗助
さち
文蔵
豊八
勢平
甚兵衛

右同断不埒ニ付

叱申付候

同町月番年寄
善右衛門

右手錠人ハ於白砂新左衛門読渡之非番之組合以下ハ於同所大年寄

諸吟味計ニ而大年寄ノ読渡之右取計相濟候段御用番ニ大目附へ手

紙ニ而相届候

一 無宿盗人鉄蔵入牢ニ院庄村仁右衛門出牢郡代所ノ差紙采認カへ出

番為治差向取計之

一 綿ノ方之義近藤於宅三人申談ル

正月晦日 曇

一 関貫番賃銀半月分相渡

一 牢舎人弥市療治ニ廻り相濟候処未相勝段双方ノ申出候ニ付尚又療

治申付候

二月 小

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 松岡治部助

大年寄 齋藤孫右衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

二月朔 壬申 且 (7) 快晴

二月二日 快晴

一 牢舍人盜賊常藏郡代所呼出ニ付牢屋立合出入ニ百藏佐十郎差向之
一 小頭代部屋目附新治書役新左衛門大年寄孫右衛門諸吟味喜左衛門
出番佐十郎百藏立合ニ而九時ノ左之もの共呼出遂吟味候

人屋 伝兵衛

美濃職人町髮結

藤吉

元魚町吉田屋伝藏

美濃職人町藤吉姉富

桶屋町水打屋半八

人屋 義兵衛

右之もの共相糺候処伝兵衛義言葉転々多ニ付手錠申付差戻候尤其
段郡代所へ申遣置候

二月三日

一 御用日登城

一 淑姫様御結納御祝頂戴之御受書配当場差出御用所江持参口達ニ而
申上大目附へ差出置

一 来ル七日寺院共願捨ニ而立退候風聞有之候間寺社取次江申談同心
組差向差押候様伊達与吉郎ノ内達有之委細取計之義及対談同心
加入四人可相渡旨被申聞仍之明後五日迄ニ指人名面可申遣旨松岡
治部助へ懸合置候

一 旧臘喧嘩一件人屋義兵衛忰伝兵衛義父子相談之趣ニ而毎度申口致
転々迎及同居ニ而者相分り申間敷旨郡代三浦十郎左衛門へ申談候
処可引渡旨被申候付御用番中へ右之通ニ付受取候ハ、品ニ寄吟味
中牢番預け可申付義も可有之旨申達置候大目附江も右之通ニ付受
取候ハ、其節相届可申旨届置候

一 取候八出 天神宮江去ル晦日盜賊這入唐金樋五尺計盜取候ニ付例之通
町触取計本書ハ郡代所江相廻候様大目附被申聞候付翌四日取計之

同十日計中、無之候箱出候

一 成覚寺と浜屋源右衛門と出入一件成覚寺答書細江武助より被相廻

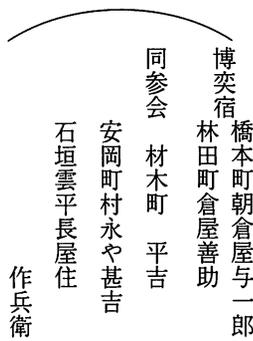
候

一立合例之通ニ而今九時ノ左之面々呼出遂吟味左之通申付ル尤出番
文蔵為治

吟味中

牢番預ケ

申付ル



喧嘩吟味中番番預ケ

申付ル

右之通取計候段御用番中へ御用序ニ付以參相届大目附へハ手紙ニ
而相届候尤伝兵衛義郡代所ノ受取候段大目附へ相届候

一備前渡部利右衛門竹内又右衛門ノ田原村源太郎出訴吟味手間取
候間急ニ差戻呉候様申越折節致登城居候ニ付先来書計御用所へ差
出返書之義罷歸り下方相糺候上ニ而御伺可申旨申上罷歸り候処備
前ノ徒横目根岸林蔵と申もの右一件ニ付罷越候由届呉候様申聞候

旨申出仍之御用宿申付候様申付候所二町目尾高屋へ申付候段申出
仍而返書下案相認并右ニ付下役懸合人被仰付被下候様御用番一学
殿江罷越申達候所大目附松岡治部助被相招種々御談有之候所先返
書ハ差延受取書遣し自是可及返書之旨申遣可申并明日心对役人ニ

* 山田新三郎可被仰付候間委細談置可申并今夕根岸林蔵旅宿宮田
喜左衛門差遣明日役人共御対談可申旨案内為申右序ニ如何様之趣
哉真偽之所も得度監察候様ニ可申付旨御差図ニ付其段一々申付候

一繰綿改取リ方勘定奉行と遂対談致連名今日勘定奉行中ノ松岡
治部助へ被差出候

二月四日 快晴

一備前ノ来候徒横目根岸林蔵へ夜前宮田喜左衛門致対談候趣及深
更申出候処為指疑敷義も無之趣申出且又善右衛門と源太郎と算様
指引夜前中ニ者筋立候筈ニ候処未少々相残今夕中ニ者さつはりと
筋立可申旨出候ニ付其段一学殿へ罷越相届松岡治部助へも申達

一山田新三郎義備前横目根岸林蔵へ対談被仰付候由夜前案内ニ来右
懸合之義抑ノ之義委敷申含置候処尚又今朝罷出候付対談振り得と
申含差出候

一中之町粟井屋茂市久屋文兵衛追込昨日迄ニ而五日ニ相成候間今朝
差免其段御用番并大目附へ相届ル

一去ル三日大目附中へ談置候通来ル七日同心組加人植月斧藏日下勇
助荒木其助前原才治右四人御渡候様ニ松岡治部助へ手紙ニ而申達
又

一播州網干新在家村加賀屋善七手代善兵衛一人例年之通小間物卸売
来候段西新町山家屋利右衛門宿切手差出聞七廿日届ル
一播州加藤郡三木町徳屋平兵衛老入例年之通紺屋形壳（徳屋訂正）来候段右
同人宿切手差出同廿二日届ル

一中之町平岡屋忠右衛門義撰州大坂梶木町玉子屋九兵衛方へ四十日
計之逗留而明後六日出立之願書大年寄承り届差出三月廿一日届

一山田新三郎義根岸林蔵へ致対談候処吟味隙取候ニ付吟味様子承度
源太郎恵助召連帰度旨申候趣弁書ニ認差出候依之返答大意松岡治

部助と対談之上相認一学殿^江差出候所御添削被成明朝新三郎可差
出旨被仰出仍之其段新三郎方へ申遣置

一安岡町鍛冶五兵衛裏屋炬燵蒲団一今晚方少々ふすもり候処早速も
み消候段届出候ニ付御用番^井大目附へ相届候

二月五日 疊

一新三郎来候ニ付夜前何濟之趣根岸林蔵へ懸合振之大意得と申含差
出候所應對無滞相濟段々被入御念候事共ニ存候此段罷歸り郡奉行
へ可申聞旨左候ハ、今晚歟明朝ハ出立可仕之由申候由右答振弁書
差出候ニ付一学殿^江罷越差出置大目附松岡治部助へも其旨相達置
候

一牢舎人物社村和七吟味中出牢郡代所より申来出番嘉七為治差向ケ
出入取計之

一牢浚申付昼廻新治文蔵取計之無別条段届出候

一牢番中間山七義拾ケ年余実鉢ニ相勤至^而堅固成人物ニ先年も勤切
ニ寄^而下番より上番足輕ニ御取立被下候例も有之候事故右山七義

内田利兵衛番代ニ差出度内意又六より先日申出遂吟味候処尤成趣ニ
付其段承り仕置候所右ニ付山七番代ニ西新町升屋嘉平治倅庄兵衛

当巳之^(第四)相成相応之趣ニ付又六方^ニ而遂吟味御中間小頭の方へ

差向山七番代無滞相濟候由ニ付右庄兵衛義又六召連来玄関式台へ
出し遂目見候尤名面差含有之趣ニ付庄右衛門と相改候由届出候右
牢屋中間ハ御中間頭支配之者ニ候得共先前より此方小頭場合^ニ而人
物遂吟味御中間頭へ相廻候先例也

一二階町山手屋弥太郎屋守忠蔵借屋住作屋義助義去辰ノ春春方^(七)より借

屋入用ニ付明ケ渡呉候様申候処相応之借屋無之延引相成氣ノ毒ニ
存哉同人義ハ独身者ニ候ニ付借屋有之候迄ハ心易方ニ居可申候間
借屋有之候節町内送り手形差出し呉候様ニ申相談之上去辰四月借
屋明ケ渡出候所其後借屋借り受候鉢相見へ不申候ニ付請人鍛冶町
長八美濃職人町三次郎兩人へ借屋聞立借り受遣候様申候内近來
右義助相見へ不申心懸り之所相尋候得共行衛相知レ不申候段届書
差出例之通百日尋申付候追^而離帳之節可及御沙駄事

一宮脇町北側^ニ而房屋利左衛門家屋敷表口四間裏行拾老間式歩五厘
役西隣ハ土佐屋金十郎東^者田町へ通り筋也右家屋敷六年已前^子間
二月安岡町古川屋太兵衛取次^ニ而老貫匄之質物ニ書入候所此度受
返し相濟候届書差出承り届ル

一右宮脇町房屋利^右左衛門家屋敷代銀式貫匄ニ相極西今町坪屋藤十郎
へ売渡度願書差出承り届ル^{同七日宛狀差出}

一山田新三郎罷越備前徒横目根岸林蔵新三郎方へ挨拶旁来今般御吟
味御取計之御役人中へ逢承り罷歸候様被申付候大年寄中御引受^ニ
而預御世話候間右御挨拶も申述度旁以大年寄中宅へ罷越度旨申被
是取合候得共不致対面候^而者承知も致間敷趣ニ相見へ候故御出候
も役用ニ打懸り居候事ニ候得^者御旅宿へ参候様可相通旨及挨拶
候旨申出仍之大目附松岡治部助方へ罷越遂相談候処差遣可然旨申
候ニ付御用番中へも可伺哉と相尋候処差懸り候事何れ不差遣候様
ニ者不相成義ニ付差出跡^ニ而及御沙駄可然旨被申候故蔵合孫左衛
門呼出し右根岸林蔵方へ罷越可致対面算様合等相尋候ハ、程能可
及挨拶之旨答之大意申合候然ル所蔵合孫左衛門亥之中刻頃罷出根

岸林蔵へ速討談右算様差語り方ハ至_ニ入組候事故一所_ニ難筋立
一ヶ条つ、片着取語り最早大方相濟今一二ヶ条之事_ニ相成居候段
申述候所算様合員数も不相尋夫ハ段々入御念候御義と至_ニ温順成
挨拶而已_ニ相濟_ニ新三郎_ノ致承知候得_ニ源太郎_ノ惠助_ニも御逢被
成度由罷越候様_ニ申置候間御勝手次第被仰遣御逢可成旨申述罷帰
り候段申出候右之段明日御用番_ニ大目附中へ可相届事

二月六日 曇

一昨日蔵合孫左衛門根岸林蔵へ対談之趣御用番_ニ大目附へ罷越委細
_ニ申達置候

一備前田原源太郎と新魚町油屋善右衛門と算様差引差語り夜前迄_ニ
相濟候旨源五兵衛喜左衛門届出調諸書付差出依之今九時_ノ呼出し
可遂吟味候間夫々立合等例之通罷出候様相達置候処昼頃源五兵衛
罷出源太郎惠助罷出候様申付候所宿船本屋左助罷出源太郎義今朝
根岸林蔵出立之砌見立_ニ罷出夫_ノ今以不罷帰旨相届出候_ニ付出奔
_ニも候哉致方も無之候間罷帰候ハ、早々申出候様_ニ申付置候所
暮時過罷帰候段月番孫左衛門申出候_ニ付明七日五時罷出候様申付
_ニ夫々立合手配申付候

一同心加人一昨申達置候通日下勇助荒木其助前原才治植月斧蔵右四
人罷出候_ニ付明早朝_ノ差向ヶ候所有之候間致支度宿_ニ相扣居可申
候様_ニ申付ル

一細江武助被參明日之手配申談置候

二月七日 晴

一備前田原村源太郎惠助五時罷出候様申達置候得共今日_ニ源泉院様

御証忌日之義_ニ寺社取次と申談置候取計之義未否不相分候間旁以
正九時_ノ罷出候様_ニ触直シ候依之九時_ノ小頭又六部屋目附新治書
役新左衛門大年寄蔵合孫左衛門玉置源五兵衛諸吟味宮田喜左衛門
立合_ニ左之もの共遂吟味候

備前田原村源太郎

右差添人同村惠助

新魚町油屋善右衛門

下方_ニ差引算様相語り惣高_ノ書_ニ無相達段何れも印形取之源太
郎惠助印形無之_ニ付爪印取之

一細江武助_ノ兼_ニ談置候筋も穩_ニ可相濟趣_ニ付同心組不及用意候旨
朝昼両度_ニ申来候依之昼廻り夜廻り差出候様又六へ申付ル夜_ニ入
加人御使組も差返候段申付候

二月八日 少雨雪

一御用日登城

一御代官早川八郎左衛門殿支配所当国西北条郡寺和田村彦左衛門役
介京右衛門一人二階町疊屋佐吉引受度人別入願御用番御聞濟_ニ付
大目附へ差出置御聞届申達ス_{同廿七日宅筆差出}

一大小保安芸守殿領分当国久米北条郡角石谷村徳兵衛悻友治義鍛冶
町三_{同十六日宅筆差出}国屋吉左衛門養子_ニ引受度人別入願右同断取計濟

文差出

一船頭町船持共例歳之通沓艘_ニ付五拾匁つ、都合式貫七百匁拜借仕
度願勘定奉行へ懸合候上右同断取計濟

一人馬問屋共御給米受取証文例歳之通昨日差出奥印取計之

一 二階町御門御修覆ニ付来ル十日ノ通行相止候段大目附廻状到来写
取組中^并町方へ相触ル

一 牢舎人新吉病氣申出医師申付候様大年寄へ申達候

一 中之町久屋又兵衛粟井屋茂市手錠追込今日ニ^而十日ニ相成候間明

朝六半時呼出し手配夫々^江申付^并五時ノ田原村源太郎一件之もの

共呼出し候手配も申付置候

一 田原村源太郎恵助昨日呼出し一ト通り大鉢相分候ニ付備前渡部利

右衛門竹内又右衛門へ先日來書之返事可仕旨御用番中伺濟大目附

中へ飛脚之者被仰付被下候様ニ相逢尤昨日吟味之趣御両所へ委敷

申達置右算様書差詰り惣ノ高之書付一学殿^江差出置候右返書下案

相認松岡治部助へ遂内談一学殿へ相伺候処余程御添削有之其通清

書申付御飛脚山本八十助相渡候

二月九日 曇

一 中之町久屋又兵衛粟井屋茂市追込昨日迄^ニ十日ニ相成候ニ付小

頭部屋目附兼新治大年寄諸吟味出番佐十郎^米治^ニ而左之通於白砂

申渡

手錠追込差免候

以來可入念候

一 備前田原村源太郎一件之もの共今五時罷出候様申付候処源太郎積

氣^ニ而得罷出候旨夜前及深更申出候ニ付彼義ハ吟味有之もの共

ニ付御目見へ醫師為相頼大切ニ療用相加へ容鉢書差出候様ニ申付

ル
北山修房書翰書差出

一 牢舎人新吉病氣ニ付春鷗へ申付候由大年寄申出ル
一來ル十二日御給米御役料出候廻状到来組中へ申達ス

一 郡代所ノ去暮博奕参会之日上村丈兵衛林田村伝吉右二人牢番預ケ
申來立会佐十郎差向ル

一 牢舎人弥市代り医中村易安ニ先日申付候段大年寄今日申出ル

二月十日 晴

一 森中将殿天明三卯二月七日百五拾年回之^節同年正月廿八日伺濟ニ

而大年寄^并惣町中ノ少々つ、取集御香奠献備参拜仕候由然ル所今

般森内記殿今日ノ明日へ百回御忌ニ付藏合齋藤ハ格別御旧悲之義

併玉置も同様とハ難申候得共美濃ノ御供仕候罷越候ものニ付三人

共御香奠献備拜礼仕度尤先年ハ惣町へ触達年寄場合^ニ而御香奠取

集候得共今般ハ御二代目之御事故演説ハ不仕寄々承り及参拜仕度

ものも有之候ハ、参拜為仕度旨夜前大年寄伺出天明三卯正月廿八

日之日記見改候所御用番中へ伺有之併今年之義ハ惣町へ触達候義

ニ^而も無之義何れ先例も有之事ニ候間其段承り届候間勝手次第可

致旨申達置為念今日一学殿へ参右之段及御沙駄大目附へも右之段

承届候段手紙^ニ而申達候

一 出羽守様來月八日九日十二日之内御發駕被成候旨問屋承り候由ニ

而申出御用之序ニ御用番中へ及御沙駄

一 三町目余田屋与七義伊勢参官明後十二日出立三十日計之逗留^ニ而

罷越申度願書大年寄承届差出^{三月十八日}

一 西新町伊崎屋重右衛門娘御領分東北条郡上高倉村四郎兵衛養女ニ

差遣度人別離願大庄屋引合相濟候段大年寄申出承り届ル

一備前邑久郡牛窓大工惣右衛門佐吉二人十二月迄二階町堺屋伊右衛

門方ニ逗留為仕度願大年寄差出承り届ル尤是ハ藏合大工之外之他

所大工御免ニ相成候而去辰十月十二日初而承り届ル依之今年も右

同断承り届ル

一東新町松本屋新六借屋住大笹屋佐助今般照木斎助と相改当国勝北

郡植村甲田平助ニ医道入門仕度家業替之願書差出承り届ル

二月十一日 快晴

一備前渡部利右衛門竹内又右衛門へ差遣候飛脚山本八十助今五ツ半

時受取罷帰候

一牢番足輕内田利兵衛番代ニ此間迄下番相勤候山七義差出度願書差

出承り届明十二日目見可申付候間宜取計候様小頭へ申付ル

一番賃銀去ル三日内貸証文之表百四拾匁并算様過拾四匁七分勘定所

広治と相廻し受取置

二月十二日 快晴

一牢番足輕内田利兵衛番代内田山七義小頭又六部屋目附新治孫八詰

合ニ而三本入扇子箱持参遂目見候尤明十三日と相勤候事

一牢舎扶持仕切証文差出ニ俵壹斗式升受取過有之右ハ証文ニ添牢

番と上納いたし右ハ正月晦日迄之勘定也依之当月分内貸三俵之証

文差出右両通証文與印書取計之

一小頭部屋目附大年寄諸吟味立合出番文藏嘉七書役新左衛門罷出九

時と左之通呼出し遂吟味口書取極候

牢番預ケ差免預ケに申付候

人屋義兵衛倅 伝兵衛

新職人町 髪結藤吉

美濃職人町藤吉姉又ハ後家

富

桶屋町水内屋半兵衛

元魚町吉田屋伝藏

昨年既之節他參留申付候吟味之節

右何れも口書印形取極候尤伝兵衛義偽候義牢番預ケ申付置候処及

白状候ニ付牢番預ケ申付其段郡代所及案内御用番并大目附へ手

紙ニ而相届候

二月十三日 快晴

御用日登城

一御用日登城

一二階町嶋本屋音芝居当月中旬相始候様ニ相願候処役者共二月晦日

出替りニ付跡参り不申依之依之来月上旬迄日延願書差出し当年

引続惣社宮芝居も有之兼而夏芝居ハ御停止之旨ニ付細江武助伊達

与吉郎と先日談置候処与吉郎今日不参ニ付松岡治部助へ遂対談候

処被語御内意并郡代考も被相尋候処当年ハ節もおくれ候事故四月

月上旬迄ハ苦かる間敷旨之由ニ付先音治芝居日延願可差出跡ニ而

惣社宮芝居夏へ懸り候之様ニ相成候節寺社取次ハ歎書差出御許

容可成旨ニ取計置候間其段拙者ハ郡代所も可及演説旨被申聞何

れ而芝居ニ願之通三十日ハ御許容被成候御差含之事ニ候右之段

郡代中江も申通尚又細江武助へも及懸合四月へ懸り候節惣社神

主と願出候様御取計可有之旨申談并音治芝居河原町ニ而興行仕度

願書差出右日延并地所之願書御用所江持参説申上候河原町も

地面貸し願も差出候由口達ニ而申上候所右願共御聞濟ニ付大目

附へ相渡置御聞濟之段申渡[#]惣社芝居同断取計之差含も内々大年寄へ申達置候尤河原町若松屋幸吉戸嶋屋伝吉山形屋長七地面借り受候事

一人屋伝兵衛喧嘩一件口書ニ伝兵衛藤吉叱追込七日被仰付可然と御裁許書差添御用番中へ差出置候

一牢番足輕加人今日差戻候段松岡治部助へ相届候

一丹後殿御用ニ付府御免被成候段大目附通有之候

一伊達与兵衛殿義御小袖（ウツ）量拝領御役御免被成候依之町方年寄共へ為相知候様触書差出尤右等之為知近例不相見候得共以前有之候御形ニ付為相知候様取計

一自分義去ル四日中之町飯綱屋新七組合追込差免候節大目附届手紙ニ久屋又兵衛粟井屋茂市追込差免候と認違ひ察度有之不調法ニ付三浦十郎左衛門を以差扣相伺候処不及其義段即刻被仰出候

一二階町嶋本屋音治義惣社宮芝居引受世話仕度願差出寺社取次細江武助へ引合之上承り届ル

一京町塗師屋能吉借屋住作人かね義吉田良藏長屋へ引越度人別除願差出承り届

一安岡町久米屋友七義大阪木屋与兵衛方へ廿日計之逗留^{（トウリウ）}而明四日出立之願書大年寄差出し承り届ル^{（開廿七日罷帰ル）}

二月十四日 快晴

二月十五日 曇

一元魚町吉田屋伝藏義人屋伝兵衛喧嘩一件ニ付旧臘他参留申付置初吟味之節携り無之ニ付可差免処其段不心付今日他参留差免候様大

年寄へ申達ス

一大年寄三人諸吟味[#]久山勘八一同呼出し繰綿取締之義御勝手方ニ御貸付取計と打混取計候て可然存候間右之取計方何れも打混逐熟談考付差出候様ニ申達ス

一三軒屋北之小家ニ紙漉中間拾五年程居候処此度入道坂へ引越し明屋ニ相成候段中尾藤助届出候段^{（届出正）}小頭又六申出候尤右家^者三軒

屋番受込^ニ而受人取御中間^ニ而も差置候先例也

一小野田為治義足痛ニ付湯郷温泉へ二廻り入湯仕度尤留主中八中ケ間助合候先格^ニ而何れも其心得^ニ而罷在候旨又六願出候ニ付承り届候処明十六日出立仕度旨尚又相届候

一牢舎人弥市療治二廻り相濟候段中村易安届出候由双方昨日申出大年寄^江申付候所吉武祐三へ診察為致候所未相勝中々休薬相成候様子^ニ而無之旨申出候付則療治申付候段大年寄届出候

一京町戸屋伝吉義屋号戸嶋屋と改号仕度願書差出承り届ル
一二階町組屋忠三郎所持之他国受酒株去ル丑十月新魚町榎の屋茂市へ貸置候所今般取戻度願書差出承り届ル

二月十六日 雨

一繰綿取締考書大年寄へ差戻し翌七日差戻し

一牢舎人常藏呼出し郡代所へ申来出番荣治

二月十七日 快晴

一京町田戸屋八十七義宿屋頭役申付置候処病氣ニ付役免願書差出承り糺候処無余義趣ニ付承り届候尚又跡役申出候様ニ申達ス

一橋本町朝倉屋与十郎妻去辰十月妊娠相届候処去ル十四日八月計之

女子出生母子共ニ肥立候処月取違之段与十郎入牢中ニ付組合々差
出先格之通取計候様ニ申達ス

一新魚町肥後屋宇吉持来候旅人旅籠屋株橋本町武藏屋甚蔵へ相讓度
願書差出承り届ル

一川口小兵衛長屋住文七老人下紺屋町一文字屋市六屋守和助引受度
人別入願承り届ル

一東新町靴屋甚右衛門義甲州身延山へ住来百日計之逗留ニ而參詣仕
度尤来ル廿三日出立之願差出承り届ル 六月十七日追願迄

一江戸御奏者小須賀貢々大年寄共年頭献上物遂披露候返書来大年寄
へ為見候所右御礼致廻勤候

一備州津宇郡妹尾村小判屋太郎兵衛老人例年之通疊表卸売来候段宿
切手西新町山家屋利右衛門差出 同廿三日届ル

二月十八日 雨

一御用日登城

一黒田要人殿御年寄帰役四月中出府被仰付候段大目附中演達有之
三奉行一同役順ニ御用所へ罷出御悦及挨拶且又右之段町方江も相
触候

一雲州御城下松江末次町大野屋玄吉悱源右衛門夫婦二人伏見町吉田
屋半三郎引受度人別入願御用番御聞濟ニ付大目附中へ差出置御聞
届之旨大年寄へ申達候 三月五日住宅証文差出

一材木町正木屋甚右衛門借屋住人甚八悱茂兵衛義大久保安芸守殿
領分当国久米南条郡打穴北村孫兵衛養子ニ差遣度人別離願右同断

取計濟

一土井大炊頭殿領分当国久米南条郡下弓削村百性幸助悱平兵衛并娘
右二人伏見町徳嶋屋忠七借屋住文吉引受度人別入願右同断取計濟

一備前へ出訴人源太郎患助病氣申立不罷出兎角随意之趣并宿も取計
不宜趣ニ相聞元来御用宿へ逗留可為致之処兩人馴染之旨願ニ寄而

船頭町ニ差置候事故元魚町紙屋助右衛門方へ旅宿替致候様昨晚申
付候処兎角彼是申及遅々不引移候段昨夜半過孫右衛門喜左衛門兩

人届出依之主人客人共ニ組合々番申付大切ニ可致守護旨申付置登
城之上御用番中へ委細ニ申達右ニ付宿兩人追込申付源太郎患助ハ

御用宿へ為相移可申旨申上候処一学殿之通取計可申尤右宿兩
人追而遂吟味咎可申付候得共先ツ当座追込申付置候段可申渡旨被

仰出又六新治栄治文蔵差向左之通申渡候

惠助宿 船頭町船本屋 佐助

源太郎宿 同 町平田屋 理助

源太郎患助義旅宿替申付候処彼是及遅々不埒之至ニ候右者元
来其方共取計不宜処々右躰之及始末不届至極ニ候追而遂吟味
咎可申付候併先当座追込申付置候相慎可罷在候

右大年寄於宅申渡出番兩人差向候者兩人之宿へ罷越源太郎患助義
紙屋助右衛門へ引渡候段得見届其上ニ而追込メリ見届罷帰候様
ニ申付差向候処兩人共紙屋助右衛門方へ引移跡諸メリ見届罷帰候

付其段御用番并大目附へ手紙ニ而相届候
一御手廻り被召抱候間望之者有之候ハ、来ル廿二日迄ニ割場へ可申

出旨相触候様大目附被申聞町触取計候

一 孤独扶持之考郡代申談申出候様一学殿被仰聞三浦へ及演達

一 牢屋破損小頭々差出大目附へ差出候

一 人屋伝兵衛髮結藤吉方^(マ)而之醉狂一件先日伺置候処今日一学殿^ハ伝兵衛義ハ甚悪者之旨相見へ追込而已^ニ而者相濟間敷当分禁足^ニ

而も可申付当之ものと被思召^并父義兵衛義も難捨置ものニ付遂吟

味咎伺可申旨被仰聞左候ハ、郡代方^ニ而取計可然義哉と相伺候処

郡代と立会可致吟味旨御差函^ニ而其段三浦^江演説候様^ニと被仰聞

及演説候

一 小川兼助前関貫番所焼失今般普請取計候ニ付以後類火為用「北

角へ寄建兵衛様小川兼助^ハ噂有之遂吟味候処於役筋少も故障無之

ニ付其旨先日大目附松岡治部助へ遂内談候処当役^ハ申立候筋^ニ而

無之兼助^ハ申立候様^ニ被申候ニ付其段及内通候処勘定奉行上原

彦藏^ハ大目附へ被及噂候処不相濟旨通用有之依之普請取計候様大

年寄へ申達候

一 勢州安芸郡白子村形屋仁右衛門手代庄吉伊兵衛二人例年之通紺屋

形壳ニ来候段堺町西川屋善助宿切手差出

一 大坂山本町大坂屋忠兵衛手代源助与右衛門二人例年之通小間物壳

ニ来候段坪井町川原屋次助宿切手差出^{三月八日始ル}

一 成覚寺浜屋源右衛門取合細江武助^ハ成覚寺返書相廻り遂一読幾度

筆戦為致候^而も際限も無之事^ニ被存武助へ遂対談候処今一応も答

書為致双方疲候上^ニ而内扱為致可然と申談又々源右衛門^ニ再答書

為致候様^ニ大年寄へ申達右書類相渡候

一 備前源太郎病氣見廻ニ源太郎弟之養父甚七^与申もの今日来り同宿

仕度旨申候由宿^ハ申出御用宿之義故同宿ハ不相成候得共面談ハ心
を付為致候様申達候

二月十九日 小雨

一 郡代所^ハ八子博奕之節逃去り候山北村元針一ノ宮里方「組又治
捕出候付牢番預ケ申来出番^(マ)

一 牢舍人下高倉村東分常藏出牢郡代所^ハ申来出番同人差向取計之

一 牢舍人宜祥病氣申出大年寄へ申付候処吉武祐三致診察候処可薬症
之由申出候ニ付則療治申付候段大年寄届出候

二月廿日 晴

一 備前田原村源太郎義今以不相勝旨^ニ而罷出余り日延^ニ相成難捨

備前表へ不申達候^而も何とか此方^ニ而等閑^ニ致候様^ニ而如何^ニ付

右之段可申遣哉と大目附松岡治部助へ遂内段候処同意^ニ付則下案

相認一学殿へ相伺候処伺之通宜取計候様被仰出候ニ付御飛脚之者

被仰付被下候様大目附へ手紙^ニ而申達置右書状^并医師容鉢書三通

写^并宿助右衛門見受候様子^并食餌之趣書出候写巻通相廻候則御飛

脚萩野勘十郎へ相渡

一 戌ノ刻前林田田出火之旨注進有之致出馬候処田野熊刃失火之由^ニ而

町方静謐^ニ付其俣引取例之通御用番^并大目附へ帰り懸相届候

二月廿一日 快晴

二月廿二日 雨

一 札元山本三右衛門妻義伯州日野郡根雨宿飛田儀兵衛方へ三十五日
計之逗留^ニ而明後廿四日差遣度願書承り届ル^{三月廿九日始ル}

一 新職人町高住屋八十吉持来候古道具屋株当己二月^ハ来ル酉ノ十二

月迄五ヶ年之間中之町米屋豊八借り受商売仕度願書差出し承り届ル

一 西新町伊木屋惣五郎義甲州身延山へ百日計之逗留^ニ 而明廿三日出

立仕度願書差出承り届 六月八日七拾日延願書出

一 中之町玉野屋藤十郎義右同断願書差出承り届ル右同断願書差出

一 橋本町長崎屋代助義夫々卯十二月阿州徳嶋へ罷越去辰十二月迄還

留追願仕候処未不快^ニ 付四月中ニハ罷帰り度旨日延願書承り届ル

四月廿六日届ル

一 元魚町笹屋友治持来候旅人旅籠株去丑歳^ノ 当已歳迄五ヶ年之間橋

本町武蔵屋甚蔵へ貸置候処今般取戻し候届書差出承り届ル

一 関貫番賃銀去辰歳中算様書帳面差出候処拾貫九百九匁式歩八厘式

毛残銀有之

二月廿三日 時雨

一 御用日登城

一 堀田相模守殿領分当国勝南郡畑屋村源次郎娘義東新町樽屋清八妻

^ニ 引受度人別入願御用番御聞濟^ニ 付大目附^江 差出置御聞届申達候

同廿八日任在証文差出

一 戸川町作人清左衛門借屋住作人利八娘義土井大炊頭殿領分当国久

米南条郡北之庄山手村宇兵衛養女^ニ 差遣度人別除願右同断取計濟

一 備前出訴人源太郎惠助兩人宿追込可差免之旨相伺候処兩人共今暫

源太郎片付候迄其俣差置候様一学殿被仰出候

一 狐独扶持之義三浦十郎左衛門拙者兩人同道^ニ 而御用所^江 罷出先達

^而 申上候通狐独扶持之義実^ニ 無余義趣^ニ 御座候得^者 是迄も遂吟

味候上^ニ 而申上候義^ニ 御座候得共猶又兩役^ニ 而精々遂吟味漸計望候面々計相撰可申上候間何卒旧例之通被下置候様仕度旨一学殿へ申達置候

一 元魚町伊勢屋長右衛門御裁許旧年伺置候処今日松岡治部助^ノ 家族共取計方今一応相考候様^ニ 而被申聞被差戻候

一 人屋義兵衛吟味立合^ニ 而取計候様先日被仰出候所今日三浦十郎左衛門より立会^ニ 而不及趣意申上候由左候ハ、町奉行一手^ニ 而遂吟味候様十郎左衛門^ノ 演説候様一学殿被申聞候由十郎左衛門^ノ 通用有之

一 関貫普請去六月^ノ 当已正月迄七百匁六歩五厘之証文又六^ノ 差出奥印書取計之

一 斎藤孫右衛門義喜左衛門同道^ニ 而罷出兵庫問屋之由田中屋久左衛門と申もの倉敷之先年油種出訴^ニ 罷出候弥吉と申もの同道^ニ 而来り油種之義^ニ 付商売牀^ニ 寄^而 内々孫右衛門へ致面談相頼度義有之由^ニ 而罷越候由宿戸嶋屋伝吉申出依之^ノ 屋普兵衛^ノ 差向候所油種買集差登呉候様相頼度旨申越候^ニ 付爰元ハ全牀扨底中々買集候種無之^ニ 付是迄も不能其義候間不及申義尤以来沢山^ニ も相成候節

も有之候ハ、可差登と無何気及挨拶可然若又公辺等之義を申懸ケ表向之挨拶之様子相成候ハ、一己之御頼と有之候事故及御答候得共公辺懸候義^ニ 候ハ、決^而 御答^ニ 得及不^レ」候旨申切手を放候様^ニ 可仕哉と相伺候付其旨取計候様^ニ 及差因

一 大年寄へ預ケ置候工面もの去暮迄之差引算様帳差出当時有銀九百七匁式歩八厘有之

一 備前渡部利右衛門竹内又右衛門へ差遣候飛脚今八時罷歸り郡会所へ致持参候所会所役人之由根岸林蔵より受取書差越候由受取罷歸り其段御所へ手紙^ニ而及御尊候

一 播州網干新在家村加賀屋善七手代忠四郎一人例年之通小間物卸売来候段西新町山家屋利右衛門宿切手差出^{四七月六日始ル}

一 斎藤孫右衛門亥刻前罷出兵庫問屋田中屋久左衛門繰屋善兵衛を以先刻之趣申達候所此趣^ニ而罷帰候^而者一己之面皮も無之何卒少々成とも道付候様御勘弁被下度呉々相頼^并弥吉杯も何^度手作手絞計^ニ而^者無之去歳も今町何某ひし屋もん^ニ而種四拾石計相調候も見受居候杯と色々言を尽相頼候段申出左候ハ、相考候上^ニ而明朝可及差図候旨申達置松岡治部助へ遂内談候所左候ハ、即答^ニも難及筋^ニ付相考候上^ニ而可及返答候間暫逗留被致候様及挨拶置何分先前^ノ之取計方相調候上^ニ而致返答可然旨被申聞此段同意^ニ付申談置候

二月廿四日 晴雨

一 夜前孫右衛門申出候趣松岡治部助へ遂内談候趣今朝一学殿^江相伺候所至極尤^ニ被思召其趣取計置得^并取調候様被申聞候^ニ付其段孫右衛門へ相達置旧記取調候所宝曆九年御代官所^江申遣候菜種石数書付^ニも以前^ノ菜種^并油他国へ差出候義^{無之旨^并在方^并他領^ノ売^ニ来候種買調控立候趣^ニ申遣有之候然ル所^比源^五兵衛喜左衛門罷出今朝孫右衛門へ被仰出候通何れ公儀被仰出候義^ニ候得^者不表立内分^ニ而取立差遣候方穩成様^ニも御座候得共是迄組屋源左衛門綿実車稼中もケ様之義每々有之候事^ニ而嘸兵庫問屋^ニ相違も}

有之間間敷義^ニ候得共倉敷弥吉杯と申山師杯同道^ニ而罷越候義^ニ候得^者比所も疑無之^ニもあらず^ニ綴^ニ令此度筋付少々つ、差遣候様^ニ取計遣候共夫切^ニ而相濟候事ハ決^而無之毎年彼是六ヶ敷申懸詰ル所ハ大阪^江御呼出し^ニ必定可相成義と存候得^者大阪御裁許之上^ニ而相對^ニ相成年々相廻候石数相極候得^者いつ迄も其形^ニ而相濟候事^ニ候得^者今般ハ不及貪着及断差返し御呼出し^ニ相成候節ハ惣油屋代人両三人差出し組屋源左衛門申披候趣を以申披候ハ、可也^ニ筋立可申けだし不相叶節^者油商売之もの共家職かへ可仕覚悟仕可然之旨之申出此段も一理有之筋^ニ付其段及御沙駄可及差図旨申達置又々月番松岡治部助へ申達上^ニ而一学殿へ申達候所何分相考從是可及返答旨被仰聞候後刻松岡治部助^ノ呼^ニ来罷越候処先刻御伺之斎藤孫右衛門^ノ田中久左衛門へ返答振之義下方之考尤^ニ候併如何^ニも穩^ニ取計候方可然^ニ付爰^ニ而返答^ニ者道付候様致遣度色々相考候得共元来払底^ニ而古来^ノ他へ出候義無之程之事^ニ候得^者中々一己之力^ニ難及義^ニ候得^者一存^ニ而及返答兼候間同職之者も有之事故追々遂相談得と相考候上^ニ而追^而自是可及返答旨及挨拶差返し置緩々と遂相談同商売之者共熟談之上返答申遣候様^ニ御用番一学殿^ノ可相達旨被仰出候旨被申聞依之蔵合孫左衛門斎藤孫右衛門呼出し其旨申達候

一 残錐利分三百匁杓歩八毛有之旨預手形差出
一 綿改口銭残銀八百匁四歩式厘有之旨尤綿改^江預ヶ置候分「」上ヶ置可然旨申出其通宜取計預り置候様及差図

二月廿五日 晴

一兵庫間屋田中屋久左衛門倉敷之弥吉夜前及返答候処兩人とも今朝
出立仕候段大年寄届出候

一備前田原源太郎弟病氣見廻ニ罷越候由向方ニ而も相願病氣ニ付召
連罷帰度旨宿迄申候由宿助右衛門ノ大年寄へ申出候処下方ニ而取
上ケ不相成訳申達候旨大年寄申聞候且又最早罷帰候間印形不致持
参旨申候ニ付今日中ニ態飛脚立取ニ遣候様ニ申付ル

一元魚町北原屋長七悴庄吉義小須賀一学殿江奉公ニ差出植山庄吉と
相改度人別除願承り届ル文化年中五月掃町人別入届出又

一二階町嶋本屋音治芝居引受一札差出候

一備前渡部利右衛門竹内又右衛門ノ飛札差越源太郎義病氣容鉢書之
趣ニ而者全虚病と相見へ不届之義ニ候間何分差返し呉候様并別人
差越候間比間之返書旁来受取書相渡飛脚之者差返候様ニ取計置候
無程枝松鉄右衛門と申もの罷越孫右衛門ニ対談仕度旨申候ニ付尾
高屋へ宿申付置候由大年寄申出候ニ付宮田喜左衛門差出為致応対
候様申達置大目附松岡治部助へ遂対談一学殿江も罷越右之段相届
何分喜左衛門応付之所承り札候上明朝可申上旨申候処大目附治部
助へ遂熟談返書迄相認候上ニ而明日一所ニ可承旨被仰付左候ハ、
差返候手段ニ取調可申旨申置候

二月廿六日 快晴

一小頭部屋目附書役孫右衛門源五兵衛喜左衛門立合ニ而 出番佐十郎
嘉七相詰備前田原村恵助呼出し源太郎差出候善右衛門ノ兼 相渡
置候算様書恵助封印致置候ニ付恵助為立合致開封新左衛門へ写申
付又々本書ニ恵助為致封印其俣備前へ差遣候

右源太郎恵助兩人枝松鉄右衛門へ引渡之役人被仰付被下候様大目
附へ申置候処山田新三郎被仰付万端申含暮過時紙屋助右衛門宅へ
新三郎差出鉄右衛門も出会無滞引渡相濟候右之段御用番并大目附
へ手紙ニ而「」届候尤返書未致遣出来候付後刻可差遣旨新三郎ノ
鉄右衛門へ懸合置新三郎ノ手紙差添当番ニ為持遣候
尤返書下案并今般差遣候書類不残大目附へ為見候上ニ而一学殿へ
差出候処御添削有之其通認遣尤左之書類相廻候

源太郎善右衛門算様帳写巻冊 右ノ高爪印之受書写一通

源太郎ノ差出候偽作有之書面本書ニ而三通

善右衛門ノ差出候右書面之扣本書ニ而式通

右四通差遣候

一西今町永野屋和兵衛大坂淀屋橋綿屋義兵衛方へ三十日計之逗留ニ
而明廿七日出立之願書大年寄承り届差出三月廿七日届

二月廿七日 雨

一備前役人枝松鉄右衛門并 田原村源太郎恵助右三人今朝船ニ而 出立
候旨大年寄ノ届出其段御用番并 大目附へ相届候
一源太郎一件之書類昨日備前へ差遣候扣不残一学殿へ差出候
一上紺屋町威徳院金昆羅參詣十日之逗留ニ而 来月二日出立之願書大
年寄承り届差出三月十二日届

一堺町小林主水右同断願書出三月十二日届

一吹屋町熱田数馬右同断願書出三月十四日届

一吹屋町持福院右同断願書出右同断

一新魚町樫野屋茂一郎伴友三郎義大阪大川筋綿屋義兵衛方へ廿五六

日之逗留^ニ而明廿八日出立願書大年寄差出承り届四月六日梅ル

一下紺屋町一乘院金毘羅參詣右同断願書出三月十三日梅

一牢屋纏今日御作事取懸り候段内田山七届出候

二月廿八日 快晴

一御用日登城

一大久保安芸守殿領分当国久米北条郡中北下村善五郎後家娘義福渡

町作人佐七妻^ニ引受度人別人願御用番中御聞濟^ニ付大目附へ差出

置御聞届申達候

一備前田原村源太郎惠助宿追込差免候義相伺候処段々思召披仰出左

之通可取計一学殿^ノ被仰出右之段大年寄於宅申渡候様^ニ月番孫右

衛門へ申渡候

其方共義備前田原源太郎惠助 船頭町

逗留中对役所いか、之筋も有之様

相聞候付可遂吟味之処源太郎病氣故

差帰候付今度^者用拾を以不及吟味候

以後相慎可申候

右之段取計相濟候旨大年寄届出候上御用番^并大目附へ手紙^ニ而相届

一中之町作人佐太郎義多子之処尚又双子致養育甚奇特之至^ニ付三四

才迄之間御扶持方被下置候様仕度去辰十月十三日相伺置候処今日

左之通一学殿^ノ被仰渡大年寄於宅可申渡旨申渡又

其方義困窮之処双子致養育

取計方奇特之事^ニ候依之八木

五俵被下置候

中之町 作人

佐太郎

右被下物拙者証文差出於御藏受取可相渡候処今日之間^ニ合兼候付

勘定奉行中^ノ取かへ貰仮証文差出受取大年寄へ相渡尤大年寄方^ニ

而包水引懸ケ慰斗包添相渡候事尤近々本証文差出可申候右申渡相

濟候段大年寄^ノ届出候上御用番^并大目附中へ手紙^ニ而相届候

一牢舍人弥市療治二廻り相濟未相勝候旨双方^ノ届出候^ニ付尚又療治

申付候様大年寄へ申渡候

一上河原村浅右衛門方へ去ル廿二日盜賊入込五品盜取候触流し先格

之通取計候様大目附中被相渡触書差出本書ハ差戻候事

一宮脇町生駒屋治右衛門義娘召連三十日計之逗留^ニ而伊勢參宮来月

五日出立之願書大年寄承届差出候四月七日梅ル

一坪井町南側^ニ而河原屋治助家屋敷表口四間裏行拾七間但し沓間役

也東隣ハ小嶋屋和兵衛西隣ハ浜屋源右衛門也右家屋敷去辰九月京

町高嶋屋鶴治取次^ニ而質物^ニ書入銀札五百匁借用候処今般元利返

弁受返し相濟候段届書差出候

一坪井町南側^ニ而河原屋治助右之家屋敷又々同町小塩屋茂右衛門取

次^ニ而質物^ニ書入銀札沓貫匁借用之願書差出承り届候尤一ヶ月沓

歩^ニ三朱之利也三月二日本証文差届 文化元年申年三月九日受迄し 相誤

一茅屋町玉屋長右衛門後家役介宇助義四国遍路百廿日計之逗留^ニ而

三月七日出立之願書差出承り届ル七月廿日梅ル

一二階町山手屋弥太郎家守忠藏借屋住作屋義助義去冬^ノ不能帰届出

去ル五日百日尋申付候処夜前罷帰候段届出候^ニ付先格之通叱置候

様大年寄へ申渡候

一狐独扶持之義先頃申立之通以後可被下間精々遂吟味申立候様御用

一番一学殿が被仰渡其旨大年寄へ申渡置候

一河原町熱田市正悴大藏金比羅參詣願差出 三月十三日端ル

一宮脇町阿賀屋助五郎義妻娘召連往来三十日計之逗留 ニ 而 伊勢參宮
仕度尤来月五日出立仕度願書大年寄差出承り届

二月廿九日 快晴

一関貫番貨銀相渡候

一摂州大坂嶋之内大宝町万屋善次郎一人例年之通草足袋水のふ金と
うし御売来候段西新町山家屋利右衛門宿切手差出 四月廿六日端ル

一新職人町山本屋忠右衛門四十日逗留 ニ 而 三月四日出立伊勢參宮願

書大年寄承届差出 四月一日端ル

一大坂貝屋町玉沢町定住勾当妻伯州日野郡下り茅村が大阪へ帰り懸
真嶋郡新庄村 ニ 而 致足痛一向歩行不相叶同所が送り出し院庄村へ
送り来り候旨申出右ハ足痛相違も無之寺手形致所持候 ニ 付送り遣
候様申付置候由郡代所が通用有之其旨大年寄へ申付候

一安岡町南側 ニ 而 神目屋和吉家屋舗表口三間裏行九間三步三厘役東

隣ハ大坂屋宇八西隣ハ福嶋屋治右衛門也右家屋敷去ル安永六 丁西

年十二月町内大坂屋宇八 江 百八拾三匁之質物 ニ 書入候処此度元利

返済受返候段届書差出候

一大田縫兵衛長屋住房徳母子二人林田町河田屋忠助母妹 ニ 付引受度
人別入願承り届ル

三月 大

月 番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 黒田要人殿

大目附 伊達与吉郎

大年寄 藏合孫左衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

三月朔 辛 日 快晴

一大目附伊達与吉郎が近々皿村辺於寺院芝居有之由相聞候間何とな
く聞合申聞候様 并 他領見せ物之節取計近例相調申聞候様郡代と連
名 ニ 而 申来右聞合目明へ申付候様小頭へ申付候処目明孫兵衛罷出
皿村長昌寺開帳 ニ 付来ル七日が十八日頃迄柳之土手打交り芝居興
行仕候由尤町方御停止 ニ 相成候様之義 ニ も候ハ、興行致間敷風聞
有之由申出候 ニ 付其段 并 他領芝居之節 并 当役取計之先格と申 并 町

方へ參申間敷書差出右場所^江為監察日々目明差出候尤去辰三月
薪森原村芝居有之候節右之通ニ取計候段手紙^ニ申遣候

一前訓講尺先月廿五日相始今日迄六日相濟候段宮田喜左衛門出
席帳差出^并相濟候段大年寄も届出候

三月二日 雨

一札元茂渡藤右衛門妻撰州有馬へ入湯四十日計之逗留^ニ來ル八日
出立之願書大年寄差出承り届ル^{四月四日始ル}

一西今町坪屋藤十郎母撰州能勢妙見^江參詣三十日計之逗留^ニ來ル
七日出立之願大年寄差出承り届ル^{四月六日始ル}

一出羽守様九日頃^ニも御発駕之御沙駄も有之^ニ付來ル六日馬見分七
日御道見分取計可申旨大年寄^并小頭申出候

三月三日 快晴

一上已登城無之仍御用日而已^ニ相成候組中罷出例之通調神酒指出ス
諸事先格之通

一元魚町糝屋伊助幸吉義大坂大川町綿屋義兵衛方へ四十日之逗留^ニ
^ニ來六日出立之願大年寄承届差出^{四月十四日始ル}

三月四日 晴風

一牢舍人宜祥療治二廻り相濟候段牢番申出大年寄へ先格之通取計
候様申達候処猶又吉武祐^江申付候段申出候

一大目附中^ノ近々皿村^ニ見せ物有之由^ニ候右之場所へ參間敷旨御触
書到來写取組中へ差出^并郡代申談市郷^江も參間敷書差出候先格

^ニ相見へ候^ニ付可差出哉之旨要人殿^江罷越相伺候候後刻手紙^ニ
其旨宜取計候様申來候^ニ付町触差出其旨郡代所^江も申遣候

一明日人屋義兵衛可遂吟味候旨郡代所^江申遣夫々手配も申付候
三月五日 快晴

一 小頭兼帶部屋目附三船孫八書役新左衛門出番文藏嘉七立合^ニ而人
屋義兵衛九時呼出遂吟味処さつはりと及白状双方申口致府合候
^ニ付口書取極候

人屋義兵衛

差添庄屋権七

三月六日 雨

一齋藤孫右衛門義勝山金田清右衛門方へ四五日之逗留^ニ而明七日罷
越度旨同役孫左衛門出承り届ル

一北山修齋義大坂米屋町北山季齋方へ五十日計之逗留^ニ而明七日出
立仕度義願差出先例相調候処近例見当り不申太田定右衛門時分ハ
格別流行醫師なら^者可及御沙駄義も有之と在之^并諸吟味御用達他
參ハ当役承り置^ニ付不及御沙駄承り届候^{四月十八日始ル}

一安岡町宮嶋屋源兵衛八十日計之逗留^ニ而四国遍路明七日出立仕度
願書承り届

一林田町川能勢屋岩右衛門役介作兵衛夫婦^并悖宗十郎右三人御領分
東南条郡野介代村要八方へ引越度人別除願下方引合相濟候段大年
寄申出承り届ル

一元魚町福井屋喜七義妻召連四国八十八ヶ所へ參詣仕度往來百五十
日之逗留^ニ而明七日出立願承り届ル^{四月十七日始ル}

一西々条郡二ノ宮村忠三郎借屋住茂七夫婦^并母娘悖伊吉忠吉右家内
六人林田町豊国屋重右衛門後家養子^ニ引受度人別入願下方引合相
濟候段申出承り届ル

一西々条郡二ノ宮村忠三郎借屋住茂七夫婦^并母娘悖伊吉忠吉右家内
六人林田町豊国屋重右衛門後家養子^ニ引受度人別入願下方引合相
濟候段申出承り届ル

一西々条郡二ノ宮村忠三郎借屋住茂七夫婦^并母娘悖伊吉忠吉右家内
六人林田町豊国屋重右衛門後家養子^ニ引受度人別入願下方引合相
濟候段申出承り届ル

一京町吉田屋喜八郎義河内国道明寺天神宮^江參詣廿日計之逗留^ニ而
明七日出立之願承り届ル

一元魚町灰屋与七良義大坂会所町玉子屋九兵衛方へ廿五日計之逗留^ニ
而明七日出立之願書大年寄承り届差出^{同十五日端}

一西今町公文屋清左衛門義大坂梶木町玉子屋九郎兵衛方へ三十日計
之逗留^ニ而明七日出立之願大年寄聞届差出^{同月七日端}

一宿馬見分小頭又六部屋目附新治差出候所大年寄宅ニおゐて取計申
分無之相揃候由毛付帳差出候

一大目附伊達与吉郎^ノ町方芝居いつ頃相始候哉と尋来大年寄へ相尋
候処下方承り合候得^者願人音治も迎ニ罷越居最早大坂出船仕候由
申来候得共船中之義故定日ハ難申上何れ西大寺迄着船之上ならて
ハ定日難相決旨申出其段申達候

一出羽守様十一日頃御発駕之御沙駄も候由先格取調大年寄差出候

一二階町河内屋金右衛門義金昆羅參詣往来十日計之逗留^ニ而明七日
出立之願書大年寄聞届差出

一京町仕立屋新助右同断願書差出^{同十四日端}

一元魚町豊屋喜兵衛右同断願書大年寄差出承り届^{同十二日端}

三月七日 雨

一出羽守様御通行ニ付御道見分小頭又六大年寄源五兵衛差出候処隨
分宜全鉢四五ヶ年已前^ノハ宜相成候段申出候

一三町目小田原屋幸助京都愛宕山へ參詣往来廿日計^ニ而明八日出立
之願書大年寄承り届差出候^{同廿六日端}

一宮脇町佐渡屋八左衛門義十六ヶ年以前^ノ町内年寄拜役相勤候処病

身ニ付持病差起り候節ハ悴利四郎名代ニ差出度願書大年寄差出承
り届ル

一西今町北側^ニ而直屋市郎左衛門所持之家屋敷表口式間半裏行拾五
間但式歩五厘役也^{〔貼紙町〕}東隣ハ作屋庄兵衛西隣ハ玉屋吉右衛門也右家
屋敷建物不残代銀札六百目ニ相極町内塗師屋喜助へ売渡度願書承
り届ル^{同十二日亮奉状差出}

一牢舎扶持三俵之内貸証文差出尤当月へ卷斗式升持越ニ相成候

三月八日 曇

一御用日登城

一備前岡山尾上町白銀屋平八郎後家悴佐太郎一人橋本町蓬萊屋佐
市家内ニ引受度人別人願御用番御聞濟ニ付右願書大目附へ差出置
御聞届申達候^{同廿日住宅証文差出}

一惣社宮芝居河原町乙治芝居跡^{〔乙治〕}ニ而興行為仕度地面貸申度願書河原
町組合共^ノ差出寺社取次引合之上右同断取計濟尤寺社方^ニ而^者先年
安岡長雲寺芝居徳守^ニ而致興行候事有之候由^ニ而御聞届相濟候事

一美濃職人町財布屋平七借屋住田中屋和助悴才三郎義土井大炊頭殿
領分当国久米南条郡原田西村宇助養子ニ差遣度人別除願右同断取
計濟

一玉置卯左衛門義備中矢掛町中西平左衛門方へ廿五日計之逗留^ニ而
明九日出立仕度願右同断取計濟^{同月四日端}

一河原町芝居役者名面付東西大橋ニ建札仕度^并興行中町中太鼓打廻
り度願書差出右願書ハ先格之通不差出口達^ニ而御用番中へ申達御
聞濟ニ付右願書大目附へハ差出置御聞濟之段申渡候

一人屋伝兵衛髮結藤吉方喧嘩一件御裁許相伺候処左之通伺濟依之郡代中^江も御達被下候様大目附へ申達候処大目附中^ハ達有之申渡書郡代所へ相廻し明日可申達筈^ニ談置候

右喧嘩一件ニ付
已来禁足申付候

人屋義兵衛悱
伝兵衛

右同断ニ付
叱追込七日

新職人町髮結
藤吉

右同断ニ付
叱追込十日

小田中村人屋
義兵衛

(二月改入) 小性町網干屋佐七悱伝吉義御中間相勤居候処首尾克番代仕候^ニ付帰町人別人為仕度願書差出御中間頭内山藤太夫へ引合之上承り届ル

一出羽守様御通行^并其外^ニも道筋掃除申付候節^者以来寺社取次へ及通用候様大目附伊達与吉郎被申聞候

一当町^江買込候菜種何石又油^ニ絞立候油之石数十ヶ年程之間調出候様松岡治部助被申聞大年寄へ申付置候

一牢者人新吉療治二廻り相濟候処未相勝段双方^ハ申出候^ニ付又々治療申付候様大年寄へ申付ル

一近々河原町^ニおゐて見せ物興行有之候間彼地^江参間敷御触大目附中^ハ到来写取組中へ差出候

一佐々木右近義主馬と改号候旨為知有之候
三月九日 雨

一小頭又六部屋目附孫八大年寄宅^江差向新職人町髮結藤吉御叱追込

申渡相濟候段御用番^并大目附へ手紙^ニ而相届候

一林田町鍵屋茂助妻伊勢参宮四十日之逗留^ニ而来ル十二日出立之願書大年寄承届差出^{四月廿六日届ル}

一元魚町指屋平三良借屋住小原屋方藏義母召連西国順礼百廿日之逗留^ニ而来ル十三日出立願承り届ル^{七月廿五日退願聞七月十四日届}

一元魚町福永屋宇三良借屋住江見屋折助娘浜義西国順礼右同断願書承り届ル^{右同断退願聞七月十四日届}

一勝間田町美濃屋伝七義大坂道嶋中三丁目河内屋彦兵衛方^江当巳三月^ハ来ル未ノ十二月迄三ヶ年之間奉公^ニ罷越度願書承り届ル^{寛政十二^ニ。年三月廿一日罷越候}

一福渡町南側^ニ而込屋是吉所持之家屋敷表口式間半裏行拾七間但半役也東隣ハ福本屋藤七西隣ハ作人治右衛門也右家屋敷代銀札百八拾匁^ニ相極同町佐助へ売渡度願書大年寄差出し承り届^{同十一日寄状差出}牢舍人新吉療治春鷗へ申付候処致診察痼疾之義故捨置候^而も不苦旨申聞候由大年寄申出候^ニ付其段^ニいたし置候様^ニ申達候

三月十日 曇

一出羽守様当月十一日御国許御発駕御先触左之通差出

以廻状絡達候出雲少将殿為参府当月十一日国許被致発駕候依之繼馬三拾三疋継人足式百三拾人駄々無間違御手合頼入存候尤久世^ハ西宮迄之内^者繼馬式拾五疋継人足百八拾人入用候

下ケ札 人足付方手配帳面之通仕来を以人馬相究如斯先触仕出候処人足付方相増候訳も有之候ハ、其増人足丈ヶ増入用^ニ相成候間其心得を以集置無滞御手合頼存候

津山明石御領駅之分^者繼馬三拾五疋御手合頼入存候

則人馬望之人別板札ニ相記是迄之通銘々江相渡置候尤馬之分著
壹番々三拾三番迄致番付置候依而人足手配帳并印鑑遣之候且又
右帳面之外入用之分著例年之通紙切手仕出し候間左様御承知可
有之候右手配帳一冊印鑑壹枚宛御留置御順達可有之候恐惶謹言

雲州人馬方

平井幸三郎

三月七日

桑原嘉市

片山良平

瀧 定七

宮川柳助

伯州溝口駅々西宮大坂通り東海道

武州品川駅迄

宿々問屋中

追緒至時人馬とも少々余分之義も可有之候間其節御手合頼
入存候且又同勢多くハ桑名々宮江直渡候間佐谷神守万場三
宿之分ハ印鑑はかり壹枚宛御留置御順達可有之候已上

右御先触写御用番中へ差出大目附へも右之段申遣尤手配帳と申ハ
御家中名面書人足配之帳面ニ而急ニ入用之旨申候ニ付直ニ差戻候
尤右帳面ニ而人足百七拾九人と有之候

△右ニ付寄七馬拾三疋入用之旨大年寄申出其段郡代三浦十郎左衛
門へ手紙ニ而申遣候処承知之旨申来候

△東西橋之義郡代所江尋ニ遣候処土橋ニ而相濟候段申来依之御船
入用無之旨大年寄へ申達ス

△問屋目附宮田喜左衛門不快ニ而御通行之砌問屋へ難罷出候間久
山勘八被仰付候様大年寄申出候其段追而及御沙駄可申付事

一林田町山本屋与三七娘召連往来六十日計之逗留ニ而伊勢參宮来ル
十二日出立願書大年寄差出承り届ル五月十七日延願差出

一二町目福永屋藤助義右同断願書承り届ル五月十七日延願差出

一 出羽守様御通行ニ付先例之通町触差出尤御日限ハ追而可達筈也

一勝間田駅役人岡富右衛門々大年寄三人江書状差越近藤伊左衛門々
明朝立輕尻馬三疋先触来候所出羽守様御通行ニ付宿馬差支候間土
井駅迄通シニ被仰付被下候様頼来候処以後之例ニ相成候事故承知
も難致筋ニ付御相对之義ハ如何様ニも御勝手次第之事ニ候得共役
場々申付候義ハ難致筋ニ付為御断申候旨可及返書之旨孫左衛門申
出其通宜取計候様及差図候

一備前邑久郡牛窓大工五郎左衛門市兵衛喜右衛門半右衛門源左衛門
小作右六人例年之通来候段二階町堺屋伊右衛門宿切手差出

三月十一日 晴

一江戸小勘者相田茂市神村平兵衛々大年寄共献上之代金受取候再報
到来大年寄へ為見候

三月十二日 晴

一宮田喜左衛門義今以不快ニ付出羽守様御通行之砌出役難仕御座候
間右仮役久山勘八江被仰付被下候様ニ大年寄申出候ニ付其段御用
番中へ手紙ニ而相伺候処其旨取計候様返書来り其段申付候様ニ大
年寄へ申遣候尤大目附江も右之段相届候

一 出羽守様御宿割不相知候得著御日積耽と不相分候ニ付大年寄へ申

遣候所爰元御宿ニ不相成候得^著御宿割ハ不来候旨申出依之郡代所
江申遣候所久世土居御宿ニ而十四日院庄御昼休と申御関札来候段

一出羽守様御通行ニ付取計方左之通大年寄^ハ差出候

一駕籠人足但式入替 老人ニ付 三刃式歩五厘

一分持^并宿駕籠人足 老人ニ付 老刃八歩

右ハ問屋^ハ書付差出問屋目附喜左衛門聞札右極候由

一御本陣 玉置源五兵衛

同詰三人 平野屋助左衛門

櫻野屋茂一郎

稻実屋義七郎

一御奉行所御立宿 西今町 直屋市郎左衛門

同 下宿 同 紙屋六藏

一御徒目附下目附立宿 安岡町 三倉屋平兵衛

一御先弘同心組立宿 同 篠屋市右衛門

一在宿医師 北山修伯

笹岡休巳

一人馬問屋出役 久山勘八

一式歩中買三人つ、御本陣^并問屋場へ

一遠見 院庄一人 天皇端一人 筋違橋一人

一前夕久世御泊へ聞合一人

一□□非人共火之用心可申付事

一兩橋建札為引取掃除申付候事

一町分御通行相濟候得^著 東新町^ハ西今町御奉行所御立宿^并大年
寄月番へ注進之事

一御通之節往来荷物土手へ相廻候様東新町安岡町へ可申付事

一山駕籠用意之事

一給仕人用意之事

一御本陣^江被為人候ハ、京町堺町二階町^ハ御供方へ心を付可申

事

一御持組立宿 東新町 松本屋新六

右之内御徒目附下目附立宿名面付ハ明日出仕之上大目附へ可差出
事

一 下紺屋町万性院金毘羅參詣十日之逗留^ニ而十五日出立願大年寄聞

届差出候同廿五日届^ル

一 皿村長昌寺芝居今日初日ニ付目明善治罷越候所無別条旨届出候

一 信州木曾筑摩郡敷原宿古屋善吉一人例年之通木櫛売来候段中之町

小山屋与三右衛門宿切手差出候

三月十三日 快晴

一出羽守様御通行為聞合昨夜院庄^ハ坪井迄差遣候由之処一昨十一日

御国元御発駕同夕安来と申所ニ御泊り被成候所御病氣^ニ而昨朝松

江表へ御帰城被成御通行御延引ニ相成候段久世本陣^ハ申来候旨坪

井大庄屋^ハ一方大庄や植月奎助方へ紙面^ニ而申来候由郡代所^ハ通

用有之其段大年寄へ申達其段夫々^江内々為聞置表立御延引触ハ町

方^ハ聞合之上取計可然旨申達候

一 齋藤孫右衛門義夜前高田^ハ罷帰候段届出候

一御用日之処拙者義不快ニ付三浦十郎左衛門を以当病御断申達候依
之御用向三浦十郎左衛門を以申上候

一久保安芸守殿領分当国久米北条郡福田上村石之助兄佐吉郎義茅
町今出屋庄助養子ニ仕度人別人願御用番中御聞濟ニ付大目附へ差
出置候段三浦へ申来御聞届申達候 同廿日住宅証文並出候申上 百種

一京町塗師屋熊吉裏御堀端覆繕ニ付御堀へ足代下し願大目附へ差
出候由三浦へ申来御聞届申達御作事へ懸合取懸り候様ニ申付ル

一出羽守様御先触写御用番中御下ヶ被成大目附へ手紙ニ差出候

一出羽守様人馬方御役人坪井幸三郎人馬問屋へ来出羽守様御義去ル

十一日御發駕被成安木宿御泊被成候所俄ニ御病氣被為付依「」昨

十二日松江表江御引返し被成御参府御延引ニ相成候間人馬之義及

断候御当所ニ御馳走御役人も御座候事ニ候得夫々之方々

江宜御通置候様ニ問屋ニ申置候旨問屋へ申出候段大年寄へ申出其

旨夫々江相触候様申達置其段御用番大目附へ手紙ニ相届郡代

所江も及通用候

一牢舍人弥市療治二廻り相濟最早休薬可然旨双方より届出其旨ニ申
付ル

一新魚町北側ニ油屋齋治家屋敷表口式間半裏行拾貳間但半役東隣

ハ紺屋十藏西隣ニ桑名屋喜兵衛也右屋敷之内裏行拾貳間之内裏詰

南北へ三間東西へ貳間半之所御役巷步付候而代銀札六拾匁ニ相極

組合之内紺屋十藏へ壳渡度願書差出承り届ル 同十九日宛書状並出

一大目附松岡治部助へ当町ニ年々菜種買集候石高ニ右菜種を油ニ

絞立候油之石高八九年之処調出候様先日被申聞依之惣油屋共へ申

付調出候様大年寄へ申付候処左之通書付差出松岡治部助へ手紙ニ
差出候

寛

寛政元酉ノ年

一実種千百拾六石五斗五升

此油貳百五拾壹石貳貳升三合

但実種壹斗ニ付油貳升貳合五勺

同戌ノ年

一同 千貳百貳拾五石七斗貳升

此油 貳百六拾九石六斗五升八合

但実種壹斗ニ付油貳升貳合

亥ノ年

一同 千百八拾四石五斗五升

此油貳百六拾八石八斗九升

但実種壹斗ニ付油貳升貳合七勺

子ノ年

一同 千貳百六拾八石貳斗九升

此油貳百九拾壹石七斗

但実種壹斗ニ付油貳升三合

丑ノ年

一同 千四百九拾石壹斗八升

此油三百三拾九石七斗六升

但実種壹斗ニ付油貳升貳合八勺

寅ノ年

一同 千五百石六斗八升

此油三百三拾三石卷斗五升

但実種卷斗 = 付油式升式合式勺

卯ノ年

一同 千五百式拾石卷斗式升

此油 三百四拾九石八斗五升

但実種卷斗 = 付油式升三合

辰ノ年

一同 千九百式石六斗七升五合

此油 四百拾九石五斗八升

但実種卷斗 = 付油式升式合

実種合

卷万千式百九石七斗六升五合

此油合

式千五百式拾三石八斗卷升卷合

右之通惣油屋相改候処相違無御座候以上

巳三月十一日

丸龜屋勘治 印
湯田屋太郎左衛門 印
常盤屋丈右衛門 印

藏合孫左衛門殿

三月十四日 曇 雨

一川端岡藏義是迄末熟 = 付当番計為相勤置候処最早外勤致候 而も可

然哉 = 付明日々並之通外勤為致候様可申達之旨小頭又六へ申通候様 = 部屋目附新治へ申付ル 六月十二日始ル

一美濃職人町沢田屋善助妻義四国八十八ヶ所参詣往来八十日計之逗留 = 而明十五日出立之願書大年寄指出候承り届ル右同断

一美濃職人町三笠屋伊右衛門妻右同断願書右同様承届ル

一西今町北側 庚申七月廿七日頃 塗師屋喜助家屋敷表口式間半裏行拾五間但式歩五厘役東隣八作屋庄兵衛西隣八玉屋吉右衛門也右家屋敷建物不残質

物書入銀札四百匁当巳三月より来生二月切 （マ） 而一ヶ月卷歩三朱之利

分 = 而同町福本屋伊之助取次 = 而借用仕度願書承り届ル （マ） 而十五日本証文差

出

一皿村長昌寺芝居へ昨十三日目明善治罷越無別条段昨日届出今日ハ

目明役平助罷越候処無別条今日切 = 而仕廻候段届出候

三月十五日 雨

三月十五日 雨

一万人講殘雖昨年御預ケ替 = 相成今般改 = 而預り候面々証文昨年差出

有之今日古証文と引合相違無之 = 付古証文夫々 （江） 差戻候様 = 申達

孫左衛門へ相渡候

一三町目太刀屋久治伊勢参宮四十八日計之逗留 = 而明後十六日出立

之願書大年寄承り届差出候 （五月廿七日計日延通願書出承り届）

三月十六日 雨

一新職人町髪結藤吉追込昨日迄 = 而七日 = 相成候 = 付今朝於大年寄

宅指免候段申渡其段御用番 （井） 大目附へ手紙 = 而相届候

一銀札場奉行江口衛助より加茂辺他領 = 而贖札出来之趣 = 相聞候間

内々 = 而目明頼遣遂吟味度 = 付其旨申付呉候様被申聞依之其段目

明へ申付尤取計方ハ銀札場奉行中差図を受諸事可取計之旨申渡候様小頭へ申渡候処目明孫兵衛罷出今日直ニ罷越候様ニ申出候

一戸川町挽屋伝三郎妻義西国順礼^并信州善光寺参詣百三十日計之逗留^ニ而^ニ来ル廿九日出立之願大年寄差出承り届^ニ留^ニ而^ニ来ル廿九日出立之願大年寄差出承り届

一斎藤孫右衛門妻娘撰州有馬へ入湯五十日計之逗留^ニ而^ニ来ル廿日出立之願書大年寄差出承り届^ニ五月十五日日滿願出承り届^ニ五月十七日日滿願出

一大庭郡久世村弓削屋清兵衛家内式人去卯三月ノ東新町弓削屋伊右衛門後家方へ罷越居候処此度差返し候届書大年寄差出承り届

一上紺屋町熊屋源右衛門妻妊娠御届申置候処去ル十五日満月之女子出生母子共丈夫ニ肥立月取間違之届書差例之通御叱取計候様ニ申達候

一江見定右衛門長屋住庄藏^并祖母^并姉^并妹右家内四人新魚町油屋才治引受度人別入願承り届

一新魚町分但新職人町ノ堺町^江之通筋南側^ニ而^ニ肥後屋宇吉家屋屋敷表口三間半裏行拾七間但本役也東隣ハ堺町団屋太郎兵衛西隣^者町内鳥屋与三兵衛也右屋屋敷數物^ニ書入当已二月ノ来午二月切一ヶ月老歩半之利足^ニ而^ニ銀札四百目同町作人万^治治郎取次^ニ而^ニ借用仕度願承り届^ニ五月廿五日日本証文差出

一新魚町南側^ニ而^ニ鉄砲屋庄助家屋敷表口四間半裏行拾一間半但七歩半役東隣ハ檜野屋茂一郎西^者桶屋町通筋也右家屋敷代銀五百目^ニ相極同町檜野屋助兵衛へ壳渡度願書承届^ニ五月六日^日發出

一新魚町北側^ニ而^ニ豆腐屋又吉家屋敷表口式間裏行九間但四歩役也東隣ハ桑名屋喜兵衛西隣ハ鉄砲屋庄助也右家屋敷數物^ニ書入当一

月ノ来二月迄一ヶ月老歩半之利足^ニ而^ニ檜野屋友三郎取次^ニ而^ニ銀札式百五拾匁借用之願書承り届^ニ五月廿五日日本証文差出^ニ五月十七日受取^文一^下紺屋町原田屋利兵衛家守吉兵衛借屋住源兵衛夫婦娘右家内^{四人}市村久之丞長屋へ引越度人別離願承り届

一^下紺屋町中谷屋幸助兄文七義甲州身延山参詣百日計之逗留^ニ而^ニ来ル十八日出立之願書大年寄差出承り届^ニ七月十二日^日滿願

三月十七日 雨

一伊勢屋長右衛門御裁許何書大目附松岡治部助ノ致付紙被差戻年^中他国ノ仕差出候様申来

一菜種^并同油石数高先日松岡治部助へ差出置候所被差戻年^中他国ノ入込候菜種油綿実油魚油之石数も調出候様ニ申来尤其節先日差出候菜種^并油石数書付も一所ニ差出候様申来候右ニ付他ノ入込候油石数調出候様大年寄へ手紙^ニ而^ニ申達候

一綿改口錢殘銀札八百老匁四分式厘大年寄三人預り手形差出^江入置

一二町目林田屋浅甲州身延山へ百日計之逗留^ニ而^ニ参詣仕度尤来ル廿日出立願承り届

三月十八日 雨

一御用日登城

一茅町阿波屋伝吉なたヶ瀬^ニ而^ニ船車稼居候処右車此度吹屋町山城屋善左衛門讓受吹屋町之川瀬^ニ而^ニ相稼度願書差出郡代所へ懸合候処故障無之旨ニ付御用所へ差出候所御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達候

一 二階町山手屋弥太郎家守作人市平借屋住孤独げん義先年も御救扶持被下置候所猶又組合共々歎出御用番御聞濟ニ付右願書大目附へ差出置勘定奉行江も右之段懸合置御聞届申達候

一 博奕打石垣雲平長屋住作兵衛請人林田町桶屋勘七橋本町佐賀屋勘右衛門役介林藏右両人とも永々牢屋賄致兼近来ハ漸近辺之助力を以取続候得共最早術計尺実ニ致方も無之此上ハ出奔之程も難計趣之由申出候ニ付其段大目附与吉郎へ及相談候処何之存寄も無之旨ニ付明十九日ハ牢屋賄ニ可申付旨牢番共へ申付候様小頭又六へ円藏を以申達候

一 河原町芝居役者もの風悪敷漸々去ル十日出坂去ル十三日西大寺へ致着船候処林雨ニ而水増登り船難叶心外延引之旨申出候付其段大目附へ懸合置候

一 大円寺門前ニ備中国くほや郡^{山手}。片山村百性辻野仁左衛門と申七才余之もの中風付行倒候ニ付隣町を取計送り出し候様ニ可申付旨大目附中を被申聞依之寺社取次細江武助郡代三浦十郎左衛門へ懸合置右之者行倒療用加へ候処追々快候得共長病之趣当人義立^而送り呉候様歎出候ニ付送り出し候旨送り状認茅町を新田村へ送り出し候様ニ大年寄へ申付候尤食餌看病ハ大円寺を取計候間町分をハ送り出世話仕尤医師も可申付旨申付候^而戸板むしろ等ハ大円寺を差出候様寺社取次と談置右仁左衛門義往來寺手形等も持參不仕痢病葉少々^而右板行致所持葉^而渡世可致哉之趣ニ相見備中^ニ妻^而甥も有之由ニ申候事

一 草加部村百性助八方へ去ル四日夕盜賊這入土蔵切破八品盜取候付

町触取計候様大目附を被申聞其旨取計本書ハ大目附へ差戻候

一 元魚町大庭屋善兵衛を下横野村武右衛門へ田地之義懸合之義願書郡代所へ相廻置候所永々不筋立候ニ付又々再訴願書出郡代所へ相廻置候

一 林田町作人六之助借屋住作人平七と申もの一人本琳寺長屋へ引越度人別除願寺社取次引合濟候ニ付御聞届申達候

一 若君様御儀大納言様と奉唱候様当月朔日被仰出^而大納言様御台様と御順ニ奉唱候様ニ於江戸表被仰出候旨御触書到來写取組中町中へ相触候

一 大円寺門前行倒もの、義取計大年寄へ申付候処天明四年^而四月因州もの南新座町ニ行倒隣町桶屋町へ引取取計候例有之候旨申出其通ニ取計送り出し候様ニ申付候尤備中くほ屋郡片山村と申ハ宮内之巷里計脇^而候由依之皿村之方へ送り出し順路之旨申出候ニ付其段郡代所へ通用候且又右仁衛門義中嶋宗元^江療治申付葉差遣容牒書等差出候

一 河原町芝居役者明朝迄ニハ相揃候間明昼後大入取計明後廿日ハ相始候段申出候旨大年寄届出其段御用番^而大目附へ手紙^而相届小頭^江も出役取計候様申付ル尤先年ハ諸吟味三人ニ付一人つ、日々出役申付候得共当時ハ一人ニ付芝居中折々罷出諸事見計候様ニ可申付旨大年寄へ申達尚又喜左衛門へも其旨申達置候

三月十九日 雨

一 札元三船八郎右衛門養父和右衛門義病死ニ付八郎右衛門義定式之忌服引込候段大年寄を届出其段御用番^而大目附へ手紙^而相届

一 西新町并筒屋源三郎祖父宗解義甲州身延山へ參詣往来百日計逗留

而 来ル廿日出立之願大年寄差出承り届（片十四日無ル）

一 大円寺門前行倒ものニ付大円寺（寺）社奉行へ差出候届書伊達与吉郎（郎）被相渡左之通写置

御届申上候事

昨十六月暮前拙寺門外軒下ニ年頃七十余ニ相見へ候男臥居申候ニ付様子相尋申候所備中国山手片山村仁左衛門と申もの、由中風相煩候旨申之候ニ付食杯給させ申候（而）何方へ成とも立退候様ニと申付候得共歩行相成かたく申（之）申之候ニ付夜前右之趣御届申上候所病人躰ニ相見へ候ハ、食事等給させ心を付可申旨被仰聞候ニ付罷歸り尚又下人（江）申付随分食事等給させ介抱為仕申候処今日御下代中被成御出御見分ニ付拙僧立合相札申候処左之通ニ御座候

一 右仁左衛門義木綿布子老同裕老ツ着し兜羅綿帯を仕居申候木綿之三衣袋を所持仕候内ニ痢病薬之由六七服（非）葉板行老ツ其外書類一向無御座候備中国くほや郡山手片山村辻野仁左衛門と申百性（而）御座候由申之候当（白雲訂正）八日国元を罷出右痢病薬を売弘申度由ニ付御当地へ罷越昨日迄所々寺方門前ニ屋とり申候旨申之候尤其節国元他出願等不仕罷出候得共国元人別ハ放レ不申候由仁左衛門家内同人妻甥万蔵三人（而）御座候由申之候右仁左衛門義木当年七拾四歳ニ罷成申候由申候国元へ罷歸り申度奉存候処昨日途中（而）倒レ申候而（而）中風差起り歩行難相成御座候間何卒国元へ罷歸候様被

仰付被下度旨ニ申之候

右之通拙僧立合相札申候処相違無御座候已上

寛政九丁巳年三月十七日 大円寺 印

寺社御役所

△医師申付候処中嶋宗元左之通容躰書差出

一 備中国窪屋郡山手片山村仁左衛門七十四才罷成候一昨十六日（而）不相勝候由申来早速罷越（之）養躰相伺候所中風症ニ而右手足不遂言語等も難分御座候（而）食物ハ給申熱氣も御座候得共気分ハ正敷相見へ申候薬調合仕服用為致候得者少々ハ宜方（ニ）も相見へ申候右之外別条も無御座候ニ付容躰書差出申候已上

寛政九丁巳年三月十八日 中嶋宗元 印

△仁左衛門（左）之通願書差出させ候

乍恐奉願上候事

私義備中国窪屋郡山手片山村之者ニ御座候今般痢病薬売弘之ため去ル八日国許罷出所々相廻り御当地（江）罷越候処中風差起り一向歩行難相成難義仕候然ル所御役人中様御見分之上被為人御念医療等被為加へ御影を以追々気分快御座候得とも老年故急ニ歩行仕候義難計一刻も早ク国許（江）罷歸申度奉存候間何卒私在所へ御送り返し被為下候ハ、難有可奉在候此段宜様被仰上可被下候已上

備中国窪屋郡山手片山村仁左衛門 爪印

寛政九丁巳年三月

茅町年寄 伊八殿

喜与八殿

井口村

御庄屋中

右之通相違無御座候ニ付奥書仕指上申候已上

茅町年寄 喜与八 印

伊八 印

大年寄三人宛

右之通願出候ニ付諸吟味役立合遂吟味候処相違無御座候故奥書

仕差上申候 已上

諸吟味 —— 印

大年寄三人 印

御町

御奉行所

△茅町差出候送状左之通

送り状之事

備中国窪屋郡山手山村仁左衛門義葉売弘のため当月八日
国許を罷出所々相廻り当地へ罷越候処去ル十六日不図中風
差起り歩行一向難叶依之医療相加へ候処追々気分快相成候
得共中風之症故急ニ歩行いたし候義難計ニ付一刻も早く国
許へ罷帰申度旨同人相歎候ニ付其段奉行所へ相断候処被聞
届送り出申候尤当人願書写之通ニ御座候間乍御面倒村々無
滞御継送り可被下候 以上

作州津山茅町

年寄 喜与八

伊八

右仁左衛門義井口村へ送り出し候段大年寄届出候ニ付其段御
用番[#]大目附へ手紙^ニ而相届[#]右書類写大目附へ差出候

一 東新町綿屋忠兵衛義娘召連甲州身延山へ参詣百日計之逗留^ニ而来
ル廿日立立之願書大年寄差出承り届 七月六日届願書出

一 河原町作人義助後家西国三拾三所へ参詣百日計之逗留^ニ而来ル廿
日立立之願書大年寄差出承り届 七月廿九日届願書出

一 京町戸嶋屋伝吉義河原町芝居嶋本屋乙治引受候役者拾六人逗留中
宿相頼候ニ付仕度願書大年寄差出候承り届尤右ニ付逗留申博変制
禁之旨嚴敷申渡候様ニ大年寄へ申達候

一 河原町芝居大入仕新治為治差出候所無別条引取候段届出候

一 大円寺門前行倒者仁左衛門義今昼送り出し候所及深更郡代所^ノ皿
村^ニ送り遣候所往来手形所持不致候間難受取兼^ニ弓削役所^ノ往来
手形無之ものハ継送間敷旨被仰付有之候由^ニ而 不継送候段郡代
所^ノ申来依之大目附伊達与吉郎へ其段手紙^ニ而 申達先格有之候事
^ニ而 先例之通願書取送り状差添送り出候^ニ而 不受取上ハ致方も無
之義故送り返し可申尤兼^ニ而 武助^ニも不継送時ハ大円寺へ送り戻可
申談置候事故大円寺へ送り戻し可申旨申遣候所先其通^ニ取計置可
申尚又居所之義も追^ニ而 差図も可有之候得共先其通寺社取次^ニも達
置可申旨申来候尤右之通送り返候上ハ備中^ニ飛脚差遣問合^并親類
召連帰候様^ニ可申遣旨申達候所其段宜取計候様申来依之郡代所^ニ
右之通伺済^ニ付送り戻し候様御取計可有之旨申遣大年寄へも右之

段宜取計候様申付候尤備中へ申遣候下案も大年寄差出及一見其旨
宜取計候様ニ及差図候

一目明孫兵衛贖札吟味ニ致他参候所芝居相始り候ニ付仮役平助へ申
付候段又六申出候

一町分芝居興行有之候得者先年者諸吟味日々見廻り候様ニ被仰付候
得共当年者宮田喜左衛門一人ニ而日々出役も難仕ニ付手透之節
折々見廻り候様ニ申達其趣大目附伊達与吉郎へ及噂候所其通ニ而
可宜旨挨拶ニ候

一牢舍人宜祥全快ニ付致休葉候旨昨日双方へ届出承置

三月廿日 曇

一大円寺門前ニ行倒候備中片山村仁左衛門義皿村へ送り返し候ニ付
茅町年寄へ飛脚差遣親類之者罷越連帰候様ニ申遣候段申出候ニ付
其段御用番中へ手紙ニ而申達候大目附へ八夜前懸合置候事故取計
濟候義ハ不申達候

一河原町芝居役者拾六人之宿小性町浜田屋善六仕度願書差出承り届
戸嶋屋伝吉同様ニ諸メリ之義申達候様ニ申付ル

一河原町芝居今日相始又六佐十郎栄治差出候所大札九拾式枚小札
拾九枚無別条段届出候ニ諸吟味喜左衛門も無別条段届出候

三月廿一日 快晴

一元魚町伊勢屋長右衛門御裁許再考伺書松岡治部助宅「」罷越差
出置候

一郡代所へ一昨年八子ニ而致博奕右参会之内逃去り候処今般藤助
伊右衛門悴辰治兩人召捕出候ニ付吟味内牢番預け申付候段申来当

番嘉七差遣入牢取計之

一河原町芝居文藏円藏罷出候処大札式百八枚小札三拾枚有之無別条
引引取候段届出候

一夜廻り芝居役者宿二軒ニ芝居小屋為見改候

三月廿二日 快晴 風 雨

一上紺屋町熊屋源右衛門妻出産月取間違御叱今朝申達候由大年寄届
出候

一銀札判摺今般兩人増被仰付二階町品屋惣兵衛福渡町なこ屋清七兩
人被仰付候旨銀札場奉行江口衛助へ通用有之候

一堺町稲実屋義七郎母甲州身延山へ参詣九十日計之逗留ニ而来ル廿
四日出立之願書大年寄差出承り届六月廿七日日届願書出

一東新町種屋伊助母右同断願差出承り届七月六日日届願書出

一播州加藤郡三木町形屋与兵衛手代藤兵衛一人例年之通紺屋形売ニ
来候段西新町山家屋利右衛門宿切手差出五月十二日届ル

一牢舍扶持三俵之内貸証文差出致奥印書尤来月へ壹斗式升持越之積
也

一河原町芝居孫八百藏差出候所大札式百拾枚小札三拾壹枚有之無別
条引取候段届出候

一西新町高松屋忠右衛門京都寺町妙満寺へ参詣仕度往来十八日計之
逗留ニ而明廿三日出立之願書大年寄差出承り届四月九日届ル

一大円寺門前行倒候仁左衛門義備中表へ差遣候飛脚罷帰り向方ハ六
ヶ年已前帳外ニ相成当時懸り合無之ニ付御国法之通取計候様ニ返
書差越候尤飛脚之者へ仁左衛門甥万藏と申もの有之哉と相尋候所

同人義居候得共仁左衛門帳外ものニ相成居候事ニ候得者迎ニ參候様ニ申付候義も難致仮令御対談有之候而も右鉢之義ニ候得者決而迎ニ參候様之義ハ致間敷旨村役申候由ニ而罷歸り候段大年寄る申出候最早今夕ハ及深更候義故明朝出仕之上可相届候

三月廿三日 曇

一御用日登城

一大円寺門前行倒仁左衛門一件夜前飛脚者罷歸申出候趣并返書大目附へ差出尤右仁左衛門義も段々快余程歩行も相成二三日ハ出ある候故心を付候もの共も致迷惑候趣之由も申達候所大目附より御用番中へ被相伺候所左候ハ、今暫大円寺ニ而為致保養弥歩行自由ニ相成候ハ、追払可然候旨被仰出候間其旨取計候様ニ大目附「一」申聞依之右鉢之無宿者相極候得者町方ニ可取扱筋之ものニ而も無之候間最早町方之手を離レ弥全快ニ而大円寺へ追払呉候様之沙駄も候ハ、□□非人江申付為取計可申旨相達置候其段大年寄へ申付候

一若君様大納言様ニ被任候御祝配当場へ被下置候様御用番中へ相伺候処伺済ニ付大目附并勘定奉行へも相達置御祝被下置候旨可相達之旨大年寄へ申達候

一中之町西屋治三郎家守藤兵衛娘義備前国和氣郡稲坪村権助養女ニ差遣し度人別除願御用番御聞済ニ付大目附へ差出置候而御聞済申達候

一美濃職人町財布屋平七借屋住人長七八十四才ニ罷成孤独ニ而先年も御救被下置候処尚又永々之義組合町内之ものも扶助仕兼候付

何卒先年之通御救扶持被下置候様歎書差出し御用番中御聞済ニ付大目附へ相達勘定奉行中へも御聞済ニ付御取計被下置候様相達置御聞届申達候

一庁事秘録大目附中ノ致借用居候処今日伊達与吉郎へ相返し相済候一同心組一ノ宮市町出役弁当之義諸出役之通向方ニ而被申付被下候様ニ昨年願出松岡治部助へ相達置候付最早時節ニも相成候間被仰付被下候様ニ松岡治部助へ及催促置候

一今日左之通御役替有之

御儀奉行 植木左士

御使番 土岐雄助

下御屋敷結 鈴木忠之進

御儀奉行 結江戸御小納戸候役 石田新治

一目明孫兵衛贖札迷吟味贖札并板行取誤一札為致尤右同類之内恚人召連帰候由届出候ニ付今般ハ銀札場奉行ノ遣候事故向方へ相届受

差図候様ニ申達候

一博奕打材木町正木屋甚右衛門借屋住平吉牢賄之義去暮迄受人賄いたし候所永々之義致兼候ニ付元日ノ家主ノ賄遣候所是以困窮人之事ニ而統兼候ニ付此上ハ組合へ三遍つ、相廻し其上ニ而町内一統ニ賄可仕之旨申出候段大年寄申聞候ニ付宜取計候様及差図置候

一京町御門御修覆ニ付二階町御門昼夜往來朝日御門昼計通行ニ相成候段大目附廻状到來町中組中へ触達候

一河原町芝居別条大札式百式拾三枚小札拾八枚有之候段新治嘉七喜左衛門届出候

一 京都醫師畑柳酪と申もの御病用ニ付雲州へ罷越候由今日当町致通行候段申出候ニ付兼御沙駄者無之義ニ者候得共御心得ニも可相成哉と存大目附へ手紙ニ而申達候

三月廿四日 晴

一 先日大円寺門前ニ而行倒候備中窪屋郡山手片山村仁左衛門義夜前茅町閼實際ニ行倒相果居候段茅町年寄ノ届出候段早朝大年寄届出右ハ聞合之通帳外もの野伏同然之義ニ者候得共昨日之趣ニ而者未大円寺手離候もの共難申筋之ものニ付寺社取次細江武助へ申遣面談之上御用番中へ相伺候而寺社下代植月源蔵同心組部屋目附三船新治差出双方立会之上遂見分候処死骸申分も無之病死ニ相違無之一札取帰り候ニ付御用番中へ罷越無宿もの、義ニ候間先格之通□□非人へ申付川向惣墓へ取埋可申付旨相伺候処後刻手紙ニ而宜取計候様申来右之通伺濟之趣大目附へ手紙ニ而相届置先格之通取埋宜取計候様大年寄へ申付候且又元来大円寺へ来行倒候因縁も有之義ニ候得者俗家とハ違ひ受前之義ニ候得者大円寺存寄も可有之処始ノ不及貪着無理ニも茅町へ押付候様之仕方ニ而寺相応之取計何とも難心得所存ニ付茅町年寄ノ一ト通り大円寺へケ様ニ相成候上ハ俗家とハ違思召も可有之義哉ニも存候間一ト通り及御懸合取捨仕候様大年寄ノ申付候旨及挨拶候上弥存寄も無之候ハ、先格之通取埋取計候様ニ大年寄へ申含置候

一 二階町嶋屋藤吉借屋住岡見紛# 悴理吉同喜与治右家内三人此度御領分東南条郡林田上之町斯波玄策後家方へ引越度人別離願下方引合相濟候段大年寄申出候付承り届

一 河原町芝居無別条大札百四拾八枚小札式拾三枚有之候由左十郎為治届届候

一 明廿五日伊勢屋長右衛門御裁許取計候ニ付呼出候手当夫々江申達此節芝居有之組不足ニ付加人式人被相渡候様大目附へ申達候所日下勇助山本弁助来ル

三月廿五日 曇 雨

一 小頭又六部屋目附新治書役新左衛門出番栄治為治大年寄孫左衛門諸吟味喜左衛門立合於白砂左之通申渡

疑敷犀角致売買不埒ニ付 伊勢屋長右衛門
御領分追払申付候

右犀角委細之訳不存旨申披申立候 同悴 又助
得共右犀角於店方致売買候ニ付

御領分追払申付候 長右衛門家族共携無之ニ付
長右衛門母病氣ニ付
住居徘徊差構無之尤 名代吹屋八左衛門

家屋敷家財共を母江被下之候 右兩人皿村江送り出し庄屋ノ一札取帰候右取計相濟候段御用番#
大目附へ手紙ニ而相届候

一 郡代所ノ八子博奕参会之者小原村政之丞捕出候ニ付吟味中牢番預ケ申来当番百歳立合差出候

一 伊勢屋長右衛門宅江昼廻り佐十郎弁助差遣諸道具封印解為相渡候
一 河原町芝居無別条大札百三拾五枚小札式拾壹枚之由江原文蔵日下勇助届出候

三月廿六日 曇 雨

一 小野田為治妻今朝男子出生依之血忌引込候段又六届出右ニ付此節芝居等も有之義ニ付加人願出平日なら難申立候得共此節格別之存寄ニ而申立可遣候間以後之例ニ致間數旨申達置右加人之義大目附へ申遣候尤同心組引込と申立候日下勇助来

一 河原町芝居無別条大札百八拾五枚小札式拾四枚有之候段孫八円蔵届出候

三月廿七日 快晴

一 今曉大目附中ノ触書到来敬之助様御病氣御養生不被為叶去ル十二日未ノ下刻御逝去被遊候依之廿六日ノ廿八日迄三日之内鳴物停止普請ハ不苦旨御触書到来写取早々町方ニ組中へ相触候

一 御作事奉行西村治大夫ノ宮部隆助横江用立候箱番所相濟候ハ、差戻候様申来喜左衛門へ相尋候所昨日迄ニ而相濟候段申候ニ付御勝手次第取ニ被差越候様及返書

一 中之町北村李斎役介兵吉義御使組下田兵右衛門番代ニ罷出度人別除願差出承り届ル

一 中之町平福屋勤兵衛家守松屋治助ニ同人父市郎兵衛ニ治介妻悱喜助熊吉伊勢藏右家内六人御領分林田上之町岩助方江引越度人別除願書下方引合相濟候段大年寄申出承り届ル

一 鍛冶町桂屋久兵衛弟源治義先達ニ而博奕一件之節致出奔尋申付置百日之内ニ不尋出ニおゐてハ過料可申付旨申付置候処最早百日近相成候処未得尋出然ル所心懸之処も御座候ニ付今五十日尋日延歎書差出承り届ル

三月廿八日 曇

一 御用日之処拙者義昨晚少々不相勝候ニ付当病御断三浦へ頼遣ニ御用向頼遣ス

一 稲垣藤四郎殿支配所当国勝北郡檜村金助娘義中之町小山屋与三右衛門妻ニ引受度人別入願書御用番中御聞濟ニ付大目附中へ差出置候段三浦十郎左衛門ノ申来御聞届申達候同前日住宅書文出

一 伯州倉吉岩倉町松葉屋平兵衛弟佐兵衛義福渡町中屋久米吉養子ニ引受度人別入願右同断取計相濟四月七日住宅書文出

一 去暮於鉄砲町暮田村百性金治を御使組物頭組ニ鉄砲町礮八と申もの致打擲候喧嘩一件於当役所遂吟味候様被仰出候旨大目附伊達与吉郎ノ達有之候旨三浦十郎左衛門ノ通用有之ニ郡代所之吟味書類十郎左衛門ノ被相廻ニ伊藤主水ノ右之通御達有之候間呼出し候ハ、前日ニ申越候様案内手紙来及相答

一 伏見町南側ニ而小坂屋善兵衛所持之家屋敷表口五間裏行式拾四間但本役也西隣ハ能勢屋勇治借屋東隣ハ八出屋多助也右家屋敷能勢屋源助取次ニ而老貫五百匁之質物ニ書入来ル四月ノ当已十月切ニ而一ヶ月老歩三朱之利足ニ而借受度願書差出承り届ル四月廿日住宅書文出

申四月住宅書文

一 久世支配所原村幸七ノ二階町作人兵八江馬代滞之義去歲添簡を以致出訴右兵八義致他出居候ニ付尋申付置其旨申遣置兵八罷帰候ハ、早々呼出し可申候間引取居候様ニ幸七江も申付置候処今以兵八義不能帰候処右馬代銀差滞候義兵八家内も兼ニ而承知之事之由借助右衛門取扱ニ而致内済以後申分無之ニ付願書差戻候様ニ原村幸七ノ願下ケ願書差出候ニ付其段御用番中へ手紙ニ而相伺候処宜

取計候様被仰出依之添簡致返書訴状差戻候右之段大目附へも書類
差出候之処即刻被相戻候

一 寒造酒売出し候得共矢張當時之直段^ニ候間願書不差出候旨大年
寄申出候

三月廿九日 曇 夜雨

一 高石垣貫貫番貨銀拾五勿大年寄差出

一 物牢修覆出来ニ付入替申出昼廻り新治勇助差向序ニ牢浚取計候所
無別条旨届出候

一 河原町芝居大札百九拾五枚小札式拾八枚有之無別条相濟候段又六
佐十郎栄治喜左衛門届出候

三月晦日 曇 風 晴

一 関貫番貨銀例月之通相渡

一 安岡町南側^ニ而^ニ篠屋市右衛門家屋敷表口四間半裏行拾四間但老軒^{北四八三目掛迄候}

役東隣ハ三倉屋平兵衛西隣ハ生綿屋治助也右家屋敷同町岡崎屋伊
兵衛へ質物ニ書入銀札壹貫匁当巳三月より来ル十月切ニ式割之利足

^ニ借用仕度願書承り届^{五月十一日差文差出}

一新魚町藁屋定吉借屋住松屋三治義生野御代官稻垣藤四郎殿支配所
当国勝北郡樞村真甲屋順藏方へ当巳三月より来ル未之年迄三ヶ年之
間奉公仕度願書大年寄差出承り届ル

一 草加部村助八方へ当月四日盜賊這入盜取候品触流し致置候処右品
之内三品三町目福永屋吉兵衛方^ニ紛數品相見へ置主等相尋候得共
右盜物^ニ而^者無之趣ニ相見へ候得共触流^ニ而^品合駢と分兼紛數有
之ニ付届書差出依之郡代所へ右願書相廻し相糺被申聞候様ニ申遣

候^{四月二日被差もの無之段申來候}

一 東新町端虚無僧留場札損候段大年寄より為知出定^而郡代所より被建候
事^ニ而^も可有之ニ付郡代所へ為知申達候

一 河原町芝居大札百八拾七枚小札拾七枚有之於木戸元魚町太郎源と
申もの致喧嘩組之者取鎮ニ出候所逃去り候由右ニ付元魚町年寄ニ
尋申付置候段文蔵円藏届出候

一 大円寺門前行倒仁左衛門入用可致如何哉と大年寄伺之右^者寛政八

年辰八月茅町裏土手大目附構場所行倒旅僧入用取計之先例有之義
^ニ而^欠所銀払ニ相成候事故先規之通証文差出候ハ、奥印書取計可
申旨申達ス

一 元魚町太郎源と申ハ本名福岡屋多吉也^而同人義段々誤入全牀醉狂
之趣ニ付内分^ニ而^濟遣度之旨文蔵円藏より申出候ニ付宜取計候様申
達候

月番

四月 小

御家老 安藤丹後殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 太田舍人

大年寄 玉置源五兵衛
諸吟味 宮田喜左衛門

四月朔^{辛未} 旦 快晴

一 河原町芝居大札三百九拾六枚小札三拾貳枚有之無別条引取候段孫八百藏届出候

一 牢舎人入替昼廻文藏田藏と取計之候様申付ル

一 西今町直屋市郎左衛門義大坂淀屋橋南詰綿屋義兵衛方へ三十日計逗留^ニ而明後三日出立願大年寄聞届差出

四月二日 快晴

一 牢舎人周藏義病氣ニ付牢番共と昨日医師願出大年寄へ申付候処吉武祐三へ申付候得^者致診察時候当り吐写^て等も有之可薬事之旨申出候段大年寄申出候ニ付療治申付候

一 草加部村助八被盜ものニ紛敷品三丁目福永屋幸藏方ニ有之段届出其段去ル晦日郡代所へ懸合置候処右助八義福永や幸藏方へ差遣見改候処助八方之被盜ものニ而無之旨申出候段郡代所へ申来依之其段大年寄へ申達右届書差戻候

四月三日 快晴

一 茅町南側ニ而玉屋長右衛門後家家屋敷表口三間裏行十七間但シ尠步五厘役也東隣ハ玉嶋屋八十七西隣ハ作人槌右衛門也右家屋敷代

銀三百目ニ相極町内角屋佐十郎^江壳渡度願書大年寄差出承り届ル
同十五日宛奉状差出候

一 安岡町木屋幸八甥浅吉義一昨年八子博奕一件之節出奔仕百日之内ニ不尋出候ハ、過料可被仰付旨去辰十二月十六日被仰付候処未得尋出最早百日ニ相成候処少々心懸之義御座候ニ付今五十日之日延願差出承り届

一 船頭町今津屋平藏借屋住五兵衛悻利七義右同断ニ付日延願書右同様差出承り届ル

一 八子博奕之節致出奔候者共先例之通不尋出候得^者過料可申付候^段申付置此節百日余ニ相成過料五百文つ、取差出候様大年寄^江申付候処昨年過料申付候節橋本町年寄共不吟味ニ而左之組合家主過料受印ニ洩有之如何取計可申哉と大年寄伺出候ニ付左之通取計候様及差函

先達^而過料申付候節 橋本町^{久サ吉}組合
年寄共不吟味^而 八十七
其方共三人不罷出 しみ屋伝吉
受判ニ洩居候ニ付 德嶋屋長十郎後家

以後百日之内尋不出ニおゐてハ 久サ吉家主
過料可差出候尤最早日数過候 浅本屋源藏後家
義故心懸之義も無之候ハ、此節過料 差出候共可為勝手次第候

不吟味不埒ニ付申付方も 橋本町
有之候得共用捨を以急度 年寄
叱申付候以来入念可相勤候

右橋本町一組之内ニ久サ吉八十七兩人出奔人有之候ニ付過料二ツ

分可取立筋^ニも被存其段申達候処殊之外貧窮もの共^ニ而甚難渋之趣相聞へ何れ不尋出^ニおゐてハ過料と申付置候事一人二人之差別も無之義と見候得^者老ツ分^ニ而も可然哉^ニも被存候付其旨取計候様及差因

一大円寺門前行倒候仁左衛門病中^并取捨等之諸入用式拾五匁八歩有之大年寄証文小形添差出し致奥印書大年寄へ相渡候^{御三日勸定奉行へ替合殿候}

一河原町芝居無別条大札三百五拾三枚小札捨九枚之由新治嘉七届出候

一河原町芝居来ル六日迄^ニ而嶋本屋音治願通相済候^ニ付翌七日^ハ惣社宮芝居相始候段大年寄届出承り置尤序^ニ可相届事

四月三日 快晴

一御用日登城

一御代官早川八郎左衛門殿支配所当国大庭郡湯本村長十郎倅勇治義西新町伊崎屋重右衛門養子^ニ引受度人別入願御用番御聞濟^ニ付大目附へ差出置御聞届申達候三月改^ニ入^{四月廿九日任宅証文差出}

一安岡町橋富屋喜与松借屋住豆腐屋伊三郎夫婦娘二人右家内四人去辰十二月六日出奔仕百日尋被仰付相尋候得とも今以行衛相知不申最早百日余^ニ相成候^ニ付人別除願書差出御用番中御聞濟^ニ付右願書大目附へ差出置御聞濟之段申達候

一大納言様御任官御祝頂戴之御請書配當場差出先例之通御用所^江持参口達^ニ而申上置右御受書大目附へ差出

一大目附太田舍人^ハ左之通公儀^ハ御達有之候^ニ付御取扱方備中松山表大年寄^ハ承合候様^ニ被申聞候尤先日郡代所^ハ姫路聞合有之候由

^ニ而右書類も御渡候

已正月廿六日

一御勘定奉行御勝手方月番柳生主膳正殿^ハ御呼出^ニ付大手御番所後御勘定所^江御留主居田中幸介罷出

左之面々出席

御勘定組頭坂野喜六郎殿

御勘定 木城貞右衛門

神尾啓五郎

山田常右衛門

申渡書付左之通

此度東海道筋^ハ上方中国四国西国筋へ御用^ニ付

御勘定組頭勝与八郎被差遣御年貢石代相用候

場所^江も罷越其筋之者呼出相尋候義も可有之候

右場所之内^ニ者御領分^并知行も有之候間此段申達候

畢^而口達^ニ

勝与八郎義明日御当地出立^ニ候間右之心得を以夫々

御国許^江可申遣旨坂野喜六郎殿被申聞候

勝与八郎殿

御普請方

倉橋定之丞

藤井新五郎

右之面々被相越候由承之

右之通^ニ付備中松山御取扱承り合候様^ニ大年寄へ申付^并郡代所^ハ聞合候姫路^ハ来候書類も大年寄へ為見候

一 河原町芝居来ル六日迄^ニ而嶋本屋音治願通相濟同七日より惣社宮芝居相始候段御用番^并大目附へ相届候尤惣社芝居ニ相成候得^者寺社方役人も出神主も日々挨拶ニ出候由ニ候尤寺社役人ハ御徒目附之棧敷^江出候由此方之構無之旨ニ相聞候

一 小野田為治血忌明今日^日致出勤候尤昨日^日頭^ハ其段届出加人可差戻候所明後日鉄砲町喧嘩一件可遂吟味候左候ハ、又々加人入候ニ付勇助義夫迄可差置哉之旨大目附舍人^江及相談候処其通^ニ而宜旨申聞候

一 御蔵米六拾六匁町米六拾式匁

一 孤独げん長七内貸証文差出式拾八匁受取大年寄へ相渡

一 勘定奉行上原彦藏^ハ安永三年^午年大沢三平^ハ關所銀返納七月十三日ニ三百四拾匁八月廿三日ニ六拾匁返納有之当分預りニ相成居最早本納証文致方も無之義故右返納之証文^ニ而本納ニ可取計之旨通用有之日記相改候得共認無之候故其趣宜御取計被成可然存候旨及挨拶

一 中之町木和屋喜作義西国順礼八十日計之逗留^ニ而来ル五日出立仕度願書差出承り届ル^{六月七日補}

一 西新町木和屋源兵衛母義右同断承り届

一 伏見町古川屋忠兵衛妻義右同断承り届ル^{六月七日補}

一 元魚町笹屋友治持来候旅人旅籠屋株材木町万屋与物兵衛借屋住松山屋伊助讓受度願書差出承り届

一 町方関貫取建ニ付天明七^丁年九月廿三日三步銀之内卷貫目拝借いたし子ノ年^ハ廿年賦ニ上納可致約束之処今以無其義由勘定奉行

上原彦藏^ハ催促有之日記^并証文扣相改候処無相違何も致失念し居候事ニ付当暮^ハ廿年賦上納仕候様ニ大年寄へ申達候所関貫番賃銀^ハ上納可仕候旨源五兵衛申聞候

一 玉置卯左衛門義今日可罷帰之所無抛故障出来ニ付今両三日之日延大年寄^ハ申出承り届ル

一 河原町芝居無別条大札三百七拾枚小札式拾壹枚有之由佐十郎為治喜左衛門届出候

四月四日 快晴

一 兵庫田中屋久左衛門^ハ繰屋善兵衛へ倉敷之弥吉使^ニ而書状差越先達^而頼置候業種返答承度と催促申越尤下案も差添出候右返書下案致添削松岡治部助へ及相談候処其趣^ニ而可然御用所へ伺候^ニも及間敷追^而序之節及御沙駄可然と被申候故其通ニ取計候尤追々及相談調居候得共甚手間入未取調出来兼候間御答及延引候尚取調出来之上自是可及返書之旨申遣候様^ニ及差函

一 明五^日五^ツ時鉄砲町喧嘩一件可遂吟味ニ付暮田村金治古城東村松兵衛物頭組小林元治御使組松尾乙助鉄砲町磯八被差出候様ニ伊藤主水上原彦藏三浦十郎左衛門へ手紙^ニ而申遣候

一 右呼出候ニ付同心組致不足候ニ付加人一人大目附へ申遣候処植月斧藏来

一 院庄土橋引取候ニ付今日^日船渡ニ相成候段郡代所^ハ申来大年寄へ申達ス

一 河原町芝居無別条大札三百拾枚小札式拾五枚之由文藏榮治届出候

四月五日 雨

一戸川町平野屋助左衛門義因州鳥取知頭海道(貼紙訂正)高嶋屋和助方へ式十五日計之逗留而明六日出立仕度願大年寄差出承り届同廿九日帰

一鉄砲町喧嘩吟味呼出候ニ付小頭部屋目附兼新治書役新左衛門出番為治榮治立合而左之面々五時々呼出候吟味語り口書印形取極候

打擲ニ逢候もの 暮田村 百性 金治
取さへ人 古城東村 松兵衛

致打擲候もの 鐵砲町 磯八
右三人於白砂遂吟味候

御使組 松尾音助
右差添立合小頭(貼紙訂正) 本与八

右同断部屋目附 日笠惣八

致打擲候もの 伊藤水主組 小林元治
右差添立合小頭(貼紙訂正) 本嶋庄藏

右同断部屋目附 谷村定七

右ハ於縁側出番老人ツ、差添出遂吟味候

一河原町芝居無別条大札百五拾三枚小札拾八枚之由孫八斧藏届出候
一玉置卯左衛門義夜前備中矢掛々罷帰候段届出先格之通不及届承り置候

四月六日 雨

一御使組日下勇助今日々差戻候段大目附へ手紙而相届候

一河原町芝居無別条大札百九拾式枚小札拾七枚尤嶋本屋音治願通十五日今日切而相済候ニ付先格之通一札取帰候尤明七日々惣社宮芝居引続相始候事又六嘉七百藏届出候

四月七日 快晴

一京町田原屋伊兵衛義売用ニ付備後福山大黒町庄屋宇兵衛方へ三十日計之逗留而明八日出立之願書大年寄承届差出同廿九日帰

一播州高砂本町伊勢屋喜十郎老人例年之通小間物売ニ来候段二階町境屋伊右衛門宿切手差出八月廿二日帰

一下紺屋町長江朝庵義備前岡山橋本町小豆嶋屋清左衛門方へ四十日余之逗留而明八日出立之願書大年寄承り届差出七月九日帰

一河原町芝居無別条大札三百式拾七枚小札三拾七枚有之段新治円藏届出候尤今日々惣社宮芝居初日也

四月八日 快晴

一御用日登城

一上紺屋町灰屋善五郎娘義早川八郎左衛門殿支配所当国大庭郡上河内中村伊兵衛養女ニ差遣度人別除願御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達候

一上紺屋町鉄屋与八娘義土井大炊頭殿領分当国久米南条郡原田村忠助方へ差遣度人別除帳右同断取計濟

一上紺屋町中津屋伊助借屋住作人新兵衛義土屋但馬守殿領分当国(貼紙訂正)勝郡妙原村平左衛門養子ニ引越度人別除願右同断取計相済

一手嶋流中沢道児義来候様門人共懸合候得共断申越候由喜左衛門申聞候付其段御用番中へ及御沙駄候

一 鉄砲町喧嘩一件之者共之口書計大目附へ差出候所後刻被差戻右

喧嘩之発端穢多御裁許郡代が相伺候節一所ニ御用番中へ直ニ差出

可申旨尤当役ニ致吟味候義ニ候得御裁許伺書も差添出し可申

旨被申聞候付右御裁許書愚意之趣認置候段申述直ニ差出候所何分

可致披見之由受取被置候

一 中洲賀夜芝居有之由ニ郡代所御用番中へ被相伺候先規之通

取計候様御差図ニ付町奉行所も同様之旨伺済候由郡代所も通用有

之依之町触差出例之通目明も差出可申旨小頭へ申付候

一 自分義明九日木山寺へ当日帰り参詣仕度ニ付留主中之義郡代所へ

相頼置其段上原彦藏を以大目附へ相届候尤ケ様之届ハ当人致来

候先格ニ去辰十一月十五日迄ハ直届ニ致候処其砌不依何等

同烈を以相届候様大目附勘定奉行上原彦藏へ達有之候段通用有

之候ニ付右之通上原を以相届候

一 大目附廻状到来宮尾村見せ物有之趣ニ候間下々迄参間敷之旨御

触書写取組中へ差出

一 西今町庭瀬屋佐助妻去ル三日双子出生候処昨七日一子致死去候段

申出候付例之通孫左衛門喜左衛門并組合年寄医師立合相改候処病

死ニ相違無之先例之通改一札差出候尤兩人共女子ニ月不足ニ付

一 御領分東南条郡林田上之町善九郎悴七治郎義東新町野村屋忠助後

家養子ニ引受度人別入願下方引合相济候段大年寄申出承り届ル

寛政十二、年三月廿一日條

一 他所種油入込候員数改出候様ニ申付置候処右之通書付差出大目

差出候

附松岡治部助へ手紙ニ差出候尤先日差出候菜種之石数も一所ニ

○他所惣油屋買請候菜種油惣辻左之通

寛政元酉年

一 菜種油百拾貳石八斗

同二戌年

一同 百拾石六斗

同三亥年

一同 百拾四石九斗

同四子年

一同 百拾六石六斗

同五丑年

一同 百三拾貳石壹斗

同六寅年

一同 百三拾六石七斗

同七卯年

一同 百貳拾九石九斗

同八辰年

一同 百四拾五石八斗

九百九拾九石四斗

但右八ヶ年平均ニ卷ヶ年分 百貳拾四石九斗貳升五合

右之通相改候処相違無御座候已上

巳三月

丸龜屋勘治 印

湯田屋太郎左衛門 印

常盤屋丈右衛門 印

○他所々惣町問屋店へ買請候菜種油惣辻大鉢左之通

一菜種油凡三百八拾石計り 但巷々年分

右者惣町油屋之外問屋店六拾五軒江 他所々買受候菜種油七八

ヶ年以來之所大鉢巷ヶ年前書之通ニ御座候已上

巳三月

丸龜屋勘治 印

湯田屋太郎左衛門 印

常盤屋丈右衛門 印

一 中測賀芝居ニ付先格之通目明共非人兩人計召連參候ニ付目明不足

候間明石屋庄助へ仮役可申付旨又六伺出其通申付候

一 河原町芝居無別条大札五百拾枚小札五拾三枚之由佐十郎茶治届出

候

四月九日 雨

一 自分義三浦十郎左衛門を相頼置当日帰木山寺江致參詣候

一 河原町芝居無別条大札三百五枚小札式拾六枚之由文藏為治届出候

一 中測賀芝居内分ニ而致興行候積之處役人江相聞被差留相止候旨目

明孫兵衛申出其旨郡代所江及演説候

四月十日 晴

一 公儀御役人石代改御勘定組頭勝与八郎殿御取扱之義備中松山へ聞

合ニ山本屋周右衛門差遣候処松山ニ而者一向不相知福渡ニ而巡国

之様子承り手覺認罷歸り并松山々之返書も差出候ニ付兩通とも大

目附へ差出候

一 河原町芝居無別条大札三百式拾枚小札拾八枚之由孫八百藏届出候

四月十一日 快晴

一 河原町芝居無別条大札式百三拾枚小札式拾三枚之由新治嘉七届出

候喜左衛門も出ル

四月十二日 快晴

一 播州網干塩屋伊兵衛一人例年之通塩物荒物卸売来候段中之町津田

屋伝助宿切手差出四月七日始

一 河原町芝居無別条大札式百六拾枚小札式拾壹枚之由又六佐十郎円

藏届出候

一 中測賀芝居又々興行相催今夕大入明十三日夕々相始候段承り候旨

目明孫兵衛申出候ニ付此間之通明石屋庄七仮役申付先日之通罷出

候様又六江申付郡代所江も及通用候

一 兵庫灘目田中屋久左衛門ニ此間倉敷弥吉を使ニノ菜種積上セ催促

申越候ニ付未取調出来不申候間調出来次第自是可及御報旨為及返

書候之旨今日於御宅一学殿江申上候

一 備前田原村源太郎恵助船稼ニ而船頭町へ来り尤藍玉隠し小桁を致

通船候由之旨大年寄申出右兩人ハ兼而懸合之ものニ而難捨置筋ニ

付いつ頃致出勤并何日頃罷越候哉又ハ向方ニ而吟味等有之候哉右

宿を以委敷相尋宿ニ書付を取差出候様大年寄へ申付置即刻大目附

松岡治部助へ罷越右之趣ニ而者難捨置筋ニ付懸合等可仕義ニ而も

可有之申談候処同意之旨併御用所御存所難計候間相伺其上ニ而右

兩人江手を懸ケ可然被申聞候付一学殿江罷越其段相伺候所治部助

へも談候哉と被申候ニ付同意之旨申候所一学殿被仰聞候者其段至極尤ニ候得共国々之風義も有之事ニ候得者余りせ話敷可懸合義ニも有之間敷今般差置候ハ、又々不日ニ可来両三度も来り其上ニ

否も不申越延引ニも相成候ハ、其節相尋遣善右衛門迄も御引合ニ入候て下役共立合ニ差出し遣し可申旨申遣候而も可然哉此段之所ハ兼ニ治部助と熟談可致置旨先今般ハ其俣ニ聞捨ニ致置候様御差函ニ付其旨ニ致置翌十三日登城之上其段松岡治部助へ及対談候且又船頭町平田屋利助が為承候処右之趣書付利助が差出候

惠助が承り候処源太郎病氣全快仕其段三月相届候処同月下旬が船稼仕候様被仰付西大寺へ参り沖荷物積去ル八日御当地

へ来尤源太郎義ハ今朝罷帰候旨書付差出候

但兩人とも此度ハ何方ニも宿者不仕今日迄ハ船住居ニ罷在候由右隠し荷物之義ニ付連上奉行が吟味有之趣ニ惠助義ハ被差留候由ニ候

四月十三日 快晴

一御用日登城

一鉄砲町喧嘩一件口書御裁許考書添一学殿へ差出候

一札元三船八郎右衛門義忌中今日迄ニ半減相濟候間先格之通明朝々忌御免取計呉候様上原彦藏申聞其段御用番中へ相伺御免之奉書差出候尤大目附へも手紙ニ相届候大年奇へも為知候

一公儀御役人石代改勝与八郎殿聞合之書付大目附中被差戻姫路之聞合之趣を以当所之取計考付差出候様大目附中被申聞郡代所も及

通用候

一大目附伊達与吉郎が駒場出火御届之義昨年も彼は申談小須賀貢江戸表へ受持参候所別紙之通申来候間以来其通ニ取計可申旨左之書付被相渡写置郡代所へ相廻候

津山表ニ出火有之節於御当地御届之心得

一御城内者小火ニも御届有之候

一御曲輪内外共ニ百軒余ニ不限大火之節御届有之候

一駒場者出火有之候と焼跡見候程之焼失御届有之候

但駒場申ハ旅人往来筋之事ニ候得町家者百姓家共ニ御届有之候尤裏屋等ニ焼跡往来へ見不申候得御届無之

一寛政四年六月中

御城下町式町目出火之筋御届有之場所之義委細認出し候通ニ有之候間以来ハ前文御届有之場所出火之節鎮火之上焼失員数等相分り次第早々飛脚を以申来候様委事寛政四年八月中認出候趣之通御座候事

寛政八年三月廿八日 御留守居

一大年寄慰斗目着用致候事旧記等有之哉と伊達与吉郎が尋有之蔵合孫左衛門へ申達置候処左様之義旧記ニ見当り候義有之哉之趣相聞候付致吟味差出候様申付置候処旧記等大躰相調候得共得見出し不申候段孫左衛門申出其旨今日与吉郎へ申達候

一元魚町年寄伊勢屋長右衛門跡役福永屋源吾へ可申付旨大年寄伺出候ニ付其通及差函

一二階町畑勘平義奥津温泉へ廿五日計之逗留十五日罷越度願書

大年寄差出承り届ル 五月二日 卯

一 東新町端闕貫ニ打有之候京都大仏虛無僧本寺明暗寺留場札損候段
届出依之遂吟味候処天明九 酉 年奉行所ノ相渡候様ニ申出候得共
日記ニ而 睨と相分兼候ニ付郡代所 江 及相談候処右者 最初明暗寺へ
遣候金之内ニ而 留場札数拵差越以後ハ此方ニ而 拵候約束ニ而 市郷
共損候節 者 其所ノ入用ニ而 拵候筈之由尤初年明暗寺ノ差越建札余
分有之候間可相廻旨三浦十郎左衛門ノ申来依之大割之内ニ建札拵
差出候様ニ大年寄へ申付差出候付右三浦ノ相廻り候初年明暗寺ノ
来候札之通書役新左衛門へ申付大年寄へ相渡候右明暗寺ノ差越候
本札ハ書役 江 預ケ置候

四月十四日 雨

一 河原町芝居無別条大札三百五拾枚小札貳拾八枚之由文蔵栄治届出
候
一 久世役所へ盜賊吟味為立会郡代所ノ先日山田新三郎参居候処夜前
及深更山田新三郎ノ書状差越盜賊彦三郎事代吉一件ニ付林田東新
町山内屋茂渡藤右衛門元魚町黒坂屋幸助去々卯十月ノ去辰歳中之
質物帳面持参不仕候 而 吟味筋立不申候間右兩人町役人差添早川
八郎左衛門殿御代官所 江 差出候様今十三日若林長兵衛を以別紙差
紙之通差出候様申聞右別紙ハ郡代所 江 相廻申候間披見可致且又立
会之義相尋候処新三郎参り合候間一緒ニ立会相濟申候段申越右指
紙も郡代所ノ相廻り致披見候処郡代所ノも六人計差出候様ニ有之
候夜前及深更候事故今朝一学殿 江 罷越右之段申上候処何之通宜
取計候様ニと御差図ニ付左之通夫々 江 申達候尤十郎左衛門へ懸合

候処明朝立ニ可致由ニ付其旨申付候尤大目附へも右之段手紙ニ而
相届候

一 東新町茂渡藤右衛門元魚町黒坂屋幸助へ右之通申付候様大
年寄へ申達ス尤藤右衛門へハ一ト通り申渡畢 而 内分ニ而 勤
柄之義ニ候間煩代手代ニ而も差出可然旨内分ニ而 申達候様
ニ申付ル

一 右両町年寄一人つ、差添申付候様ニ大年寄へ申付候

一 同心組江原文蔵へ右町人差添申付候様又六へ申付候

一 右ニ付同心組加人老人大目附へ申達候所植月斧蔵来ル

一 元魚町年寄 藤野屋多吉 豊屋兵衛差出候由申出候

一 茂渡藤右衛門煩代三原屋定七差出候由申出候

一 東新町年寄肥後屋長左衛門差出候由申出候

一 山田新三郎ノ又々宿繼飛脚を以書状差越茂渡藤右衛門黒坂

屋幸助兩人共ニ質物持参之義ニ而 無之帳面計持参候様ニ申

越 山内屋方之質物ハ元三拾五匁ニ而 名前清吉と申候 而 夜

着質ニ取候手札盜賊差出候黒坂屋方之質物ハ元六匁ニ而 名

前行重村与之助と申手札盜賊ノ差出候尤品ハ不相覚候旨

内々申越候右之段大年寄へも為心得申達候

一 御領分東南条郡林田上之町藤蔵役介針医藤木良全夫婦二人元魚町

武田勇吉家守佐伯屋庄吉借屋住野本屋甚蔵役介ニ引受度人別入願

大庄屋引合相濟候段申出候ニ付承り届ル

一 札元玉置卯左衛門忩忠四郎義近来病身ニ付大坂堂嶋潮屋源兵衛方

へ指遣療治為仕度依之五十日計之逗留ニ而 明後十六日出立為仕度

願書大年寄差出當時札元見習之義故上原彦藏へ引合之上承置

一 堺町稻実屋義七郎義大坂堂嶋北町潮屋源兵衛方へ十八日計之逗留

二 而 明後十六日出立仕度願書大年寄差出承り届 五月三日卯

一 雲州人馬方御役人三木村右衛門平井幸三郎被參出羽守様去歲々御

參御御延引ニ相成度々可致心配依之人馬問屋へ白銀三枚被下置候

由ニ而 頂戴仕候段問屋八十兵衛佐右衛門々届書差出追ニ而之御用日

ニ可及御沙駄候

一 河原町芝居無別条大札式百四拾八枚小札式拾六枚之由孫八為治届
出候

一 仮目明明石屋庄七今朝罷出夜前中測賀芝居へ罷出候処無別条引取
候段届出候

四月十五日 快晴

一 今六時左之もの共呼出小頭部屋目附大年寄諸吟味立会ニ而 台所於

庭久世江 差出候段申渡

東新町

茂渡藤右衛門

今般久世役所江

御呼出し候ニ付差出候

煩代

向方ニ山田新三郎居候

三原屋定七

間万端差図を受ケ

同町年寄

公辺向之義故諸事

肥後屋長左衛門

可念入旨申渡候

元魚町

但去々十月々去辰歳中

黒坂屋幸助

質取帳面不残持參

同町年寄

申付候

右差添同心組

藤野屋多吉

江原文藏

右差出候段御用番并大目附へ手紙ニ而 相届候

一 西新町富野屋定七義紀州高野山へ參詣并大坂梶木町玉子屋九兵衛

方へ罷越度ニ付五十日之逗留ニ而 明十六日出立之願書大年寄差出

承り届 六月八日今廿五日巳延願差出

一 河原町芝居無別条大札式百三拾枚小札三拾式枚之由嘉七百歳喜左
衛門届出候

一 牢舍人周藏療治今日ニ而 廻り相濟例之通吟味いたし候様ニ大年

寄へ申付候所未相勝候ニ付療治被仰付候様修格申出候段大年寄申

出候ニ付又々代り医申付候様大年寄へ申達候

四月十六日 快晴

一 自分義今朝々三浦十郎左衛門相頼置野辺へ罷出候

一 河原町芝居無別条三百六拾三枚小札式拾九枚之由新治門藏届出候

一 中測賀芝居夜前罷越候処無別条段目明庄七届出候

四月十七日 快晴

一 中測賀芝居夜前目明善治罷出候処別条無之旨今朝届出候

一 牢舍扶持来月江持越三升式合五勺有之来月内貸四俵証文差出與印

書取計之

一 河原町芝居無別条大札四百五拾式枚小札三拾八枚之由佐十郎栄治

届出候

四月十八日 晴

一 御用日登城

一出羽守様々人馬問屋共白銀三枚頂戴仕候義去ル十四日認置候通届書御用所へ持参口達^ニ申達右届書大目附へ差出置

一 美濃職人町財布屋平七借家住孤独順教七十五才相成近年腫氣相煩渡世難仕親類等も無之家主組合町内々世話仕候得共行届兼候^ニ付孤独扶持歎書差出相糺候処無余義趣^ニ付右歎書於御用所読申上候処御聞濟^ニ付大目附へ差出置勘定奉行へも名面書差出置御聞届申達候

一 美濃職人町綿屋万助借屋住清八義七十八歳罷成眼病相煩盲目同様^ニ相成同人妻も有之候得共七十五才^ニ相成仕事等も得不仕漸介抱迄之義^ニ而外^ニ親類も無之孤独^ニ而難義仕家主組合町内々世話仕候得共永々之義行届兼候^ニ付清八一人^江孤独扶持被下候様歎書差出右同断取計済

一 茅町広原屋小太郎借屋住定吉義三拾歳^ニ相成患病相煩同人母よし五十三才相成眼病^ニ而盲目^ニ相成り親類も無之孤独^ニ而六ヶ年已前も御救扶持被下候処永々之義^ニ而家主組合町内々も所届兼候間先年之通御救扶持被下候様^ニ歎書差出右同断取計済但兩人共へ被下候事

一 右孤独扶持内貸受取証文致印形勘定所下代へ渡置候

一同心組木杖代拾五匁当年受取候順年^ニ付小頭々受取手形差出大目附上印を取立合目附へ相渡置候尤中年二年置^而四年目^ニ受取候先格也

一 公儀御役人石代改勝与八郎殿止宿取扱書大目附へ差出置候

一 惣油屋共々兵庫灘目久左衛門へ返答振書付差出松岡治部助へ申達候所菜種石数^并先年御代官へ申遣候義^并今般田中屋よりくり屋善兵衛へ懸合候趣等一切写取大坂村尾左石衛門へ申遣内々御館入官左衛門へ逐相談呉候様^ニ可申遣旨被申聞候

一同心組一ノ宮出役弁当之義昨年松岡治部助へ申置候事故又々当年先日以来松岡治部助へ催促申達置候所今日治部助々月番へ申候様^ニ差図有之候^ニ付太田舍人^江昼夜両度之弁当被仰付候様申立候然ル所一ノ宮市町同心組出役初之義被相尋出番帳面くり候処元文四年五月二日一ノ宮芝居木戸^ニ而原田屋利助^{兵衛}伯州之もの致喧嘩候義認有之候得共出役初年之訳見^江不申其段申遣置候

一 一ノ宮市町触^并竹之子之町触例年之通差出候

一 中渚賀芝居夜前目明仮役庄七罷出候所無別条段今朝届出候

一 札元山本三郎左衛門義備前赤坂郡周匝庄之助方へ八日計之逗留^ニ而廿一日出立願書大年寄差出御用番御聞濟^ニ付大目附へ差出置御聞届申達候

一 孤独扶持今日之四人之内貸銀札四拾匁広治と相廻し大年寄へ相渡候

一 河原町芝居無別条大札四百式拾五枚小札三拾枚之由又六為治券藏届出候

一 一ノ宮市町中参間敷旨例歳之通大目附廻状到来写取組中へ相廻

一 山田新三郎と町人共致着十六日呼出有之候段此間之再答差越候尤所々懸合多候^ニ付当月中^ニ済候ハ、宜候と申越候^并茂渡藤右衛門名前之所山内屋太助と認来候^ニ付定^而質屋名前と申取済候事と存

候

四月十九日 快晴

一 中洲賀芝居夜前目明仮役明石屋庄七罷出候処無別条段今朝届出候
一 久世江罷出候もの共質物取寄置候様ニ御達有之候由兩人とも申越
質物為持遣^并茂渡藤右衛門義質屋名前山内屋太助^ニ相濟候由^ニ

付藤右衛門義出勤仕候^而も可然哉之旨大年寄伺出承り届ル

一 尾州嶋崎神職吉田左右上下三人例歳之通且那廻りニ来候段堺町西

川屋善助宿切手差出^{六月七日届ル}

一 吹屋町木屋喜助義甲州身延山へ四十五日之逗留^ニ来ル廿一日出

立之願書大年寄承り届差出^{五月届届ル}

一 二町目綿屋藤吉借屋住大地屋忠助義甲州身延山へ四十五日之逗留^ニ

^ニ来廿一日出立之願書大年寄承り届差出^{六月一日届}

一 昨日相渡候孤独扶持四拾匁之受取手形大年寄差出候

一 酒改共酒運上壹貫三百式匁八步五毛上納仕候書付差出

一同心組一ノ宮市町出役初年之訳大年寄共へも相尋候得共不相知其

外日記類鑿穿致候得共弥不相知候^ニ付其段大目附へ手紙^ニ申達

候

一 河原町芝居無別条大札三百拾式枚小札式拾四枚之由孫八百藏喜左

衛門届出候

四月廿日 快晴

一 自分義今日三浦十郎左衛門へ頼置野辺へ罷出候

一 中洲賀夜芝居昨十九日之夕切^ニ相濟候由目明孫兵衛届出候

一二町目三谷屋与三左衛門義甲州身延山^江四十五日計之逗留^ニ而明

廿一日出立之願大年寄差出承り届^{六月三日届}

一 京都烏丸通六角下ル町ニ文字屋九兵衛手代清四郎宗兵衛佐吉右三
人例来之通呉服物買^ツ来候段京町海老屋長右衛門宿切手差出<sup>四月十日
八日届九日届長右衛門翌年十一月十七日届ル</sup>

一 河原町芝居無別条大札式百六拾枚小札拾八枚之由新治嘉七届出候

四月廿一日 快晴

一 河原町芝居無別条今日切^ニ而三十日相濟右濱口一札取之又六佐十

郎円藏^并喜左衛門届出其段御用番^并大目附へ手紙^ニ相届候且又

通札大札式百三拾枚小札式拾壹枚之由出番相届候

四月廿二日 曇

一 安岡町作人小右衛門後家借屋住藤原屋鳥右衛門夫婦悴治郎吉右家

内三人伊藤主水組鉄炮町谷村与市長屋へ引越度人別除願承り届

一 東南条郡林田上之町作人槌之助借屋住林藏夫婦悴安之助娘老右

家内四人小性町万屋清右衛門後家引受度人別入願下方引合相濟候

段大年寄申出承り届

一 安岡町戸嶋屋長兵衛娘義先達^而御領分西々条郡二ノ宮村伝助妻^ニ

差遣置候処離縁仕候付引受度人別入願右同断申出承り届

一 一ノ宮市町ニ付参懸大坂嶋之内輕業芝居拾壹人連世話役之義神主

中へ被相頼候ニ付彼地^江参込世話仕度京町古金屋伊之吉願書大年

寄差出承り届^{四月廿三日寄一札差出候}

四月廿三日 快晴 風

一 御用日登城

一 吹矢町吹屋治左衛門借屋住きよ七十五才^ニ而七年已前へ痰相煩悴

伊助義五年已前々積相煩渡世難仕外ニ親類も無之依之病氣快氣仕候迄御救扶持歎書御用番中御聞濟ニ付大目附へ差出置勘定奉行中へ通置御聞届申達候但但兩人とも也

一新魚町喜兵衛家守大工太助忰十吉義兼而不所存もの之処三月廿八日罷出行衛不相知右牀之ものニ付義絶勘当仕度願御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達候五月十日日本 雜文卷出又

一大年寄登城仕別紙書付雲州御宿割役人中被差越候段差出候ニ付先格之通取計候様申達置右書付大目附へ差出置御用番中へも口達ニ而申上候尤大目附へ院庄江高瀬船被相廻候様申達置候

覺

人足三拾五人

本馬老疋

軽尻老疋

ノ先触之通

外ニ人足七十八人馬式疋位

右此度松平三助様雲州へ御越ニ付来ル廿五日入用ニ候間先触参リ不申候共無相違御手合置可被遣候以上

雲州宿割

四月廿三日

津山宿

問屋中

石倉祐右衛門 印

一大目附太田舍人ハ兼而被仰出候同心組一ノ宮出役夜食弁当之義申談候処是迄無之義を在方江も難申付同心組引取遅相成候と申も芝

居見せ物故之義外々芝居ニ而者勘進元ハ賄候義ニ候間以来左之通夫々江申付候間左様ニ可相心得尤手筋之勘進元へハ其段可申付旨被申聞其段小頭代新治へ申達候尤昼弁当ハ是迄之通役筋ハ可遣候

一ノ宮市町出役同心組夜食弁当ハ以来見せ物勘進元ハ申合賄可申候尤以前時當時者無之事ニ候得共以前腰掛有之候程之大見せ物之勘進元ハ相賄其外之小見せ物ハ不及賄候

右之趣寺社取次江御達有之神主ハ勘進元共へ申付候由ニ候右之段小頭代新治へ申達候

一石代改勝与八郎殿御越候ハ、左之伺之通取計候様大目附大田舍人ハ被申聞候

勝与八郎殿御止宿取計

一道筋通行前改而不及掃除不見苦程ニ可致事

一町々保頭先払

一同心組先払

一同心組旅宿脇立宿ニ夜中相詰候事

一隣町夜廻り

一町年寄伺ニ罷出候事

一大年寄老人伺ニ罷出候事

一本道外科二人在宿可申付事

一出火之節御除場 本源寺 大信寺

但宿亭主道案内 同心組先払

一町奉行裏付上下着用旅宿へ見廻ニ罷出弥御堅勝被成御旅行珍重奉存候御用等も有之候ハ、可被仰聞与自分及挨拶暫立宿ニ見合奥印等之義申来候ハ、取計旅宿へ可致持参事

一 御宿 茂渡庄右衛門

一 御宿詰用達 櫻野屋茂一郎 野々口屋七郎右衛門

一 宿亭主町端迄迎ニ罷出道案内可致事

一米中買共頭^江御尋之節帳面差出候様心得可申達置事

一 宿玄関前立砂水桶差出候事

倉橋定之丞 止宿取計

藤井新五郎

一 保頭先払

一 同心組為警衛見^江隠レ

但跡を押行候処其後先へ立見^江隠れニ廻之躰ニ差出候義も御座候間此度も先へ立候方可然哉ニ奉存候

一 同心組旅宿脇ニ夜中可相詰事

一 町年寄伺ニ罷出候事

一出火之節除場 勝与八郎殿と一所

一 宿 豊屋喜兵衛^隠

但町端迄為案内迎ニ罷出候事

一 宿詰用達 大村屋源右衛門 吉田屋喜郎^八

右之通取計候様伺済ニ付大年寄へ申付候

一 久世^ハ先日茂渡藤右衛門差出候様申来同人煩代差出候得とも質屋

名前^ハ山内屋太助ニ付其段申達候処其通ニ相済候由山内屋太郎代

人三原屋定七と申来質物差出候様ニ申越候ニ付藤右衛門為致出勤

候段大目附^ハ御用番へ申達候

一 一ノ宮田植祭ニ付明廿四日^ハ同心組差出候段大目附へ申達候

一 東南条郡林田村八兵衛娘義中之町藁屋兵藏家守藁屋文治借屋住和氣屋治兵衛悋平吉妻ニ引受度人別人願下方引合相済候段大年寄申出承り届

一 戸川町重屋かち家守作人大吉妹義東南条郡林田村作人勘助妻ニ差遣度人別除願右同断申出承り届

一 一ノ宮市町ニ付参懸り大阪嶋ノ内万歳芸拾卷人連世話役神主中^ハ被相頼候ニ付彼地へ参込世話仕度願書元魚町北原屋治助差出承り届同日受負一札差出候

一 孤独扶持内貸拾九匁広治^ハ相廻候大年寄へ相渡候

一 京町戸嶋屋伝吉芝居役者不残出立候段届出候

四月廿四日 快晴

一 松平三助様明廿五日御通行ニ付先例を以何置候処左之通伺済之旨太田舎人^ハ被申聞候

一 町分御通行前改^而不及掃除不見苦程ニ前日当朝之内致掃除可置事

一 町分保頭御先払

一 同心組式人御先払

御断挨拶有之候ハ、市中之義故如何様之もの行懸り御失礼可有御座程も難計ニ付御断之義^ハ御座候得共御

差出被成候ニ付達^而可相勘旨可申述事併再三絶^而御断有之候ハ、壹町計御先^江立御先払町端^ニ町屋^江這入

落可申候

但一昨卯九月御通行之砌保頭同心組

御先弘相止同心組町廻之躰ニ而一町
程御先へ立候様ニ被仰出置候処

善光寺開帳ニ而郡集ニ付俄ニ御先弘
被仰付候右之段相伺候処何れ御先弘
程ハ被差出可然義と一学殿御差図
之旨太田舍人被申聞候

一 駅場江 同人組式人

但御通行之節ハ裏へ引込御目通仕間敷事

問屋目附

宮田喜左衛門

但先規之通麻上下着用御目通可仕事

一 在宿医師 二人

一 院庄江 御船式艘相廻候付下夕裁許人式人差出候様ニ可申

付事

右之通小頭并 大年寄へ申付候

一 石代改勝与八郎殿御越之節取計方備前表之振合承り合候様太田舍
人被申聞大年寄へ申付候

一 河原町芝居役者昨朝不残致出立候段小性町浜田屋十左衛門届出候

一 三助様御通行ニ付同心組致不足加人三人申立候処磯兵衛栄治折治

来

一 三助様御先触并 問屋へ之書状来写差出左之通

覚

人足 三拾五人

一 本馬 壹疋
輕尻馬 壹疋

右松平三助殿義来ル九日江戸表発駕木曾街道通雲州江被相
越候ニ付而入用ニ候間所々無間違様手合置可給候 以上

雲州

四月六日

渡部政右衛門

武川板橋駅江江州草津ニ至り

同所江雲州安来迄

駅々問屋中

追而此先触早々順達可給候以上

一 筆致絡達候春暖相成候処愈御清福可被成御暮珍重御事ニ存
候猶又此度松平三助木曾通被致通行候ニ付駅々人馬御手合之
之義間違不申様御頼申候右ニ付止宿之義其駅々御本陣并訳合
も有之被致用拾度候ニ付外宿家ニ少々手広キ方へ致止宿度
存寄ニ候間其心得ニ而万端手軽く尚又進物等之事ニ至迄呉々
御断被致候間其段能々被仰達被下度候且宿相極候以後俄ニ差
障り候之義も出来有之宿不相成候ハ、右同様之家所江御申付
可被遣候成たけ宿相極宿割之者名前等承り罷返候事ニ候得并
差替無之様御取扱被下度御頼申候
一道中筋ニ而所々御使者或御音物又并御先弘等被差出候
とも堅御断可申候之様役人共より申聞候間是又其外江
乍御六ヶ敷御通達被下度御頼申候万々一被差出候而も此
方江御挨拶ニ被差出候人も不被召連候ニ付而御失礼ニ

相成候段能々御断御申達被下度乍御面倒具々御頼申候此段
為可得御意如此御座候恐惶謹言

四月

原田菅治

渡部才兵衛

駅々

御本陣

問屋中

追絡具々も駅々ニ而御使者御先弘御音物等被差出候義決而
御差留可被遣候本文ニも相認候通御挨拶可致役人も無之御
失礼ニ相当り候間万一御出役之御方も有之候ハ、右之趣乍
御面倒可然様御申通可被遣候左様無御座候而ハ銘々共不引
合ニも相当り可申義も出来候間此段得与御校（ト）量被成無御失
念御申通被下度御頼申候以上

右写御用番中へ手紙ニ而差出大目附へも其段手紙ニ而申遣候

一三助様御先触添状之趣ニ付左之通ニ取計候様御用番中被仰出候旨

太田舎人ノ申来

一同心組御先弘之躰ニ而はつニ而罷出御駕籠所へ不見江
様ニ老町計も御先へ立町端ニ而御目通江出下座仕落可
申候

一保頭不及御先弘御通行前町内見廻り御目通江出下座仕可罷
在候

右之外ハ前ニ記置候通也

右之段小頭大年寄へ申付候

一松岡治郎助ノ木山参詣ニ付問屋人足申付候処御用之外自分雇ハ増
貸銭取候由申越如何之事哉と手紙ニ而申来問屋目附喜左衛門呼出
相糺候処天明元丑年右之通ニ被仰出自分雇ハ其時之相場ニ而増賃
銭受取候由毎度右之通之不審有之候事ニ而先年渡部惣右衛門入湯
之節右之通之不審有之既御届可成哉之旨問屋目附へ懸合有之候処
先役守助面談ニ而相濟候由申候ニ付日記見改候処同年九月晦日御
用番伺済之上大目附へも相違候由記有之候ニ付其段松岡へ申遣候
尤喜左衛門心得左之通ニ有之候

一勘定奉行先触有之候者御定之駄賃

一馬ハ兼而御手当等有之候事故何方へも増駄賃無之事

一自分先触自分頼者相對之賃錢之事

一他之御家中ハ先触無之共問屋江来懸り人足被相頼候ハ、

其趣帳面ニ被相認候間御定之賃錢之事

一他之家中御家中ニ致逗留出立之節御家中ノ人足申来候得

者相對頼ニ相立候故増賃銭受取候定又ハ他之客人ノ何之

何某家来何之誰と直ニ申遣候得者其趣帳面ニ被認候故御

定之賃銭受取御定也

一相對頼ニ而増賃錢帳面ニ認出候義決而不相成御定也

一一ノ宮田植祭無別条相濟引取候段又六嘉七百藏届出候尤例歳ノ至

而淋敷旨申出候

四月廿五日 雨

一三助様御通行八時過町分無滞相濟候段出役之者ノ届出候右之段御
用番者大目附中へ手紙ニ而相届候但出役左之通

一 御先払 嘉七 磯兵衛

大之字羽織ニ而御駕籠所へ不見江様老町程御先へ相立

処御同勢之内ハ及見候由兼而御断之義ニ候間引取候様

ニ挨拶有之候ニ付御断之義者御承知之義ニ候得共市中

之義如何様之御失礼可有之程も難計殊ニ此節一ノ宮市

町中ニ付表立御先払と申義も無之候得共為警衛見江

隠れニ御先立仕候様ニ被仰付罷出候旨申述候処扱々入

御念御義左様なら者と申挨拶ニ有之候由申出候

一 駅場 孫八 栄治 宮田喜左衛門

喜左衛門義麻上下ニ而差出候も目立候ものニも存候得

共先格之義故其通ニ而罷出御同勢之内ハ御断等も有之

候ハ、引取候様ニ申付置候処御扱方之ものとも暫致対

談候得共何之挨拶も無之ニ付御目通江罷出候処御駕籠

近く相成足輕躰之もの来兼而御断之義と申処へ直ニ御

駕籠参候ニ付無兎角致平状候処御駕脇ハ御不快ニ付

御会釈も無之段挨拶有之候由届出候

一人足五拾式人 馬五疋之旨孫八栄治相届候

一 駅場入用 六拾式刃八分八厘有之段喜左衛門ハ書付出候

一一ノ宮市町ニ付参掛大坂手鞆取三人連世話役之義神主ハ被相頼候

ニ付被地へ参込世話仕度願上紺屋町作人左太郎差出承り届并右受

負一札も差出候

一元魚町東側ニ而住屋市左衛門家屋敷表口七間六寸裏行拾七間但式

軒役也南隣ハ大庭屋善兵衛北隣ハ久里屋善兵衛右家屋敷戸川町伊

勢屋佐左衛門取次ニ而質物ニ書入老ケ月老歩半之利足ニ而来午二

月切ニ銀札老貫五百目借用仕度願書大年寄差出承り届五月一日老文出

一一ノ宮市町無別条引取候段新治円藏届出候尤今日者一人も参詣無

之旨申出候

四月廿六日 晴

一夜前届出候一ノ宮出役新治義酒ニ給酔候趣ニ見受候ニ付今朝又六

呼出相札候様申付候処引取候節御徒目附へ届ニ罷出候処御徒目附

飯役妹尾九十郎ハ茶と申候而被振廻候ニ付給候段申出候ニ付先相

慎居候様又六江申達右ニ付円藏義相札候様孫八江申付候処同様之

義古番之致候通ニ致候旨申出右ニ付為相慎可置哉之旨孫八より伺

出新古之差別も有之義ニ候得共先引込居候而も可然旨及差図右

ニ付組致不足候間加人老人被仰付候様大目附へ申達尤組引込候と

申達候処日下勇助来

一 豊岡与左衛門夜前相果候段大年寄ハ届出候廿八日及御出候

一一ノ宮市町無別条引取候段佐十郎栄治届出候

四月廿七日 曇

一一ノ宮市町無別条引取候段又六為治斧藏届出候

四月廿八日 曇

一 玉林マツ出火今曉八ツ時後ハ燃出し致出馬候処竈数三軒棟数拾軒致焼

失明ケ六時引取引懸ケニ例之通御用番へ相届大目附へ馬脇ハ届使

差遣候

一 御用日登城

一 船頭町新屋藤助役介いそ義早川八郎左衛門殿支配所当国西々条郡

下原村宇八方へ養女ニ差遣度人別除願御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達候

一豊岡与左衛門死去之義可及御噂程之義ニ而も無之候得共門松御免之もの、義ニ付御用所并大目附へ及御噂候

一今暁出火之砌大目附太田舍人出役之処同人馬廻り之者より火消人足ニ罷出候勝間田町山形屋喜兵衛松屋伊助兩人打擲ニ逢候段届出昼廻り佐十郎為治差向遂見分候処疵所左之通

喜兵衛疵 左之こひたいぐ巻寸計月代入

長サ巻寸巻歩 深サ三步計 巻ケ所

伊助疵 右之こひたいぐ月代へ式寸計入

長サ巻寸六歩 深サ三步計 巻ケ所

右之段今朝太田舍人江於別席申達候処何も難免無礼と申ニ而も無之先ハかさつ之義ニ候得共疵抔付候事之様ニも不被見受候付其分

ニ致置候処左様之義ニも有之候ハ、相糺置可申置被申聞候ニ付見分并療治等申付候様申付置候間尚又申出次第自是も可得貴意旨

申置右見分一札手紙ニ而相廻候

一ノ宮出役孫八万藏無別条引取候段届出候

一菜種ノ義兵庫庫田中屋久左衛門ハ倉敷村弥吉を以懸合候趣ニ付右書

類取調大阪村尾左右衛門へ申遣御館入与力へ聞合候様ニ大目附松岡治部助を以被仰出今暁之出火御届ニ付明朝御飛脚立候ニ付右書

類取集左右衛門へ申遣候趣御用番中へ相伺候得御披見之上可被仰出候間其上ニ而飛脚差出候様被仰出其段松岡治部助へも及通

用候

四月廿九日 曇 晴 細雨

一関貫番賃銀例月之通相渡候

一牢舍人周藏義快方ニ付休葉之段双方ハ申出承り置

一西寺町宗堅寺長屋住平助後家もと并同人娘二人右家内三人鍛冶町

川口屋伊右衛門役介ニ引受度人別人願差出寺社取次細江武助へ引

合之上承り届

一上紺屋町小山屋平八悴数太郎義近藤宗左衛門組春木新六方へ為引

越人別除願承り届

一上紺屋町加登屋八右衛門娘かの義永見造酒助殿組津田新三郎妻ニ

差遣度人別除願承り届

一石代改之義岡山へ聞合山本屋周右衛門差遣候処向方ニ而者一向沙

駄無之旨返書取帰り差出候付大目附へ手紙ニ而差出候五月十六日辰時 係右衛門返文

一左之通申渡候様又六孫八江申付ル

兼而 出役先禁酒申付置候処其方義 三船新治

去ル廿五日一ノ宮市町出役之砌御徒目附 挨拶ニ付酒給候由殊ニ先年も同所出役先ニおゐて

心得違有之不一度兩度迄申付を相背重々不屈

至極ニ候依之急度可申付処御目附役之者挨拶之

義ニ付格別之憐愍を以追込申付候相慎可罷在候

但日数廿日五月廿日差候

其方義去ル廿五日一ノ宮市町於 川端円藏

出役先御徒目附挨拶ニ付酒給候由 古番之引廻しとハ乍申兼而申付を

相背不屈之事ニ候依之急度可申付候得共 用捨を以追込申付候相慎可罷在候 但日数五日五月廿日差候

一 菜種聞合之義大阪江申遣候書類夜前一学殿江差出置候処松岡治部
助ハ呼ニ来罷越候処右書状少々御添削被成御差戻し被成飛脚ニ
も難相分義も難計候間町方ハ其節工者之者飛脚ニ致右書類為持ニ
右衛門方へ差遣候様ニ可申付旨一学殿御指図候旨松岡治部助被申
聞其段大年寄江申付明後二日立ニ可仕旨大年寄申聞候

一 昨日太田舍人江相廻置候勝間田町喜兵衛伊助疵所見分書松岡治部
助ハ相戻昨日舍人挨拶とハ甚之相違ニ如何被取計候御存寄ニ候
哉致慮外候者ニ候得者打捨候とも致方ハ無之処ケ様ニ疵見分書と
も取候筋ニ而者有之間敷御場合切之御取計之もの哉ニ被存候由右
見分書ハ自拙者差戻候尤右一件ニ付以後舍人江被仰聞直々ニも如
何之義も可有之候間拙者へ可被仰聞之旨申聞候付舍人殿御挨拶ニ

* 格別之慮外も無之義何分ニも相糺可置候間尚又被仰聞候様ニと
被仰聞候付見分書相廻候義ニ御座候内分ニ而扱候様ニ大年寄へ申
付置候処絶ニ而願書差出度由申趣ニ者相聞候得共未願書も不差出候
何分申出之趣ニ寄相考候上ニ而追ニ而可得貴意旨申達置罷帰ル尤其
日過至ニ而困窮之者ノ由ニ而療治等も自分ニ者難及趣ニ相聞不便之
義ニ存候由申候処甚不機嫌之様子ニ相見へ候

一 八子博奕一件之節出奔者之組合共過料錢九拾弍式步九厘七毛大年
寄差出候

一一ノ宮市町無別条引取候段喜七勇助届出候

一新職人町瀧本屋正藏借屋住人宇助妹とめ義去ル十日不斗罷出相
尋候得共行衛不相知届書差出例之通百日尋申付候百日尋之後除帳

二 相成 己未年十月八日堀住居御開届

五月大

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 佐々木主馬

大年寄 斎藤孫右衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

五月朔壬子且晴曇

一 大阪村尾左右衛門方江菜種一件之義聞合之使ニ湯田屋太郎左衛門
明朝立ニ而可差遣候旨玉置源五兵衛申出右一件書類取調委敷致添
状書面ニ而難相分義者同人江被仰談尚又難書取義者同人江被仰含
候様ニ申遣右書状源五兵衛へ相渡候

一一ノ宮市町無別条引取候段佐十郎栄治届出尤今日ハ近年之大郡集
之旨申聞候

五月二日 曇

- 一 湯田屋太郎左衛門今朝大坂^江 出立仕候段大年寄届出御用番^井 松岡治部助へ手紙^ニ 而^ニ 相届候尤治部助義月番^ニ 者^ニ 無之候得共初^ハ 菜種一件之義掛合^ニ 付同人^江 申達候
- 一 御藏米六拾七匁町米六拾三匁
- 一 一ノ宮市町無別条引取候段又六為治斧藏届出候

五月三日 快晴

- 一 御用日登城
- 一 備前磐梨郡佐古村仁右衛門悴藤吉義船頭町高松屋平吉養子^ニ 引受^{四日改入} 度人別人願御用番御聞濟^ニ 付大目附へ出置御聞届申達候^{御用日登宅 御文出}
- 一 伏見町徳嶋屋忠七借屋住文藏義去辰十二月出奔仕行衛相知不申最早百日余^ニ 相成候^ニ 付人別除願右同断取計濟
- 一 橋本町長崎屋代助蠟木植置候地面御用^ニ 付最早手入等不致趣^ニ も候ハ、揚ヶ候様^ニ 致度旨先達^而 勘定奉行上原彦藏申聞其段申達置候処代助義此節罷帰り久々他參等仕耽々手入等も得不仕恐入候義^ニ 御座候右地面御用^ニ も候ハ、可差上旨申候由大年寄申出其段勘定奉行近藤伊左衛門へ申達候
- 一 大目附^ハ 以來於御城御用前左之通論語講尺被仰付候間以前之通守治橋之間へ可罷出旨演達有之

毎月 三日 十八日 論語講釈

一 大目附^ハ 左之趣御用所^ハ 大目附へ演達有之候間認相渡候右御書附之趣可相心得旨被申聞候

御家中之面々兼々勝手向難渋^ニ 付去十月借物筋取計方被仰

出取続之手段心懸御奉公相励候様先達^而 被仰出一統心得違之義有之間敷候得共当時御幼年様之御事故諸事相慎候義勿論之事^ニ 候右^ニ 付^而 者^何 勝手向取続之術第一之義^ニ 候得^者 少^々 之事たり共無益之費無之様諸事實素^ニ 取計可有之候於御役人之場^ニ 者^吳 々々及心配候事^ニ 候得^者 猶支配頭之場合^ニ 而^者 平日可心用事^ニ 候間被申談度候尤頭分之面々^江 者^何 となく夫々相通置候事

五月三日

- 右御書付之趣組中へ^江 も為申聞候様小頭^江 申付候
- 一 一ノ宮揚り市^ニ 付例歳之町触差出候
- 一 今日左之通御役替有之
- 銀札場奉行 清水勇馬 御代官 斎藤準太
- 御藏目附 伊達右門太 山田与市 宮部隆助 栗原衛守
- 勘定吟味 松岡正三郎 作目附 佐藤左右助 江見定右衛門
- 屋敷替 植木左士 一場茂右衛門 竹内要左衛門
- 御代官御免 春木源太左衛門 御藏目附御免 秋元三左衛門 堀江源藏
- 一 備前岡山山崎町柳沢智山と申本道医師用事有之罷越候間十日計為致逗留度旨一階町立花屋伝五郎願書大年寄差出承り届^{御十七日 御十七日}
- 一 一ノ宮市町無別条引取候段孫八百藏届出候

五月四日 快晴

一 石代改勝与八郎殿之義先日岡山^ニ 而^而 頼置候付岡山馬頭善介より山本屋周右衛門方へ播州路^ハ 四国^江 被移四月六日尾道へ被上^ハ 方夫^ハ 陸地を下筋へ被相越候旨申越候書面大年寄差出し大目附へ差出候

一下紺屋町大溝御制札損候届書差出大目附へ差出候

一ノ宮市町無別条引弘相濟候段又六嘉七勇助届出候ニ付其段大目附へ手紙ニ而相届候

一郡代所々夜半後一ノ宮市町引弘後安岡町坂本屋元治今町左吉と申もの致喧嘩双方疵付目明孫兵衛内濟取扱居候由御徒目附も届有之候由ニ付郡代所々相届候段申来此方江も届出候ハ、可相届旨及返書置右之趣ニ付致内濟候得者夫切之事ニ候得共御徒目附并郡代所も届有之候事ニ付内濟候共其段申聞候様大年寄へ申遣候

五月五日 快晴

一端午ニ付組之者麻上下着用罷出仕前謁例之通神酒差出諸事上巳之通

一川端円藏追込昨日迄ニ而五日ニ相成候間今朝孫八於宅又六立会追込差免候様孫八江申付ル

一昨晚於一ノ宮安岡町坂本屋元治西今町佐吉喧嘩一件致内濟相濟候段目明孫兵衛并大年寄も申出候ニ付可及御沙駄義ニ而者無之候得共御徒目附并郡代所も届も有之候ニ付右致内濟申出候程之義ニ而者無之段大目附へ手紙ニ而申達候

一自分義今昼後々郡代所へ頼置野辺江罷出候

五月六日 快晴

一今朝後藤守助先役中取計不宜旨ニ付立会ニ而御叱遠慮被仰付市村但見義為指御奉公も不致勝手向及困窮屋敷取荒不埒ニ付嶋田軍治兵衛揚り屋敷江転宅御叱遠慮被仰付候

一京町原田屋伊兵衛義備前岡山中嶋町松本屋亦八方へ廿五日計之逗

留ニ而罷越度願大年寄承届差出同梅目略ル

一札元玉置仰左衛門一ノ宮市町出役無滞昨日迄ニ相濟候段届出候

一ノ宮市町見せ物勸進元御札罷出候

五月七日 雨

一越中富山船橋町松井屋源兵衛倅伊八同手代嘉七嘉助右三人例年之通反魂丹売ニ来候段京町美濃屋平五郎宿切手差出翌年十二月十七日帰ル

一奈良今井町墨屋伊兵衛手代藤七一人例年之通筆白粉売ニ来候旨右同人宿切手差出同七月十八日帰ル

一御領分西々条郡二ノ宮村茂市倅茂助義勝間田町佐泊屋八十治養子ニ仕度人別人願承り届

一吹屋町吹屋八左衛門借屋住人長兵衛妻難産ニ付柳瀬元柳相頼度旨伺出早々取計候様及差図候処無滞死胎出生例之通出役相改候処別条無之旨見分一札差出候右ニ付以来左様之義も候ハ、不及伺早々療治可申付旨大年寄へ申達置候

一御蔵米六拾九匁町米六拾五匁

五月八日 細雨

一御用日登城

一雲州神戸郡杵築中村与右衛門倅幸三郎一人伏見町作人彦四郎引受度人別人願御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達同十七日英文差出

一二階町々京町材木町裏御堀石垣草九日十日ニ取可申旨大年寄申出其段大目附へ相届候御作事へ通用有之候

一痢病除御葉出来之旨国嶋栄庵へ通用有之候ニ付大目附へ申達候処例歳之通取計候様被申聞候付七千式百受取百組之分ニ残置跡不残

相渡候

一 大坂村尾左衛門之書狀到来去ル二日湯田屋太郎左衛門差出候義承知之旨申来^并水油之義猶又諸國へ今般先年之通御触出有之候^二付写取相廻候段申来尤先年之御触通^二而差^而違も無之様^二も相見へ候得共以來八年々何程相廻候と申義大阪町奉行へ相届候様^二有之候右書類即刻御用番中へ差出置候処後刻一学殿之治部助へ達置候間以來之処同人と得^与致対談候様被申聞候

一 久世^江出役山田新三郎之元魚町年寄藤野屋多吉積氣^二而相勝罷掃度旨相願候^二付手代^江相尋候処病氣之義^二候得^者不苦候間代り之人差出交代為致候様申聞候間同役之中差出候様^二書状差越其段御用番中へ手紙^二而申達候処宜取計候様返書来候^二付其旨大年寄へ申付候処福永屋源五郎明朝立^二而罷越候様申付候旨申越候^二付其段大目附中へ手紙^二而相届候

一 総姫^君様御病氣之処去月廿四日未中刻御逝去被遊候^二付今八日より明後十日迄三日之内鳴物停止被仰出候旨大目附廻状到来写取町方^并組中牢屋三軒屋高石垣番迄相触候尤普請ハ不苦候

一來ル十一日二日例歳之通溝見分可仕^并上^野介様も御通行前^二候得^者乍序御道見分も一所^二可仕旨大年寄申出候付宜取計候様申達又六^江も其段申達候

一 痢疾除御葉被^下置候旨組中支配方人別調出候様又六へ申付ル^{貼紙訂正}
一 二階町量屋清吉借屋住まき義御領分東南条郡太田村甚助妻^チ差遣度人別除願下方引合相濟候段大年寄申候^二付聞届候

五月九日 晴

一 昨夜九時頃細工町屋根屋嘉兵衛裏はき溜之火燃上り併覆^二燃付早速消留候旨大年寄届出火元怪敷趣^二付遂吟味候様^二申付置其段御用番^并大目附へ手紙^二而相届候然ル所大年寄申出候^者遂吟味候処右はき溜ハ嘉兵衛隣津嶋屋借屋与市と申もの、裏^二有之宵之内裏^二而犬喰合其節附木を燃し出候定^而其節火^二而も落候事哉其外^二何之心懸も無之尤附火^二而も致候趣之所^二無之外人之不行所之由申出候^二付右与市^江以來入念候様可申付旨相達候追^而序之節可及御沙駄事

一 元魚町福永屋源五郎今朝久世へ出立之由大年寄届出候付其段御用番^并大目附へ手紙^二而相届候

一 鉄炮奉行土岐雄助之当年鉄砲改年^二付其段大年寄へ申付候間及御案内候由通用有之候但五年目^二被改候御定之由

五月十日 時雨

一 御領分東南条郡林田上之町六治後家悴庄藏義伏見町作人定右衛門^{六治後家}養子^二引受度人別入願下方引合相濟候段大年寄申出候付承り届

一 船頭町作人弁吉兄藤吉御作事中間^二罷出度人別除願差出御作事奉行西村治太夫^江引合之上承り届

一 痢疾除御葉相渡候^二付組中高石垣番迄支配之人別改出候様又六へ申付候処四拾五人有之候由申出候^二付服数四拾五貼相渡ス

一 ノ宮市町同心組出役昼弁当代拾四匁四歩之由申出相渡候但一日六歩積也

一 湯田屋太郎左衛門夜^二入大坂之罷帰り村尾左衛門之返書来候処備前明石之風聞も虚説^二而他領之種買取候義ハ決^而不相成其段届

出候得^者 御追放^ニ 相成其国大坂御構之御先格^ニ 而^至 而^{六ヶ敷事}
而^{下方} 而^{懸合調集可遣と申} 外^者 無之旨申来右返書即刻一学殿
へ差出置何分明朝罷出可相伺旨紙面^ニ 而^{申遣置候}

五月十一日 晴

一 学殿^江 罷越菜種一件之義^{（原註）} 夜前差出候書面之趣。申来湯田^{大坂}

屋太郎左衛門義も左右衛門^ノ得^与 書面之趣吞込罷帰^リ 左右衛門^ノ
も内分之懸合^ノ外之取計ハ不出来事^ニ 候得^者 迎^も之義^ニ 一國中^ノ
菜種買集遣候程^ニ 懸^合候ハ、尚以手広^ニ 商売可相成筋^ニ も被^レ存候
間其所も得^与 相考急^ニ 内分^ニ 而^{懸合候様} 申聞候由一国之種買集
と申義ハ可出来義^ニ 而^も 有御座^{間敷}。候得共右之趣を以先達^而 伺出
候通何卒種不相廻相損料を差出し相廻候形^ニ 致^{（原註）}候様^{（原註）} 線屋善兵衛

を兵庫^江 差遣為懸合度之旨大年寄伺出候間伺之通^一 旨申達候所
御承知^ニ 而^{右之趣} 松岡治郎助へ致^レ対談同人義存寄も無之候ハ、其
通申付候様被^レ仰聞候^ニ 付松岡治郎助宅へ罷越及^レ対談候之処^{同意}
而^{其趣} 外^ニ 取計方も有之間敷間其旨取計可然由申聞候^ニ 付齋藤
孫右衛門呼出右伺之通宜取計可申^尤線屋善兵衛一人計差遣候も如^レ

何^ニ 付油屋之内一人差添兩人可差遣^尤御領分菜種生立候石数も有
之候間右之所得^与 相考何卒御領分之石数之^二 歩か上^リ 三歩位遣候
様^ニ 相極度もの^ニ 候間此所何も打寄熟談之上得と申含差遣候様^ニ
申達大坂^江 差遣候書類^并 左右衛門返書も為考孫右衛門へ相渡候然
ル所後刻孫左衛門罷出申聞候^者 何も打寄遠相談候処^抑倉敷弥吉
差添来其後も罷越同人^江 返答致候様久左衛門^ノも申越同人義善兵

衛へ懸合置候義も有之候処同人^江 不申聞出拔^而 兵庫^江 罷越久左衛

門へ懸合候^者 定^而 久左衛門も弥吉へ不申聞候^而 返答も致間敷左
候得^者 弥吉を向へ廻候^而 始終為^ニ 不宜候間先弥吉へ得と為吞込
置候^而 其上^ニ 而^{久左衛門へ懸合候様} 仕度旨何^及 致一決候段申出
一卜通りハ尤之様^ニ も相聞候得共元来弥吉ハ爰元^ニ 而^抑 不^一
「入事^ニ 候得^者 定^而 心入も宜かるましく却^而 六ヶ敷可相成^旨 申聞
候得共弥吉を出拔候得^者 始終邪魔^ニ 相成懸合相調不申候間伺通^ニ

仕度旨申候^ニ 付松岡治部助へ罷越右之段及^レ相談候処治部助義も拙
者同意^ニ 而^{弥吉へ懸合ハ無用} 為^レ致候様申聞候^ニ 付其段又々孫右
衛門^江 申達候処又々喜左衛門罷出孫右衛門へ被^レ仰候義尚又何も奉
畏遂相談候得共同通^ニ 不被^レ仰付候^而 迎^も 懸合調兼候間是非共同
之通^ニ 被^レ仰付候様何^及 相願候旨申出候^ニ 付又々治部助へ罷越右之
趣^ニ 絶^而 相願候事^ニ 候得^者 絶^而 難差止何れ下方之懸合之義^ニ 候得^者

其旨^ニ 可申付旨申候所治部助申候^者 拙者存寄御尋御座候得^者 其
旨宜とハ不存候得共絶^而 相願候義^ニ 候得^者 此上ハ御用番中へ相伺
御差^レ次第可致治部助ハ不同意之段被^レ仰置被^レ下候様^ニ と挨拶^一」
付一学殿へ罷越其段申上候処何れ役筋引受候義^ニ 候得^者 拙者決^一
「之処申聞候様被^レ申聞候^ニ 付格別存寄と申程之義ハ無之候得とも
一卜通り之処^ニ 而^{弥吉へ不申聞懸合候方} 可然様^ニ 存候得共左之
通絶^而 申出候義^ニ 候得^者 懸合人之不得心候事^ニ 而^迎 懸合相調

不申候間伺之通為取計候^外 有之間敷敷と存候旨申上候処左候
ハ、其通^ニ 為取計可申旨被^レ仰聞候^ニ 付左候ハ、明朝倉敷へ善兵衛
差遣伺通^ニ 為取計可申段申^候 御聞濟^ニ 候処猶又被^レ仰聞候^者 今
般江戸表^ノ之御触出之趣^ニ 而^{年々相廻候} 石数大坂町奉行へ御届

候得共弥吉を出拔候得^者 始終邪魔^ニ 相成懸合相調不申候間伺通^ニ

も入候哉之様ニ相見候此所者治部助如何申候哉と御尋ニ付江戸ノ御触之趣ハ未承知不仕候得共唯今治部助噂ニ致承知候得者以來ハ御届も可入事之由申聞候旨申上候得者右御届等之石数并是迄御触ニ背不相廻^(墨にて抹消)当年初而相廻先例坏御尋有之候節ハ如何可答存寄ニ有之候哉ケ様之所「役人之身分ニ兼而覚悟致可置処左も無之不調之事ニ懸合之元立不申義故此所治部助へ伝言被申達治部助答為「候上ニ弥吉ニ懸合為致可然旨被仰聞候ニ付其段治部助「申達候処拙者一人之引受と申義も無之候得者同役も遂相談候上ニ尚伺之義も可有之其上ニ御達可申候間先明日之懸合ニ不相成候間左様相心得候様申聞候依之甚差向候義ニ候得共無是非相延置候

一上野介様御先触者未采候得共御宿割相通り来ル十五日土居御止宿ニ而十六日爰元御通行被成候旨人馬問屋承り申出候段大年寄届出候ニ付其段御用番并大目附へ手紙ニ相届候尤郡代所も及通用候

一上野介様御通行取計御用序ニ付先格通ニ諸事取計可申旨一学殿へ相伺候処其後御断之趣も有之候間何分「相尋候上ニ宜取計候様ニ被仰聞候

一昨日細工町失火手あやまり之訊御用序ニ付一学殿へ申達候

五月十二日 晴

一痢疾除御薬不足之旨大年寄申出猶又式百五拾貼国嶋栄庵へ受取此間之残と致一緒式百九拾貼大年寄へ相渡

一松岡治部助へ此間村尾左右衛門へ差越候返書差出候様申来大年寄

へ渡置候故取戻し手紙ニ差出候

一佐々木右近へ上野介様御通行取計出羽守様御通行取計と相違之義も候ハ、認出候様申来左之通書面ニ申遣候

去ル寅年上野介様御通行取計相調候処一昨卯年出羽守様御通行取計と御同様ニ出羽守様御使者御取遣り相止候処上野介様御取遣り御座候夫而已之違ニ相見へ候段申遣候

一上野介様御先触到来左之通写差出候

本馬 拾式疋
軽尻馬 四疋
人足 八拾七人

東海道宿々記有之略之

雪下 江島 左谷廻り 山崎路
五月十五日土居御泊 十六日津山御通行久世御泊

右者 此度上野介殿在所雲州広瀬表へ被罷越候ニ付当月廿八日江戸表被致出立候間右之通人馬無間違差出頼存候尤此帳面無滞早々順達有之留りへ広瀬表吉川梁左衛門吉村浪右衛門松浦森右衛門石飛門左衛門方へ差出可給候以上

四月十九日 給筆上野介内 足立弥市
右宿々問屋中

右御先触写御用番中へ紙ニ差出大目附も紙ニ相届候郡代所も為相知候

一 溝見分^并上野介様御道見分兼昨今又六孫八宮田喜左衛門昨日源五兵衛今日孫左衛門差出候処無別条少々之申分ハ早速取繕申付候段何れも届出候

一 菜種之義兵庫^江懸合之義御領分夷種石数式三步通り可遣と懸合可然之旨委細ニ孫左衛門喜左衛門へ申含候

一 越中富山板屋理兵衛役介惣兵衛金兵衛兩人例年之通罷越候ニ付当十月迄召抱置度旨願書大年寄差出承り届ル

一 備中津宇郡妹尾村小判屋太郎兵衛一人例年之通疊表卸壳ニ来候段西新町山家屋利宇衛門宿切手差出四月十七日届ル

一 稻荷山草苅去ル九日相始候段申出今日苳終候旨三軒屋作治届出候

一 上野介様来ル十六日御通行被成候ニ付例之通町触差出

一 上野介様御通行ニ付取計書左之通大年寄差出

一 御本陣 玉置源五兵衛

御本陣詰 櫻野屋茂一郎 平野屋助右衛門

稻実屋義七郎 外ニ式步中買三人

一 御使者宿 齊藤孫右衛門

一 御使者案内 田邑屋宇左衛門 余野屋伝七

此ニケ条相止候

一 町奉行立宿 山本三右衛門

一 御徒目附下目附立宿 東新町榎屋利助

一 御先弘立宿 同町 鍋屋平藏

一 御使組立宿 安岡町鍛冶長兵衛

一 在宿医師 高島生齋 笹岡休意

一人馬間屋出役 宮田喜左衛門

外ニ式步中買三人

一 院庄御渡場 御藏元 熊野屋文五郎

船年寄 大坂屋彦市

一 前夕土居御泊聞合 老人

一 河辺御懸り御立遠見 式人

一 玉琳御立見受遠見 老人

一 銀札場奉行清水勇馬ノ錢拾四箇川下ケ申来奥書取計

五月十三日 雨

一 御用日登城

一 土岐老之助殿領分当国英田郡川崎村助三郎娘そよ義福渡町枿見屋

藤吉養女ニ引受度人別人願御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞

届申達候六月十九日住宅証文差出

一 御代官野口辰之助殿支配所備中国浅口郡黒崎村久五郎倅伊八義福

渡町阿賀屋助五郎家守万五郎借屋住作人藤右衛門引受度人別人願

右同断取計濟六月十一日住宅証文差出

一 去ル九日細工町失火怪敷義無之訳大目附へ及噂候

一 茅町往来筋土橋損溝埋り水拔あしく相成右橋ハ御作事普請所之処

橋不相直候得^者溝浚出来不申候間御繕有之度茅町ノ届書差出大目

附へ差出候尤右溝ハ非人小屋之方之田地相懸り候要水ニ^而溝浚ハ

年々町分ノ致来候由ニ候

一 細工町往来渡部相馬角之石橋下々溝埋り大雨之節ハ水溢出致難義

候ニ付右溝浚被仰付候様届書差出大目附へ差出候尤右溝^者御作

事ノ後候場所也

一 上野介様御通行之砌御使者御取遣り一昨年御断有之相止候間其旨相心得候様大目附ノ達有之大年寄へ申付候且又奉札来候程も難計候間右様之義も有之候ハ、誰人ニ而も受取御奏者番太田舎人宅へ可相達旨大目附ノ通用有之此段大年寄ニ申付候

一 葉種一件之義兵庫田中屋久左衛門^并倉敷弥吉へ懸合之義伺出之通勝手次第早々及懸合候様ニ可申付旨一学殿被仰出候委細^者治部助へ御談被置候由御噂ニ付右伺濟候段治部助へ及噂置大年寄へ聞届候間勝手次第懸合候様ニ申付ル尤相損料差出相濟候共石数余分ニ相廻候形ニ^者不相成筋ニ候間大鉢三四拾石之約束ニ取極候様精々申合候

一 痢疾除御薬百式拾貼不足之旨大年寄申出此間之殘拾貼有之候ニ付百拾貼国嶋栄庵ノ受取百式拾貼大年寄ニ相渡候都合七千五百六拾貼受取^{大年寄へ七千五百拾貼中、四拾四貼減}

一 上野介様御通行ニ付御貸人馬先格之通大目附へ申達候
一 上野介様来ル十六日御通行被成御道筋掃除有之候間其段寺社取次細江武助へ及通用候

一 上野介様御通行ニ付御持組立宿之義伊東主水ノ噂有之候
一 上野介様御通行ニ付院庄へ御船廻り候ニ付御蔵元船年寄申付候様大目附^并御船奉行土岐雄助ノ通用有之

五月十四日 曇

一 葉種之義兵庫^江懸合一件ニ付常盤屋丈右衛門練屋善兵衛今朝出立倉敷^江立寄増屋弥吉へ懸合夫ノ兵庫田中屋久左衛門^江懸合ニ参候

候旨大年寄届出其段紙面ニ而御用番^并松岡治部助へ相届候

五月十五日 雨

一 宮田喜左衛門義痛所有之明日上野介様御通行之砌出役難仕旨断申出依之久山勘八問屋目附役出役申付候様大年寄へ申達候

一 川端又六義不快ニ付上野介様御先払難相断申出候ニ付明日一日三船孫八^江小頭仮役申付候

一 上野介様御通行ニ付同心組役割三船孫八差出候

御先払^{小頭代 孫八 形蔵} 馬駅^{郡目付代 年三郎} 供^{勇助}

当番^{四蔵 形蔵} 夜廻^{勇七}

一 堺町西川屋善助方へ大坂天満植木屋甚兵衛と申もの参来候処近年病身ニ相成候ニ付右甚兵衛親類大坂南本町四町目本屋勘兵衛と申もの書物完ニ差越度候段西川屋善助願書大年寄差出承り届ル
一 上野介様御通行ニ付左之通人足請負相定候段久山勘八ノ書付差出候

一 駕籠巻艇ニ付 六匁五歩

一 平人巻人ニ付 巻八歩

五月十六日 曇

一 上野介様御着聞合ニ前宿^江差遣候飛脚今晚罷帰り昨十五日七半時土居駅^江御止宿被成今晚正七時御立之御供触承り罷帰候段大年寄届出其段御用番^并大目附へ紙ニ而相届候

一 上野介様御通行ニ付五ツ半時出宅林田町立宿山本三右衛門方^江罷越相扣九時過御通行被成例之通臼杵横町へ罷出御目見^江仕候処御すたれ上り御駕籠脇ノ町奉行増兎右門殿と披露有之畢^而御使者番

歟御取次共可申躰之天野良右衛門と申もの致下乗挨拶_ニ来り候_ニ
 付上野介様益御機嫌克被成御旅行恐悦之旨申述候処段々御丁寧之
 御馳走之事共_ニ而候旨_并御出役御苦勞之旨挨拶致候右畢_而立宿へ
 引取相扣居候処町分無御滞御通行相濟候段安岡町へ申来引取引懸
 ケ_ニ一学殿御宅へ罷越例之通相届_并孫右衛門義立宿へ申出候_者上
 野介様御使者有之天野良右衛門と申もの格式物頭之由孫右衛門宅
 へ罷越例歳ハ町端へ御使者案内之もの被出迎候処当年ハ左様之義
 も不相見拙者御使者_ニ参候御取次ハ何方_ニ而候哉と相尋候_ニ付
 孫右衛門返答_ニ御使者御勤被成候得_者則私方御使者宿_ニ而御座候
 然ル所如何様之御訳_ニ哉其段ハ承知不仕候得共今年ハ御使者ハ無
 御座由_ニ而御取次も出役無御座候併御使者御勤被成候ハ、其段可
 申通間暫御扣可被成旨申候処川々手間入候_ニ付左様_ニ相扣候義も
 難致御取次も御出浮無之義_ニも候得_者一ト先院庄へ罷越其上_ニ而
 又々引かへし可参旨申候_ニ付院庄へハ一学殿も被罷越候旨相咄候
 処夫ハ幸之義院庄へ参り一学殿へ懸合候ハ、不参とも可相濟義も
 可有之と申直_ニ被帰候旨孫右衛門申出候_ニ付其段佐々木主馬宅へ
 罷越申達候御奏者番太田舍人へ其旨申達呉候様_ニ被相頼候_ニ付
 又々太田舍人宅へ立寄右之趣委細_ニ申達置候処万_ニ一院庄へ引かへ
 し候程も難計_ニ付御取次申達可置由_ニ御座候右等之義申談相濟ハ
 時過帰宅仕候且又今日_者一学殿植木左士種村登門自分伺_ニ院庄へ
 被出候且又拙者供立左之通

只_者馬_同心_組

草履取_{手人}

鎗持_{割場}

合羽籠_{割場}

挟箱_同

一久世手代内藤大右衛門義今曉七時久世出立_ニ而但州之方へ罷越候
 段先触来候上野介様と行き違ひ混雜_ニ相成候段伺出候_ニ付往還之
 義_ニ候得_者不苦義_ニ候間行違ひ之義ハ大右衛門心次第之義_ニ候間
 上野介様御通行義人足_ハ大右衛門へ為知候_而同人差図次第_ニ可仕
 旨申付候様_ニ及差図

一上野介様御通行_ニ付馬十六疋人足百三拾三人入候段佐十郎嘉七書
 付差出候

一上野介様御通行_ニ付問屋入用百九拾弍匁七歩四厘入増有之候段久
 山勘八_ハ書付差出

一上野介様_ハ院庄渡船出役_江左之通被下置候旨御藏元書付差出し明
 日出仕之上大目附へ可差出候

一金弍朱 御召船

一銀五匁 惣船

一同弍匁 川割御足輕弍人_江

一同弍匁 御藏元文五郎_江

一同弍匁 船年寄彦市へ

一同老匁 下裁許人_江

一備前渡部利右衛門竹内又右衛門_ハ飛札到来田原村源太郎吟味_ニ付
 打合せ致吟味度_ニ付当初新魚町油屋善右衛門差出候様_ニ申越松岡
 治部助へも遂内談御用番一学殿_江罷越来書之趣致承知早々罷出候
 様可申付旨及返書可申旨相伺候処伺之通取計候様御差図_ニ付差書
 差遣其段善右衛門へ申付候様大年寄へ申付候尤差添人樫野屋茂一
 郎差出可然旨申付候

五月十七日 快晴

一 齊藤孫右衛門妻娘三月十六日相願撰州有馬へ入湯罷越候処今三十日追願日延願書差出承り届ル

二 二階町福永屋藤助義三月十日願書差出致参宮候処病氣ニ付日延願承り届六月一日帰ル

一 酒改質屋頭と町年寄とは迄役義尊卑之席論等有之酒改他参等之願

ニも町年寄江加判不相頼候様之義ニ而町年寄よりハ六ヶ敷申候処

尤成義ニも候得共酒改ハ役徳無之事ニ候得者少々之宜義も無之候

得者相動候ものも無之趣ニ而六ヶ敷ものニ者候得共何れ甲乙尊卑

も無之事故以来者町役ニ付候義ハ町年寄筆頭酒或質物ニ付候義ハ

酒改筆頭為仕可申其余之役義之ものも右之通之趣意ニ而取計可申

旨大年寄伺出尤之趣ニ相聞候付伺之通申付候様及差図候

一 林田町山本屋与三七三月十日願書差出致参宮候処病氣ニ付来月迄

日延追願差出承り届ル六月十日帰ル

五月十八日 快晴

一 御用日登城

一 於宇治橋之間今日初而論語講釈山下官弥相動御用所初三奉行以上罷出承之

一 脇坂淡路守殿御預り所当国久米南条郡福渡村久七伯母ふき義西今

町井口屋利八引受度人別入願御用番御聞濟ニ付大目附江相渡置御

聞届申達候六月廿九日住宅証文差出

一 下紺屋町一乘院妹義堀田大内藏大夫殿代官下役勝南郡西吉田村中

山茂助妻ニ差遣度人別除願右同断取計濟

一 橋本町作人要助借屋住佐七娘義先達而不斗罷出行衛不相知届出百

日尋申付候所最早百日余ニ相成候ニ付人別除願出右同断取計濟

一 京都云州へ罷下り候医師荻野典茶大允と申医師一昨日当町致通

行候段問屋へ申出大目附へ相達候御用所へも御尋有之其段申上候

一 左之通大目附へ以書付被読渡候

於大目附役所左之通申達候

町奉行江

町棟梁細工町大工幸助御手大工被仰付候

尤給米拾壹俵二人扶持並之通被下之候

御作事定出細工町大工弥五郎町棟梁被仰付候

右之段可被申渡之候

右ニ付大年寄へ切紙差遣幸助義麻上下着用弥五郎義袴計ニ而召連

立合罷出候様ニ申遣小頭部屋目附江も立合申達候

町大工棟梁細工町大工

幸助へ

其方義御手大工ニ被仰付
給米拾壹俵二人扶持並之通被下之候

右者於玄関大年寄小頭部屋目附立合敷居を隔申渡畢而書付相渡

其方義町大工棟梁被
細工町大工

仰付候
弥五郎へ

右ハ玄関敷台へ差出し立合無之大年寄申渡之宮田喜左衛門義ハ

不快ニ付立合不罷出候

右之段申渡相濟候段御用番#大目附へ紙面ニ而相届候

一 油屋善右衛門檉野屋茂一郎備前表へ差出候付添簡下案松岡治部助
へ経内談候上^ニ御用番中へ相伺候処思召無之伺之通宜取計候様
被仰出候依之尚又大年寄^ハ右下案之趣檉野屋茂一郎へ為申聞可置
尤出立之日限可相届候旨申達ス

一 自分義昼後^ハ三浦十郎左衛門へ頼置致他出候

五月十九日 曇

一 石代改勝与八郎殿御普請役倉橋定之丞藤井新五郎今十九日勝山止
宿明廿日当所止宿之先触来右先触爰元留^リ之趣^ニ付其俵差出候^ニ
付御用番へ差出其段大目附へ相届候右先触未写不仕候間早々御戻
候様申達候所後刻御差戻^ニ付大年寄へ差戻し写出来之上又々写差
出候様大年寄へ申付候

一 右^ニ付止宿取計四月廿三日伺濟之通諸事宜取計可申^ニ勝山表へ聞
合之者兩人差遣^ハ人ハ勝山表之手配承り合早々可罷帰^ハ人^者与八
郎殿着之上諸事聞合罷帰候様可申付旨大年寄へ申付其段大目附へ
相届候然ル所後刻孫右衛門^ハ野々口屋七郎右衛門吉田屋喜八郎兩
人聞合^ニ勝山へ差遣候段届出候

一 院庄渡場へ御船相廻候間御藏元船年寄出役申付候様達有之其旨大
年寄へ申付ル

一 御奏者番太田舍人^ハ勝与八郎殿へ御使者有之候間立宿申付候様^ニ
被申聞大年寄へ申付ル^ニ町目福永や藤助へ申付御使者渡部杢兵衛
也

一 石代改勝与八郎殿へ自分挨拶之振合先達^ニ以来太田舍人^江談置候

一 処弥^(ツ)御堅勝被成御旅行珍重奉存候旨及挨拶候様今日被申聞候尤其
趣も月番佐々木主馬へ及噂置候^ニ今般取計一件御用番へ自拙者は
迄相伺候義無之御役筋より御伺濟^ニ被仰聞候間自是ハ御用番^江
不相伺候旨為念主馬へ及噂置候且又明日致出役候間例之通御貸人
馬被仰付被下候様^ニ御同人へ相達候処承知^ニ候

一 左之通呼出し直^ニ申達ス

石代改勝与八郎殿止宿^ニ付

藏合孫左衛門へ

右一件御用懸申付候諸事

引受可相勤候

一 中買頭河田屋金右衛門一人^ニ而^者行届兼候趣^ニ付小倉屋茂兵衛へ
中買頭可申付候旨大年寄申出承り届ル

一 勝与八郎殿宿茂渡庄右衛門へ申付候処礼元相勤候事^ニ付御巡見之
時分も組屋忠三郎へ亭主相頼忠三郎と名面差出候事故今般^者庄右
衛門忒市太郎名面^ニ御宿可仕旨申出承り届其段大目附へ相届候
一 平日御代官止宿^ニ旅籠前人留ハ不仕候得共若哉無礼等有之候^ニ
^者如何^ニ付三ツ屋角と馬方町角^ニ致繩張人留可仕候旨大年寄申出

其段^(貼紙訂正)大目附へ紙面^ニ而申達候所人留^ニ者不及旨申来其段大年寄へ
申達

一 石代改勝与八郎殿先触写左之通

御朱印 先触

○ 人足式人馬六疋徒江戸東海道筋美濃国^ニ上方中国四国西国
筋迄上下^ニ於被地御用中幾度も可出之是^者就御用御勘定組
頭勝与八郎被差遣付^ニ被下之者也

寛政九年正月廿六日

右宿中

江戸の東海道上方中国四国西国筋迄

勝与八郎持參之御用書物長持一棹從江戸東海道筋美濃国^并上方中国四国西国筋迄上下^并於被地御用中幾度も急度可持參者也

正月 对馬 印

右宿中

御朱印御証文写差遣候条可得貴意者也

正月 勝与八郎 印

右宿村

問屋

年寄

覚

御朱印

一人足 式人

一馬 六疋

内三疋 人足六人代ル

御証文

一御用書物長持壹棹

右^者東海道筋の西国筋迄就御用勝与八郎明廿七日江戸出立被相越候間書面之人馬無滞可差出候尤余計之人馬一人一疋たり共被差出間敷候渡船川越等之場所ハ前後申合無差支様可被取計候且泊之宿村^二而^者木錢米代被相払候間所有合之品を以一汁一菜相賄何^二而^も取繕馳走ケ間敷義聊被致間敷候此先触早々順達於留可被相返候以上

正月廿六日

勝与八郎内

鈴木庄左衛門

右宿村

問屋

庄屋中

年寄

追^而別紙泊附之宿村上下拾五人旅宿壹軒用意可被致候尤昼食之義^者弁当持參被致候間決^而用意被致間敷候以上

下ケ札^二本文之外馬式疋被召連候間左様可被相心得候

添触

先触之通昼食之義^者弁当持參行懸り致支度候間不及用意且泊之義^者所有合之品を以一汁一菜之外何^二而^も取繕馳走ケ間敷義聊^成致間敷旨申触候得共是迄通行いたし候内^二者^致用意可差出杯と申聞候場所も有之左候^而右躰申触候詮も無之勿論相断不及差出候得共致用意候得^者やはし失墜相掛り不益之義^二付又々申達間右先触之通昼食不及用意泊之義^者一汁一菜之外何^二而^も出間敷候此後万一致用意可差出杯と申聞候場所於有之^者其節我等急度相談候^而可有之間心得違無之様可致候依之此段為心得猶また相達者也

五月朔日

御勘定組頭

勝与八郎

宿村

問屋

年寄中

庄屋

泊付

勝与八郎内 鈴木庄左衛門

三月十六日小倉泊 同十七日椎田泊 同十八日四日市泊

同 十九日高田泊 同廿日 杵築泊 同廿一日別府泊
 同 廿二日鶴崎泊 同廿三日臼杵泊 同廿四日佐伯泊
 同 廿五日八戸泊 同廿六日延岡泊 同廿七日美々津泊
 同 廿八日坪屋泊 同廿九日 鬼神野泊 同晦日尾崎泊
 四月朔日鬼神野泊 同二日山影泊(マ) 同三日高鍋泊
 同 四日佐土原泊 同五日紙屋泊 同六日飯野泊
 同 七日相良泊 同八日佐舖泊 同九日八代泊
 同 十日熊本泊 同十一日嶋原泊 同十二日野井泊
 同 十三日矢上泊 同十四日十五日長崎泊
 下ヶ札本文之外馬式疋被召連候間左様可被相心得候
 同 十六日栄昌泊 同十七日彼杵泊 同十八日塚崎泊
 同 十九日佐嘉泊 同廿日 唐津泊 同廿一日加布里泊
 福岡江立寄
 同 廿二日博多泊
 宰府通
 同 廿三日内野泊 同廿四日木屋瀬泊 同廿五日大里泊
 渡海
 同 廿六日長府泊 同廿七日山中泊 同廿八日篠目泊
 同 廿九日石州津和野泊
 同 五月朔日益田泊 同二日窪田泊 同三日浅利泊
 同 四日彼根泊 同五日平田泊 同六日松江泊
 渡海
 同 七日隱岐国 十六日迄

同 十七日伯州米子泊 同十八日根雨泊
 同 十九日作州高田泊 同廿日津山泊
 右先触三包ニ上書左之通

御用先触 鈴木庄左衛門

添触 勝与八郎

泊附帳面 一冊

一御普請役倉橋疋之丞藤井信五郎先触写左之通

御用

御普請役倉橋疋之丞

先触

藤井信五郎

○ 馬式疋疋從江戸東海道筋美濃国并上方中国四国西国筋迄上下

并於彼地御用中幾度も可出之是ハ就御用御普請役倉橋疋之丞

同見習藤井信五郎罷越付而相渡者也

寛政九乙正月 对馬 印

○

覚

右宿中

御証文

一 馬式疋

右者東海道筋之西国筋迄御用ニ付明廿七日江戸出立相越候
 間書面之馬無滞差出可繼送候尤渡船川越等之場所者前宿之
 申達差支無之様可取計候則御証文写遣之条得貴意勿論泊之
 宿村ハ上下六人ノ旅老(マ)軒用意いたし候尤疋之木錢米代相払
 致止宿之間所取有合之品を以一汁一菜之外何ニも取繕馳
 走ケ間敷義堅被致間敷候此先触早々順達留ニおゐて可相返
 候已上

正月廿六日

御普請役 藤井信五郎

倉橋定之丞

廻村先々

宿村

問屋

年寄中

庄屋

別紙泊付帳巻冊差遣候間可被得貴意候已上

泊附 倉橋定之丞

藤井信五郎

四月朔日鬼神野泊 同二日山影泊 同三日高鍋泊

同 四日佐土原泊

五日高岡立寄

同 五日紙屋泊 同六日飯野泊 同七日相良泊

同 八日佐鋪泊 同九日八代 同十日熊本

同 十一日嶋原 同十二日野井 同十三日矢上

同 十四日五日長崎 同十六日栄昌 同十七日彼杵

同 十八日塚崎 同十九日佐嘉 四月廿日唐津

同 廿一日加布里 福岡へ立寄 同廿二日博多

宰無府懸り

同 廿三日内野 同廿四日木屋瀬 同廿五日大里

渡海

同 廿六日長府 同 廿七日山中 同廿八日篠目

同 廿九日津和野 五月朔日益田 同二日浜田

同三日浅利 同四日彼根 同五日平田

同六日松江 同七日隱岐国渡海十六日迄

同十七日伯州米子 同十八日根雨

同十九日作州高田 同廿日津山

右先触写不殘大目附へ差出候

一右 付同心組致不足候間加人三人被仰付候様大目附紙面_江申

達候処荒木其助未沢折治山本弁助来

一右 付同心組番割小頭左之通差出

与八郎殿

御先払_{緊急} 御普請方警衛_{佐十郎} 右門供_{百藏}

屋敷番_{四藏} 昼廻_{栄治} 夜廻_{第七}

一右 付出役立宿付左之通大年寄差出

一奉行所立宿 齊藤孫右衛門

右下宿 元魚町住屋市左衛門

一御先払立宿 安岡町生綿屋治助

一組中夜中詰宿 二階町いせ屋庄左衛門

一右同断 元魚町灰屋佐右衛門

一御使者立宿 二町目福永屋藤助

一在宿医師 渡部玄端

一院庄御船_江 内海察州

御藏元文五郎

船年寄彦市

右御使者立宿二町目福永屋藤助へ申付候段御奏者番太田舍人_江申

達候所御使者渡部李兵衛相勤候段申来其段大年寄へ申達候
一 御蔵米七拾匁町米六拾六匁

五月廿日 雨 昼後晴

一 久世役所へ先月十五日差出候三原屋定七黒坂屋幸助右差添町役福
永屋源五郎肥後屋長左衛門口書印形相濟引取候様被申付候由昨夜
四時頃罷歸り山田新三郎も書状差越同心組文蔵義可差返処口書
写手間取候ニ付手伝相頼候ニ付差留置新三郎同道ニ可罷歸旨申
越右書面御用番中へ今朝差出大目附江も相届候

一 同心組三船新治追込昨日迄ニ廿日ニ相成候ニ付今朝於小頭宅部
屋目付立合差免候様小頭へ申付候

一 石代改御役人聞合ニ昨日勝山へ差遣候野々口屋七郎右衛門罷歸り
勝山ニ俄事之趣ニ大混雑殊ニ道橋等之不恙も有之候由御普
請役人至ニ不機嫌之趣役懸り之面々殊之外致迷惑大取込ニ面談
も出来兼久世も貝塚五郎蔵罷越与八郎殿用人鈴木庄左衛門へ長
談ニ是江も急ニ面談も出来兼駈々之聞合等も出来不申甚隙取候
由漸座敷向間取并料理向程承り尤勝山ニ大鉢公料御巡見使之
御取扱之振合と申様ニ相聞代官も御堺目迄出迎支度候所聞ニ不合
漸々在分迄罷出候由外々之御取扱入念候趣ニ被聞及俄ニ町奉行
旅宿へ被見廻候由ニ相聞兼ニ用意無之事故取計も不定趣ニ承り
合候程之格相も不相立夜半後ニ相成鈴木庄左衛門へ漸逢候所近頃
入念候義と挨拶ニ賄之義兼ニ申付候通嚴敷相守候様ニ申聞用向
等之義も相尋候得共一向不申聞無程罷越可及面談と而已申聞候ニ
付何方へ被移候哉と相尋候得共其段津山へ不参込候ニ相知不申

と被申聞察ル所何方江も不意ニ仕懸候様子と相見へ候旨且又馬三
正被率候処殊之外大切ニ被致与八郎殿自身ニ四足被致候由申出候
ニ付右大意之趣大目附へ紙面ニ申達

一 勝山ニ公料御巡見使取扱之振合と申義ニ付旧記相調候処寛
政元酉年六月之御取扱御巡見再宿之振合旅人之取扱ニ御代
官入念之御取扱と認有之町奉行も西大番所へ出迎夫ハ旅宿見
廻余程入念候趣ニ供立等も若堂三人傘沓箱等も有之候ニ付今
般之取扱とハ甚相違致候間其段大目附へ罷越及内談ケ様之義ハ
御用番中へ直ニ可相伺義ニ候得共初ノ諸事取計御役筋ハ被仰出
御懸合口之義ニ付先及内談候旨申達候所何分相伺候上ニ可申
達由ニ後刻書面ニ兼ニ伺濟之通ニ宜候間矢張其旨取計
候様ニ申来

一 飼桶 三ツ 四足盥 壹 飼葉三拾連御厩ニ相拜仕度旨
御宿詰町人ハ申出候段大年寄ハ申出其段大目附へ申達候所承知
之旨申来直ニ御厩へ取ニ差遣候様申付ル

一 自分義九時供揃ニ九半時出宅立宿齊藤孫右衛門方へ罷越扣居
与八郎殿着候ハ、罷出居候段申達向方之支度宜時分致案内候様
宿詰用達町人江申付置

一 昨日聞合ニ勝山へ差遣候吉田屋喜八郎八ツ前時罷歸最早目木迄
被参候由聞合之義も野々口屋七郎右衛門同様之義ニ駈之訳立
兼候由申候其旨大目附へ相届候

一 与八郎殿用人鈴木庄左衛門八時過着ニ米相場之義被承候間米
問屋呼寄置候様詰之町人被申聞ニ付爰元ニ米問屋と申もの

無之米中買と申もの取扱致候間中買共呼寄七置可申哉と申候処
夫_ニ而_レ宜候由尤尋之上口書印形取其上町奉行中奥印取候間其段
通置候由被申候段申出ル

一自分義_ヲ御使者渡部空兵衛格祿被相尋候ハ、如何可答哉と伺出
候ニ付自分義ハ有躰ニ可申達空兵衛義ハ空兵衛へ相尋候上_ニ而_レ
如何様とも可答旨申付候処空兵衛へ相尋候処高百石格式ハ馬廻
り番組と可申旨空兵衛申候由申出ル尤其旨出役之者心得居候様
ニ申達

一勝与八郎殿御普請役倉橋定之丞藤井新五郎八半時到着其旨御用
番_ヲ大目附へ紙_ニ而_レ相届候

一御使者被請候後自分義罷出候様ニと之義_ニ而_レ御使者相濟茂渡市
太郎迎ニ罷越唯今罷出候様ニと申来罷出候処取次鈴木庄左衛門
義玄関_江出迎候ニ付名札差出左之通申述候

向暑之節弥御堅勝被成御止宿珍重奉存候御用等も御座候ハ、
可被仰聞旨申述ル

相扣候様ニと挨拶_ニ而_レ引取直ニ罷出与八郎可懸御目候間御通り
可被成と申聞候付直ニ同間へ罷出

右之通之挨拶又々申述諸国御巡行被成候旨長途御苦勞之義奉
存嚙御疲可被成当所之義_ヲ諸事至_ニ而_レ不自由御座候故別_ニ而_レ御不
自由可有御座奉存候御用事等御座候ハ、無御遠慮可被仰聞旨
申述候処

与八郎殿挨拶ニ御用ニ付初_ニ而_レ罷越段々御役介ニ相成諸事御叮嚀
之義忝存候兼_ニ而_レ達置候得共賄等之義少も取飾無之様ニ尚又被仰

付被下候様致度且又御厩方_ヲ御馬被相頼隠岐国_ヲ為率別_ニ而_レ御役
介ニ相成候宜御頼申候旨挨拶有之

右答ニ入御念候義ニ奉存候何_ニ而_レも無御遠慮可被仰付旨及答
嚙御疲も可被成間御休息被成候様及挨拶引取候処

夫_江不罷出候間御免被成候様ニと挨拶被致候

△鈴木庄左衛門敷台迄送り出候ニ付御疲も可被成御逢被下入御
念候義と及挨拶罷帰ル

一与八郎殿義_ハ直_ニ而_レ厩へ被_レ相越被致世話候由馬医呼寄呉候様_ニ
(白塗抹消)

と被申此辺馬医無之旨申候由爪髪相頼度候間工者成もの有之候
ハ、頼度旨被申候ニ付鳥屋与惣治申付差出候由申出候

一中買頭兩人白砂へ被呼出御普請役兩人縁側_ニ着座与八郎殿八障
子之内ニ透聞被致候趣_ニ而_レ一ト通り米相場建方被相尋役筋_ハ十
月ニ相廻候平均相場書名面等迄帳面ニ扣居中買共持出候相場帳
面と引合被見相違無之ニ付宜と被申其方平日取扱候手覚水帳差
出候様被申是ハ相場帳面と違直段も格別高直_ニも見込次第_ニ而_レ
相調候事_ニ而_レ相場帳とハ甚之相違ニ付所持不仕と申上候所其方
共所持不致候ハ、仲ヶ問誰人之帳面_ニ而_レも差出候様ニと被申付
候付奉畏候旨申引取蔵合孫左衛門方_ニ而_レ中買共打寄答振逐相談
何_及甚致迷惑候由

一白米錢相場書御名書加へ差出候様被申付左之通差出可申旨申出
承り届

覚

一白米壹升ニ付七拾壹文

一金老両ニ付

九六 銭六貫四百拾七文

右者 今日之相場ニ而 御座候已上

松平仙千代領分

作州西北条郡津山御宿豊屋

五月廿日

喜兵衛 印

一左之通宿付被差出三ヶ月迄之里数ハ相分り居候得共其先ハ順路^并里数も不相知候間順路里数付いたし差出候様ニ被申候由詰之用達^ハ申出播州筋存候者共呼出遂吟味候得共本街道ニ而無之候故耽と相覚候もの無之併三ヶ月ハ山崎へ順路ニ而道法三里有之候義ハ何れも慥ニ相覚居候事故其段計書出し余ハ相覚候もの無之旨可答由大年寄申出候

津山^ハ 勝間田 土井 佐用 三ヶ月 姫路 山崎

高砂 明石 酒見北条 尼崎 社村

右道法順

一明廿一日出立土居泊之先触^{四時}頃被相渡候由用達^ハ届出候段大年寄申出其段御用番^并大目附へ相届郡代所へも及通用候
一右之通中買共水帳差出候様ニ被仰付候処相場と中買共調候と大方四五匁程つゝも高価ニ相調居候事極^而御不審可有之候間仲ヶ間之内^{ニ而}も安米計取扱候もの、手覚帳差出候ハ、様子も可宜ニ付右帳面吟味余程隙取候故殊之外不機嫌ニ相成厳敷被叱色々^{（略）}と間ニ合取膳申述置候^{（略）}東新町はかね屋宗兵衛義ハ下米計取扱候間彼力水帳第一可宜哉と申談取ニ差遣見改候処相場^ハ老勿五

歩位高価ニ相調居候趣ニ付右水帳差出可申旨伺出候付宜取計候様申達ス

一 中買頭^{（略）}人^{（略）}はかね屋^{（略）}宗兵衛水帳致持参候処大年寄立合罷出候様被申聞依之藏合孫左衛門罷出候処白砂へ廻り候様ニ申聞候付孫左衛門義宿詰用達を以被仰付候事御白砂へ可罷出候得共孫左衛門義ハ役義^并帯刀も仕候者^{ニ而}平日中買共と同席可致筋之もの^{ニ而}無之旨申達候所左様之義ならば白砂ニ別ニ薄縁りを敷少横座へ罷出候様ニと申義ニ而役所吟味之節町年寄罷出候振合ニ而罷出候所

与八郎殿座敷敷居際へ被出御普請役ハ縁側与八郎殿之前左右ニ着座^{ニ而}与八郎殿直吟味^{ニ而}初之通相場建方被相尋右水帳も少々披被見直段相場^ハ違之不審も有之候処中買共申披耽々不埒明趣被問詰恐入候と申趣ニ付孫左衛門義中買共へ向ヒ其方共平日取扱候売買之訳^并相場建形等之義有躰ニ委敷申上候様ニ被為仰聞候義ニ候間少も無伏藏平日之取計正直ニ申上候様ニと申付候所与八郎殿孫左衛門申通候義ニ候旨被仰孫左衛門へ被申聞候^者中買共申方不宜旨孫左衛門ニ如何存候哉と御尋有之候ニ付乍恐御尋ニ付兼^而存居候訳可申上候と申左之趣申上候由
米相場之義ハ元来上^ハ致差^ハ候義^ニ者無御座中買共へ委置候義^{ニ而}相場替り之度々^ニ届出候義^ニ御座候勿論大坂隣国をふまへ^ニ致候事とハ相聞候得共地合^{ニ而}日々之売買御座候所を以前後相考人氣ニ叶候処を其日之相場と相定候事^{ニ而}第一藏米をたて

米といたし蔵米二相場相極右蔵米二町上米二八四匁下り中米
下米二ハ三匁ツ、引下ケ相場相極候是ハ先々二之致方二御座候段
申上候処蔵米ハ升目等違候哉と御尋有之候二付升目違ハ無之候
得共元來米之仕立格別二宜繩俵二も格別宜候間高下付候事二
御座候旨申上候由蔵米払日々ハ有之間敷と御不審二付大坂廻米
有之事二日々上御払米有之義二無之候得共御家中方頂戴
之面々ハ勝手次第少々ツ、二も日々相払候事二候得二日々蔵
米相場立候事二御座候旨申上候処水帳と相場と致相違候二致如
何候事哉と御尋二付夫ハ日々在方二払米町方へ持出相払候処米
之善悪有之候得二右品相応二全鉢之相場をふまへ二致置代口物
相応二相調候義二候得二相場之通二參り不申中二至二上米
ハ蔵米二も高価二相調候義も有之候旨申上右等之義今般致吟味
候義二無之候得共私共も年々平均相場奥書仕差上候事故右之
段兼二心得居候事二御座候旨申上候処孫左衛門申方二さつは
りと相分り濟候二付其段相調致印形差出候様被仰聞奉畏候旨申
上不案内二彼是認候も却二隙取恐入候義二奉存候間何卒文例
振合等之御案紙御下ケ被下候様相願候処左候ハ、此方二認可遣
候間致印形候様二と被申聞一ト先引取居候処又々被呼出初之通
罷出候所右口書被読聞相違ハ無之哉と中買共へ御尋有之候処中
買共相違無之段申上候処右文段之内少々主意違有之趣二相聞候
付中買共へ向ヒ御読聞七被成候二上二被仰付候義二無之此
方より認差出候書付二大切之義二違有之候二乍恐可申上義二
候二為御読聞被成候所少々主意違候哉之様二相伺候夫二も違

無之と存候哉と申候処何方か違候哉と孫左衛門へ御尋有之二付
蔵米払有之重二払出候迄ハ右之直段二差置候様之御文段二相
聞候得共先刻申上候二左様二無御座蔵米払無之候二及二日々
蔵米相場違候事二候段申上候処其段ハ違候二も少も不苦江戸表
御用無之事故其假致印形候様二と被仰聞候二付三人共致印形
候処町奉行奥印入候間被出候様二申通候様被申聞引取候段孫左
衛門具二申聞候右口書ハ晦日之処二記置候

一右二付自分義二与八郎殿旅宿へ又々罷出候処御普請役倉橋定之丞藤
井信五郎玄関二出候二付相応之及挨拶候処二中買共口書相濟候

間相違も無之候ハ、奥書被成御指出し可成尤御扣も可被成間御引
取被成得二御披見可被成候旨申聞右口書相渡候二付委細致承知候
左候ハ、立宿へ引取得と披見いたし奥印書仕差出可申旨
申述候所最早及深更候二付奥書御印被成候ハ、拙者共旅

宿へ御差出し被成候二可然旨申候二付左候ハ、皆様御旅
館二可致持参哉二申候所御持参二及問敷二為御持被下候二も

可相濟哉と兩人申談ル趣二付左候ハ、皆様方も御疲も可被
成二及深二罷出候も却二御面倒二も可有御座候間蔵合孫左
衛門へ為持可差出哉と申候所夫二宜旨申候付少も御休息被成候

様二及挨拶引取奥印書取計扣致置孫左衛門へ為持差出候処最早
致休息候趣二付詰之町人を以差出候処儘受取候段返答有之候二付

直二引取御用番一学殿二罷越無滞引取候段相届置大目附二手紙
相届八時過帰宅

一供立二箱持打調二口二者馬二草履取手人二鎗二合羽籠

外ニ使者同心組三船新治書役大脇新左衛門召連候

一四ツ時頃明朝六ツ時被致出立候段被申出候旨申出郡代所及通用

一与八郎殿御馬殊之外被致大切候故旅宿之内ニ既等取繕候様ニ

聞合之もの申聞候得共庄右衛門方ニ場所無之不得止事向屋敷物

置取繕大工等懸ケ俄ニ三正立之既取繕近辺見苦敷場所ニ幕等

を打取繕置候処気ニ入候趣ニ而機嫌之由尚又鳥屋与三治爪髮取

計殊之外気ニ入始終差添被致世話被悦候由右手入も及暮相残候

処明朝出立前罷出是非済呉候様被頼候由与三治義江戸へ出候

様ニと被申聞自身居宅所等委敷被申聞候由相聞候

一御定之木銭旅籠被相払候為茶代鳥目六百文茂渡市太郎へ被下候

由届出候

五月廿一日 曇

一石代御改役人三人共五時過出立之旨届出候ニ付御用番并大目附

へ手紙ニ而相届候

一鳥屋与三治御馬手入御出立迄ニ不残相仕廻候処殊之外悦之様子

ニ而金子百疋被下候由届出候（目及はき所金、敷上、代銀物宛候下候出）

一拙者義御用番并大目附へ罷越昨夜之取計一件始末委敷相咄置

候

一久世江差遣候同心組文藏新三郎同道ニ而罷帰候ニ付其段御用番并

大目附へ手紙ニ而相届候山田新三郎ハ黒坂屋三原屋口書写差出候

一大坂南本町四丁目日本屋勘兵衛一人書物売ニ罷越右者去ル十五日承

り届候大坂天満植木屋甚兵衛跡へ代り来候ものニ而当年より来り

始候事也 （六月十三日）

一丹後国宮津城主松平伯耆守殿家中伊從小仙治と申もの方ハ伊達与

兵衛殿江之使者横川政右衛門と申もの来り右ハ坪井町藤屋嘉右衛

門数年之馴染之ものニ付三三日逗留為仕度旨嘉右衛門願書差出承

り届

五月廿二日 雨

一山田主膳殿昨晩江戸表ハ被致帰着候由ニ付今朝罷越懸御目候

一鉄炮相改候処町中所持之もの無之旨鉄炮奉行へ届書差出候由ニ而

同様之改書先格之通大年寄差出

五月廿三日 雨

一御用日登城

一元魚町黒坂屋幸助議久世江差出右口書写山田新三郎ハ差出候処黒

坂屋幸助煩代太兵衛と有之如何様之訳ニ而煩代と申候哉当役所江

幸助と申出其趣申遣候処於向方煩代と申偽候段遂吟味候様大年

寄へ申達候処実ハ幸助弟太兵衛ニ候得共当時右太兵衛義質物取扱

引受相勤平日幸助名前ニ而相勤候事故無何心当役所江幸助と申

上候処於向方家族妻子等委敷被相尋候処太兵衛次男無妻ニ付当人

ニ而有之間敷幸助煩代太兵衛歟と被仰候ニ付其趣ニ申上候義ニ

有之初有鉢ニ委敷不申出源五兵衛并町年寄恐入候段吟味一札差出

依之右口書写御用番中へ差出右間違不埒之旨申上右ニ付玉置源五

兵衛恐入差扣伺出候当役所偽候段并役懸之者不吟味之至不埒ニ候

得共久世表無滞相済候ニ付左之通申付候ニ而可然旨

一 元魚町黒坂屋幸助名面不吟味 玉置源五兵衛

付恐入差扣伺出候処差扣不及

其義以來入念可相勤候

黑坂屋幸助（大倉衛義之弟面）不埒之義不相札

其俣申出不直之取計不埒之

至候此段叱置候以來入念可相勤候

其方義兄之名面偽申出不埒

之至候依之申付方も有之候得共

久世表相濟候付叱置候以來左様之

不直無之様急度可相慎候

右之通可申付段御用番中へ相伺候処思召無之宜取計候様被仰出右

之旨大目附へ相達置大年寄宅申渡候様申付候

一 半舍人筏屋伝吉新吉病氣申出大年寄へ例之通取計候様申達候

吉武祐三申付候

一 西今町直屋幸三郎撰州大坂淀屋橋南詰綿屋義兵衛方へ三十日計之

逗留明廿四日出立之願書大年寄聞届差出六月九日届

一 下紺屋町南側作人勘八家屋敷表口式間半裏行拾七間但半役也

西隣ハ一乘院東隣ハ作人熊吉也右家屋敷去ル卯十二月質物書入

銀札百五拾匁町内紙屋庄五郎借仕候候此度受返し元利相濟候

段届書差出候同廿五日宛状差出

一 右勘八家屋敷代銀札百目相福住屋吉左衛門へ壳渡度願書大

年寄差出承り届

一 御領分西々条郡寺本村庄屋源治娘義下紺屋町原田屋佐助妻引受

度人別人願下方引合相濟候段大年寄申出承り届

一 中之町平岡屋忠右衛門方へ去ル廿日昼九時頃商人之躰旅人来

木綿調度由拾反計かたり取右代物之引当風呂敷包之内古

襦半老小石三ツ銀之躰紙包預り置候故追懸ケ参り大戸村召捕罷掃懸ケ取逃候得共右木綿ハ不残取戻し候処右風呂敷古襦半

預り居候段届書差出承り置

一同心組萩野嘉七義腫満久々足痛致候得共押相勤候処弥不相勝歩

行難仕付引込候段小頭届出承り置

一 久世差遣候江原文藏義今日致出勤候間御使組加人斧藏差戻候

段大目附へ手紙相届候

一 石代御改御役人取計伺書大目附差出候様被申聞差出候

一 宗旨奉行土岐雄助例歳之通宗文帳案詞被相廻則大年寄へ相渡候

一 借半竹田長衣服無之宿元へ申遣候得共不差越候旨申出候付郡代

所へ申遣候

一 新魚町油屋善右衛門義櫻野屋茂市差添備前表明後廿五日出立仕

候段届出右付先達差出置候証拠相成候書類下ケ候様申出

候付仕切併書之写扣等相渡候

五月廿四日 雨

一 勝与八郎殿昨廿三日未刻書状到来此間被為牽候御馬ハ御廐方御

用付被召連候処去ル廿一日途中中心付被見候所月毛之御馬長尾之

分過半切取有之全爰元夜中誰か切取候事と被存候間遂吟味江

戸表へ申訳之為尾取戻し差越候様申来其旨御用番中へ相伺馬

携候共遂吟味右吟味之趣藏合孫左衛門書取差出候様藏合孫左衛門

へ申付ル尤自分直致吟味夫々口書印形取可申之処内分取計候

様申来候付右之通取計候委細別帳記置然ル所御馬不寝番仕候

様申来候付右之通取計候委細別帳記置然ル所御馬不寝番仕候

様申来候付右之通取計候委細別帳記置然ル所御馬不寝番仕候

様申来候付右之通取計候委細別帳記置然ル所御馬不寝番仕候

様申来候付右之通取計候委細別帳記置然ル所御馬不寝番仕候

神喜屋茂吉園屋佐助鳥屋与三兵衛右三人相糺候処毛頭心懸之義無
之旨孫左衛門弁書差出依之右返書下案相認右吟味書共御用番中
へ相伺候処両方共段々御添削有之態飛脚申付漸今酉刻過御飛脚之
者中谷孫右衛門へ相渡何方迄も昼夜早馬而追懸ケ行差出候様
申付ル右之段取計之度々御用番大目附へ相届候
一新魚町油屋善右衛門樫野屋茂一郎明廿五日備前へ出立届出候付
去ル十八日伺置候添簡相渡候

五月廿五日 曇 少雨 夜中大雨

一新魚町油屋善右衛門樫野屋茂一郎今朝備前表へ出立仕候段届出御
用番大目附へ相届候

五月廿六日 晴

一院庄川渡船留り候段五ツ半時郡代所申来大年寄へ申達ス
一兵庫差遣候久里屋善兵衛常盤屋丈右衛門罷帰候段夜前孫右衛門
喜左衛門罷出相届右倉敷立寄増屋弥吉致同道兵庫罷越候処
田中屋久左衛門御用大坂登り居候由付三人共大坂罷越
久左衛門致面談兼御頼之菜種積登七之義色々と出精遂相談候
得共元来弘底之義故不及力漸々大鉢三斗五升俵百俵計ハ相廻可申
積り取計随分近在買集取計可申尤先達より御懸合之通弘底之義
故右程之相損料差出可申旨申述候処甚悦候趣忝旨厚挨拶いた
し然ル所及御聞も可有之右菜種之義今般江戸表般敷御触達も有
之是迄之取計不宜候由又々油稼五軒被仰付国々見改相廻候
様被仰付先達御頼之節とハ爰元之様子大キ致相違俄大混雜
油稼之者共大方致登坂罷在候仕合右故當時何れ共難及御

返答候先達御返答無之段油方之もの致立腹既先日御蔵屋敷
願書差出候処右懸合無之齊藤孫右衛門返答有之筈も候ハ、右
返答承り候上差出候様御留主居中御戻被成候右見改之者出
候上御出被成候得最早致方も無之義候得共乍御延引もまたも
宜時節見改之者不出内之義候得御出之段無墮不仕候
旨申候付見改之者被差越候御内談申候詮も無之義候間津
山領ハ被除候様御取計頼入候と申達候所一統之義候得左様
ハ相成間敷候得共定来月朔日頃爰元罷立作州か手始有之
候間手作手絞之御申披可被成同之改候間ハ御休候ハ、別可宜弥
吉罷越候間作州入口在分改候節御内通可申旨其御心得可被成と
申候由之対談罷帰候旨大年寄申出候付其段御用番へ申達
大目附松岡治部助へも相達置大年寄三人喜左衛門呼出し見改之者
罷越候節之受答仕向之事共種々申談惣油屋へ得と申含置候様
精々申達候右手当取飾之為ひ、の実被相廻候様郡代所申達置
候

五月廿七日 快晴

一齊藤孫右衛門宮田喜左衛門兩人罷出昨日何被仰聞候菜種油見
改之者参候付油屋共心得之義昨日油屋共不殘拾八人呼出し得と
申聞何れも仕覚仕急椿胡麻等取飾りころりひ、等も有之次第
見せへ取飾り置可申持合無之ものハ仲ケ間分ケ合可仕何鯨
油急才覚可仕備前西大寺館屋忠四郎ハ兵庫油屋出店相成居
候間急彼方菜種油相調可申同人買出し売候義ハ少も不苦
趣付右之通覚悟仕候段申出尤ころり之実因伯へ調遣候義至

極之義ニハ奉存候得共此節之義故極而他邦ニ者差出間敷雲州ハ勿論平日他邦へ油もの差出候義ハ堅御停止ニ有之候間辻も埒明申間敷ニ付先可也ニ当然之店飾り程ハ出来可申候間因伯へ調に飛脚差立候義ハ可致延引之旨申出承り置尤明廿八日出仕之上御用番并大目附へ可相達候事

一 下紺屋町作人勘八義夫婦孫辰之助三人川口小兵衛長屋へ引越度人別除願差出承り届

一 三町目太刀屋久治義三月十五日參宮願差出候所今廿日之日延追願差出承り届ル同廿九日婚婦ル

一 石代改勝与八郎殿止宿ニ付人馬問屋入用五拾匁五歩八厘有之候段問屋ノ小手形差出候

一 公儀ノ菜種稼之義先々ノ被仰出候通手作手絞之外ハ堅不相成種を大坂江相廻し年々領分ノ何程相廻候と申義を大坂町奉行江留主居ノ相届可申旨御触去ル廿三日大目附ノ被相渡郡代所ニ而写濟相廻り候ニ付写取今日町方へ触達候委細御触扣ニ有之

一 桶屋町内海察州娘ちつ義御領分西北条郡藤屋村百性為八養女ニ差遣度人別除願大年寄差出下方引合相濟候段届出候ニ付承り届ル

五月廿八日 曇

一 御用日登城

一 備前和氣郡下田土村清八郎娘義東新町日笠屋市郎兵衛嫁ニ引受度人別人願御用番御聞濟ニ付右願書大目附江差出置御聞届申達候

六月十五日佳宅文差出

一 脇坂淡路守殿御預り所当国英田郡上福原村助右衛門夫婦并倅周治

右家内三人東新町山崎屋藤兵衛役介ニ引受度人別人願右同断取計濟六月十五日佳宅文差出

一 御代官野口辰之助殿支配所備中国浅口郡黒埼村勘四郎倅与治右衛門夫婦倅常吉并娘二人右家内五人船頭町山北屋伊兵衛養子ニ引受度人別人願右同断取計濟六月十五日佳宅文差出

一 河原町岡野屋伝右衛門後家借屋住作人藤四郎并母并弟重吉右家内三人備前邑久郡山田村宗右衛門方へ引越度人別除願書右同断取計濟

一 早川八郎左衛門殿支配所西々条郡井坂村百性輕助家内勝左衛門夫婦倅伊ノ助并勝左衛門弟忠四郎右家内四人戸川町吉田屋甚左衛門引受度人別人願右同断取計濟六月七日佳宅文差出

一 大納言様御元服并御袴召初并御台様御叙位之御祝義備前ニ而も被下置候間頂戴仕度配当場願出大目附所承り合候処大納言様御袴着御祝義ハ正月廿一日被為濟御台様三位ニ被叙候者三月二日ニ而候旨江戸表ノ申来有之由被申聞依之先例相調候処大納言様御元服ハ先例御官位と一所ニ忝ッ被下候例ニ而先頃大納言ニ被任候御祝者

被下候事故是ニ而一所ニ相濟候義ニ付最早御元服御祝者別ニ不被下筋ニ候段配当場へ申達候所其段奉畏候旨御受申相濟并御台様御官位之旧例相調候処先御台様御叙位者三拾八年以前宝曆十辰年ニ

而候得共其節者御年限中ニ而一ケ年志貫五百匁御仕切之節之間ニ而別ニ御祝と申ハ頂戴不仕候旨配当場願出右之通相違も無之趣万寿姫様御官位御祝被下も扣有之候ニ付大納言様御袴着御祝忝ッ御台

所様被任三位候御祝忝ッ右二ツ分被下置候様御用番中江相伺候処

伺濟ニ付大目附へ申達置其段取計候様大年寄へ申付候

一大目附松岡治部助ト先役後藤守助時分藤左衛門取計御ト目玉伝助

と申もの久世へ差出候節久世手代江御目録被下候義有りの候間右

奉文扣写差出候様被申聞遂吟味候処藤左衛門時分ニも奉文ニ而御

目六差遣候様日記ニ者有之候得共奉文扣無之目玉伝助時分之奉文

扣ハ有之候間其節之扣写差遣候

一油屋共見改来候節銘々覚悟申披之大意御用所并松岡治部助へ申達

候所治部助存寄ニ者認置候而も可然旨申候義ニ付其段大年寄へ達

置候

一左之通先触到来写差出候

馬 式疋

右者論所他改手代鈴木逸八内田卯八下野丹後美作国江差

遣候間道中往返并彼地御用中共書面之馬無滞差出賃錢請

取之可継送者也

三月 筑前

肥後

右宿々村々
問屋年寄名主

覚

御証文

一 馬式疋

右者就御用明廿五日明六ツ時丹後国熊野郡友重村出立作州

大庭郡久世村江罷越候間別紙御証文写之通相心得書面之馬

差出置無滞繼立且渡船川越止宿等者無差支様取計此先触御
用書書付共早々継送右久世村へ可被相届候以上

論所地改手代

五月廿四日

内田卯八

下宮田 廿五日泊上小田

廿六日泊粟賀 廿七日泊三ヶ月

廿八日泊 勝間田 久世

右宿々村々

問屋庄屋年寄中

外ニ御用書一通上書左之通

論所地改手代

内田卯八

鈴木逸八

御用書附
作州大庭郡久世村

論所地改為御用鈴木逸八様内田卯八様明十五日五半時江戸

御出立被成候ニ付御証文御写并御先触共箱ニ入被遣候間則

差越申候先々無滞様相届馬用意可有之候以上

大伝馬町

年寄

四月十四日

御伝馬役 印

品川ト大津迄 問屋中

右先触一学殿江致持参差出先達而爰元論所地改来候節者諸事新森

原之例を以御取計有之保頭先扨而已ニ有之候処甚不機嫌漸問屋断

罷越相濟候義ニ御座候先年相伺御朱印先触ハ同心組先触御証文

先触ニ著同心組為警衛見江隠れと相伺候処追而諸御取計御議定之

上可被仰出候間夫迄ハ右之通ニ取計置可申之旨被仰出先ハ其心得

ニ罷在候尤御普請役と手代とハ違も可有之候得共此間石代改之

節御証文先触ニ御普請役江右之心得を以同心組為警衛見江隠れ

差出候間明日も同心組見江隠れ差出候而如何可有之哉と相伺候

処随分其通ニ可然候間同心組見へ隠れ差出候様被仰聞右先触之

趣并右之旨も大目附へ相達郡代所江も及通用置小頭江も其旨申付

ル

一菜種油見改之者来候節ころり実取集置候義如何哉ニ付松岡治部

助へ尚又申談候様一学殿被仰聞松岡宅へ罷越候所断ニ付罷帰り紙

面ニ申達候

一院庄川昨廿二日申刻渡船相始り候段郡代所へ申来大年寄へ申達候

此段昨日之所ニ認落候故爰ニ記ス

一下紺屋町文珠院跡祇園会式御戸開除疫祈禱例歳之通来月七日ハ十

四日迄執行届書差出承り届ル

一ニ階町常宝院兼住所不動堂并鎮守疱瘡守護神灯明之施主有之候ニ

付例年之通来月七日ハ十四日迄除疫護摩執行之願書差出承り届ル

一牟浚昼廻り新治佐十郎取計候処番子之番所ニ紙帳三ツ毛抜一挺金

物老ツ火打等有之候段申出甚不埒ニ付急度速吟味候様小頭又六部

屋目附孫八江申付ル

一真賀郡境論改ニ稻垣藤四郎殿被參候ニ付先年井上弥三兵衛当役相

被仰聞候

一公儀御尋もの、御触到来右

(白塗抹消)

去辰六月九日夜信州佐久郡追分宿旅籠屋助右衛門

抱食売女みたうた兩人を武州本庄宿新助俣

兄弟新五郎忠次郎誘引出碓水御関所致山越候ニ付

右新五郎忠治郎兩人心懸之義無之候ハ、其段来月三日ニ証文差出

候様大目附へ申来町中并組中へ例之通相触

五月廿九日 雨

一論所地改手代鈴木逸八内田卯八昨夜土居止宿ニ町分通行無滞相

濟候段為警衛差出候三船孫八中山百歳七ツ時届出其段御用番并大

目附江紙面ニ相届候

一夏中橋々ニ涼間敷町触例歳之通昨日差出候

五月晦日 曇 少雨

一関貫番賃銀例月之通相渡候且又灯油今般通ニ相渡候ニ付受取候

義出来不申尤是迄ハ高石垣番所之名目ニ三所共受取候由申出依

之井口恵左衛門へ手紙ニ申遣候所三ヶ所共油通相渡候

一勝与八郎殿ニ差遣候飛脚中谷孫右衛門辰之中刻過罷帰り川之満水

明石王子川ニ一夜被止去ル廿六日晚方西宮ニ追付状箱差出候処

尼ヶ崎泊迄参候様ニと申事ニ罷越候処翌朝返書被相渡受取罷帰

り尤昼夜可罷帰哉と伺候処夫ニ不及候間寛々帰り候様ニと被申

付候由尤參懸ケニ三ヶ月ニ相尋候処一人山城へ被相越二人ハ本

街道へ被相越候由申候得共名面相分り不申千本江罷越承り候処左

之通問屋帳面ニ記有之候由写差出

一勝与八郎様 一藤井信五郎様 右五月廿二日 千本泊

廿三日姫路泊 廿四日大久保泊 廿五日兵庫泊

廿六日尼崎泊 廿七日大坂 夫々紀州和歌山江御出候由

右之通書付差出尤大坂ニ者一宿と承り候由倉橋定之丞吉人山

崎へ相廻り并龍野役人ハ帳面持参途中へ出浮候処兵庫泊へ来

候由被申兵庫江諸帳面持参有之候由

右返書致披見候処段々預御世話忝由尤出立無程見出候故申遣候由

此後再札も有之相分り候ハ、可被申越相知不申候ハ、最早不及再

答旨申来即刻一学殿へ持参相伺候処此後随分遂鑑察弥不相知候

ハ、猶又再札仕ケ程ニ取計候得共心懸之義無之何れ内札之義ニ候

得者迎も札明之上ならてハ此上相分間敷思召次第ニ可取計旨来月

中旬過幸便ニ再答差遣可然尤御留主居江も委細ニ可申遣旨被仰聞

候尤右返書来候段大目附江も紙面ニ而相届候

一菜種油見取之者兵庫へ近々来候ニ付油屋共答振認差出候様ニ申付

置候所藏合孫左衛門へ差出候ニ付松岡治部助へ紙面ニ而差出置委

細者明朝致伺公可得貴意旨申遣置候

一右一件ニ付ころりの実入用ニ付郡代所江頼置候所田辺大庄屋所持

之由ニ而考斗三升被相廻候ニ付其俣齊藤孫右衛門へ相渡候

一水車綿実油絞一件帳昨廿八日上原彦藏へ相渡置候

一石代改与八郎殿へ中買共差出候口書左之通

一津山町石代直段書上ケ方御尋ニ御座候

此義領主弘米買受直段中買共申合支配所江書上申候右

直段を元ニ相立銀四匁引下ケ上米直段ニ相極中下米直

段之義ハ右上米直段ハ三匁宛之安直段ニ仕書上候義ニ

御座候尤領主弘米之義者日々ハ無御座候間弘有之候節

之直段を日々ニ相用勿論其後弘有之直段違ニ相成候得

者猶又其節之直段を日々相用書上候義ニ御座候大豆直

段之義ハ十月中ハ弘も無之近在ハ売出候義も稀成義ニ

付小売大豆直段等承り合大躰直段見計を以書上候義ニ

御座候

右之通少も相違不申上候已上

松平仙千代領分美作国津山町米中買

金右衛門 印

茂兵衛 印

寛政九巳年五月廿日 大年寄 藏合孫左衛門

勝与八郎様

右之通相違無御座候已上

御名内津山町奉行

増見 右門 印

六月小

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 山田主膳殿

大目附 松岡治部助

大年寄 藏合孫左衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

六月朔 庚午日 快晴

一同心組萩野嘉七義藤藏と改号仕度口上書又六々差出し承り届ル

一油屋共答書昨日松岡治部助へ差遣置候所難問書到来尚又右不審之

所下方申披為致候様申来大年寄三人 # 喜左衛門へも得と申含候

六月二日 快晴

一先月廿八日牢凌申付候処種々之もの有之甚不埒ニ付早速敷敷吟味

申付候処何^度考ニ未心懸之趣も候間近日今一応牢凌仕候後吟味仕

可然と申義ニ付今日昼廻り佐十郎栄治差向牢凌申付候処筏屋伝吉

銀札拾壹匁五分脇下ニ隠し居候由取上ケ差出候外ニ申分ハ無之旨

申出候ニ付右吟味ハ又六へ委候間部屋目付立会牢屋へ罷出一人

つ、遂吟味 # 番子共も一々遂吟味候様ニ又六へ申付候右銀札ハ書

役新左衛門へ預ケ置候

一牢舍扶持仕切証文差出猶又四俵之内貸願出奥印書取計之尤当月^江

式斗壹升式合五勺持越ニ相成右内貸之内ニ差引取計候事

一油屋共答書認かへ差出一応披見之上松岡治部助へ紙面ニ差出置候尤披見之上可及面談旨申遣置候

六月三日 快晴

一御用日登城論語講釈有之

一御代官早川八郎左衛門殿支配所当国大庭郡赤野村伝右衛門役介

和吉夫婦式人林田町門屋龜藏引受度人別人願御用番中御聞濟ニ付

大目附へ差出置御聞届申達候 同廿二日佐佐木文忠

一祇園会中二階町関貫例年之通開置候段御用番 # 大目附へ相届候

一牢屋破損御繕書大目附へ差出候

一公儀御尋もの証文惣町壹通大年寄三人壹通 # 非人頭之書付都合三

通大年寄差出 # 組中老通書役老通牢屋老通三軒屋老通高石垣番老

通都合五通何れも心懸之義無之旨証文差出先例之通自分証文ニ致

都合三通大目附へ差出

一油屋共菜種油至^而払底ニ相成致迷惑候間御用綿実油拾四五石拝借

被仰付候ハ、種油ニ^ニ校^ニ七菜種油として売買相成候得共種油颯張と

切候^而相借仕候得^者可^レ校油も無之様ニ相成候^而者綿実油売買致候

様ニ相成申訳出来兼候間何卒此節拾四五石拝借被仰付候ハ、都合

能売買取続出来候間拝借仕度尤追^而菜種油ニ^而返上可仕候旨惣油

屋共願出候段大年寄申出其段上原彦藏へ頼候処承知^ニ則今日

綿実油拾四五石組屋忠三郎^ハ齊藤孫右衛門へ相渡候様申付候段申

来候ニ付勝手次第受取候様大年寄へ申達候

一関貫番賃銀証文致印形置候処銀札百四拾壹匁六歩加藤広治^ハ受取

相廻候

一 播州網千余六屋惣七一人例年之通八百屋もの卸売ニ来候段中之町

津田屋伝助宿切手差出 四七月六日始ル

一 札元山本三郎左衛門義印判候ニ付相改候付印鑑差出候

一 札元玉置卯左衛門悱忠四郎義四月十四日相願大坂江罷越候処今廿

五日計逗留仕度追願差出承り届 明六月廿三日始ル

一 福渡町沼屋儀兵衛娘義林田村喜七妻ニ差遣度人別除願下方引合相

濟候段申出承り届

一 牢凌之節牢中ニ種々之もの有之候ニ付右為吟味又六孫八出番百藏

差遣遂吟味候処耽々不相分いつ之頃がか入有之趣ニ何れも申候右

ニ付半番義右衛門明朝呼出し兼ニ心得不宜旨急度致察度候様又六

江申付候尤今昼握飯差遣酒壺斗向方ニ而相調并穢多頭江弁当代六

歩遣候由尤目明兩人も罷出候事

六月四日 快晴

一 江原文藏病氣引込又六が相届候付加入老入今日が被仰付候様大目

附へ手紙ニ而申達候処河野儀兵衛来

一 当三月金昆羅參詣之節旅人式百七拾式人有之頭錢取集候届書差出

ス但旅籠頭山北屋伊兵衛

一 大納言様御袴着御台様御叙位御祝ニツ昨三日頂戴之御受書配當場

差出来ル八日不及御沙駄候

一 西今町直屋幸三郎方へ昨夜盜賊這入酒壳溜三四拾匁錢箱裏へ持出

し盜取候尤作屋庄兵衛裏門を明ヶ堀を越直屋善吉裏を通り堀之錠

を切入込帰りハ幸三郎裏隠居所之錠を切出候様子ニ有之外ニ紛失

もの無之旨届書差出来ル八日不及御沙駄候 但六日申上候

六月五日 曇

一 油屋共答書認かへ差出候ニ付松岡治部助へ紙面ニ而差遣候所披見

之上先ケ様之ものニ而可有之候間御用番中へ差出可然之旨申来

候ニ付紙面ニ而主膳殿江差出し申候処無程御差戻被成候

六月六日 雨

一 桶屋町西側中田屋十兵衛裏納屋之堀を切又山城屋善左衛門借屋垣

をやふり一昨四日之夕盜入這入候得共盜取候ものハ無之并昨夕西

今町鳥羽屋方江も盜賊這入候得共盜取候もの無之候旨大年寄届

出依之目明孫兵衛呼出し又六が存寄為相尋候処目明兩人非人二組

四人召連忍廻り仕召捕候様仕可然旨申出其段申付置御用番江罷越

右之段相届大目附へ紙面ニ而申達候尤昨夜も目明共ハ忍廻り致候

様申聞候

一 菜種油一件倉敷増屋弥吉義油方見廻り之者致同道可罷越之処倉敷

江も段々犬を付置候処弥吉婦候趣ニ付為鑑察常盤屋丈右衛門が人

差遣候所弥吉義弥罷歸り居丈右衛門方へ可參之旨申聞候所昨日丈

右衛門方へ来色々と遂相談候処漸致納得先御近領相濟其上ニ而津

山へ可參所存ニ候得共来候もの、存寄も有之候事故受合ハ難致

候得共弥吉存寄ニ相成候得者右之通ニ致津山ニ而者一二軒見改候

而濟候様可仕候間右之通ニ相成候ハ、見改之者当国江来候段幸便

ニ可申越直ニ津山へ来候ハ、態飛脚を以可申越旨申罷歸候段申出

尤弥吉義同道ニ而罷下り候はつニ候へ共未相極不申大方十一日立

ニ而可罷越様子ニ付先へ罷歸候段申候旨大年寄申出御用番中へ罷

越相届候尤弥内存承り糺候処菜種一石ニ付四歩つ、世話料取候約

束ニ御領分中ノ百石計取立四拾匁程之賃銭取候趣ニ相聞候付

左程之義ハ如何様ニも致世話可遣候間石数少ニ相濟候様具々申談

弥吉子供へ帷子杯相調土産ニ遣候得者弥納得之躰ニ罷帰候段

大年寄相咄候

一牢屋所々破損も有之趣窓等之損之程難相分ニ付去ル四日又六孫八

差向破損書差出候明後日可申達事

六月七日 快晴

一牢番和田義右衛門時疫相煩引込候段届出依之加人老人大目附へ手

紙ニ申遣候処途ニ失念有之八日昼後岡本民右衛門来ル

一小頭川端又六昨暮時々中風差起候段孫八申出候

一牢舎人新吉療治二廻り相濟未相勝候ニ付代り医師願出大年寄申

達役屋伝吉義ハ全快休業届出候尤新吉療治吉武修格へ申付候段大

年寄届出候

一安岡町久米屋鶴藏義金昆羅參詣十日逗留ニ明八日出立之願書大

年寄承り届差出同十四日帰

一祇園会ニ付二階町疊屋吉左衛門角山手屋前ニ大行灯当年初ニ差出

度旨大年寄申出承り届

一東新町糺屋勘吉伯父甚右衛門当月相願身延山へ參詣致候処足痛仕

候付今七十日之追願願書差出し承り届

一金田此四郎長屋庄兵衛一人中之町北原屋三之助引受度人別入願大

年寄差出し承り届

一吹屋町高瀬屋助八忰岩右衛門義興村岩右衛門と相改太田舎人奉

公仕度ニ付人別除願差出承り届

六月八日 快晴

一御用日登城

一堀田大藏大輔殿領分当国久米南条郡山之城村善八郎白旗正藤吉一人

京町瀧山屋惣兵衛引受度人別入願御用番中御聞濟ニ付大目附へ差

出置御聞届申達候

一雲州嶋根郡佐田村兵吉忰林之助義西今町桶屋平作借屋住佐田屋林

藏養子ニ引受度人別入願御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届

申達候

一大納言様御袴着御台様御叙位之御祝義合テ二ツ頂戴仕候段配当场

御受書差出候ニ付例之通御用所へ持參口達ニ申上大目附へ差出

置

一牢屋破損届書大目附へ差出

蓋板無之栓と栓と之間空ニ成居候ニ付右空隙塞候様ニ申達作事奉

行西村治太夫直ニ懸合置候

一桶屋町西屋善藏借屋住浜崎屋利兵衛義去月下旬近在

罷出候由ニ罷帰相尋候得共行衛不相知候旨届書差出例之通百

日尋申付候

一西新町伊木屋新三郎父惣五郎義当二月廿二日相願身延山ニ參詣仕

候処足痛ニ付七十日追願差出承り届

一中之町玉野屋龜右衛門父藤十郎義右同断願之処右同様追願差出承

り届

一西新町富野屋幸藏父定七義当四月十五日相願紀州高野山ニ參詣仕

候処大坂用事不相濟候間今廿五日之日延追願差出承り届同廿三日届ル

一石代改勝与八郎殿止宿之節宿詰用達并御宿相勤候者賞詞有之可然
之旨大年寄申出大目附松岡治部助へ遂内談左之通大年寄より申渡
候様ニ申達ス

勝与八郎殿御宿

茂渡市太郎

右宿詰用達

櫛野屋茂一郎

野々口屋七郎右衛門

倉橋定之丞藤井信五郎御宿

豊屋喜兵衛

右宿詰用達

大村屋源右衛門

吉田屋喜八郎

右之面々与八郎殿止宿之節出精骨折相勤太儀ニ候此段

賞詞申渡候

一菜種油見改之者来候ニ付去ル六日認置之通御月番主膳殿江申達
置候得共尚又今日一学殿并松岡治部助江も得与及噂置候尤一学殿
御存寄ニ此間差出候油屋共答振帳面御披見候処余り言葉を飾過
候様ニ相見へ候間其所心付置詰ル所ハ有躰を以相頼候外有之
間敷哉と思召候由被仰聞候併帳面等認かへ候ニ不及之旨被仰聞
候

一川端円藏義父又六病氣ニ付看病願引込度旨三船折治を以申出承り
届

一当月金毘羅参詣旅人百六拾九人有之候段旅籠屋頭山北屋伊兵衛帳
面出ス

六月九日 快晴

一郡代所ノ牢舍人盜賊鉄藏遂吟味候間牢屋立合差出呉候様申来出番
栄治差向為相渡候晚方又々栄治差向入牢取計候

一関貫ニ遣有之候鉄古金物不用立分相払普請之足ニ可仕旨喜左衛門
申出宜取計候様ニ申達ス

六月十日 快晴

一町方盜賊沙駄不相止趣ニ而物騒之様子ニ相聞候得共目明共它人も
召捕不差出候ニ付察度申達候所左候ハ、仮目明兩人被仰付非人二
組被仰付都合四組ニ而相廻度之旨伺出承り届候処松田屋佐助吉田
屋平助二人江仮目明申付候段新治ノ届出候

一雲州御家老柳田四郎兵衛今夕止宿ニ付三船八郎右衛門へ順番宿申
付候段大年寄ノ申出候

六月十一日 快晴

一備前江差出置候櫛野屋茂一郎ノ同役江書状差越候由ニ而大年寄差
出右者内濟取扱ニ致候様向方村役江も御移有之西大寺ニ而此節懸
合居候処善右衛門義ハ兎角是非裁許受度申張候得共大躰半分ノ
位ニも筋付候様之義ニ候ハ、内濟為仕可然旨存候間此段大年寄へ
何否之義申越候様ニと申来右書面大目附并一学殿へ差出相伺候処
何れも存寄無之伺之通程克内濟いたし罷帰候方可然旨被申聞其内
一学殿ニハ内濟ニ付候様ニ大年寄ノ善右衛門へ申付候而も可然旨
被仰聞候ニ付其旨差含宜取計候様大年寄へ申達ス

一町方物騒ニ付夜前ノ仮目明兩人非人二組申付候義御用番并大目附
へ相届候

一松岡治部助^ノ追廻今津屋郷藏^ニ非人^ニも可相住様子^ニ下目附申出候間心付候様被申聞其段大年寄へ申達候

一穢多頭^ノ願書差出郷中^ノ頼之賄之者薪代拾六文つ、相廻候様^ニ願出下方相糺候処葉煎し等宿^ノ相頼候節^者■八文つ、受取来候由

申出牢番共も賄頼^ニ而ケ様^ニ穢多取計候義ハ無之候得共葉煎し代ハ折々受取相渡候義有之候由申出ケ様^ニ是迄下方^ニ取計済来候事^ニ候ハ、今般も下方^ニ懸合遣可申夫^ニ不筋立節^者申出候様^ニ新治江申達候

一安岡町久米屋友七義大坂土佐堀式町目木屋与兵衛方へ廿日計之逗留^ニ而明十二日出立之願書大年寄差出承り届^{開廿五日夜}

六月十二日 白雨

一同心組小頭又六義病氣差重り候^ニ付役義御免願部屋目附孫八^ノ届出承り届先格之通願書差出候様^ニ申達ス

一右^ニ付加人老^人今晩^ノ被仰付候様大目附へ申達候処鈴木忠太来

一兼田川土橋引取船渡相始候段郡代所^ノ申来大年寄へ申達候

一小頭川端又六義病氣差重り候^ニ付御役義御免万^一死去仕候ハ、番代之義仲ケ間内^ノ可奉願候間憐愍を以被仰付被下候様願書新治^ノ差出受取置

一又六病氣差重り末期願差出候^ニ付新治孫八^ノ兩人^ニ小頭場合助申合相勤候様兩人^江申付候

一川端又六義病氣養生不相叶致死去候段新治^ノ届出候

六月十三日 快晴

一御用日登城

一西今町角屋善兵衛役介和兵衛義御代官早川八郎左衛門殿支配所当国大庭郡久世村中磯屋武兵衛養子^ニ差遣度人別除願御用番御聞濟^ニ付大目附へ出置御聞届申達候

一來ル十七日之夕觀音^ニ付例歳之通宮脇町関貫四時迄開置候段御用番^ノ大目附へ申達候

一御手廻り被召抱候間望之者ハ来ル廿二日迄^ニ申出候様可相触之旨大目附^ノ演説有之候由三浦^ノ通用有之町触差出候

一北郷門兵衛長屋住とく義林田町作人次吉借屋住桶屋勘七妻^ニ引受度人別人願大年寄差出承り届

六月十四日 白雨

一船頭町中野屋利七鍛冶町桂屋源治茅町木屋浅吉右三人八子博奕吟味之節致出奔不尋出過料可申付処尋日延願出承り届置候処弥行衛不相知候段届出候^ニ付一統之通過料錢差出候様申渡候

一牢舍人盜賊鉄藏義吟味^ニ付牢出入郡代所^ノ申来昼廻り為治昼番栄治差向候

一播州網干余子浜菊屋弥七郎悴源治一人例年之通小間物卸売来候段中之町甲屋幸助宿切手差出

一播州網干新在家伊部屋清六一人例年之通塩物鱈節卸売来候段右同人宿切手差出

一撰州有馬辻堂茂兵衛一人例年之通筆白粉卸売来候段右同人宿切手差出候

一德守宮納涼初日^ニ付例歳之通出番孫八百藏差出

一西今町湯田屋太郎左衛門義大坂淀屋橋南詰綿屋義兵衛方へ廿五日

許之逗留^ニ而明十五日出立之願大年寄差出承り届^{同廿九日届ル}

六月十五日 雨

一夜前徳守官警固出役孫八百藏無別条引取候段今朝届出候

六月十六日 朝雨 昼後晴

六月十七日 時雨

一 牢番和田義右衛門病氣全快仕明十八日^ニ出勤届出候^ニ付加人御使

組明日^ノ差戻候段大目附^ヘ紙面^ニ而相届候

一 二階町組屋忠三郎所持自国受酒株去ル辰之正月^ノ宮脇町松野屋伝助^ヘ貸置候处此度取戻候届書差出承り届

一 二階町并筒屋弥三郎所持他国受酒株去ル卯九月^ノ坪井町万屋佐助^ヘ貸置候处此度取戻候届書差出承り届ル

一 坪井町小倉屋喜助家屋敷南側^ニ而表口十一間裏行拾七間但式歩半

役也尤土藏三ヶ所東隣ハ三船八郎右衛門西隣ハ南北通り筋^ニ候右

家屋敷西今町常屋文兵衛取次^ニ而質物^ニ書入^ケ月^ケ考步考朱之利

^ニ相極当六月^ノ来午十月迄銀札四貫目借受度願書大年寄^ノ差出し

承り届^{同十九日日本証文差出字和元西八月十七日受迄消}

一 菜種油見改之者去ル十五日土居^ニ而見改居候由湯田屋太郎左衛門

大坂^江参り懸^ケ土居^ニ而見受候趣同職之内^ヘ申越候段大年寄申出

候明日可及御沙駄候

六月十八日 雨

一 御用日登城論語講尺有之

一 脇坂淡路守殿預り所久米南条郡山ノ上村百性関右衛門娘くら義安

岡町并手屋太郎兵衛役介喜八妻^ニ引受度人別人願御用番中御聞濟

付大目附^ヘ差出置御聞届申達候^{七月一日日本証文差出}

一 小笠原信濃守殿領分播州赤穂郡釜崎村小右衛門老人元魚町福永屋

宇三郎借屋住南屋孫三郎引受度人別人願右同断取計相濟^{同廿一日日本証文差出}

文差出

一 菜種油見廻り之者土居^ニ来去ル十五日相改候趣御用番^并大目附^ヘ

及噂候

一 右同断蔵合孫左衛門^ノ紙面^ニ而申越候^者倉敷村弥吉夜前常盤屋丈

右衛門方^ヘ罷越昨日倉敷村油見改相濟今日当所^江来候段為相知且

同人義兼^而差添相廻り候筈^ニ候処見改之者差含有之候^ニ付案内差

添之義及断候由^ニ而弥吉義^ハ得案内不仕尤因伯当国三ヶ国之分手

引致候筈之処右何れも断^ニ付不能其義候間いか様^ニ申候共手作手

絞と堅く申張可然様^ニ申候処^江倉敷^ノ弥吉呼^ニ来直^ニ罷帰候由申

出候間其段大目附^ヘ申達御用番中^ヘ紙面^ニ而書付差出候

一 勝与八郎殿^江再答下案去ル十三日大目附松岡治部助^ヘ差出置候処

少々致添削被差戻候^ニ付其俣御用番中^ヘ差出置候

一 石代改右御同人当所^江被参候節取計伺書松岡治部助^ノ差出候様昨

日申来佐々木主馬^ノ未相戻候^ニ付昨日取戻置今日治部助^ヘ差出候

所無程差戻し候

一 石代改勝与八郎殿倉橋定之丞藤井信五郎止宿入用都合三百七拾七

匁七厘有之右証文四通大年寄^ノ差出致奥印大目附^ヘ及噂勘定奉行

^ヘ小手形差添相渡置候尤先例公料巡見使止宿之節も上御^ニ相成

候事右例を以申達候

一 菜種大坂^江積登候義西川^ノ聞合之人差越^并書状差越未調中^ニ付何

れとも難及答旨申候処人ハ其旨承り即刻罷帰申候右返去可仕哉如

何可取計哉と大年寄伺出候ニ付松岡治部助へ及内談候処返書不差

遣候方可然と申候ニ付其旨大年寄へ申達候

一 町方盜賊沙駄此間ニ而者相止ミ先ツ静謐之趣ニ付暫見合可申仍而

今夕ノ相止メ候段御用番ニ大目附へ紙面ニ而申達候尤目明へ其段

申付候様新治へ申達ニ目明役も差免候事

一 堺町團圓屋太郎兵衛義太田村九郎左衛門持宗中溝僧都車ニ而挽臼

壱口拵相稼度願書差出郡代所へ懸合候所向方江も願書差出在方故

障之義も無之ニ付御用番中へ相伺候処御聞届ニ付其旨承り届候

様ニと通用有之承り届候段大年寄へ申達候尤向方江運上銀式枚

可相納願濟也

一 水車綿実油絞一件帳上原彦藏ノ被相戻受取置候

一本行寺町方夜題目執行当已六月ノ来ル未之年迄御許容相濟候段寺

社取次兼帯三浦十郎左衛門ノ通用有之

一 八子博奕参会吟味之節致出奔候鍛冶町桂屋源治茅町木屋浅吉船頭

町中野屋利七右三人弥尋不出候ニ付過料八拾匁七步九厘取大年寄

差出候

一 大坂ノ油稼見改之者三人堺町橘屋伝五郎方へ今日来候得共未何方

之者とも名乗不申候由大年寄申出候

一 宗門改帳判取来ル廿五日廿六日両日例年之通取計可申ニ当年ノ頭

錢取立候旨大年寄届出候

一 西今町橋之下ニ野伏女相果居候段申出候ニ付大目附構場所之義故

其段大目附江為知申遣候

六月十九日 雨

一 川端円藏実父忌服昨日迄ニ而七日相濟諸組ハ七日ニ而致出勤候先

格之旨部屋目附共ノも申聞候ニ付今日ノ出勤候様ニ申付ル依之加

人御使組鈴木忠太今日ノ差戻候段大目附へ相届候

一 菜種油見改之者倉敷ニ而改之様子承り合候処委細之義ハ不相分候

得共油屋共一札取候由右一札写孫左衛門名代喜左衛門ノ昨夜差出

候ニ付大目附松岡治部助へ差遣其後直ニ御用番中へ差出候

一 西今町橋下行倒女為見分御徒目附下目附差出候間其刻隣町年寄出

会候様ニ可申付旨大目附ノ申来其旨大年寄へ申付候

一 勝与八郎殿へ之再答下案昨日何置候処松岡治部助添削附紙之通可

申遣之旨主膳殿ノ紙面ニ而申来候ニ昨日差出置候油改之もの、書

付も被差戻候

一 備前源太郎一件ニ付油屋善右衛門差添ニ差出候櫻野屋茂一郎義書

状差越甚不埒明事ニ而致迷惑候間代り之人差越呉候様ニ申越候様

子源五兵衛喜左衛門ノ申出候ニ付存寄申聞置候処猶又孫左衛門不

快ニ付名代喜左衛門罷出何れ筆談ニ而者相濟兼ニ是迄之様子も一

向相聞不申候義故右返書見廻旁ニ同役年寄孫三郎差遣可申哉と申

出候ニ付其段ハ勝手次第之義承り可置筋ニ候得共抑ノ御差函之義

故治部助程江及噂可然と存罷越遂内談候処同意ニ而御用番中江

沙駄ニも及間敷挨拶ニ付右之通勝手次第宜取計候様喜左衛門へ申

達候

一 郡代所ノ牢舎人鉄蔵呼出立合申来昼廻孫八出番佐十郎罷越出入取

計之

一 鉄炮町喧嘩一件当役差出候口書不殘相戻り候由ニ而郡代所ノ相廻り受取置

一 西今町橋下ニ行臥相果候非人見分相濟候間非人共へ取捨可申付旨大目附ノ申来其段大年寄へ申付取捨相濟候段申出候ニ付其旨御御番并大目附へ相届候

一 御代官并稻垣藤四郎殿真加部論所見分ニ近々被相越候間其節町方取計左之通伺濟ニ候間其旨可得相心之旨大目附ノ紙面ニ而申来候

一 道筋通行前改而不及掃除不見苦程ニ可致事

一 町々保頭先払

一 同心組先払

一 町奉行継肩衣着町方江罷出

一 今般当所郷中論所為見分御越被成御苦勞

一 奉存候御用事等も御座候ハ、可被仰聞候

但出役場所之義ハ追而可申談旨申来候

一 西今町橋下ニ相果候野伏昨晚女と見受其旨届出候処今日見分之節見候得者男ニ而有之不吟味之届仕恐入候段西今町年寄申出候段大年寄申出候ニ付大目附へ罷越右ニ付叱置可申哉と存寄相尋候処以来入念候様之位ニ申達置可然挨拶ニ付其旨大年寄へ申達候

一 菜種見改之もの昨日橘屋伝五郎方ニ致止宿近辺江可罷出旨申候付御届不仕旅人之義ニ候得者何方へ御出被成候共宿亭主御案内可致忝人徘徊ハ不相成段伝五郎ノ申述候得者罷出候義相止メ今朝誕生寺へ參詣致候由ニ而無何事罷歸り候ニ付油屋共見江隠れ人付見候

得者檜原前并広瀬之車場へ立寄夫ノ直ニ弓削之方へ行候由喜左衛門申聞候ニ付序有之松岡治部助へハ相咄置候且又覺書等落し置伝五郎ノ差出候旨右書付ニ愚支配人西之浜弥吉と有之是ハ倉敷之狭吉事之由喜左衛門申聞候

六月廿日 雨

一 昨十七日夕（夕）勸音（白塗町正）付（白塗町正）匠格之通出番為治磯兵衛徳守宮江差出候処無別条引取候段昨朝届出候

一 油屋共油切候ニ付御内々ニ而御勝手へ三拾貫目拝借仕大坂江參油

調来候（白塗町正）右銀子相廻候義致兼候間来ル廿三日御飛脚立候節致同

道心を付貫度之旨右両様内々申込置候間自分ノも乍内々口を添呉候様喜左衛門ノ内々申聞依之上原彦藏へ及挨拶

一 先月廿八日牢浚之節不埒有之候ニ付右之者共今朝（今朝）叱可取計ニ付夫々手配申付置候

六月廿一日 雨

一 先月廿八日牢浚之節墨并筆式本小三折十枚計させる火打ふくろ柱を巻有之候金物ニ宜祥刃を付候由古双紙一面紙数十枚計木櫛一枚牢内ニ有之候ニ付又六孫八江申付牢舍人共詮義場へ呼出一々遂吟味候得共いつ頃ノ有之候共不相分窓之穴ニ有之を取出し杯と申不相分番子共も可遂吟味処誰人遣候と申義不相知事故外ニ吟味之詰方も無之早速咎等可申付処和田義右衛門病氣ニ而引込居又六も致病死旁以致延引候処義右衛門義も致出勤候ニ付孫八新治ノ為相糺候処不調法之旨申出候付今朝五ツ時新左衛門新治孫八牢屋へ差向穢多頭へ左之通申渡并牢番共兩人新治宅へ呼出左之通申渡ス尤相

伺可取計候得共牢舎人別条も無之其上事過候事ニ付拙者場合切ニ
而左之通取計之

牢内諸メリ之義心付候様ニ兼々申渡候処 和田儀右衛門へ
先月廿八日牢浚之節筆墨紙并きせる火打 申渡

其外品々牢内ニ有之其方共心附薄油斷

之事ニ候且亦右之様子牢舎人庄助ら内々其方へ申出候由
右躰之義承り候得者早速可届出之処無其義牢浚

之節も出改之者江も不申聞重々等閑之致方不埒至極
之事ニ候依之急度可申付候得共牢舎人別条無之ニ付
先此度者以用捨を追込申付候相慎可罷在候

右同斷——牢内ニ有之 内田山七江

其方共心付薄所ら右等之及支義不埒至極之事ニ候 申渡
依之急度可申付候得共新番之事故先此度ハ用捨を以
叱置候已来可入念候

先月廿八日牢浚之節番子菊治義 穢多頭

牢舎人新吉乙松ら被相頼紙帳を番所 九郎右衛門

敷板之下へ隠し遣候始末御法相背 太兵衛へ

不届之事ニ候依之其方共へ引渡候間相当 申渡

之咎急度可申付候

且又右牢浚之節筆墨紙并きせる火打

其外品々牢内ニ有之右者畢竟物番子共

常々勤方不宜所ら右躰之及支義一統不埒之事ニ候

向後御定法之趣堅相守別而大切ニ番相勤候様

長名番庄屋并惣番子共へ可申付候

一牢番足輕和田儀右衛門追込申付候ニ付加入人明朝ら被仰付候様

ニ大目附へ申達候尤牢番引込と相届候野尻和助来

一孤独美濃職人町順経病氣差重り候段大年寄ら届出候ニ付先例之通
為見分部屋目附新治差向候処病氣相違も無之看病等も行届候趣例
之通一札取指出し候明後日出仕之上可及御沙駄事

一牢舎人新吉療治二廻り濟当人ハ代り医相願候得共最早療治ニ及間
敷旨医師申出候付其通り承り置

一孤独美濃職人町順教教落命候段大年寄ら届出候ニ付勝手次第取計
候様ニ申達候尤明後日出仕之上見分一札御用番中へ差出死去可相
届勿論大目附勘定奉行へも可相届事

一二町目井筒屋弥三郎所持之他国受酒株新魚町櫻野屋茂一郎当六月

ヨリ来ル未五月迄借受商売仕度願承り届ル午九月廿八日取戻候

一二階町組屋忠三郎取持之自国受酒株当六月ら来ル未ノ五月迄坪井
町万屋佐助借受商売仕度願承り届

六月廿二日 雨

一河原町熱田市正娘義五ヶ年已前御領分西々条郡下森原小田草明神
之杜家小林河内妻ニ差遣置候処河内死去仕候ニ付当才之娘召連罷
帰り候ニ付右二人引受度人別人願下方引合相濟候段大年寄申出候
付承り届

一牢舎扶持四俵内貸証文與書取計之尤来月へ式斗三升式合五勺持越
ニ相成居候事

六月廿三日 時雨

一御用日登城

一東西新町中之町三町ら例年之通林田上之町悪水拔大溝浚願書差出
郡代所へ懸合之上御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達候

一 伏見町徳嶋屋忠七借屋住孤独宗元義先年も御救扶持被下候処尚又
行届兼候ニ付御救被下候様願御用番御聞濟ニ付大目附へ差出勘定
奉行へ及通用候

一 美濃職人町孤独順教病氣見分一札御用所へ持出口達ニ而死去之段
申達大目附へ差出置勘定奉行へ及通用

一 櫻野屋茂一郎昨夜書状差越内済取扱ニ可相成趣申越候趣御用番
大目附へ口達ニ而申達ス

一 大坂の油改之者共此間来無何事誕生寺へ参候由ニ而帰候段御用番
中へ及御噂候

一 大目附月番松岡治部助の於役所左之通被申渡候

真加部堺論所改ニ近々稲垣藤四郎殿被相越右逗留

之間郡代三浦十郎左衛門出張被仰付候間右留主中

拙者義郡代仮役被仰付候

右御受仕十郎左衛門へも及挨拶置候事

一 大目附の来ル廿七日稲垣藤四郎殿通行ニ付左之通取計候様被申聞
候

一 右門義東大番所前へ出先日申達候通可及挨拶且又今般ハ

若堂三人合羽籠二荷ニ被仰付候

右之通ニ付合羽籠二荷ニ被仰付候の沓籠被仰付候様

申達候得共其段ハ不相濟候

一 町方取計先日申達候通可被取計候

一 御使組加入入用ニ候ハ、小勤者へ申達置候間直ニ小勤者

江可申遣旨被申聞候式人申遣井汲庄平加藤登八来

一 御貸人馬例之通申付置候間左様可被相心得候

一 院庄川兼田川へ御船相廻候間御蔵元船年寄出役可被申付
候ニ御船奉行茂右衛門雄助のも通用有之候

一 在分表組先有之候間安岡町ニ立宿可申付事

一 右ニ付自分立宿ニ同心組表組立宿ニ東西江御蔵元船年寄差出候様

御通筋改ニ而不及掃除不見苦程ニ取片付可致ニ町分保頭先払可申

付候旨大年寄へ申達候

一 牢屋繕三四五七番致出来候間牢舎人入替取計候様申来明日昼廻り
より取計候様新治へ申付候

一 川端又六番代同心組萩野藤藏悴佐五兵衛へ被仰付被下候様中間之
者願書差出承り届ル

一 伏見町宗元孤独扶持内貸証文差出拾四匁広治の受取差越大年寄へ
相渡候

一 勝与八郎殿江月毛馬尾切候もの弥不相知段ニ答今晚仕廻之御便ニ

江戸へ差遣尤御留主居田中仲へ致添状相届呉候様申遣右懸合書類
不残写相廻し候別記有之ニ付略之

一 大目附の先日御祝被下候大納言様御台御祝ハ江戸表の
御台御様御叙位若君様御袴着と江戸表の申来候間其通ニ書認

可置旨被申聞候

一 同心組江原文蔵全快仕候付明廿四日の出勤仕候段新治の届出候右
ニ付加入磯兵衛可差戻答ニも候得共今一人引込も有之尚又近日加

入入候事故先差留置候

六月廿四日 曇

一 稻垣藤四郎殿来ル廿七日御通行之砌左之通申付候由大年寄書付差出

一 兼田川渡場御船江 御藏元 文五郎

船年寄 浅右衛門

一 院庄川右同断 御藏元 利左衛門

船年寄 彦市

一 町奉行立宿 材木町 三家屋幸三郎

右下宿 同 町 車屋次郎太夫

一 在分先弘表組立宿 安岡町 篠屋市右衛門

一同心組先弘立宿 東新町 綿屋忠兵衛

一 牢入替昼廻り孫八百藏取計之

六月廿五日 快晴 少白雨

一 今晚土用ニ入候ニ付暑中御機嫌伺御徒格已上五半時登城三奉行例之通御小性頭謁於七間廊下御奏者番一同ニ申上之其外不及挨拶支配頭寄親へ廻勤之事

一 稻垣藤四郎殿先触左之通夜前到来今朝写差出候ニ付御用番中へ差出候処即刻相戻り大目附へ差出置郡代所江も及通用

覚

一人足 拾六人

内

四人乗物老挺 式人具足 三人長持老棹

式人合羽籠式荷 老人竹馬一荷 老人両掛老荷

式人山駕籠老挺 老人分持老荷

一本馬 三疋

右者 作州論所見分吟味就御用稻垣藤四郎義明後廿四日明ケ

六時但州生野陣屋出立作州西々条郡下原村迄被相越候条於

宿々書面之人馬御定之賃錢受取之無遲滞差出可被次立候且

渡舟川越之場所前宿及通達指支無之様取計止宿之義者左

之泊付之通相心得都而差支無之様取計可被申候此先触

早々次送り着之上可被相返候已上

稻垣藤四郎手代 高橋加久治 印

已六月廿二日 檜山寛左衛門 印

勝部三五兵衛 印

森垣 真弓 猪篠 粟賀 尾形 仁豊野

姫路 飾西 鷺崎 千本 三ヶ月 佐用

土居 勝間田 津山 下原 右宿々問屋年寄中

泊り附

廿四日 姫路 廿五日 佐用 廿六日 勝間田

追而 旅宿手狭之所ハ上下六人之積別宿申付

可被置候以上

一大目附中左之通一統演達有之町方江者 触書差出可然旨被申聞候

近々生野御代官稻垣藤四郎殿村境為見分被相越候右逗留

中大川筋嵯峨堀上香々美川筋寺元村下江 罷越間敷候

右之通町触并 組中高石垣番迄触書差出候

一来ル廿七日稻垣藤四郎殿通行ニ付同心組番割左之通差出

御先新治 御供百文 朝番泊七 昼番兵衛

〔兩儀府正〕
為治

四歳

昼廻 加人 佐十郎 夜廻り 加人 孫八

六月廿六日 快晴

一 牢番和田義右衛門義追込昨日迄ニ而五日ニ相成候間今朝於新治宅孫八立合追込差免候右ニ付加人牢番野尻和助義明朝々差戻候段大目附へ相届候

一 荻野藤藏義病氣全快ニ付明廿七日より出勤仕候段新治より届出候依之加人磯兵衛義可差戻筈ニ候得共稲垣藤四郎殿通行ニ付先其俣差置候

一 明朝稲垣藤四郎殿通行ニ自分出宅正六時と夫々江相触置候

六月廿七日 快晴

一 稲垣藤四郎殿通行ニ付正六時出宅用意ニ候処勝間田聞合之者今晚罷歸夜前五時半時勝間田駅江到着今朝六時出立之旨申出候ニ付六時半時出宅材木町三家屋幸三郎方へ罷越扣居候処四時通行ニ付大番所前御製札場之脇へ罷出居候御先へ手代罷越名面相尋候ニ付役名性名申述候所唯今藤四郎可懸御目旨申聞候ニ付炎暑之時分御苦勞之段及自分挨拶引続藤四郎殿橋之下り口ニ而被致下乗候ニ付進ミ寄

去ル十九日之処ニ認置候通及挨拶候処
段々御叮嚀入御念候義ニ御座候御手前ニも大暑之砌弥御堅固御勤珍重ニ存候今日ハ別而御苦勞と挨拶有之候

尤藤四郎殿ハ白衣手代ハ踏込着用也右挨拶畢而乘輿被致候又々三
家屋幸三郎方へ引取安岡町御出離レ注進ニ待之引懸ケ御用番主膳

殿御宅へ罷越無滞町分通行相濟候段相届大目附江馬脇より届手紙差遣候
九ツ前時帰宅

馬 草履取手人 槍 合羽籠 右同
馬 草履取手人 槍 合羽籠 右同

一 同心組明日ハ相揃候故明廿八日より加人御使組河野磯兵衛差戻候段大目附へ手紙ニ而相届候

一 備前へ罷出居候檉野屋茂市郎見廻ニ罷越候野田屋孫三郎一昨夕罷帰候由夜前大年寄申出西大寺ニ而内濟懸合も不相調及破談去ル廿四日善右衛門茂市岡山江罷出候由申出候

一 二町目紙屋茂三郎役介幸吉義去ル十五日罷出不罷帰相尋候得共行衛相知不申候旨届書差出例之通百日尋申付ル

一 二階町山手屋弥太郎家守忠藏借屋住人儀作并悴李藏右兩人栗原衛守長屋へ引越度人別除願大年寄差出承り届

一 山本藤四郎長屋住久藏義一人福渡町作人治兵衛引受度人別入願大年寄差出承り届

一 林田町河田屋忠助妹義東南条郡林田村茂吉妻ニ差遣度人別除願右同断承り届

一 東南条郡林田村与八郎借屋住竹三郎一人林田町門屋亀藏借屋へ引受度人別入願右同断

一 境町稲実屋義七郎母三月廿二日願書差出身延山へ参詣仕候処未罷帰候ニ付今十五日計之日延追願差出承り届
七月十五日帰ル

六月廿八日 快晴
一 御用日登城

一 脇坂淡路守殿預り所当国勝南郡位田村徳兵衛娘義西今町井口屋利八妻ニ引受度人別入願御用番御聞濟ニ付大目附中江右願書差出置御聞届申達候 同廿九日住宅証文差出

一 馬持廿五人例歳之通大豆壹俵つ、拝借仕度願書差出勘定奉行へ懸ケ合之上御用番御聞濟ニ付右同断取計之

一 備前へ差出候油屋善右衛門事野田屋孫三郎罷帰申聞候趣御用番中# 大目附へ及噂候

一 大目附松岡治部助江川戸藏土手普請有之候間人留申付候間其旨隣町# 組之者程へ可申達置旨被申聞候付其旨大年寄# 孫八江申達又

六月廿九日 快晴

一 例月之通番賃銀為相渡候

一 銅之義前々被仰出之通大坂銅座江可相廻公儀御触大目附中江来写取町方へ相触候

一 勝部村蓮之葉御払入札之義例年之通相触候様近藤伊左衛門江申来町触差出候

一 万人講場ニ有之候諸道具致風入可然旨宮田喜左衛門伺出候ニ付宜取計候様申達又

一 大坂油改之者為監察孫右衛門下人久世落合勝山へ差遣候所右三ヶ所改候而津山表へ可参趣ニも相聞候得共直ニ因伯江可移程も難計

由# 反問ニ相成候段申出御用番中へ及噂候 御家様

一 今夕徳守宮江坪井町揚焼灯出候旨# 福渡町も右同断届出候旨大年寄届出候# 三町目右同断届出候宮脇町も右同断

一 御堀草取出役杖突江京町年寄へ一兩日之内石垣草取候様ニ御作事役人申候旨申出候趣大年寄伺出其通可取計之旨及差図置大目附へ其段申達候

一 川端又六番代萩野藤蔵倅佐五兵衛義昨廿八日三本入扇子持参目見ニ罷出例之通新治孫八詰合ニ而調又

一 牢舍人庄助扶持米不差越候旨牢番義右衛門申出其旨申付候

一 備前岡山小畑町鼠屋甚八手代文十郎一人例年之通元結卸売来候段二階町境屋伊右衛門宿切手差出

一 徳守宮名越江付藤蔵百蔵警固差出候所無別条引取候段翌朝届出候

七月 小

月番

御家老 安藤丹後殿

御家老 小須賀一学殿

大目附 小須賀貢 御家様

大年寄 玉置源五兵衛

諸吟味 宮田喜左衛門

七月朔^己 旦 快晴

七月二日 快晴

一河瀬宇太夫長屋今暁八ツ半時過出火焼失致出役六ツ前時帰宅帰り懸ケ御用番^江相届大目附も一家之義故口上^ニ申置候尤大目附小須賀貢出馬^ニ受前之場所故暫見合被居候ニ付引取候様被申聞先へ引取候且又些之出火^ニ左之町々ハ不存不罷出其余ハ皆罷出候

京町 吹屋町 船頭町 伏見町 材木町

勝間田町 東西新町 橋本町 安岡町 拾町也

七月三日 快晴

一御用日登城申上候御用向無之

一銅之義公儀御触書大目附へ差戻候

一宮川大橋破損注進書橋本町へ差出大目附へ差出候

一昨卯年勝山領分々当町和泉屋三郎助へ造酒株讓受候節勝山^江懸合之文例写差出候様松岡治部助被申聞写差遣候

一八朔割帳面大年寄差出し及一見差戻候

但人馬問屋入用元利合 三貫七百四拾七匁六歩三厘

都合惣辻四貫八匁四厘也

七月四日 快晴

七月四日 快晴

一三船新治義田中分ニ致普請候ニ付役介計為引越自分一人ハ拝領屋敷ニ罷在候段三船孫八々届出候

一浜屋源右衛門成覚寺へ懸り合返答書不残昨三日細江武助へ相渡候

一左之通大年寄共々惣問屋共へ演達いたし候旨申出承り届尤浜田屋太郎左衛門大坂^ニ三拾貫匁計油調明日着岸之由^ニ候

一町方惣油屋共方^江大坂出油屋々菜種子油取寄候間相對直段を以勝手次第最寄油屋之内^ニ卸ニ買請尤直段之義^者申合之上可成丈下直^ニ商売可致候

七月五日 快晴

一因州八東郡西御門村住人吉右衛門^并娘いろ病氣ニ付備前津高郡野々口村々送り出し皿村々古城村^江送り来候段郡代所へ申出送り出し候趣少々不恙^ニも候得共郡代所^ニ相糺候事故継送り候様大年寄へ申付候処林田村へ送り届候段届出候

七月六日 快晴 曇 白雨

一錢通用百式文ニ相成候段大年寄届出候

一東新町種屋伊助母当三月廿二日相願身延山へ參詣候処未罷帰候付今六十日之日延願書差出承り届^{七月十四日届ル}

一東新町綿屋忠藏父忠兵衛義当三月十九日願書差出身延山へ參詣仕候処未罷帰候ニ付今六十日之日延願書差出承り届ル

七月七日 快晴

一左之通先触到来写差出

馬式疋

右^者論所地改手代鈴木逸八内田卯八下野丹後美作国^江差遣候間道中往返^并彼地御用中共可継送もの也

巴三月 筑前

肥前 右宿々村々問屋年寄名主中

肥前

筑前

右宿々村々問屋年寄名主中

御証文

一馬式疋

右^者就御用明七日五ツ半時作州真嶋郡草加部村出立大坂表へ罷越候間別紙御証文写之通相心得書面之馬差出置無滞繼立且渡船川越止宿等無差支様取計此先触早々繼送大坂北葺屋町播磨屋宇兵衛方へ可被届候以上

七月六日 論所地改手代 内田卯八

鈴木逸八

坪井 七日泊津山 八日泊佐用 九日姫路泊

十日泊明石 十一日西宮 尼ヶ崎

^{（旅籠町正）}右宿々村々問屋年寄名主中

論所地改為御用鈴木逸八様内田宇八様明十五日五ツ半時江戸御出立被成候ニ付御証文御写^并御先触共箱ニ入被遣候間則差越申候先々無滞様相届馬用意可有之候已上

大伝馬町

巳 四月十四日 年寄御伝馬役

従品川大津迄問屋中

右手代鈴木逸八内田卯八義^者去ル五月廿九日罷通り候ニ付其節之例を以左之通夫々^江申付候

一町分保頭先扨

一同 同心組為警衛先へ立見へ隠れ目通ニ^而開ク^{文藏}

一今般ハ止宿ニ付夜中旅宿脇立宿ニ相詰候事

一宿境町立花屋伝吾へ申付候段申出ル

右之通取計先格之通申付候段御用番^并大目附へ手紙ニ^而相届候右先触写御用番中へ差出下り候上大目附へ差出

一七夕ニ付組中不殘罷出調之例之通煮メ生酢ニ^而神酒差出し諸事上巳之通也且又七夕ニ付昼廻り不差出候

一雲州能儀郡安木村曾右衛門夫婦西国順礼帰り懸ケ播州佐用郡上月村ニ^而曾右衛門相煩同村へ送り出し川辺村へ送り来候処上月村送り状ハ有之候得共往来手形不致所持候ニ付郡代所ニ^而為相糺候処

妻も差添罷在外ニ同道も一人有之慥成趣ニ繼送り候様ニ大年寄へ申付候

一雲州へ御呼下し被成候京都医師御差帰し被成候ニ付当所泊之先触来候ニ付順番川口藤左衛門へ可申付旨大年寄伺出宜取計候様申達

^并旅籠等之義失墜無之様ニ懸合致候様ニ申達ス

七月八日 曇 少白雨

一御用日登城

一論所地改手代鈴木逸八内田卯八昨夜九時頃致止宿候ニ付今朝御用番^并大目附へ手紙ニ^而相届候

一右同人町分無滞通行候段出仕之上御用番^并大目附へ及御沙駄候

一雲州能儀郡安木村曾右衛門町分送り出し候段出仕之上御両所^江及御沙駄候

一因州鳥取本寺町市場屋七郎右衛門娘みよ^并同人娘いろ右二人中之

町北原屋利七借屋住兵庫屋重兵衛妻子ニ引受度人別人願御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達候^{同十五日住宅並文書出}

一戸川町平田屋平八借屋住伏見屋太兵衛八十四才同人妻七十ニ罷成

夫婦共老衰仕候処太兵衛当三月怪我仕步行不相叶依之二人とも御救扶持歎出御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置勘定奉行江も及通用候

一宗判取例年之通町寺院八十八日江廿日迄郷中寺院八廿一日江廿三日迄罷出候様書付大年寄差出寺社取次細江武助へ相渡候江

一益中御触例歳之通大目附中江来組中高石垣番迄相達

一来ル十四日町方為尔廻町仕候段御用番中へ相達右ニ付御貸人馬之義大目附中へ相達小勘者江も懸合置候

一盆中例歳之通関貫開置候段御用番ニ大目附へ相達候

一御藏米六拾八匁五歩町米六拾四匁五歩

一鳶口老本雨合羽二ツ箱焼灯三高張焼灯老損候ニ付引替之義御達被下候様大目附へ口上ニ而相届候処承知ニ候右ニ付小勘者へ懸合候

一先焼灯ハ引替可申候間割場迄可差出其外ハ追而御用日之節差出候様申聞候

一上紺屋町百万遍執行大年寄江届出夜廻へ申達ス

七月九日 曇晴少白雨

一雲州へ罷越候畑立酪夜前止宿今朝出立之旨申出候右ニ付出羽守様御容鉢内々為相伺候様一学殿被仰聞候付申付置候御腫氣ニ而御座候処麦飯鯉計被召上追々御快方ニ候得共未御床揚と申程ニ無之候得共御氣遣ハ無之哉之旨大意認出し御用番中へ差出候

一御堀掃除料相廻候様御作事奉行江申来大年寄へ申達候
一備前渡部利右衛門竹内又右衛門江飛札到来善右衛門源太郎一件内
一濟相調願下ケ願書差出候間存寄も無之候ハ、可承届哉と問合申来

早々御用番中へ持参思召も無御座候ハ、存寄無之旨可及返答哉と相伺候処思召無之候間宜取計候様被仰出尤返書下案不及御読之旨被仰聞依之被入御念候御紙面之趣致承知於当方何之存寄も無之候間御聞届可成旨及相答ニ善右衛門内濟ニ付願下ケ願書相廻り候ニ付差戻候

七月十日 曇

一御堀掃除料例歳之通式百八拾九匁歩四厘昨夜大年寄江差出候ニ付今朝御作事江為持遣候所受取書来玄関ニ張置

一備前江善右衛門一件内濟可聞届哉と申来候段大目附月番江申達并松岡治部助義ハ抑江懸之義故為知申遣候

一札元山本三郎左衛門祖母死去ニ付左之通引込届出候

母ニ付五十日忌服引込 茂渡藤右衛門
祖母ニ付三十日引込 山本三郎左衛門

右同断ニ付廿日引入 妹尾平兵衛
右同断ニ付十五日引入 茂渡兵吉

右之段御用番ニ大目附へ手紙ニ而相届候但兵吉義者不相届候事

一大目附江御手廻り被召抱来ル十八日揃有之候間可罷出旨相触候様ニ申来尤是迄ハ五寸以下之者も罷出候得共今般ハ五寸以上之者計罷出候様可達旨申来書役江申付町触取計

一土岐山城守殿内海内役人秋田勝左衛門江郡方役人江飛脚差越致披見候処菜種之義從公儀御触達も有之候ニ付以來ハ如何取計候哉大坂江登之御届振并下方菜種并油等取計方如何申付候哉と一々ケ

条書いたし問合申越依之未取調中ニ而決定之義無之候間難及御答

旨下案相認松岡治部助へ致相談御用番中へ相伺候処取調中と計申候も何とやら隔意之様ニ相聞へ^{〔取調〕}右取調当役受持居候様ニ^{〔取調〕}も如何ニ付下方油屋共へ以来取調申付置候処大坂へ見改之罷越候^{〔取調〕}趣ニ付右改相濟候上ニ^{〔取調〕}可差出旨ニ^{〔取調〕}未決定候事無之候間當時ニ^{〔取調〕}者一々難及御答候間追々取締候ハ、尚從是為御知可申旨及返答候^{〔取調〕}如何可有之哉其趣相認尚又治部助へ及熟談相伺候様一学殿被仰出其趣ニ相認治部助へ及相談候上相伺候候之通宜取計候様被仰出其趣及返答尤郡方へ被仰下候得共受方ニ付從拙者及御答候段申遣

七月十一日 時雨

一 菜種油見改之者昨晚罷越橋本町ニ致止宿候旨大年寄申出候付其段御用番^{〔取調〕}大目附へ紙面ニ^{〔取調〕}申達候

七月十二日 時雨 雨

一 安岡町表屋長兵衛所持之自国受酒株去ル卯十一月西今町米屋利助へ貸置候処此度取戻候段届書差出承り届

一 右同人所持之自国受株三丁目余田屋与七へ相讓度願書差出承り届ル

一 戸川町北側ニ^{〔取調〕}作人幸助家屋敷表口四間裏行拾七間但彦軒役西隣ハ野本屋藤右衛門東隣ハ福永屋藤助借屋也右家屋敷代銀札四百匁相極同町永野屋多助へ売渡度願承り届^{〔取調〕}翌三日發狀出

一 昨夜更廻り申付候処椿高下南新座町関貫ノリ能無別条旨新左衛門新治届出候町関貫も右同様文蔵為治届出候

一 同心組大難洪ニ付勘定奉行上原彦藏へ懸合候所同人口入ニ^{〔取調〕}御金

奉行竹内要左衛門へ遂相談候処一ヶ年考割之利足ニ^{〔取調〕}三貫百六拾四匁八步借物相調自分奥印ニ^{〔取調〕}同心組八人之連印証文相渡小頭代孫八差出受取相渡候委細^{〔取調〕}別紙証文有之候

一 四拾間関貫番所脇竹垣大損不^{〔取調〕}付御作事^{〔取調〕}申遣候所并崎与助屋敷之由申越候ニ付并崎与助へ其段手紙ニ^{〔取調〕}申遣候

一 備前へ差出候新魚町油屋善右衛門檉野屋茂一郎義出訴一件致内濟今晚罷帰り渡部利右衛門竹内又右衛門ノ書状差越先達^{〔取調〕}相廻候書類不殘差戻候右之段翌十三日御用番中へ右書状差出大目附^{〔取調〕}も相届^{〔取調〕}松岡治部助へも相達候

七月十三日 雨

一 菜種油見改之者綿実水車御用油之義粗承知仕度相尋呉候様常盤屋丈右衛門へ相頼候由源五兵衛喜左衛門申出右ニ付候^{〔取調〕}兩人考^{〔取調〕}何卒御貧着不被成候様ニ仕度ものと存寄申出候ニ付其段上原彦藏へ申達候所至極尤之由右兩人存寄通ニ相答候様可仕旨申達候様ニと返答有之其段兩人^{〔取調〕}申達候

七月十四日 時雨 晴

一 綿実油之義大坂見改之者へ答之義尚又源五兵衛喜左衛門存寄申出依之上原彦藏相招直談ニ為申述候

一 例歳之通七半時出宅致廻町帰り懸御用番中へ相届大目附へも申達四時頃帰宅諸事^{〔取調〕}供立例歳之通供同心組新治佐五兵衛尤去歳迄ハ弓張^{〔取調〕}灯^{〔取調〕}彦張之処左右ニ^{〔取調〕}披露之節間ニ合兼度々左右へ取かへ甚不便利ニ付当年ノ弓張^{〔取調〕}灯^{〔取調〕}二張左右同心組ニ為持之候

七月十五日 快晴

七月十六日 晴 少曇

七月十七日 快晴

七月十八日 快晴

一 御用日登城

一 吹屋町吹屋八左衛門方へ去ル十日夕盜賊這入衣類拾六品盜取代金

ニ積六百五拾匁計之由届書差出御用所^江持參口達^ニ而申上市郷触

流之義相伺候処余り余分之盜物殊ニ春以来度々盜賊沙駄も有之候

間今般^者触流し不取計内分^ニ而遂吟味候ハ、可然旨御用番御差図

ニ付其段大目附へ口達^ニ而相届右届書ハ御用所へ差上置右之段取

計候様小頭代新治へ申付ル

一 組中牢屋三軒屋寺証文差出

一 綿実油之義大坂見改之者へ受答之義夜前も孫左衛門源五兵衛喜左

衛門存寄申出右ニ付松岡^ノ噂之由^ニ而伊左衛門彦藏右門遂対談候

一同心組合羽損候旨申出候ニ付引替被仰付候様大目附へ申達候^間

七月十九日

一 夜前松岡^ノ呼ニ来今般菜種見改之者菜種計相改候ハ、格別^ニも候

得共綿実等迄我侷^ニ見改候趣ケ様ニ浚出候^而者水車等之義可隔様

も無之旁以指押候様ニ致懸候^而者如何可有之哉と噂有之至極御尤

之義兼^而御同案ニ存罷在候右取計方相考て申達候旨申置尚又今朝

罷越菜種油改之義ハ大鉢昨夜迄^ニ者片着候趣ニ相聞候間最早故障

ニも相成間敷候間弥右之取計ニ可仕則くり屋名面相尋候趣ニ候得

者右等吟味ニ懸り候節余之商売迄無案内随意相改候事ハ不相成と

大年寄場合^ノ申聞弥相改趣ニ候ハ、秤改等之取計ニ取扱可申旨申

達候所其趣^ニ而至極尤ニ候間一ト通り相^{白後訂正}同候上^ニ而可申達旨^ニ而

後刻紙面^ニ而右談之趣弥取計尤随分穩^ニして根絶道理嚴重ニ申張

候様可取計旨申来候ニ付則孫左衛門呼出し左之通申達候

菜種油見改之者油見改ハ大鉢

藏合孫左衛門

筋付候様^ニも相聞候得共其余之

不快代 喜左衛門

商売躰迄我侷ニ相改候趣ニ相聞^{白後訂正}不^同之事ニ候間左様之義無

之様ニ其方月番^ニ者無之候得共源五兵衛喜左衛門申談差押

我侷不致様ニ可取計候

七月廿日 快晴

一 菜種改之者取扱方申付置候処追々懸合候処殊之外穩成趣^ニ而御上

之水車之義承り度義ハ無之世上之散実取集方之義承り度之由右散

実取集方ニ丈右衛門^ニ而も相成具候ハ、大坂^ノ御鑑札願受可差遣

之旨申懸ケ此方^ニ者兼^而望所之義^ニ而弥右之談ニ仕候様御勘定奉

行^ノ差図も有之仍之左之もの共右取計役人ニ懸合候段源五兵衛申

出候尤夜前上原彦藏^ノも対談同人^ノ松岡治部助へ被相達候趣ニ付

菜種方

常盤屋丈右衛門

湯田屋太郎左衛門

丸龜屋勘治

久美屋忠三郎

常磐屋丈右衛門

右兩人下世話

綿実方

久美屋忠三郎

常磐屋丈右衛門

右兩人下世話

久里屋善兵衛

尤右約詰相決候得^者見改之者罷帰候後十日計過候^而右之もの共兵庫へ罷越委細懸合取締候約束之由

一 茅町百万遍執行届出候

七月廿一日 晴

一 二階町宮田喜左衛門借屋住吉三郎悻徳三郎義夜前光嚴寺外屋敷^江盜賊ニ這入床下ニ隠居召捕候旨目明孫兵衛申出即刻組合預ケ申付置八時々呼出し立合新治新左衛門源五兵衛喜左衛門立合^ニ而組合年寄召連罷出遂吟味候処吹屋八左衛門方^江も這入候哉之趣^ニも相聞へ候得共聡と不相決候^ニ付左之通申付候

吟味中牢番預ケ

二階町宮田喜左衛門家守

申付候

吉三郎悻

徳三郎

右之段御用番^并大目附へ相届候且又申口不正候得共吹屋八左衛門方之盗物川下^ニ而売払候様ニ申候^ニ付目明善治罷越遂吟味候様^ニ申付為遣料銀札四匁闕所銀之内々相渡候

一 二階町^ニ而百万遍致執行候段申出夜廻りへ申達ス

一 菜種綿実取締引受名面昨日源五兵衛^ハ差出候処組屋忠三郎名面ハ先難差出様^ニ相考而種共三人不引受候^而相濟間敷何分方向へ罷越候上^ニ而忠三郎義ハ可申出之旨三人之者申出尤来月五日丈右衛門出立兵庫^江罷越候約束^ニ仕候由藏合孫左衛門申出候^ニ付上原彦藏へも其旨直^ニ可申達旨申渡候

一新魚^町。油屋善右衛門源太郎懸合濟口一札差出候^ニ付樫野屋茂一郎呼出し大年寄三人宮田喜左衛門立合^ニ而備前取扱之趣一々承之

七月廿二日 曇

一 昨日申出候菜種方綿実方と分ケ候^而難懸合^并組屋忠三郎を入候^而懸合六ヶ敷趣^ニ付先三人計而種一所^ニ引受候様可懸合之旨上原彦藏へ相届候所其旨^ニ差図有之候由孫左衛門申出候

一 牢舎扶持三儀之内貸証文差出奥書取計候但老斗三升五合来月へ持越有之候事

七月廿三日 曇

一 御用日登城

一 安岡町扇屋兵助後家悻常吉義不所存もの^ニ候所先月十九日致家出候付義絶勘当仕度願^御用番中御聞濟^ニ付大目附へ差出置御聞届申達候様大年寄へ申達候^而七月廿六日本証文差出署相元善徳三月廿三日勘當免

一新魚町油屋善右衛門義備前へ罷出出入一件致内濟濟口一札三通差出し御用番中へ差出候所御下ケ被成候付大年寄へ差戻候且又右一件^ニ付候^而樫野屋茂一郎殊之外致出精候^ニ付大年寄共工面もの、内を以銀一枚差遣度旨大年寄伺出宜^{取計}候様^ニ申達ス^而取計^{取計}候様^ニ申達ス

一 備前渡部利右衛門竹内又右衛門^ハ善右衛門一件書類差戻候付右返書旁此方^江も先達^而相廻候書類差戻可然^ニ付返書下案相認松岡^江及対談候上^ニ而御用番中へ相伺候処何之通取計候様被仰出仍之大目附へ右之段申達明朝飛脚可差遣候間被仰付候様^ニ申達置候

一 札元山本三郎左衛門妹尾平兵衛忌御免之義近藤伊左衛門^ハ何有之候処同濟之由通用有之候^ニ付尚又御用序^ニ一学殿^江申達置奉書差遣候尤先役守助時分^ニ大保頭持参候由^ニ付源五兵衛へ相渡候右御免申渡候段御用番^并大目附へ相届候

一 菜種油見改之者今朝出立罷帰候段大年寄届出其段御用番^并大目附

へ相届候且又綿実之義彼は六ヶ敷申懸候所常盤屋丈右衛門湯田屋

太郎左衛門丸龜屋勘治義以来当国之菜種綿実引受候約束^ニ相成来

月五日頃出立兵庫^江罷越委細之義申談其上^ニ而大坂町奉行所^ノ鑑

札申請渡候約諾^ニ相成候故最早承ル^ニ不及候由^ニ而綿実之義ハ一

向不及貪着罷帰候段大意申上置候所都合宜取計出来一段之事と一

学殿被仰聞候

一 境町馬持又四郎義切手四俵落候由届書差出右ハ昨日下横野村幸吉

拾候切手^ニ付組頭差添年寄之書状持參罷越御定之割合差出受取可

申旨申付候右之段御用番^并大目附へ相届候

一 大坂辻能役者雲州へ罷越候序^ニ花能十日為仕度小性町伊勢屋十藏

先達^而願書差出松岡治部助へ遂内談候処不承知之趣^ニ候得共於

別席一学殿へ相伺候処当年ハ芝居二ツも有之候事故先差戻候方可

然と被仰出候付右願書差返し候

一 大信寺へ去ル廿日之夕盜賊入込茶釜はかま鍋水桶盜取候由寺社取

次^ノ届書出候所内分^ニ而役筋へ懸合可然旨大目附中差図有之候由

^ニ而細江武助^ノ通用有之目明共へ申付候

一 神田栄治請状仕候由新治孫八^ノ差出候

一 役所合羽^并同心組合羽引替申達置候所引替^ニ而新合羽ハ不相渡

候由小林曾一左衛門申候^ニ付新合羽被相渡候様大目附へ申達候所

承知^ニ而早速二ツ為持来候付此間受取候合羽二ツ差戻候^{附七月八日孫八罷}

出^不殘新合羽^ニ引かへ候

一 備前へ飛脚遣候付五通入^状箱入用^ニ付小林曾一左衛門へ手紙遣受

取候

一 牢屋諸扨三拾四匁七步四厘^并酒代五匁八步昨廿二日新治へ相渡候

一 備前渡部利右衛門竹内又右衛門^江差遣候書状村上吉右衛門来相渡

候

七月廿四日 快晴

一 孤独扶持内貸二口^ニ而九拾五匁広治持參候^ニ付大年寄へ相渡候

一 美濃職人町^ニ而百万遍執行届出夜廻りへ申達候

七月廿五日 快晴

一 牢舎人周藏弥市病氣申出大年寄へ例之通取計候様申付ル

^{或七月廿九日勢又追願承出}一 三丁目余田屋与七所持之自国受酒株当已七月^ノ来ル亥七月迄七ヶ

年之間西今町米屋利助借受度願承り届

一 下紺屋町長江朝庵義雲州松江八軒屋町煙草屋平助方へ八拾日之逗

留^ニ而廿六日出立願書承り届^{九月十四日掃}

一元魚町指屋平三郎借屋住小原屋万蔵母義三月九日願西国順礼罷出

候処今三十日之追願差出承り届^{附七月十四日掃}

一元魚町福永屋宇三郎借屋住江見屋折助娘義右同断願承り届候^{附七月}

七月廿六日 快晴

一 戸川町平田屋平八借屋住孤持伏見屋太兵衛病氣差重り候段申出部

屋目附新治差向遂見分候処別条無之趣^{一札并}容鉢書取罷帰無程死

去届出候明後廿八日出仕之節御両所へ可相届事

一 安岡町年寄扇屋栄治義病氣之処昨夜相果候段大年寄^ノ届出候

一 細工町^ノ百万遍執行届出夜廻へ申達候

七月廿七日 快晴

一安岡町久米屋鶴藏義和州大峰^江 参詣来ル朔日出立廿日計之逗留願
承り届ル 四七月十九日四日届申出候同廿一日届ル

一備前渡部利右衛門竹内又右衛門へ差遣候飛脚昨廿六日昼時過罷帰
又々返書来源太郎も罷出候様可申付旨申来^井 油屋善右衛門訴状差
戻候様ニ申来差越候右返書即刻御用番中へ差出候善右衛門訴状
ハ今日大年寄へ相渡候

一牢舎人弥市療治中村易庵へ申付候由大年^中申出周藏義ハ不及葉之旨
医師申候趣申出候

一二階町境屋伊右衛門義宿屋頭役退願出無余義趣ニ付承り届右跡
役^者 小山屋与三右衛門へ可申付旨申出候付其通申付候様申達候

一二階町境屋伊右衛門所持之旅人宿屋株新職人町松野屋重右衛門へ
相讓度願書差出承り届

一吹屋町南側ニ^而 柳瀬元隆家屋敷表口三間裏行六間四尺但半役也東
隣ハ川口屋治助西隣ハ北村屋弥七也右家屋敷代銀札百五拾匁ニ相
極同町谷吉^屋 忠右衛門へ売り渡度願書差出承り届

一福渡町定屋文助持来候古道具屋株安岡町宇賀屋太助へ相讓度願書
差出候ニ付右株札認かへ相渡承り届候段申渡ス

七月廿八日 快晴 少白雨

一御用日登城

一御代官早川八郎左衛門殿支配所当国大庭郡原形村左兵衛悻嘉藏夫
婦娘二人右家内四人上紺屋町作人久兵衛引受度人別人願御用番御
聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達候様大年寄へ申達ス 四七月廿七住宅

延文差出

一戸川町孤独伏見屋太兵衛去ル廿六日死去之段御用所へ口達ニ^而 申
上大目附へ見分一札差出候

一小性町屋根屋源七借屋住米沢屋善兵衛^井 悻与市^井 娘右家内三人大
久保安芸守殿領分当国久米南条郡押淵村伊八養子ニ引越度人別除
願右同断取計済

一牢屋穿議所薄縁式枚^井 番所縁取忒枚引替^井 女牢揚り屋之不淨受損
届書差出大目附へ差出候

一備前渡部利右衛門竹内又右衛門返書御用番中御戻被成大目附へ差
出候

一同心組難渋ニ付去ル十二日八人ニ銀札借り受遣候所川端佐五兵衛
義も大借ニ付六百匁借受度願出昨今株入之義故捨置候得共無余義
趣ニ付又々竹内要左衛門へ及対談六百匁借り受相渡候尤証文認か
へ引替候惣辻三貫七百六拾四匁八分也

一戸川町打穴屋長七大峰参詣来月朔日出立廿日之逗留願差出承り届
候

一中之町百万遍執行届出夜廻りへ申達ス

一坪井町大納屋嘉兵衛大坂天満市場久右屋喜兵衛方へ卅日計之逗留
ニ^而 来月四日出立願承り届候 四七月廿九日届ル

一三町目沢口屋善右衛門大峰参詣廿日計之逗留ニ^而 来月朔日出立願
書大年寄承り届差出 四七月十九日届ル

一二階町品屋宗兵衛右同断願書差出 四七月十六日届

一公儀御触去辰三月越後国蒲原郡下条村百性嘉兵衛娘くりを召連確

水御関所越除山越いたし候無宿九助人相書を以御尋被仰出心懸
之義無之候ハ、来月三日証文差出候様大目附廻状到来写取町方
組中へ相触候但右九助元出生ハ越後国蒲原郡小古瀬村百性義助次
男也

七月廿九日 快晴

一京町瀧山屋宗兵衛悱三良兵衛義和州大峰参詣廿日計之逗留ニ而明
朔日出立願書大年寄承り届差出候

一鍛冶町鍛冶丈助〔貼紙訂正〕喜助万吉浅吉右同断願書出〔閏七月廿一日始ル〕

一境町丸亀屋勘治義兵庫田中屋久左衛門方へ廿日計之逗留ニ而明朝
日罷立度願書大年寄承り届差出〔閏七月廿八日始ル〕

一西今町湯田屋太郎左衛門義兵庫田中屋久左衛門方へ参度右同様之
願大年寄差出承り届〔閏七月廿一日延願差出〕

一林田町常盤屋丈右衛門右同断願書承り届右同断

一元魚町豊屋喜兵衛義大坂大川町淀屋橋南詰綿屋義兵衛方江廿日計
之逗留ニ而明朝日出立願承り届〔閏七月十八日始ル〕

一河原町作人義助後家当三月十九日西国順礼相願候処未罷帰候付今
五十日之日延願差出承り届

一新魚町姫路屋惠三郎他国受酒店繕中角屋助七方ニ而商売仕度願書
差出承り届

一山東村喜右衛門義郡代所々牢番預ケニ相成立合藤藏差出候
一度々盜賊沙駄有之物騒ニ付目明共へ急度申付候様新治孫江申付

ル

月番

閏七月小

御家老 安藤丹後殿
御年寄 山田主膳殿
大目附 太田舍人

大年寄 斎藤孫右衛門
諸吟味 宮田喜左衛門

閏七月朔己日 快晴

一盜賊沙駄物騒ニ付先日已来目明忍廻り致居候処未見当り不申永々
之義ニ付目明仮役吉田屋平助へ被仰付候様新治江申立候ニ付其段
及差図候

一三船新治妻急病ニ而相果候ニ付忌中引込届出候

閏七月二日 快晴

一福渡町ニ而百万遍執行届出夜廻りへ申達候

一 公儀より人相書を以御尋之もの、義心懸之義無之段惣町大年寄組中
牢屋三軒屋高石垣番迄証文差出候

一 東新町靴屋甚右衛門義先月十八日罷帰候処足痛ニ付届致延引候段
今日届出候ニ付延引之段不審大年寄へ申達候

閏七月三日 快晴

一 御用日登城

一 林田町山本屋与三七方へ先月廿七日之夕盜賊這入七品代百拾七匁
位之もの盜取候段届書差出御用番へ申達先今般も触流不取計下方

ニ 而 敵敷吟味申付候段申上大目附へも其旨申達候右届書ハ御用処
ニ 御留置也

一 御船奉行土岐雄助より稲垣藤四郎殿被帰候御用意ニ東西へ渡船今日
相廻候様申付置候間出立相知候ハ、御藏元船年寄先頃之通差出候
様通用有之候付其段大年寄へ申達置候

一 札元茂渡藤右衛門忌中来ル五日ニ而半減済候間来ル六日より忌御免
伺済ニ候間取計呉候様上原彦藏より通用有之尚又右之段可取計哉之
旨御用番中へ相伺済

一 石代改聞合ニ山本屋周右衛門備中松山へ差遣候節聞合之書付太田
舍人被差戻候

一 公儀より人相書を以御尋候もの心懸之義無之ニ付例之通証文三通差
出候

一 世上物騒ニ付目明仮役申付非人差添忍廻り申付候段御用番ニ大目
附へ申達置候

一 土居村伊右衛門方へ先月廿五日盜賊這入廿二品代銀ニ積三百七拾

八匁位盜取候触流書役ニ申付候町方無之旨申出候

一 孤独扶持仕切過八匁八歩巷厘加藤広治より差越大年寄へ相渡

一 備前竹内又右衛門より源太郎ニ用事も有之趣被仰越候ニ付御礼旁源
太郎差出候由致添簡宿同道ニ罷出候付相答之及返書源太郎より預
り置候書面差戻候様大年寄へ申付候

一 盜賊吟味ニ付瀧守直備中と申三人下捕柳土手ニ致吟味居候由孫
八より申出候

閏七月四日 快晴

一 人馬問屋入用近年追々相増種々考候処坪井勝間田ニも受負ニ取
計候由依之数年致平均打寄相考候処巷ヶ年三貫目之受負仕切ニ相
極可然旨尤是ハ外へ相知候事ニ無之全牀之勤方ハ是迄之通ニ而
大年寄共場合切ニ申付候事之由孫右衛門喜左衛門伺出尤之筋ニ
付其通申付候様及差図尤是迄も御大名方御通行当日之入用ハ受負
之外也

一 惣油屋共大坂より来候見改之者へ答之書付写大年寄差出候

閏七月五日 快晴

一 稲垣藤四郎殿明後七日出立之趣ニ相聞候由三浦十郎左衛門より申来
右ニ付諸事御出懸之通申付ニ出役可仕哉之旨大目附へ申達尤西大
番所脇江罷出可然之旨ニ御貸人ニ挨拶之事迄申談置候尤必定之義
ハ明朝申越候筈也

一 盜賊吟味ニ付鳥散成もの式三人召捕柳土手ニ相糺居候右ニ付候
ニ而者入用も有之候ニ付役筋ニ預り置候關所銀之内ニ而相扨置追
納候節可致算様之旨太田舍人へ及噂候所承知ニ候

閏七月六日 快晴

一 稲垣藤四郎明七日宮尾村出立被帰候旨三浦十郎左衛門申越其段
大目附へ相届右ニ付拙者義西大番所へ可罷出間御貸人馬等之義迄

申達^并右ニ付組致不足候間加人忝人被仰付候様ニ申達

一 右ニ付大年寄へ諸事御出懸之通取計可申^并拙者義西大番所罷出候

旨且又八時出立之趣ニ相聞候間舟年寄藏元等今晚^ハ罷出候様ニ可
申付之旨申付候尤表組東之立宿ハ玉林ニ可申付先格之旨申越候付
其段郷中へ申付候同心組^江も右之段申達候所右之通役割差出候

先払^{佐十郎} 供番^{為治} 当番^{探人} 昼廻^{御使組} 夜廻^{為治}

一 大目附^ハ東西渡場へ御藏元船年寄差出候様申来

一 稲垣藤四郎通行之段細江武助へ及通用

一 札元茂渡藤右衛門義忌差免候間今日^ハ出勤候様奉書差遣其段御用

番^并大目附へ相届候

一 御代官稲垣藤四郎殿通行ニ付町分取計左之通大年寄差出

一 御奉行所御立宿 宮脇町竹田屋元右衛門

一 御先払中立宿 安岡町菱屋孫治

一 院庄川御渡場 御藏元 文五郎

舟年寄 治右衛門

一 川辺川御渡場 御藏元 利右衛門

舟年寄 彦市

一 御奉行所西大番所脇^江御出被遊候義安岡町年寄^ハ藤四郎

様御共方へ申上候事

一 町分御通り相濟候ハ、東新町年寄^ハ御奉行所御立宿^江御
註進申上候事

一 稲垣藤四郎殿先触^成ノ中刻来左之通写差出候

一人足拾六人

内

四人乗物忝挺

式人具足

三人長持忝棹

式人合羽籠式荷

忝人竹馬

忝人兩懸ケ

式人山駕籠

忝人分持忝荷

一 賃馬四疋

外ニ人足式人用意置行懸り無差支可被出候

右^者美作国論所御用相濟稲垣藤四郎義明七日曉七ツ時同国

宮尾村出立但州生野陣屋へ被罷帰候条書面人馬御定之賃錢

受取之無遲滞差出被次立川越渡船等有之場所^者前宿^ハ致通

達聊無差支様取計止宿之義^者泊り附之通相心得此先触

早々^{マヤ}次送り森垣村^ハ生野役所へ可差出候以上

稲垣藤四郎手代

高橋加久治

閏七月六日

林 桂助

檜山寛左衛門

勝部三五兵衛

美作国宮尾村^ハ津山播州姫路通り夫^ハ但州生野迄

問屋年寄中

追^而 旅宿手狹^ニ候ハ、我等共上下八人之積り外宿可被申付
置候尤間取^ニ間限^ニ而^者 差支候以上

泊附

七日 土居 八日 齋崎 九日 栗府 十日 生野着

右先触差懸り候ニ付写不差出先触着候趣計御用番^并 大目附へ紙面^ニ 相届候

一 三浦十郎左衛門^ノ稲垣藤四郎殿出立先触^ニ者 七時と有之候^而も九時出立之趣尤御用濟次第と申義^ニ候得^者 刻限ハ差定り無之様子ニ候間諸事右之手当^ニいたし船役人^并 先私も今晚中^ニ相廻り候様ニ取計候様申越候^ニ付其段大目附へ相届自分義も右之心得^ニ而^者宵^ノ罷出候

一 生野御代官稲垣藤四郎殿真壁論^(マツ)所見分相濟内濟^ニ相成明朝宮尾村出立爰元通行^ニ付自分義亥ノ中刻出宅宮脇町武田屋元右衛門方へ出張西大番所南側へ罷出ル供立左之通

箱焼灯^(マツ) 割場

口^ノ者 若堂 若堂

草履取^{手人} 槍持^{割場}

挟箱^{割場}

箱焼灯^(マツ) 割場

口^ノ者 若堂

合羽籠^{割場}

同^{割場}

閏七月七日 快晴

一 昨夜^ノ宮脇町武田屋^ニ出張居候処藤四郎殿出立御延引今朝五時被相通大番所向南側へ出居候所藤四郎殿橋之上^ニ而^者下乗^ニ付及挨拶進寄候処向方^ノも進^ニ被出候^ニ付左之通及挨拶

永々御逗留被成御苦勞奉存候旨申述候処藤四郎殿^ノ爭論一件公料私領共^ニ申分なく早速致靜謐罷歸候度々入御念候義

と被申候ニ付残暑之御御道中御安全御旅行可成と申候得^者
藤四郎殿忝存候と被申候

右相濟又々立宿武田屋^ニ扣居候処東新町^ノ町分通行相濟候段届来夫^ノ引取引懸ケ^ニ御用番へ罷越藤四郎殿町分通行無滞相濟候段相届大目附へハ右之段手紙^ニ而^者相届四ツ前時帰宅

一 同心組加人笹岡与三兵衛来但六日切也^(貼紙訂正)

一 前宮脇町徳守宮地子居江見屋茂兵衛松野屋伝助角屋庄九郎三軒へ盗賊入込江見屋^ニ而^者余程盗取候旨自分義同町へ罷出居候事故早速致承知仍之孫八へ申付目明兩人呼出敵敷吟味申付候処西在南在川下三ヶ所へ仮目明非人^口候^ニ付銀札四拾五匁相渡候様申出候^ニ付孫左衛門^ニ取替候様^ニ孫八^ノ申遣候様申付ル

一 右之通甚物騒^及目明忍廻り計^ニ而^者不行届趣^ニ相見へ候^ニ付惣町老町切^ニ九時^ノ六時迄鉄鑢手^ノ手へ渡引廻り致候様^ニ大年寄へ申付候

一 右^ニ付^{□□}非人少^ニ付此間^ノ預ケ置候直治竹治と申もの牢番預ケ^ニ仕度旨申出候^ニ付佐十郎差向牢番預ケ申付ル

一 右之通在方へ目明非人差向^并町方夜廻り申付候義^并牢番預ケ等申付候義御用番中へ申達尤此砌之義^ニ候間烏散成ものハ窓^(マツ)召捕置所無之候間無差別牢番預ケ^ニ申付候間一々不及御沙駄吟味之上可及御沙駄旨相伺候処御聞濟^ニ付其旨大目附へも罷越申達置候

一 瀧平と申烏散成もの此間^ノ柳土手^ニ預ケ置候処町方手懸り無之在方懸り合も有之趣^ニ付在目明へ引渡候様一昨夜申付在目明へも受取候様久蔵へ申付置候

一三浦十郎左衛門留主中仮役相勤候処今朝被罷帰候ニ付留主中之日記#書類引渡相濟候

一人馬問屋之義去ル四日認置候通一ヶ年三貫目ニ受負切証文差出#当年是ノ十二月迄壹貫三百匁ニ相極受負切之証文差出受取置候尤右受負証文御用筆筒へ入置

閏七月八日 快晴

一御用日登城

一惣町油屋共見改之者へ差出候書付扣帳面御用所へ差出候

一宮脇町徳守宮地子居角屋庄九郎方ニ刻たはこ拾兩入四五袋式拾兩入四五袋松野屋伝助方ニ帷子巻ソ盗取候書付昨日差出候ニ付即刻御用番中へ持参差出候処今日御返し被成直ニ大目附へ差出候

一右同断江見屋茂兵衛方ニ同夕廿一品盗取候書付寺社奉行ノ為見られ候ニ付追ニ町触等可取計付書役ニ為写置

一西今町直屋久米之助持来候古道具屋株同町永田屋喜兵衛へ讓度願書差出承り届木札認かへ相渡

一昨日近在へ盗賊吟味差遣候もの追々罷帰り手懸り無之段孫兵衛申出候

一林田町山本屋与三七方盗賊下人之内心懸り有之趣ニ付昼廻り佐十郎栄治差向為相札候処先心懸り疑敷義も無之旨申出候

一三船新治忌昨晚ノ差免候

閏七月九日 快晴

一左之もの共八時ノ呼出新左衛門孫八佐十郎円藏孫右衛門喜左衛門立合遂吟味候

牢舎人徳三郎
組合年寄差添

主人与三七江預ケ申付候
山本屋与三七下人

太助
与三七煩代人召連

吉田喜助長屋
伝藏

吉田喜助長屋ものハ先内々ニ受取一ト通り相札又々差戻し主人

江預ケ置候

一目明善治不埒明趣ニ相見候付孫八新左衛門立合左之通於玄關申

渡善治義ハ明朝差免候様ニ孫八江申付候

目明役申付候入念出精
備中屋

可相勤候

閏七月十日 白雨

一御蔵米七拾匁町米六拾六匁

一牢舎人弥市療治ニ廻り相濟代り医願出例之通札之上申付候様ニ大年寄へ申達候処最早不及葉旨医師申出候由申出休葉申付ル

一坪井町山際屋平六大峰参詣明後十二日出立廿日計之逗留願大年寄承り届差出

一コロリ油御免も有之候ハ、此節雲州ノ可差越旨申もの有之候ニ付如何可仕哉と蔵合孫左衛門伺出當時上ニも御植付有之候事故勘定奉行へ及相談候処少も障無之却ニ試ニも可宜哉之旨ニ付大目附へ遂内談候処少々毒有之ものニ候得者食餌へ入間敷と申義も難計右

之諸り無之候而者 売出候事も難致先年御沙駄有之候節ハ不相成方ニ申上置候由被申聞候付當時御勝手ニ被植付候様子相咄候得者夫ハ如何様之義歟不存役筋ニ而取扱不相成方ニ何レ存居候由松岡治部助被申聞御内輪之義右之通役々ニ而心得違如何成義大年寄へも難及返答候間其旨一学殿江罷越申達候処御月番江可申出左候ハ、可被遂御評義之旨被仰聞候付御用番主膳殿江罷越右之段伺置候

一西新町北側ニ而英田屋茂兵衛後家家屋敷表口三間裏行十七間但半役西隣ハ今屋庄兵衛東隣ハ久米屋清助右家屋敷十ヶ年已前申年質物ニ書入中之町平福屋勘兵衛取次ニ而四百匁借り受候処今般元利返済受返し候届書差出候同十七日宛書状差出

一右家屋敷今般代銀五百匁ニ相極同町久米屋清助へ売渡意願書差出し承り届

一御領分東南条郡林田村伊助娘義元魚町桶屋伊助引受役介ニ仕度人別入願下方引合相濟候段大年寄申出承り届

一中之町福寿屋要助役介きた義林田上之町御中間勘兵衛妻房悴儀八妻ニ差遣度人別除願右同断申出承届

一中之町山形屋喜兵衛松屋伊助義当四月廿七日玉琳出火之砌大目附下人ノ打擲ニ逢候処右療治代甚難義之趣ニ付工面もの、内ノ相払遣度候旨大年寄申出宜取計候様申達ス

一一目明兩人罷出奥津之辺へ江見屋被盜もの、様成もの持参候もの有之候由告来候間非人兩人召連孫兵衛可罷越哉と新治ノ伺出其通承り届用意銀七拾匁孫右衛門へ懸合相渡候様及差図

閏七月十一日 快晴 白雨催

一無宿幸十郎丈兵衛召捕遂吟味候処今般之盜賊懸り之義未及白状候得共似セ銀遣候ものニ而追々同類左之通致白状候段申出同心組不残呼出し所々江差向目明も孫兵衛留主ニ而不足ニ付差懸り仮目明役松尾屋源之丞并吉田屋平助并倉敷屋宗兵衛右三人へ申付手配いたし所々江差向左之もの共召捕一ト通り目明孫兵衛於宅遂吟味候上夫々牢番預ケ申付ル

幸十郎義ハ昨昼迄永田 賈銀遣手 無宿 幸十郎
省賀長屋ニ居候由 同 丈兵衛

安岡町 屋くわん直し 弥助

賈銀拵手

福渡町

白銀屋利兵衛

同町

賈銀遣手

せんへい屋 直兵衛

右之もの共ハ銘々及白状候

利左衛門妹聲ニ付召捕 中川登市郎長屋住

利兵衛

右六人ハ牢番預ケ申付候

同類懸り合之ものニ相聞候ニ付 上紺屋町 新八
組合預ケ申付置但十二日夕ノ手錠懸ケ候

一 永田省賀長屋住利左衛門と申もの今般之

頭取ニ相聞候処取逃し候ニ付文蔵榮治ニ非人

二人差添佐用辺迄尋ニ罷越候様申付亥之刻前

出立用意(白塗訂正)老(白塗訂正)両と銀札拾匁自分取かへ為持遣

一 黒田鼎長屋住屋くわん直し梅と申もの同類之趣

ニ付十二日朝佐十郎円藏差向候処先月十五日罷出

不罷帰候由也

組合預ケ

宮脇町

松井屋伊助

同人悴万吉

右者 福渡町白銀屋利兵衛召捕候節彼方へ逃込

候処不居合段偽申候ニ付組合預ケニ申付候

組合預ケ

小沢横関貫番人

右者 利左衛門相尋候節関貫番人相改候処戌ノ中刻頃迄

不罷出不埒ニ付

閏七月十二日 快晴 白雨催

一夜前之一件牢番預ケ迄取計罷帰候得者 五ツ時過ニ相成候夫々中川

中川登市長屋もの受取黒田鼎(ト)へ方(ト)も今朝組差向候右取計之趣御

用番并大目附へ罷越委細之訳今朝相届候

一 中川登市へ受人差出候様申付候処上受人ハ上紺屋町新八ニ而最早

預ケニ相成候義故下受人左之もの差出候

中川登市長屋住利兵衛下受人

上紺屋町 紋治

右ハ登市長屋利兵衛牢賄相送候様申付ル

一 永田省賀長屋住利左衛門義幼年之子供も有之趣ニ相聞候ニ付家族

等之取締被仰付候而も可然哉之旨大目附へ申達候所最早受人預ケ

ニ申付置候段届有之候由太田舍人被申聞候

一 伏見町(屋敷訂正)玉屋源太郎家守徳嶋屋忠七借屋住置屋平兵衛并娘右家内両

人先月廿六日罷出不罷帰旨届出候ニ付先格之通百日尋申付候

一 石代改勝与八郎殿被為率御馬之尾切候義尚又遂吟味候得共弥相知

不申候段書状相認右書類御留主居田中幸助方迄相廻候所幸助存寄

ニ表向ハ与八郎殿馬と申義ニ而内所ハ公儀御馬ニ相違も無之

義ニ候得者 手入等ニも御厩役人可差出筈并夜中不寝番等も兩人詰

切と申も籠末之取計既綱すれも出来候と申義ニ而者 弥以取計不行

届不念ニ候得者 書面ニ而 断申遣候而者 如何ニも付(風にて株消)御馬手入仕

候もの并番人等町預ニ申付有之候事ニ者 候得共此上入牢等申付殿

敷吟味取計可申併呉々も内分と被仰聞候義ニ付此段思召を省候段

如何ニも付町奉行ハ内々相談申越候趣を以幸助罷越面談ニ可申述

候而可然御評決ニ付罷越与八郎殿へ右之旨及面談候処不及其義最

早不難之躰ニ而 引渡相濟候間預ケノ町人等早々差免可申尤大守様

不達御聴候様ニ取計候様可取計挨拶ニ而 相濟候由若本石見守殿方

江も内々手寄を以聞合候所無難ニ而 相濟候由ニ候旨今日幸助ハ返

書来候

一 造酒株讓受渡候義久世并西吉田ハ郡代所ハ懸合有之候処両所ハ御

届可取計旨申越其旨拙者飯役中田中幸助へ申遣候所弥御届ケ入候

旨申越候仍而先年勝山江懸合之武兵衛ハ和泉屋三郎助へ讓渡之義

も御届可入ニ付勝山へ其旨懸合之下案相認明日可伺事

(朱書)
御領家内も株主名

面替り候得、御届仕候様幸助の由申候事

一 永田長屋利左衛門義左之手配ニ而明早朝近在相尋候様ニ申付置候

西 坪井迄目録之迄
非人二人

(白旗町正)
北 長生寺迄同平助
非人二人

(白旗町正)
南 新町迄
非人二人

右ニ付用意銀拾匁つ、孫右衛門の受取相渡候様孫八江申付候并昨日召捕候もの共宿々明日致願所遂吟味候様ニ新治へ申付番藤藏為治罷出候筈也

閏七月十三日 快晴

一 御用日登城

一 雲州能儀郡植田村弥三兵衛忪清藏一人京町吉野屋甚吉役介ニ引受度人別入願御用番御聞濟ニ付大目附へ相達御聞届之趣申達候

同廿九日宅紙文差出

一 土井大炊頭殿領分久米南条郡原田中村庄屋年寄宇助甚藏長藏平十郎へ西今町直屋善吉十一ヶ年已前銀札取かへ右元銀残二百四拾五

匁計右元利當時四貫貳百貳拾七匁貳厘相滯先達ニ添簡相願候ニ付

大年寄の大庄屋へ懸合候得共訳立兼候ニ付弥出訴仕度添簡相願候

段大年寄の差出御用番御聞濟ニ付大目附へ相達置添簡相渡候

一 田中幸助の昨日差越候造酒株并勝与八郎殿馬之尾切濟口之返書御

用番へ差出右ニ付候而勝山へ造酒株讓渡之義御届入候趣江戸

表の申越候段可申遣哉と相伺候処今晩之便ニ今一応幸助方へ尋遣

其上ニ而勝山へ申遣可然旨尤大坂の差込ニいたし差遣可然之旨被

仰出其旨大目附へ相達候処承知ニ其段申渡可置由挨拶ニ候併差

込便と申ものハ幸便無之候得不相成事之由ニ候右之段勤者内山

洞太夫江も懸合置幸助江之再答認差出候

一 大目附中の公儀御医師橋隆庵老雲州へ御頼ニ而被參候由江戸表の

申来候間定而近々通行可有之候間町々見苦からざる程に通筋取片

着置保頭并同心組先払差出候様被申聞候尤御使者御音物も有之

候間先触来候ハ、早々小須賀買方へ為相知候様ニ被申聞其段大年

寄并小頭江も達置候

一 勘定奉行上原彦藏の茂渡庄右衛門へ先年三拾貫目御貸渡有之三十

年賦ニ上納之処先暫返納御免被成山本三右衛門困窮ニ付此度貳拾

貫目三十年賦ニ御貸渡被成候段通用有之候

一 一昨日召捕候もの共宿々相改候様夜前申付置藤藏為治相改候処心

懸之もの少も無之旨申出候

一 元魚町福井屋喜七当三月六日相願四国遍路罷出候処尚又五十日之

日延願差出承り届ル 九月朔日福ル

一文藏榮治一昨夕東之方へ利左衛門尋ニ差出候処今八ツ後罷帰佐用

迄罷越候処少も手懸り無之旨申出候

一 西北南へ利左衛門尋ニ差出候目明非人罷帰り一向相知不申候段届

出候

閏七月十四日 曇

一 坪井町勝尾屋茂七義中川登市郎長屋住利左衛門の贖銀老ツ預り置

候由差出候

一 稲荷山心懸り之由ニ付孫八目明非人差向見改候処別条無之候

一 御用所へ差出置候田中幸助の差越候返書而通主膳殿の御戻被成候

一 牢舎扶持三俵之内貸証文差出奥書取計候但去ル十二日取計

一 永田省賀長屋利左衛門の宮脇町武田屋元右衛門西今町正田屋平兵衛質物兼^而取居候由品書差出候

閏七月十五日 曇

一 田中幸助の造酒株讓渡之義^并石代改馬之尾切候一件之返書兩通大目附へ差出候

閏七月十六日 快晴

一 贖銀一件之もの共於牢屋遂吟味候ニ付今五時新左衛門新治孫八藤藏百藏召連罷越戌刻帰宅尤目明兩人非人四人差出候

贖金銀

仕候段

及白状

未相分

吟味中牢番預ケ

右非人四人^江酒代式刃差遣候

一 土井大炊頭殿御役人^江西今町直屋善吉出訴添簡差遣候所委細之義^者追^而可申越旨返書来

閏七月十七日 快晴

一 昨夜八ツ時頃橋本町徳嶋屋忠助嫁直訴罷出狼籍もの入こみ藍かめ堀発し候由相糺候処年寄久左衛門^并組頭等ニ候由不審之事^者候得共狼籍と申出候ニ付番佐十郎栄治差向候所

橋本町兼帯年寄 門屋久左衛門

右同断 常盤屋丈右衛門下人

二人

門屋久左衛門裏雲州もの

一人

橋本町保頭

一人

右之もの共常盤屋丈右衛門借金之方ニ藍瓶堀取可帰由^ニ堀懸候^ハ処瓶二ツ共打めき其上持帰候事留主居之もの被差留得取不帰候由役柄不相応狼籍之働ニ付不殘禁足申付置候段今四時過佐十郎栄治罷帰申聞候付大年寄^江相糺候様ニ委細申含候

一 去ル十日因伯へ差向候目明孫兵衛一昨十五日夕罷帰伯州赤崎と申浜ニ当町玉屋へ這入候盜賊居候由直ニ召捕ニ可罷越哉右盜賊も近々^ニ山城へ罷越候趣^も相聞候間其節可召捕哉と申出候ニ付近辺へ来候節召捕候様新治を以申付候

一 御金奉行竹内要左衛門清水勇馬去ル十五日被參先達^而郷中取かへ屋宮田喜左衛門の庄屋へ金銀錢相渡御触不行候事故先達^而度々懸合候得共申立候と申ニ相成候得^者当人^江直ニ不承候^而者^者駈と不仕候間喜左衛門へ相尋度候間被差出候事可相成哉此段承度之旨被申聞候間御宅へ御呼寄御尋被成候事^ニ候得^者大年寄^ニ而^も御呼被成候事ハ少も不苦候得共銀札場御呼出し御吟味と申筋^ニ候得^者用易^ニも難及御返答何分相考候上^ニ而^可及御返答候しかし右筋合計御尋之義^ニ候ハ、拙者方^ニ而^遂吟味弁書御廻し可申哉と申述候所如何様御先例無之義^ニ候得^者難被仰付旨御尤之事之由勇馬挨拶有之引続兩人取替等之及嘶右鉢取かへ之義ハ役筋^ニ而^者先前^ハ致来

是ハ旅御用之節上ル金子御渡被成候同様之義ニ相心得居候由愚意

之趣申述候処旅御用之節上ル御渡被成候も其節々ニ両かへいたし相渡候形ニ候由要左衛門申聞候ニ付左様之筋ニ候得者拙者義殊之外心得違ニ而此間も大年寄へ申付候間も無之差懸り候義故拙者持

合之金子相渡候此段御法ニ背候ハ、甚恐入候義ニ候間先役ノ致来候義ニ候得共早々申達先御答可蒙之旨申候処左様ニさつきやう

ニ被成候程之義ニ而も無之候間何分尚又相考候上ニ而何れとも御懸合可申旨要左衛門申聞候間左候ハ、被仰下候と喜左衛門可差出

義先例等相考候義も致延引置候間有無共今一応被申聞候様ニと及挨拶置所罷帰候処今日竹内要左衛門被參此間御懸合申候払屋金銀

銭取かへ之義是迄も数十年有之来相濟候事ニも候得者先今般之一件ハ不申達は迄之形ニ而相濟置候間左様御心得可被下候尤御触通

ニ違候様之意味合之所以後、掛屋之立形之考ハ勘定奉行へ達置候間何れ諸方之差支ニ相成候ニ而不相濟候間其段ハ御勘定奉行と

得者被逐御相談候様仕度之旨申聞候ニ付仰之通委細致承知候左候ハ、矢張是迄之通ニ相心得居可申之旨及挨拶被罷帰候

一元魚町元長屋吉三郎病死之段届出右ハ牢舎人徳三郎父ニ付伺出候ニ付ひそかに葬取計候様及差図右ハ昨日届出候所認落候ニ付爰ニ

記置

閏七月十八日 快晴 大白雨

一御用日登城

一新職人町瀧本屋正蔵借屋住宇助妹富義当四月出奔仕相尋候得共行衛不相知最早百日余ニ相成候付除帳願差出御用番御聞濟ニ付大目

附へ達置御聞届申達候己未十月八日掃部頭宛

一贖銀師^井盜賊等之義此間吟味之趣荒増御用番^井大目附へ相達候

一文蔵栄治義去ル十一日佐用迄利左衛門尋ニ差遣候入用三拾七匁三歩之由書付差出候

一大目附^井左之通御触書到来

一 蒔田玄番頭様御隠居御家繼權佐様御義向後並御旗本之通殿

付ニ可唱尤玄番頭様御義ハ是迄之通ニ可唱旨

右之通申来触書留ニ扣置候

一中之町わら屋藤吉家守紺屋助右衛門義撰州大坂能勢郡明見宮^江妻

悴召連三十日之逗留ニ而廿二日出立之願大年寄聞届差出八月十五日掃部

一牢屋詮義場^井番所薄縁三枚御渡候様先月廿八日大目附へ申達置候

処御作事奉行西村治太夫^井先前^井相渡候義無之候間御吟味被下候様ニと申聞候ニ付尚又下方再応遠吟味候処聡と相覚候ものも無之

荒物屋^井取候様之義も有之候哉ニも申ものも有之候得共何れ認候ものも無之何れ共不相決候得共罪人之入用ものニ而も無之役人

着座入用ものニ候得者牢屋払之内ニ而可取計筋ものニ無之候間仮令先例ハ如何様ニ而も疊同様之義ニ候得者御作事^井可相渡も

のニ付其段小須賀貢^江申達候処承知ニ候得共年々牢屋払小手形致吟味候ハ、可相分候間勘定奉行へ懸合可申之旨被申聞其段上原

彦蔵へ申達置候処今日上原彦蔵^井右薄縁之義ハ以来御作事^井相渡候様ニ大目附^井達有之候旨申聞候間其旨小須賀貢^江相尋候所左之

通被申聞候

一 牢屋詮義場^井番所薄縁之義仮令先例牢屋払ニ取計来候共夫

ハ筋違之義何れ御弘ニ相成候共上御入用之義ニ候得者以
来御作事取計候様申達置候間其旨相心得可申之旨被申聞
候

閏七月十九日 白雨

一 齊藤孫右衛門義夜中伺出候者 河合元碩ノ紙面ニ而此節全躰引夜廻
り有之候処小兒驚風ニ而おひへ候間桶屋町妙願寺前ノ瀧本屋平内
前迄全躰引候義致用捨候様年寄へ申付候得共不承知ニ候間其旨申
付呉候様申越候ニ付如何可及返答哉と伺出候ニ付差懸り無御拋義
ニ候間今夕之所ハ御門前兩隣程之間ハ私場合ニ而致用捨候様ニ可
申付候得共被仰下候程之間之義ニ候得者 私場合ニ而も差凶ニ及兼
候段可返答旨及差凶

閏七月廿日 快晴

一 播州加藤郡三木町徳屋平兵衛一人例年之通紺屋形壳ニ来候段西新
町山家屋利右衛門宿切手差出 八月廿三日始ル
一 小野田為治義不快引込新治ノ届出候
一 河合元碩ノ返手を以小兒病氣之処全躰引廻り之義障ニ相成難義之
旨頼越候ニ付私ニも難致義ニ者候得共御病難之義無御拋筋ニ付無
少之間ニも可有之候間拙者場合ニ而御門前計全躰不引持廻り候様
ニ可申付旨及挨拶置左之通大年寄へ申達候尤全快早々申越候様ニ
申達置候

河合元碩小兒病氣之処全躰之音障候旨難義之趣ニ付同人門
前計金鋒不引持廻り候様可被申付候

閏七月廿一日 快晴

閏七月廿二日 快晴

一 御蔵米七拾七匁五歩町米六拾七匁五歩
一 林田町常盤屋丈右衛門義先月廿九日相願兵庫江罷越候処病氣ニ
付 来 八月十日迄日延追願差出承り届ル 閏七月廿八日始ル
一 西今町湯田屋太郎左衛門義先月廿九日相願兵庫江罷越候処用事不
相濟候ニ付来月十日迄日延追願差出承り届 閏七月廿八日始ル
一 安岡町久米屋友七義金昆羅參詣十三日計之逗留ニ而明廿三日出立
之願書大年寄差出承り届 八月七日始ル

閏七月廿三日 曇 細雨

一 御用日登城
一 小沢又右衛門横町関貫番人佐助義去ル十一日之夕番所明ケ宿元江
帰り居暫番人無之不埒ニ付先例之通追込七日可申付哉之旨佐助吟
味書ニ添差出候所伺之通被仰出候ニ付大目附へハ取計之上可相届
旨申達置候
一 大目附松岡治部助ノ町方大破家数多出来ニ朝日御門京町御門二階
町御門脇御堀之壁甚見苦敷相成他所もの見受候所も如何ニ御初入
も近寄候事ニ候得者 追々取繕無之候ニ而者 不相濟候間考付可相伺
町方道筋以前者 晩々牛馬屢 マ 喰殘藁草等取片着致候処近来ハ甚不
掃除ニ相成ニ道筋地面高ひく等出来甚不宜右等之義先前申付候
義も有之候哉相調可申聞右之段御用所ノ御察度ニ付申達候旨被申
聞候付大年寄へ道直しニ掃除等申渡候先格有之候哉相調差出候様
申達候

一 戸川町南側ニ而松岡屋善藏家屋敷表口四間裏行拾七間但一軒役也

東隣ハ弥右衛門後家西隣ハ板屋伊右衛門也右家屋敷地裏通り南詰

而東西四間南北五間御役式步付代銀札百五拾匁ニ相極新職人町

作人甚治へ売渡願承り届ル同廿八日書状並出

一大脇新左衛門妹義新魚町鳥屋与三兵衛貫置候処双方和談之上差戻

申度願書差出承り届新左衛門も右同断相願并堺町稻の屋清兵衛

妻ニ差遣度旨願出承り届ル

一小頭部屋目附兼三船孫八大年寄宅へ差向左之通申渡

去ル十一日之夕番所明ケ置 小沢又右衛門横町関貫番人

宿元へ帰り居不埒至極候 佐助

依之追込申付候 但七日

右ハ京町引受之処心付薄 京町年寄月番

不埒ニ付急度叱申付候 清左衛門

右取計相済候段御用番并大目附へ相届候

閏七月廿四日 時雨

一朝五時貼紙訂正新左衛門貼紙訂正新治文蔵佐五兵衛目明兩人非人兩人召連牢屋

江罷越贖銀一件之もの共并徳三郎遂吟味夜六半時帰宅

一先日目明并申出疑敷ものニ付当分牢番預ケ申付置候直治竹治盜賊

携ハ無之旨目明并申出候ニ付出牢目明へ相渡候

一大目附太田舎人并西本願寺使僧明日妙願寺へ致到着候由上江使者

相勤候義も可有之哉ニ付御使者宿心得程并申付置可然旨申来候ニ

付其段大年寄へ申付候処源五兵衛孫右衛門も故障有之ニ付二町目

福永屋藤助へ申付候段申出候ニ付其旨翌廿五日大目附へ相達置候

閏七月廿五日 曇

一稻荷山草刈今日相始候段中尾藤助届出候

閏七月廿六日 快晴

一大目附太田舎人并西本願寺使僧昨日妙願寺へ到着いたし候処上江

使僧不相勤候旨申出候間御使僧宿用意ニ不及候旨申来候間其段

大年寄へ申達候

一西今町南側并橋本屋義八家屋敷裏行之内南北式間東西五間之処

御役ハ八厘也南隣ハ野々口屋七郎右衛門借屋北ハ橋本屋義八居宅

也右之処八ヶ年已前戌年野々口屋八十郎取次并銀札四百匁借受

候処此度元利返済相済候段届書差出

閏七月廿七日 晴 夜 白雨

閏七月廿八日 曇 時雨 暁大風雨

一御用日登城

一備前赤坂郡福田村清七郎娘しも義美濃職人町団屋甚兵衛悴治兵

衛妻ニ引受度人別人願御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申

達候八月七日住宅証文差出己未二月廿三日履録

一雲州江橋隆庵老御頼ニ付被参候趣之処余部良仙老被参候由江戸

表并申来良仙老ハ御出入ニも無之御会釈無之候間市郷取扱准之略

候様大目附并通用有之候ニ付他之御代官衆并御先払差出候事

故保頭先払ハ有之方可然旨申達候処大目附并何之上其通ニ取計候

様舎人并達有之候

一大年寄孫右衛門登城公儀御医師雲州へ被下候ニ付昨廿七日齋崎宿

本馬三足輕尻馬三足之先触来候旨写差出即刻御用番中へ差出

大目附へも相達左之通大年寄へ申達又

一道筋不及掃除不見苦程ニ可致置事

一保頭先払

一同心組先払

右之段郡代所^并 寺社取次へ及通用

一大目附中^ノ大坂左右衛門^ノ申来候由^ニ而^レ被^レ為^レ見候^者 兵庫田中屋久

左衛門^ノ當所常盤屋丈右衛門湯田屋太郎左衛門丸龜屋勘治郎へ當

国之菜種綿実買登セ之義相頼候間御聞濟被^レ下候様願書差出候旨大

坂^ノ申来候段被^レ為^レ見候

一常盤屋丈右衛門湯田屋太郎左衛門丸龜屋勘治昨夜罷帰候段届出候

一立石広助連光寺茂渡兵吉玉の屋勇藏一昨廿六日夕於^二ノ宮取合候

由孫左衛門源五兵衛内々申聞候 八月廿一日致内該候段内々申聞候

一安岡町割屋嘉助借屋住作人忠六娘三年已前卯二月川崎村茂吉妻^ニ

差遣置候処離縁仕罷帰候^ニ付人別人願下方引合相濟候段申出承り

届

一雲州宿割之者来今般余部良仙老被相越今廿八日土居泊明廿九日津

山昼休^ニ候旨申聞候付二町目福永屋藤助へ立宿申付候段大年寄申

出承り置

閏七月廿九日 曇 晴

一余部良仙老町分通行無滞相濟候段御先払新治百藏^并 大年寄^ノ届出

候^ニ付御用番^并 大目附へ紙面^ニ而^レ相届候

一関貫番賃銀例月之通相渡候

一拙者義明朔日被為召一名之御奉書致到来候

一稻荷山草刈昨日迄^ニ而^レ相濟候段中尾藤助届出候

一牢舍人宜祥鉄藏病氣ニ付医師願出大年寄へ申付候処兩人共痢疾^ニ

付服藥申付候旨申出候

一安岡町坂本屋喜兵衛義橋本町徳嶋屋忠助一件^ニ付禁足申付置候段

大年寄届出候

八月 大

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 佐々木主馬

大年寄 藏合孫左衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

八月朔^{丁酉}日 快晴

一御徒格已上五時揃^ニ付六半時惣登城例格之通於七間廊下御小性頭

謁上席御奏者番々當日御祝儀申上之畢^ニ三奉行役順^ニ御用所へ罷出當日御祝儀申述之大目附^正も當日及挨拶

一近藤伊左衛門増見右門上原彦藏三人共忤芸術出精之蒙御意候^ニ付三人同道^ニ御用所へ罷出右御札申上之大目附^正も右同斷申述之依之御札不及廻勤忤計御用所大目附月番計へ廻勤為仕候事

一小沢又右衛門横関貫番人佐助追込昨日迄^ニ七日^ニ相成候^ニ付今朝差免其段御用番^并大目附へ相届候

一常盤屋丈右衛門湯田屋太郎左衛門丸龜屋勘治兵庫倉菜種綿実懸合相済罷帰候^ニ付委細懸合振弁書仕差出候様申付置候間差出次第可申上旨御用番^并大目附へ及御囀置候

一大目附々町方衣服之制度御触先規^ル之処丹後殿被見候間差出可申旨被申聞候

八月二日 快晴

一油屋共三人兵庫^ニ油方引受之懸合弁書差出候^ニ付右一件書類不残松岡治部助へ手紙^ニ差出置候

一町会所疊四拾五疊是迄万人講入用^ニ拵候処此度万人講場疊不残御弘^ニ相成候由^ニ町会所疊も引上ケ可相弘趣^ニ惠左衛門^ノ申聞候由下方^ニ御弘之内之宜疊と引かへ置度程^ニも存候趣喜左衛門より申出候^ニ付上原彦藏へ懸合候町会所^者御作事普請^ニ候得共疊^者年々万人講之節出来候事故其疊^ニ諸方之用向相濟候処万人講休会^ニ付最早疊修覆無之候^而難相濟候此節講場之宜疊と御引かへ被置候得^者以後修覆之節迄ハ無何事此候^ニ相濟其後修覆之節^者上^ノ出来候か又ハ講釈入用と申内^ニ上^ノ御弘可被下か又ハ

宗判等之節之入用敷^ニ其節之御評儀次第^ニ可相極筋之もの^ニ候間當時万人講弘疊善惡多少之極^ニも無之事故當時彼是懸合候も如何^ニ付先宜疊と引かへ置候様可申付之旨彦藏申聞候^ニ付其段喜左衛門へ申達候右之通以後ハ以後之御評^儀義次第之事とハ乍申町大割^ニ可申付もの^ニ無之筋と愚意^者存候

一町方宗門改帳例歳之通先月大年寄差出人別左之通

一天台宗 千六拾四人

一真言宗 式千百五拾八人

一禪宗 四百三拾式人

一淨土宗 七百拾式人

一淨土真宗 四百四拾四人

一日連宗 式千貳百拾五人

惣人数七千貳拾五人 内男三千七百拾人 女三千三百拾五人

八月三日 曇

一御用日登城

一因州松平相模守殿内小林左五郎宮城権左衛門菅平太夫加次屋又作^ノ昨夜飛脚差越候由白木状箱大目附中^ノ被相越宜及返書候様申来致披見候処先日召捕入牢取計置候無宿丈兵衛義ハ向方之銀札贖候趣^ニ非人頭へ申付置候処右贖札致候趣ハ利左衛門幸十郎^ノ申聞候由右丈兵衛と申ものハ向方之百性^ニ有之候処先年致惡工出奔いたし当時尋中之もの、由然ル所右丈兵衛義ハ贖札而已之義^ニも無之贖銀携之由右利左衛門幸十郎^ノ贖小玉三ツ相渡右贖小玉

取上ケ置候処爰元ニ而 贖銀一件之もの共被召捕候旨致伝承候間右
贖小玉相廻し可申哉と申来返書相認下案御用番中へ相伺候処右丈
兵衛義ハ糺之上様子次第御懸合申御引渡も可申右贖小玉ハ追 而 入
用ニも有之候ハ、其節可申遣旨及返書候様御差図ニ付其段及返書
候尤大目附江も相達置候

一 町方衣類制度御触左之通三通大目附へ差出候

一 延享三亥年 江口勘太夫触

一 宝曆十三未年 大沢三平触

一 明和五子年 井上弥三兵衛触

一 先達 而 備前懸合之節七通入白木状箱指札油紙青繩小林曾一左衛
門へ受取候処右受取手形相認大目附上印取相廻候様大納戸へ申越
候ニ付町奉行所と申手形ニ而 松岡治部助印形取小勘者三浦伴左衛
門へ相廻候

一 例年之通為替米町触取計候様大目附中へ被相渡写取触候

一 本覚寺へ去ル朔日盜賊入込十品盜取候由町触取計候様大目附へ被

相渡写取例之通相触本書ハ郡代所へ相廻候

(一) 御領分西々条郡二ノ宮村新助娘りせ義安岡町打穴屋忠助伴友八

妻ニ引受度人別入願下方引合相濟候段大年寄申出承り届 明七月改入

一 播州加古川へねちわく屋九郎兵衛長次郎二人例年之通呼寄昨日来

申候間当十二月迄逗留為仕度願差出承り届 十二月廿三日始

一 京町原田屋伊兵衛義播州姫路京口壱丁目となみや平兵衛方へ三十

日計之逗留ニ而 明四日罷越度願承り届差出 九月五日罷越

八月四日 曇

一 例歳之通切手納相始候迄為替米取間數旨大目附廻状来写取組中牟
舎三軒屋高石垣江相触候様孫八江申付ル

一 町方宗門帳今日宗旨奉行へ為持遣候

八月五日 快晴

一 黒田鼎長屋もの清左衛門義致出奔行衛不相知候段届出候間役筋へ
相尋候様大目附へ手紙ニ而 申来候

一 贖銀一件之もの共福渡町白銀屋利兵衛七んへい屋直兵衛安岡町備

前屋弥助召捕候節右家内 組 合預ケ申付置候処何れも携無之旨ニ付

右家内之者共組合預ケ差免他参留申付候様大年寄へ申渡候

一 林田町山本屋与三七下人多助義盜賊吟味筋ニ付与三七へ預ケ申付

置候処駢と手懸りも無之ニ付差免追 而 呼出候義も可有之旨申渡候

様ニ大年寄へ申渡候

一 土岐雄助長屋住松兵衛弟喜兵衛松兵衛妻伴松吉右家内四人戸川町

岩見屋孫兵衛引受度人別入願承り届 庚申九月廿七日届

一 御領分久米南条郡横山村嘉七娘義河原町作人増藏妻ニ引受度人別

入願下方引合相濟候段申出承り届

八月六日 快晴

一 福渡町白銀屋府右衛門家内着物無之不便ニ付裕単物之類四ツ受返

し遣度願書差出し承り届

一 上紺屋町今津屋平藏家守作人佐助借屋住作人新八下女妊娠月取間

違之 届 書差出追 而 出産之上例之通御叱取計候様申達ス

八月七日 雨

一 御藏米七拾匁町米六拾六匁

一本覺寺へ這入候盜賊弓削刃ニ手懸り有之旨目明申出即刻取ニ差遣候様一昨夕申付置候処仮目明源吉と申もの申付昨朝弓削へ差遣候処元備前出生當時無宿弥助と申もの、由ニ昨晩召捕歸り候ニ付弥本覺寺ニ這入候ニ相違無之哉又ハ同類等之義為致白状候様ニ下吟味申付置候処弥及白状盜物ハ弓削ニ有之候由申出候ニ付御日柄之義故今晚方入牢申付其段御用番ニ大目附へ紙面ニ相届候

一町方宗門帳相直り宗旨奉行被差戻候ニ付尚又大年寄へ申付候

一油屋共三人菜種綿実引受之義兵庫被相頼候一件書類去ル二日松岡治部助へ差出置候処引付置否之返答無之下方ニ急ニ不取懸候ニ手段も出来兼久世之もの先を被越候ニ始終不取計ニ相成永久之程難計之旨催促申出候ニ付治部助へ度々致伺候得とも不能面談甚差支ニ相成居候処夜前漸々及面会申談候得共治部助義ハ殊之外六ヶ敷申成候油屋三人共取計之手段一々承り糺其上ニも上役申付向方ニも睨と為懸合不恙無之様ニ可申付義と申候ニ付夫ハ筋違ニ今般之義ハ向方被頼候事ニ上御いろい被成候義ニ無之筋と存候段再心申候得共免角承引不致候ニ付左候ハ、委細取計之御聞糺被成候ニ追之義何れ薄々御存知ニ被差遣候事故何れ御聞届計ハ御濟被成候上之義ニ被成度之旨申述候処何分明日可相伺御差図次第之義と被申候ニ付宜御評義被下候様申達置罷歸り扱々吞込違不理屈之事共ニ有之候

八月八日 快晴

一御用日登城

一今般贖銀一件之もの共粗ハ御届も申候得共改ニ相届候義も睨と無

之故左之通口達ニ御用所へ申上大目附ニ書付差出候

此四人贖銀仕候段及白状

候ニ付入牢牢賄可申付候

右之通翌九日孫八を以申渡候

福渡町白銀屋利兵衛

同町 竹尾屋直兵衛

安岡町伊勢屋弥助

無宿 丈兵衛

此三人ハ贖銀遣永田省賀長屋住

利左衛門手先之ものニ利左衛

門と申合木山寺贖御札楯因伯刃

配り候得共贖銀之義ハ不存旨

ニ付先ツ吟味中牢番預ケ申付置候

中川登市郎長屋住利兵衛

上紺屋町作人 新八

無宿 幸十郎

右之段申上候処伺之通宜取計候様御用番中御差図ニ候

一宮脇町松井屋伊助義去ル十一日夕白銀屋利兵衛召捕候節伊助方へ駆込同心差向候処押隠し不居申と偽候ニ付御叱五日之追込可申哉と伺書を以相伺候処一学殿御存知寄ニ役人差向候処偽候段ハ難捨置ものニ候得共若輩もの婦人之義ニ候得一旦相包候も懇意成もの、義ニ候得無余義趣右之情合も難黙止義ニ候得先此依ニ捨置追ニ利兵衛御裁許之砌御叱計取計可然之旨被仰出其旨御受仕其段取計可申之処是迄預ケ申付置候事故不差免候ニ不相濟ニ付左之趣申渡候様大年寄へ申達候

白銀屋利兵衛召捕候節其方宅へ 宮脇町

驅込同心差向候処俸ニ妻ヲ押隠し 松井屋伊助

偽申不届ニ付御答可被仰付候処若輩もの

婦人之義ニ付先預ケ被差免候御答之義ハ追ニ利兵衛

御裁許之砌可被仰付候間其内心得違無之様ニ可申聞候

一松岡治部助夜前御談候油屋一件之義今朝御用所へ差出候処右書

類御披見も無之何れ粗ハ上ニも御存知候事ニ差遣候もの、義

候得者先御聞届ハ無之而相済間敷委細之訳聞札候義ハ追而之義

ニも可然間右書類御差戻申候間右願書を以御伺可然旨被申聞候

付直ニ御用所へ差出候処左之通

一 油屋一件書類一学殿へ差出治部助懸合候大意粗申上願書之趣読申

上候処何れ上ノ御世話被成候筋之ものニ有之間敷上役等申付候

筋之義ニ而決而無之併被仰聞候程之義ニ候得者始終行届成就い

たし候様ニも為取計度ものニ候得者三人之了簡ニ而難及義ハ誰そ

諸吟味位之ものニ而も相談相手ニ為致候程之義ハ申付置候而も可

然右ニ付候而取計之大意不存と申候而如何ニ候得者取計之大

意計ハ追而認差出候様ニ可申付其節右書類一諸ニ可差出尤御許容

申渡振合認差出候様ニ被仰出候ニ付即座ニ左之通認差出

其方共義今般兵庫灘目

油屋三人

油方之もの共々当國中菜種綿実為積登

被相頼候ニ付右受負仕度願書差出右願之趣

御許容被成候仍而公儀御触之趣

御国之御法ニ不相背候様厳敷相守御領分者

勿論之義他領たり共故障ニ不相成様精々取計

可申候

右之通認差出候処恩召無之御許容申渡候様被仰出候ニ付御受一札

之義ハ如何取計可申哉と相伺候処さつと受一札為致候方も可然哉

と被仰出候ニ付左候ハ、追而一札ニ取計方大意為相認右書類一緒

ニ可差出旨申上置^大目附月番^大松岡治部助へも右御差図之段及噂

置即刻大年寄へ申付取計相済候上右願書^大申渡書付大目附へ差出

候

一 院庄清眼寺へ去ル五日盜賊這入^{四五}品盜取候届書大目附被相渡町候

取計本書ハ郡代所へ廻候

一 牢舎人新吉弥市義病氣昨日申出大年寄へ申付置候処兩人とも痢疾

ニ付吉武修格へ療治申付候段大年寄申出候

一 御領分東北条郡林田村茂兵衛借屋住平助夫婦二人勝間田町山形屋

喜兵衛引受度人別人願下方引合相済候段大年寄申出承り届ル

一 中之町玉野屋なさ^{四五}倅久八義大坂難波橋筋天満旅籠屋町桑山東吾

方へ当巳七月^{四五}来午七月迄奉公ニ差遣度願書差出承り届^{翌八月日始}

一 和泉屋三ノ助造酒此節迄ニ売切候由尤御屋敷方へ差上候預り之分

者貯居候旨玉置卯左衛門申出候段孫左衛門相咄候尤漸全之日間丈

ケ損ニ致相済候得者宜敷と申趣ニ相聞候由且又御上り酒心得ニ而

試ニ造り候処大躰宜是迄火不入候得共少も損不申候ニ付兼而為試

少々役所へ差出度旨申出候趣孫左衛門伺出無余義筋合ニ付承り届

候

一 ノ宮牛馬寄御触例年之通町方へ差出候

一 牢舎扶持内貸証文致奥書来ル九日迄之扶持米有之候由新治申聞候

八月九日 快晴

一 雲州三助様御參府ニ付御宿割福田八十助夜前到着三助様御義来ル

十二日御発駕被成十四日当所御止宿被成候是迄差懸り度々御断被

仰進候得共御馳走振御座候而甚御迷惑被成候当年ハ格別御省略御

忍ニ而御旅行被成候間御先弘川場等之御出役凡而御馳走ケ間敷義

者堅御断被成候間其段無間違御役人中へ申通呉候様申之右ニ付御

本陣^者御用捨被成候間脇本陣歟夫も差支有之候ハ、並之旅籠屋ニ御止宿被成候間其旨宜頼候旨源五兵衛へ申聞候由依之脇本陣茂渡庄右衛門へ御宿申付候処石代改御宿仕間も無之難洪之旨申之御断仕候ニ付脇本陣故障有之候ニ付源五兵衛御宿可仕之旨申之候得^者左候ハ、宜頼入候由ニ而御座敷向見改^并下宿五軒見改今朝出立候旨且又本馬三疋人足式拾八人之甲州路御先触来候由孫左衛門申出其段一学殿へ罷越申達候処左程御断之義ニ候得^者任其意御相心之取計可有之如何程ニ取計可然哉愚意申上候様被仰聞候ニ付是迄御止宿之例^者無之候得共大躰左之通程ニ而も可然哉と

一 御本陣 玉置源五兵衛

同詰用達 三人 稲実屋義七郎 藤野屋多吉

野々口屋七郎右衛門

一 隣町夜廻り

一 御本陣前通行無用之旨保頭^ら相触

一 御通り筋改^而不及掃除不見苦程ニ可仕事

一 町々保頭御先払

一 同心組見^江隠れ御先払 御目通^江不出様ニ可落事

但自分羽織着用 夜中御本陣脇ニ出張

一出火之節御除地 本源寺 大信寺

右之大意申述候所随分其位之義ニ而可然間最早不申達候間大目附と申談宜取計候様ニと被仰出且又東西御船ハ如何存候哉と御尋有之候ニ付出役之ものハ無之共御船位ハ御差出不被成ハ相成間敷哉と申候所随分其通ニ候間猶又申達も可被成候得共其段大

目附へも申談置候様被仰聞候ニ付佐々木主馬方^江立寄候処今日ハ松岡治部助頼置他出之由ニ付松岡へ可申達と存候処向方^ら三助様御止宿取計認出候様ニ申来候ニ付右之通之ケ条認致持参候所先其通ニ取計可置此上違候義も有之候ハ、十三日ニ可申達旨被申聞候且又東西御船之義及噂候処当年御通行之節も高瀬船二艘相廻り候間其通ニハ可致義哉と被申候右御取計御差含之旨孫左衛門孫八^江も申達置候

一 因州高草郡福井村退心と申もの日本回国罷出予州新居郡東角野村^ら送り出し古城村へ送り来紛敷義無之ニ付^{マツ}継り候様ニ申付候段郡代所^ら通用有之候ニ付^{マツ}継送り候様ニ大年寄へ申付候処夜ニ入送り渡候段届出候

一 賈銀師府右衛門直^兵衛弥助無宿丈兵衛今日^ら入牢牢賄ニ申付ル

一 橋本町徳嶋屋忠助嫁先月十七日致直訴藍かめ堀起^{マツ}し候狼藉申出候ニ付佐十郎栄治差向候一件大年寄場合ニ而内^ら落取扱申含候処今日大年寄宅ニ而双方呼出し遂吟味候処不承知之趣有之旨ニ付小頭代孫八出番百藏立会差出候所弥内^ら落取扱申含候一件致落着候段孫左衛門喜左衛門届出候ニ付右一件之もの共双方共禁足差免候様申達^并門屋久左衛門義今般之取計役義不相応ニ付左之通申付候様申達ス

存寄有之ニ付

役義差免候

林田町年寄

門屋久左衛門

一 茂渡庄右衛門義先年大家之順番宿申付候所彼是難洪^{難洪}申立脇本陣相勤候ニ付順番宿ハ差免呉候様内々相歎候ニ付差免順番除候様申付

置候所此度石代改宿相勤無間も候ニ付断候等と心得違之義申候ニ付左之通申付候様ニ大年寄へ申達候

脇本陣相勤候ニ付順番宿

茂渡庄右衛門へ

差除候様ニ申付置候処脇本陣

御用有之候而も御宿間も無之ニ付及断候杯と

心得違之義申立候ニ付尚又順番宿ニ申付候

八月十日 時雨

一土岐美濃守殿領分海内役人秋田庄左衛門ノ菜種取計之義問合先達

而申来相伺追而取締候上ニ可申遣旨及返書置候間今般引受之町

人共相極候事故右之段申遣可然ニ付文通下案相認松岡治部助へ遂

内談候処主意ニ不叶返答ニ何分相伺御差図次第ニ取計可然旨

返書来候間右返書差添一学殿へ差出候但紙面ニ

一大目附ノ三助様御通行弥十四日御止宿ニ相違無之哉之旨尋求候ニ

付下方相糺候処弥相違無之趣大年寄ノ紙面ニ申越候間右糺書大

目附へ差出候

一尾州和田郡嶋崎之内寺元村高橋伊豆上下式人例年之通且那廻りニ

来候段元魚町紙屋助右衛門ノ宿切手差出

九月廿日 掃九

一宮脇町江見屋盜賊手懸り有之由ニ付目明孫兵衛義一人三四日以

前ノ播州筋へ差遣候処夜前罷帰り所々相尋候得共盜賊手懸り無之

候旨今朝届出候

一吉田喜助長屋住伝藏義江見屋盜賊吟味ニ付内々ニ喜助へ預ケ置

候処錠と手懸之義も無之候ニ付江見屋盜賊召捕候上上ニ可差免

哉と存是迄預ケ置候得共弥不相知候ニ付最早尋之筋無之ニ付被差

免候様ニ手紙ニ吉田喜助へ申遣且又右之趣内々ニ太田舍人江

も兼而及噂置候義ニ付舍人江罷越及噂候処兼而噂之趣何方江も相

咄不申候間不及御噂其俣ニ相済シ候様ニ被申候ニ付其旨喜助へ

も及噂置候

八月十一日 曇

一林田町三増屋勘吉借屋住太助義去辰九月百五十日之逗留ニ甲州

身延山へ参詣仕候処今以不罷帰相尋候得共行衛相知不申候段届出

先例之通百日尋申付候

一上紺屋町年寄八右衛門義八郎右衛門と改号仕度願差出承り届

一中之町南側ニ新屋甚兵衛家屋敷表口式間裏行拾七間但三步役也

西隣ハ玉野屋藤十郎東隣ハ北村李斎右家屋敷代銀百五拾匁ニ相極

同町玉野屋藤十郎へ売渡度願書承り届

同十八日 掃九 兼 兼

一二階町河本屋忠吉所持他国請酒株去辰九月ノ新魚町灘屋弥十郎へ

貸置候処取戻度届書出差出承り届

一西今町三倉屋善四郎相果候後中買役不相勤御用等ハ仲ケ間内相頼

居候処此度ノ養子善四郎ニ為相勤度願書差出承り届

一湯田屋太郎左衛門常盤屋丈右衛門丸亀屋勘治兩種引受御許容ニ付

御請一札差出候明後日御用番中へ可差出事

一右三人当国中之油屋共へ応対振之書付差出候

一小野田為治明十二日ノ出勤之旨新治ノ相届候

一松岡治部助方へ罷越菜種積登御届之義油屋三人ノ積廻候様申付置

候段海内役人江可申遣之旨下案差出置候得共御領分中菜種座と町

方手作之員数致差引右残之石数御届被成可然哉ニ考候段及内談候

処否之返答無之ニ付其旨又々可伺之旨申達罷帰候

八月十二日 曇

一 学殿へ罷越此間海内江之交通下案ニ伺置候通菜種積登之石数御

届[※]油屋三人之ものへ買集相登候様申付置候間右石数届出候上可

相届候と申遣可然哉と伺置候処尚又相考候所御領分中菜種座と町

方手作之石高と引合残「」石数御届被成候^而可然哉^ニ被存候^ニ付

右引合算様積書相添差出候処其段可然候間尚又石数之処大年寄[※]

油屋三人之存寄も内々承り糺候上^ニ而可被申聞候由^ニ而此間差出

候下案御戻し被成候仍^而其旨大年寄へ申合候

一 油屋三人之もの共差出候兵庫^ニ而懸合候弁書[※]為取替候一札写[※]

三人之御請一札[※]他領油屋共へ懸合候大意之類右書類不残一学殿

へ差出候

一 佐々木主馬々此間触流申達候院庄清眼寺盜賊被盜ものも不残取戻

し候様届有之候段通用有之候

一 郡代所々清眼寺江這入候盜賊無宿龍嚴召捕候間半番預申付候旨申

来立合円藏差向御取計候

一本覚寺被盜もの弓削^ニ有之由^ニ付目明甚七取^ニ差遣候処不残取返

し昨日持帰り候^ニ付追^而可差戻候

一 先日已来盜賊[※]贖銀一件之もの共召捕^ニ近国迄捕手差向候証文六

通合^而式百拾三匁三步九毛之証文小頭代り差出奥書取計之

一 九拾壹匁

孫兵衛因伯江遣入用

一 四拾五匁五歩九毛

文藏栄土播州へ遣入用

一 拾五匁

利左衛門近辺尋入用

一 式拾三匁

盜賊尋入用

一 拾九匁四歩九厘八毛

孫兵衛吉野郡行入用

一 拾九匁式歩式厘

甚七弓削行兩度入用

一 東新町鍛冶屋甚左衛門妻妊娠之処時疫^ニ而相果候付組合^ノ届書[※]

医師容躰書差出承り置

一 二階町河本屋忠吉所持之他国受酒株当已八月^ノ来ル午八月まで丸

一 一ヶ年勝間田町松屋伊助借受度願書差出承り届ル

一 中之町作人唐藏義大坂土佐堀辻屋甚兵衛方へ当已八月より来ル

未年迄三ヶ年之間奉公^ニ罷越度願書差出承り届^{翌年三月十七日罷帰り候段届出候}

八月十三日 雨

一 御用日登城

一 森右兵衛佐殿城下播州赤穂郡加里屋横町柏屋為三郎弟万藏義林田

町山本屋与三七養子^ニ引受置候処離縁仕度人別除願御用番御聞濟

^ニ付大目附へ差出置御聞届申達候

一 鍛冶町鍛冶五郎右衛門弟幸吉夫婦六年已前子五月小笠原信濃守殿

領分播州赤穂郡大枝新村六右衛門方へ養子^ニ差遣置候処男子老入

宇吉出生仕右三人今般離縁仕罷帰候付引受度人別人願右同断取計

濟

一 三助様御宿割福田八十助去ル九日来候節当四月三助様御通行之砌

出役之者へ左之通被下候旨玉置源五兵衛へ申達置候由^ニ而大年寄

差出候^ニ付今日大目附所へ書付差出夫々江配り相渡

一 鳥目式百文つ、

御先私式人江

一 銀壹兩

院庄船方役人

一 銀壹両

院庄村役^田 村端へ出候ものへ

一 銀壹両

兼田川船方役人

鳥目四百文銀三両

右之節船方ハ下裁許人差出候事故庄屋へ可被下^ニ而も可有之哉と
も被存三浦十郎左衛門へ遂相談候処下裁許人^江可遣筋と申聞候^ニ
付尚又大目附所^ニ而も乍雑談及噂候処何れ下裁許人^江可被下筋と
何れも被申候趣^ニ相決候付其節之下裁人^江相渡候様^ニと大年寄へ
申達銀式両差戻し院庄村役^江被下候分八十郎左衛門へ相渡候且又
其節之御先弘ハ荻野藤藏と加人御使組河野磯兵衛^ニ付廻り^ル為持
差遣候

一大目附佐々木主馬^ノ三助様御通行取計ハ去ル九日差出候通之取計^ニ
而宜敷候間諸事其趣可申付尤御止宿之上本陣^ノ三助様御役人之
内へ左之通可致演説旨被申聞

御止宿被成候事故御使者^并奉文^ニ而も御伺も

可有御座筈之処是迄も度々御断被仰進尚又

今般別^而事を分ケ委細^ニ御断呉々被仰進候

義^ニ付乍御籠略被為任仰御使者^并出役

之者も不被仰付候間此段御噂申上候様被仰付候

右之趣相認孫左衛門へ相渡源五兵衛^ノ此旨申述候様^ニ孫左衛門^ノ
可相達候旨申付候

一大目附^ノ廻状到来三助様御止宿^ニ付御本陣前通行為致間敷^并火元
入念候様^ニ可申付旨御触到来組中牢屋三軒屋高石垣番へ相触

二三助様御通行^ニ付東西両川へ高瀬船老艘つ、被相廻候間下裁許人

老人つ、差出候様大目附^ノ違有之其段大年寄へ申達候

一本覚寺被盜もの一昨日目明甚七弓削^ノ取帰り候品々不残送り書を
以寺社取次三浦十郎左衛門へ相廻し受取書取置候

一三助様御止宿^ニ付同心組立宿左之通申出候

安岡町三倉屋平兵衛 京町関屋喜兵衛

一元魚町中野屋宇助義大坂淀屋橋南詰綿屋義兵衛方へ四十五日之逗
留^ニ而十五日出立願大年寄承届差出^{九月五日梅ル}

一今朝^ノ雨降之処昼後^ノ風烈敷大雨^ニ相成候処大川筋洪水之旨亥ノ
中刻頃大年寄^并船頭町^ノも届出候^ニ付其段御用番^并大目附へ右^ニ
付役仕候旨手紙^ニ而相届尤大目附へハ御貸人馬被仰付候様^ニ端
書^ニ申遣尚又割場^并御厩^江御貸人馬呼^ニ差遣組中も不残罷出仍^而

船頭町土手へ乗付見及候所石垣式尺五寸計出居^江木之所^ハ今五六
寸之出水^ニ而者打越可申哉之趣^ニ相見へ孫左衛門孫右衛門喜左衛
門罷出致差図罷在大雨故土俵も昼後^ノ用意申付置候由^ニ而少々持
懸ケ候躰^ニ相見へ候得共土俵^ニ而防候所も絶^而無之夫^ノ土手端を
南新座町切通し迄及見候処気遣敷様子も不相見又々引返し土手端
を林田百間藪之肩迄罷越候処追々水勢も弱り候趣^ニ候処百間藪之
肩ハ元來地形ひき^ツ余程透水いたし候^ニ付土俵共持合ひ防候趣見
届暫見合候内水壹寸四五寸も引水勢弱り追々引水と相成候故夫^ノ
通り筋へ出町端玉林^江之取付迄罷越候所何之別条も無之併百間藪之
肩透水之所東新町横町地子居之辺ハ腰水位^ニもた、候得共往来
道へハ一向水付候義ハ無之候仍之直^ニ引返し本町通を引取帰り懸
御用番一学殿へ右之段相届大目附へハ馬脇^ノ差遣八ツ時過帰宅

一大目附佐々木主馬も出馬^ニ而林田土手迄被来直^ニ被引取候郡代三浦十郎左衛門も出馬^ニ而帰り懸ケ二階町御門外^ニ而行違候尤拙者出懸ケ^ニ郡代所^江者及通用置候

一院庄川兼田川渡船留り候段々ノ中刻郡代所^ル申来大年寄へ申達候

八月十四日 快晴

一牢舎人療治二廻り相濟候^ニ付代り之医師願出申付候所是迄吉武祐三相勤候所宜祥一人ハ全快仕休業^ニ而宜候得共新吉弥市鉄藏三人ハ未相勝候段申出候付吉武修格へ申付候旨申出候

一兼田川渡船相始候段申ノ刻過郡代所^ル申来大年寄へ達候

一御藏米六拾六匁六拾貳匁

一堺町丸龜屋勘治義大坂淀屋橋南詰大川町綿屋義兵衛方へ廿日計之

逗留^ニ而明十五日出立願書大年寄承届差出^{九月十六日補ル}

一三助様御止宿^ニ付聞合^ニ人馬問屋^ル人足差遣候所御川支^ニ而美鴨^{ツツ}御逗留被成明十五日夕当所御止宿^ニ可相成之旨久世本陣^ニ而承

合罷帰候段大年寄^ル届出候^ニ付御用番^并大目附へ手紙^ニ而相届候

尤勝山と新城^{ツツ}と之間之橋落川を隔双方申繼^ニ而右之趣久世本陣承

候由^ニ候尤組之者へも相達置候

一牢舎人丈兵衛口書出来兼候^ニ付書役新左衛門牢屋へ差向牢^ニ為相

糺候

八月十五日 快晴

一院庄川渡船相始候段已ノ刻過郡代所^ル申来大年寄へ申達

一三助様見^江隠れ御先弘藤藏百藏未ノ刻過差出候

一宮田喜左衛門義京都高倉通三条下ル墨屋善七方へ三十日計之逗留

候

而明後十六日出立之願書差出此節他出仕候^而も差懸り候御用向

故障無之旨大年寄申出候間承り届ル^{九月十六日補ル}

一 大脇新左衛門妹義塚町稲^野屋清兵衛妻^ニ引受度人別人願書差出承り届ル

一人馬問屋入用今般問屋共仕切請負^ニ申付候付当閏七月^ル十二月迄^考三百匁来午歳卷ケ年分三貫匁受負証文両通差出受取置

一 惣町大破家取繕入用工面書大年寄差出

一 三助様御止宿聞合^ニ坪井へ差遣置候人足罷帰り川之御差支^ニ而御

同勢も美鴨^{ツツ}新城と相分り候様^ニ被為成勝山川も今四時渡船相初り

夫^ル延道三里之処申上候上御出立被成候得^者昼後ならてハ御渡船

難被成漸今夕久世御泊明十六日夕当所御泊^ニ可相成哉之趣七里飛

脚申候由伝承仕罷帰尤聡と相知次第急^ニ坪井^ル申越候約束^ニ仕置

候旨申出候段大年寄申出候^ニ付又々々夕御泊迄人差遣置候様^ニ可

取計旨及差図置其段御用番^并大目附へ相届候

一 田中幸助^ル返書来造酒株讓受之義未御届不取計候間先年勝山^ル讓

受之造酒株も可相届候間其旨勝山へ懸合右書類不殘相廻候様^ニ申

越候且又勝与八郎殿^江差遣候書状も戻ス

八月十六日 快晴

一 三助様御義弥夜前久世御止宿^ニ相成候段坪井問屋^ル今五ツ前時申

越候旨申出其段御用番^并大目附へ相届候但郡代所^江も申遣

一 田中幸助^ル昨日差越候返書^ニ付勝山へ造酒株讓渡御届之義懸合下

案相認御用番中へ手紙^ニ而差出候処後刻伺通^ニ取計可申之旨申来

候

候

一 町方大破家取繕考書ニ拙者并書相添松岡治部助へ紙面ニ差出候
一 三助様御通行聞合之者四時罷歸り弥今日当所御昼御昼ニ相成候旨
承り罷歸候ニ付其段御用番#大目附へ相届郡代所_江も申達

一 三助様御義当所#院庄共御昼無御座御本陣_江も御立寄不被成町分
無御滞御通行相濟候段見_江隠れ御先弘佐十郎栄治#御本陣源五兵
衛九時過届出候付其段御用番#大目附_江も手紙_ニ而相届候

一 田中幸助_江昨日申越候造酒株讓請御届之義ニ付明十七日勝山へ飛
脚差遣候間被仰付候様ニ大目附へ申達候処河野伊右衛門來

一 牢屋御繕今昼迄ニ相濟候段牢番山七届出候
一 牢浚申付無別条段昼廻り藤藏百藏届出候

八月十七日 快晴

一 三助様御通行ニ付左之通被下候旨夫々届出候

一 式百文ツ、 同心組式人_江

但見_江隠れ廻り之躰_ニ而壹町半計も御先へ相立候所
御供方_江見付追驅來堅御断之旨申候ニ付御断ニ付御
先弘ニ罷出候義_ニ而無之廻りニ罷出警衛之為御先へ
相廻り候段申述候所承知之趣候処玉琳茶屋ニ右被下
残被置候由玉琳茶屋_江相届候旨申出候

一 式百文ツ、 船下裁許東西式人_江

右届之趣翌十八日大目附へ相届候

一 菜種御届石数之義#海内_江右同断ニ付懸合之義一学殿_江罷越相伺
候処段々御存寄被仰出認直し明日可差出旨申置候

一 油屋共三人他領油屋へ懸合振内密之所孫左衛門承り候趣認出御
内々一学殿_江差出置候

一 田中幸助_江勝山_江造酒株懸合之義昨日申越候書状又々差出候様一
学殿被仰聞今日又々差出候

一 酒改福永屋藤助坪屋藤十郎神西作助同道_ニ而御領分在方造酒屋へ
開封ニ今日罷越候段大年寄_江届出候

八月十八日 曇

一 御用日登城

一 玉置卯左衛門義大坂堂嶋屋源兵衛方へ三十日之逗留_ニ而明十九
日出立願書御用番御聞濟ニ付大目附へ差出御聞届申達候九月廿一
日追願差出

一 於御用所大目附出席一学殿_江左之通被仰渡候

無宿盜賊鉄藏義所々致盜 町奉行_江

不届ニ付百敲之上御領分追弘被仰付候間取計可申候

右取計廿二日可致候間御徒目附被差出候様ニ大目附へ相達候郡代
中へも申渡被相廻候様申談置候

一 土岐山城守殿領分当国海内役人秋田庄左衛門_江菜種取扱之義先達
而問合申來追_而取締之上可及返書旨申遣置候所今般右一件大鉢取
締相濟候ニ付返書下案#尋之ケ条ニ致付紙相伺候処御用番中御聞
濟ニ付明_朝立_立ニ而差遣候間飛脚之者被仰付候様ニ大目附へ申達候
処萩野勘十郎來相渡受取書取歸り候

一 菜種御届之石数四拾四石五斗八升三合六勺五才_ニ而可然之旨并書
を以相伺候処御聞濟之趣_ニ而一学殿_江御戻被成候得共否不申來候
間追々可伺事

一 勝山へ差遣候飛脚罷歸り向方_ニ而も承知_ニ而御届可致之旨申來り

候ニ付右返書御用番中へ差出依之先年勝山領ノ造酒株和泉屋三郎

助讓受候書類江戸表へ可相廻尤幸明朝立ニ而玉置卯左衛門大坂江

罷越候間同人江相頼大坂ノハ差込を以江戸表へ可差遣之旨可申遣

相伺候処宜取計候様申来村尾左衛門へ致添状大年寄迄為持遣候

右之段大目附へも紙面ニ而申遣置候

一 菜種受負油屋三人共差出候書類御用番中ノ御戻被成候ニ付大目附

中へ差出候所是又披見之上被差戻勘定奉行へ相廻候処是又八月廿

三日相戻候

一 三助様当四月御通行之節為御挨拶院庄兼田船役人江銀老兩つ、被

下江去ル十三日之所ニ記置候通船下裁許人江差遣候様申付候所院庄

相濟御船ハ不相廻由ニ而老封差戻し候ニ付大目附江遂内談候処兼

田橋詰へ出候庄屋へ遣候ニ而可然評義ニ付三浦十郎左衛門へ相渡候

八月十九日 曇 夜雨

八月廿日 朝雨 四後晴

一 備前岡山小畑町鼠屋甚八手代文十郎一人例年之通元結売ニ来候段

新職人町松野屋重右衛門宿切手差出 十一月廿七日辨

八月廿一日 快晴

一 自分義三浦土頼置瀧権へ致参詣候尤届ハ上原相頼候

八月廿二日

一 於牢屋御徒目附西原郷平下目附植月類十郎書役新左衛門小頭代新

治部屋目附孫八立会左之通書役ノ申渡之

所々致盜候ニ付百敲之上

無宿盜賊

御領分追払申付候

鉄蔵

右取計相濟出番文蔵円蔵皿村へ送り払候段届出其段御用番并大目

附へ手紙ニ而相届候

一 牢舍扶持九俵之内貸証文差出奥印書取計之但是ニ而も当月之分五

斗三升六合式勺五才不足也

一 山田与市長屋住吉十郎一人坪井町小倉屋喜助引受度人別人願大年

寄ノ差出承り届

一 西新町北側ニ而伊崎屋重右衛門家屋敷表口五間裏行十七間但本役

也東隣ハ金屋庄兵衛西隣ハ横町也右家屋敷十二年已前天明六午二

月質物ニ書入老貫七百匁借受候処今般元利返済請返候段届書差出

承り届

一 細工町南側ニ而（庶紙訂正）作人定助家屋敷表口壹間半裏行拾壹間但式步役

也東隣ハ元結屋六兵衛西隣ハ作人源三也右家屋敷代銀札四拾匁ニ

相極町内元結屋六兵衛へ売渡度願書承り届 同廿四日宛状差出

一 細工町南側ニ而作人源三家屋敷表口式間裏行拾壹間但式步役也東

隣ハ作人定助西隣ハ楸柄屋十三郎也右家屋敷代銀札百六拾匁ニ相

極町内種屋嘉兵衛へ売渡度願書承り届 同廿四日宛状差出

一 下紺屋町南側ニ而原田屋利兵衛家屋敷表口四間裏行拾七間但九步

三厘役也東隣ハ同居宅西隣ハ作人与市也右家屋敷代銀札三百匁

ニ相極美濃職人町長門屋宗兵衛へ売渡度願書差出承り届 九月朔日宛状差出

八月廿三日 快晴

一 御用日登城

一 雲州神戸郡杵築中村忠三郎悴勇助夫婦悴參之助右家内三人美濃職

人町綿屋佐助借屋住塩屋庄助引受度人別人願御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達候同廿七日住宅様文差出

一 德守宮於社地晴天三日花相撲興行仕度桶屋町浜風岸右衛門願書岡田繁太郎差出候ニ付寺社取次三浦十郎左衛門へ懸合徳守宮神主も今日願書差出候ニ付御用番中へ相伺候処即刻御聞濟ニ付大目附へ相達御許容之旨岡田繁太郎へ手紙ニ申達尤月中旬興行之趣口達ニ申出其段御両所へ相達置候

一 菜種御届之石数先日相伺候通弥四拾四石五斗八升六合六勺五才御極可被成哉と御用番中へ相伺候処其通被仰出候ニ付左候ハ、右之石数兵庫へ相廻候様引受油屋三人申付置其上ニ大坂へ可申遣可然と下案相認差出尤郡代所可申遣義哉と相伺候処御届之義候間大目附可相達筋候間其段大目附へ相達候様御用番中被仰聞候ニ付其旨大目附へ相達候処承知ニ左候ハ、郡代所下方相改候算様書為差出其上ニ御届可申遣哉と申義ニ付左候ハ、町家油屋共手作之員数相改大年寄より為差出郡代所へ可相廻旨請置其段大年寄へ申付候処町方油屋共手作手紋之石数百拾貳石三斗貼紙訂正有之候旨大年寄三人連印ニ差出郡代所へ相廻候

一 盜賊沙駄ニ付町方夜廻り申付置候処最早余程ニ相成近来ハ少靜謐之趣ニ候間一ト先差免候様申付度之旨御用番中へ相伺候御聞濟ニ併非人忍廻リハ可申付之旨被仰出候ニ付其段大目附へ相達置大年寄へ申付非人忍廻リ一組四時後差出候様大年寄へ申付候且又小頭代孫八呼出し右之通今夕申付候間此段目明共も申付弥心懸ケ盜賊遂吟味候様ニ可申付旨申達候

一 惣繰屋共々玉琳綿屋佐助備前屋幸吉此外玉琳古林田小店持共新村松原佐助綿商売専仕候間御吟味被下先達ニ通御差留被下候様願書差出候ニ付郡代所へ相廻御吟味被下候様ニ懸合置候

一 元魚町大庭屋善兵衛義下横野宗助へ田地之公事出訴之処催促願差出候ニ付三浦十郎左衛門へ相渡何卒急ニ被筋立被下候相達候所承知ニ明廿四日九時郡代所へ差出候様ニ申来候ニ付其段大年寄へ申達組合老人町年寄差添差出候様ニ申付候

一 町方大破家取繕之弁書先日松岡治部助へ差出置候処文段不氣ニ入趣ニ付認直し紙面ニ松岡へ差遣候

一 福渡町皆木屋甚助義同町竹尾屋直兵衛相頼蒲団老質ニ置候間受返し度願書差出承り届候

一 福渡町久兵衛義安岡町伊勢屋弥助相頼帷子一布子ニ質物置候間受返し度願書差出承り届候

一 福渡町竹尾屋直兵衛妻衣服給二ツ布子一羽織一メ四品質物ニ有之候ニ付受返し度願書差出承り届候

一 上紺屋町新八古ねまき一質物ニ有之受返し度願書差出承り届候

一 桶屋町西屋善藏借屋住浜崎屋利兵衛義去ル六月不斗罷出不罷帰出奔届仕百日尋之内播州尾崎村ニ尋当り召連帰リ帰町願差出承り届先例之通無願罷出候段急度叱置候様申付ル

一 坪井町益野屋吉兵衛義備前和氣郡益原村綿屋弥三郎方へ当八月未年迄三ヶ年之間奉公ニ罷越度願書差出承り届同四月廿一日罷越

一 安岡町河本栄昌娘義廿五ヶ年已前惣社神主小井右膳妻ニ差遣候処今般致離縁罷帰候ニ付人別人願差出寺社取次三浦十郎左衛門へ引

合之上承り届

一 播州加藤郡三木町形屋与兵衛手代藤兵衛一人例年之通紺屋形壳

来候段西新町山家屋利右衛門宿切手差出 翌正月三日届

一 今般盜賊尋入用不残今日受取 源孫 右衛門へ相返し候由ニ拙者 江も

三拾七匁三步取かへ新治の差戻候 并 組差出候ニ付七人定之割合

被下置文蔵栄治へ相渡候由 并 算様余り四匁式歩有之候ニ付右八目

明仮役源吉 并 非人岩蔵へ為酒代差遣度旨新治の伺出承り届宜取計

候様ニ申達候右算様余りと申ハ銘々遣入用書立小手形差出候処

上ハ三百拾錢之割被下候付割余り有之候事也

一 菜種座辰巳兩年吟味書先達 而 松岡の相廻り有之候処三浦十郎左衛門の相廻吳候様申来相廻候

一 油屋三人内密差合懸合取計書先日御用番中へ差出置候処今日御戻

し被成直ニ小須賀貢 江 相渡候処同断披見相濟被差戻候ニ付明日上

原彦蔵へ可相廻事

一 菜種御届之石数辰巳兩年平均之式歩之石数四拾四石五斗八升三合

六匁五才可相廻旨油屋三人 江 可申付旨大年寄へ申付置候処右之數

四拾式石ニ有之候処新左衛門不調法 ニ 而四石と相認間違有之旨大

年寄申出最早伺濟之義ニ付其段大目附へ參申達候処何分明朝御用

番中へ可相伺候間右落着之上差扣ハ可伺之旨被申聞候

八月廿四日 曇

一 大目付佐々木主馬の御届之菜種石數ハ四拾五石と御極被成候間其

段引受之町人共へ申付 并 郡代所 江 も及通用候様且又右算様違ニ付

拙者差扣伺ハ伺 ニ 及候義 ニ 而者無之旨申来候ニ付左之通大年寄へ

申達郡代所 江 も及演達候

御領分中菜種作高御改

大年寄 江

有之候処手作手紋之分相除

四拾五石有之候間右石數兵庫へ積送り候様ニ引受人

常盤屋丈右衛門湯田屋太郎左衛門丸龜屋勘治へ可申渡候

右之通申渡候処何之故障も無之御受仕候段翌廿五日大目附中へ申

越乍序相届御用番中へも乍序及噂置候

一 元魚町大庭屋善兵衛義今日郡代所へ呼出候段申付置候所不快ニ付

煩代近親龜屋定治差出度尤同人義ハ元来得 与 吞込居願人 江 も却

委敷位之義ニ候間何卒代人 ニ 而御濟被下候様ニと相歎出候ニ付其

段郡代所へ頼遣候所随分代人 ニ 而不苦旨申来候間其段大年寄へ相

達候

一 近々御用所武芸一覽素読被聽候段大目附廻状到来写置候

一 九時の新左衛門新治為治円藏目明甚七召連牢屋へ罷越府右衛門利

兵衛直兵衛弥助丈兵衛幸十郎新八徳三郎口書爪印取之

八月廿五日 曇

一 菜種四拾五石御廻被成候間其段取計候様申付候所何之故障も無之

御受仕候旨大目附主馬へ以參相届候尤御用番 江 も乍序及御噂候

一 東新町南側 ニ 而弓削屋多助後家所持之家屋敷表口五間半裏行拾七

間大溝切り御役七歩五厘也東隣ハ橋本屋茂右衛門西隣ハ 隣新町正 屋

茂兵衛也但裏 ニ 三間 ニ 九間内三間 ニ 五間半之土蔵式ケ所有之右家

屋敷土蔵とも橋本屋茂右衛門取次 ニ 而質物 ニ 書入来午九月切 ニ 而

壹割半之利足 ニ 相極銀札壹貫五百目借受度願承り届

ル
九月二日本紙文産出
午九月廿八日受過し頭

八月廿六日 晴

一 公儀御医師余吾良仙老雲州が被帰候ニ付左之通先触到來

先触

- 一 人足 式拾八人
- 一 本馬 六疋

右^者 御医師余吾良仙松平出羽守様依御頼御国許江被差遣御用之義相達来ル廿五日雲州松江出立江戸表へ罷帰申候間

書面之通宿々人馬差出無滞可被継送候尤渡川^井渡海場へハ前宿が被致通達差支無之様取計可被給候以上

一人馬賃錢御定之通相払候間無相違可被差出候万一無賃之人馬差出候様ねたりケ間敷者有之候ハ、留置我等罷越候之節可被申聞候

一 病氣足痛等有之候節之為余計之人馬用意可給候以上
一 休泊左之通

八月廿五日

松江出立 出雲郷休 安木泊 溝口休 根雨泊

廿七日

新庄休 勝山泊 坪井休 津山泊

廿九日

土居休 作用泊 大坂 廿日江戸

右之通休泊之積之間被得其意本陣用意有之下宿之義^者宿割が可申談候此先触不限昼夜早々順達品川駅が江戸良仙

宅へ可被相達候以上

御医師余吾良仙内沢田左内 印

八月廿三日

雲州松江が大坂品川迄

宿々問屋 中
年寄

覚

一人馬 式拾五人

本馬 壹疋

右少将殿久々病氣付^而御医師余吾良仙老被相頼候処明後廿五日雲州出立東海道通り江戸表へ被罷帰候付^而此方が相添ひ候同勢入用之人馬ニ候之条無間違様御手合置可給候以上

雲州 岡田弥五左衛門

八月廿三日

伯州米子が大坂通り武州品川駅迄

所々問屋中

一筆申入候少将殿久々病氣ニ付^而御医師余吾良仙老被相頼候段明後廿五日雲州出立付^而休泊左之通相究候条差障無之候ハ、各名之下ニ印形可給候尤下宿之義^者宿割之も^の江委細申合候間可然頼入候恐々謹言

雲州 岡田弥五左衛門 書判

八月廿三日

安木の品川迄本陣中

右先觸写及深更差出候付翌廿七日取計書差添御用番中へ差出

八月廿七日

一余吾良仙老止宿ニ付取計他国御代官止宿取計ニ而可然と存右例書添夜前之先觸御用番中へ紙ニ而差出大目附へも其旨申達置候所大目附中談度義有之旨申来主馬宅へ罷越候処今朝御用番中へ差出候良仙老御取扱他国御代官取扱之儀ニ隣町夜廻り大年寄町年寄伺有之候是ハ公儀御用ニ付候ニ而可有之哉今般良仙老止宿ハ私用之義ニも有之候得右三ヶ条ハ相止候も可然と御用番中被思召候併拙者存寄御尋之上御決可被成と御尋ニ候旨被申聞至極御尤之義於拙者も御同意ニ存候得共外ニ摘当之例無之殊ニ先日も他国御代官之当リニ而も可然旨御沙駄ニ付先例之通認出候義ニ有之候間右三ヶ条御止被成候も少も不苦義と存候旨申達候所其旨御用番中へ可申達候旨被申聞罷帰候所後刻紙面書ニ弥右三ヶ条相除余ハ今朝伺之通取計候様御用番中被仰出候間其旨可取計尤分御用番中へハ不申来候旨申来仍之左之通取計候様大年寄申付候

一 道筋改 不及掃除不見苦程ニ可致置事

一 保頭先払

一 同心組先払

但夜中立宿可相詰事

一出火之節御除地

本源寺 大信寺

右之通小頭 大年寄へ申付候所左之通書付出候

一 廿八日御先払 三船孫八 川端五兵衛

一 廿九日御先払 三船新治 小野田為治

一 御本陣 玉置源五兵衛

右詰用達 稻実屋義七郎 藤野屋多吉 野々口屋七郎

右衛門

一 同心組詰立宿 京町豊屋和助

一 右同断安岡町立宿 安岡町古川屋太兵衛

一 西今町公保田屋利右衛門無宿丈兵衛廣銀預ケ置候段仍尋届出候

一 常盤屋丈右衛門湯田屋太郎左衛門丸龜屋勘治義今般油方之義兵庫

罷出引受之約束いたし仍之綿実之腦も以後無之事故入用程ハ綿

実之方被下置候も可然義と上原彦藏と遂対談仍何れも之三

百拾銭と別為褒美銀老枚位三人被下置候も可然旨申談内々孫

左衛門へも申聞候尤閏七月朔日出立同月廿七日罷帰候段申達候

一 三浦十郎左衛門余吾良仙老止宿ニ付出火御除場本源寺大信寺へ

申付候段通用有之候

八月廿八日 少雨 曇 晴

一 御用日登城

一 豆腐屋共去々卯十一月拾九文売候所大豆高直ニ相成候付貳拾

文売ニ仕度算様書差添願書差出相伺候所御用番中御聞濟ニ付大目

附へ願書差出置御聞届申達候割合書左之通

一 老奴三步八厘 大豆貳升代 但六拾九匁相場

一 三分 薪代

一 老奴六歩八厘 拾挺分元入也

右式拾文ニ売立老奴九步六厘也

内老奴六步八厘元入引

残ニ式步八厘手間代

一 小性町鍵屋伊助倅伊三吉義兼ニ不所存もの、所聞七月十六日罷出行方不相知右躰之ものニ付親類打寄義絶勘当仕度人別離願御用番

御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達候 九月五日本証文書出

一 公儀御医師余吾良仙老御先弘砂兵衛孫八ハ八時過御到着之旨ニ大年寄も届出御用番ニ大目附へ相届候

一 牢舎人弥市新吉療治ニ廻り相濟最早休業候ニも可然旨双方ハ届出候

一 牢舎人惣社村政治小原村和七蒲苗老ツ、入遣度牢番山七届出承り届

一 牢舎人无宿幸十郎是迄臈祥老ツニ而冷氣ニ難堪趣之所永田省賀方

ニ古蒲団古綿入有之哉之趣ニ相聞目明甚七江内々ニ而受取入遣候

様ニ申付置候処永田ハ受取候段申出候ニ付入遣候様ニ山七へ申付ル

一 牢舎人中川登市長屋住利兵衛賄昨日不差遣候段牢番ハ申出昨日直

ニ受人ニ申付候様大年寄へ申付候昨日認落候ニ付爰ニ記置

一 坪井町小倉屋喜助役介吉十郎義此度古川吉十郎と相改太田舎人江

出入奉公仕度人別除願承り届

一 堺町南側ニ而丸屋幸吉家屋敷表口四間裏行拾八間但半役也東隣ハ

小性町鳥屋与市西隣ハ倉敷屋和助也右屋敷地之内南之方東西四間

南北八間半御役式步三厘添代銀札三百匁ニ相極町内和泉屋三郎助

へ売渡願承り届 九月五日売券扶差出

八月廿九日 晴

一 院庄土橋出来今朝ハ往来相始候段郡代所ハ申来大年寄へ申達候

一 公儀御医師余吾良仙老今曉出立町分無滞通行相濟候段御先弘新治為治ニ大年寄ハ届出御用番ニ大目附へ手紙ニ而相届候

一 土岐山城守殿領分海内役人秋田勝左衛門ハ先日菜種取計之義申遣候返書飛脚を以差越受取差遣候

一 番賃銀大年寄ハ差出候

八月晦日 雨

一 例月之通番賃銀相渡候

九月 小

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 山田主膳殿

大目附 松岡治部助

大年寄 玉置源五兵衛
諸吟味 宮田喜左衛門

九月朔^{丁卯}旦

一西今町三倉屋善四郎義米中買相勤候^ニ付先例之通一札差出候

九月二日 晴

一戸川町関貫大破^ニ付孫左衛門見届候由積書差出承り届申付候但百
匁計入用

一牢舎人中川登市長屋利兵衛綿入^ニ入遣度牢番伺出承り届

一牢舎人田の邑村庄助牢賄不差越候段昨日申出郡代所へ申遣候所今

日差越候由牢番申出候

一町方大破家取繕再三考書松岡治部助へ差出

一贖銀一件之者共口書^{*}因州へ差遣候下案松岡治部助へ差出

一札元三船八郎右衛門義市^(マ)ノ宮市町出役無滞引取候段届出候

九月三日 快晴

一御用日登城申上候御用向無之

一寺社取次細江武助^ノ坪井町浜屋源右衛門へ成覚寺懸け合一件内済

可申付扱人^ニ^{*}光嚴寺可申付存候間町方^ニも扱人申付候様^ニ相

談^ニ付其旨大年寄へ申付候処東新町並屋忠兵衛申付候段翌四日申

出候

一但州生野御代官稲垣藤四郎殿手代中沢良右衛門高橋督三郎勝部三

五兵衛^ノ塔中村口留番所^ニ入用^ニ付例年之通当年中之錢相場書頼

来来正月上旬取^ニ越候様及返書

九月四日 曇 夜雨

一備中国賀陽郡惣社村作屋善兵衛例年之通切丈長割煙草紙類卸売^ニ
来候段堺町西川屋善助宿切手差出

一目明孫兵衛義盜賊吟味^ニ川下^{*}倉敷之方へ罷出候段昨夜届出候

九月五日 雨

一坪井役人吉井要助瀧口儀右衛門^ノ飛札往来要助義參着来秋迄相詰
儀右衛門義交代いたし候旨案内申来及相答

一大目附^ノ呼^ニ来登城候処元魚町靴屋伊助大坂大川丁玉子屋九兵衛

江 老貫五拾匁匁四歩三厘買物代差滞京町大村屋源右衛門義も同人

江 年賦銀差滞老貫百匁有之大坂御留主居村尾左右衛門御番所^江御

呼出^ニ而右訴状御渡被成六十日切済方可申付尤申付候日限左右衛

門へ申遣候様申来候由右訴状写被相渡候^ニ付左候ハ、来ル八日御

便^ニ否可申^遺候間明後七日兩人呼出し可申付旨申達置罷歸り其内

内糺仕候様大年寄へ申付置候

九月六日 雨風晴

一大隈宮祭礼前夜例年之通林田六丁^(マ)焼灯差出候段大年寄届出候

一大坂玉子屋九兵衛出訴相手方伊助源右衛門内々相札候処源右衛門

方ハ親之時分之借銀^ニ而当人ハ不存候得共祖母覚居候由此節も懸

合中^ニ候由伊助義ハ向方算様間違^ニ而此方^江も老貫四百匁計取候

分有之先年代人来候節差引致算様此方へ三百匁余可受之旨申候得

共代人之義故得相渡不申夫切^ニ相成居候由何れ罷出懸合不申候^而

相濟申間敷旨申候由大年寄申出何分兩人共明七日五時過召連罷

出候様ニ大年寄へ申渡小頭へも手配申付置候

一 郡代所ノ牢舎人龍巖吟味ニ付呼出牢屋立合申来左十郎栄治出入ニ差出候

一 元魚町桶屋伊助久保田屋嘉兵衛山口屋源治溝論出入書付内済出来かたく吟味書類大年寄差出候

一 町方大破家大年寄再三考書一学殿へ致持参差出候
一 錢貳拾三箇川下ケ申来奥書取計候

九月七日 晴

一新治新左衛門源五兵衛立合ニ而五時過左之兩人呼出訴状之趣書役ノ誑渡濟口申付ル

大坂玉子屋九兵衛ノ出訴之趣 元魚町靴屋伊助

無相違候ハ、早々相済可申若又 年寄組合一人差添

訳合有之候ハ、罷出可申披候 京町大村屋源右衛門

右相済候内他参留申付候 但六十日限 右同断

右申渡相済候段大目附へ手紙ニ而相届候御用番へも右同断

一 兼田川土橋出来今日ノ往來相始候段郡代所ノ通用有之大年寄へ申達候

一 元魚町玉嶋屋善助義此度刀屋と家号相改度依之古道屋株札名面相改候様願出承り届則株札家号認替相渡候

一 堺町小鳥屋五六持来候古道具屋株新魚町福本屋多兵衛讓受度左候ハ、同町角屋伊之助受人ニ相立候旨株札差出承り届株札名面認か

へ相渡候

一 出九太夫長屋住藤八ノ娘きよ右家内式人小性町茂渡庄右衛門家守

庄助引受度人別人願承り届

一 西新町玉木屋伝吉借屋住参角屋茂十郎ノ妻娘右家内三人東南条郡

林田村流水方へ為引越度人別除願下方引合相済候段申出候ニ付承り届

一 林田上之町作人作兵衛弟文吉一人小性町瓜生原屋平吉借屋屋守

喜平治引受度人別人願下方引合相済候段申出承り届

一 二階町河本屋忠吉所持之他国受酒株当八月奉願勝間田町松屋伊助へ貸置候処取戻し度願差出承り届

一 右他国受酒株官脇町淀屋襄助当九月ノ来ル未ノ八月迄借受商売仕度願差出承り届

一 西々条郡二ノ宮村平兵衛悻利助義坪井町市場屋源七養子ニ仕度人別人願下方引合相済候段申出承り届

九月八日 快晴

一 御用日登城

一 中之町日上屋茂助義裏通清水場辺之川瀬ニ而小船車四柄泊り仕候

而小売白米下直ニ商売仕度願書差出候ニ付郡代所へ懸合候故故障無之旨ニ付御用番中へ差出候所御受取被置追而否可被仰出之旨被仰出候

一 二町目紙屋茂三郎役介幸吉義当六月出奔仕百日相尋候処行衛不相

知候ニ付離帳願差出御用番中御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届之旨申達候

一 大隅宮祭礼ニ付東新町組頭共ノ氏神大隅宮へ願望ニ付子供四人計踊らせ俄芸為仕度左候ハ、郡集可仕路次無覺束候間先年差出候芸

台差出度願書差出御用番聞濟ニ付又々申上候者 俄芸之義ハ不及届
先格之所併ケ様ニ芸台等差出候段承り届候上凶事之程も難計候故
警固同心組可差出旨申達候所宜取計候様被仰出其段大目附中へも
委細申達候

一大坂ノ出訴一件靴屋伊助大村屋源右衛門へ申付候所奉畏候旨先格
之通大坂村尾左右衛門へ可申遣哉と下案相認大目附へ為見候所其
通取計可申旨被申聞候付大坂江申遣委細ハ文通扣ニ有之

一来ル十一日惠高院様御三回御忌同廿一日啓生院様二十三回御忌ニ
被為当候段為御知廻状大目附ノ到来先格之通町中組中へ為相知候

一野村百性惣市義先月廿六日昼衣類十二品被盜取代百拾匁位之由右
触流し取計候様大目附中ノ達有之写取町触取計之本書ハ相戻候

一御箱訴船頭町高瀬屋助八借銀滞出訴大目附中ノ被相渡候ニ付相札
申出候様大年寄へ申達候

一三船孫八江御用有之候間明五時罷出候様直奉書差遣候
一孫八義右之通ニ付明日大隅宮祭礼江依而同心組致不足候間加人彦人
当日切被仰付候様大目附へ手紙ニ申達候日下勇助來夜廻り申付ル

一元新魚町住当時無宿盜賊十吉と申もの昨日召捕候段目明孫衛申出
下方ニ内札致候様申付置候所町方并存分ニも盜致候旨白状仕
申候段申出候ニ付御日柄之義故夜ニ入夜廻りノ入牢取計之其段御
用番并大目附へ手紙ニ相届候

一孤独扶持代銀札百匁三步勘定所下代類藏持參大年寄へ相渡候但認
落有之其分ハ追而可相廻旨ニ今日証文致印形遣置候

一明日大隅宮警固役割左之通差出候

神輿三輪新治
小野田為治 獅子中山百藏
川畑五五兵衛 俄芸台江原文藏

野台警固ニ先年ハ弁当差遣候処数多相成候而手も難及旧例等
も致穿鑿候得者 先前も其町内ノ賄候由ニ相見へ候ニ付以後ハ其通
ニ取計可申旨相極置候事故此度も其町内ノ弁当差出候様ニ大年寄
へ申付并新治へも其通組中へ及通達候様申付候

九月九日 快晴

一大隅宮祭礼ニ付芸台之警固ハ六半時文藏門藏差出祭礼之警固四人
ハ四時過差出

一部屋目附新治立合ニ左之通申渡

当時者古番有之候得共其方義ハ 三船孫八

出入年久敷相勤殊ニ先年も部屋目付役

相勤候事故旁右年順を以小頭役申付候万端入念可相勤候

其方義部屋目附役申付候

石名左十郎

入念可相勤候

一重陽ニ付組中相揃罷出仕前謁例之通神酒差出候

一大隅宮祭礼無滞相濟候段警固之者六人共夜ニ入罷帰相届候

但例歳警固無滞引取候段ハ何方江も不相届先格ニ候得共当年

者 芸台等差出候事故可相届義哉と先例相調候段寛政五年松岡

治部助仮役中ニ野台差出候得共其節も不相届候趣ニ相見へ候

間今年も警固引取不相届承り置候

○右俄芸いたし候処左之通拾ケ所也

橋本町 長助 林田町山本三右衛門山本屋与三七間ニ

鍵屋茂助

勝間田町万屋善七郎 中之町平岡屋忠右衛門 豊屋文左

衛門

西新町妹尾平兵衛 今屋庄兵衛 東新町茂渡藤右衛門

山本三郎左衛門

九月十日 快晴

一 式町目福寿屋音右衛門借屋住松田屋五郎左衛門今般片山五郎左衛

門と相改栗田辰右衛門へ出入奉公仕度人別除願承り届増補三、四、十

一 今昼小田中村石名平兵衛隣家則同人抱屋敷而博奕致参会郡代

所が被召捕候処無宿茂吉と申もの、差口之由郡代所より申来候付

一番番夜廻り四人藤藏（ト）左十郎百藏栄治差向左之通取計之

手錠懸ケ吟味中組合預ケ 福渡町松田屋左助

申付候

出奔ニ付敷敷

尋申付候

（安岡町 徳兵衛
新魚町魚屋三之助

右之段早々可相届所郡代所届手間入依之見合居候所十二日之夕届

有之候段申来候付其節御用番并大目附へ手紙而相届候

禁足申付候

二 町目幾野屋庄七

右ハ今般博奕参会指口之内ニ鍛冶町桂屋源治と申もの有之同人義

ハ兼而御尋もの、所立帰致参会候由遂穿鑿候段右庄七八源治男ニ

而乍離縁も妻も罷在候由ニ而近來も来候趣申候ニ付禁足申付候

段左十郎（ト）申出候ニ付其後十三日ニ大年寄共宅へ呼出し源治来候

所不申出不埒之段叱禁足差免候様ニ申付候

九月十一日 快晴

一 備前田原船頭共兼而約束之通登り船荷為積不申公事を仕懸ケ候積

九月十二日 快晴

全あめ屋忠四郎恵助源太郎杯兼而之意趣ニ悪工いたし候趣ニ者候

得共委細之訳不相分差懸り塩差支候間明日御廻米之上乗ニ工者之

もの差遣承り糺可申旨源五兵衛申出候ニ付承り置

一 安岡町荒神宵祭ニ付今夕（ト）焼灯差出候段大年寄届出候

一 牢舍人龍巖郡代所が吟味呼出申来文蔵田蔵差向出入取計之

一 牢舍人十吉病氣ニ付医師願出大年寄へ申付候

一 牢舍人福渡町府右衛門妻裕打穴屋ニ質物ニ有之受返度願承り届

一 坪井南側ニ而浜野屋源五郎所持之家屋敷表口五間裏行拾七間御役

老軒役也東隣ハ三町目草津屋庄兵衛借屋西隣ハ浜野屋嘉市郎右家

屋敷代銀札壹貫目ニ相極糸屋利右衛門後家きた江壳渡度願書差出

承り届同十五日差送表出

一 東南候郡林田村御中間市右衛門妻借屋住勘助義一人美濃職人町団

扇屋甚兵衛引受度人別入願下方引合相濟候段申出承り届

一 京都烏丸通六角下ル町二文字屋九兵衛手代清四郎新兵衛兩人例年

之通来候段京町海老屋長右衛門宿切手差出翌年八月十一日届

新兵衛ハ八月九日届

九月十三日 晴

一 御用日登城

一 水油之義ハ公儀御触之通他国が買取間敷大坂が取寄商売可致事ニ

候得共今一応も不相触候得者不レり之様ニも被存候間触書可差出

案文御用番中へ差出相伺候処最早触書ニも及間敷候間役所より之演達ニいたし左之通大年寄場合ノ致演達候様御用番中被仰出候

種 油之義ハ兼々公儀ノ御触ノ通大坂油之外

余国之油壳買御停止ニ付他国油買取間敷当所

油屋共大坂ノ取寄候油買取可致小壳此段無心得違堅

可相守候

右之趣大年寄ノ致演達候様申達候

一 御用番主膳殿ノ左之通被仰渡候

桐油当時余国ニも專相用候事故以来壳買

御免被成候併少々毒氣も有之趣ニ付外之油へ

不相交候様堅取扱可申候

右之段大年寄宅へ惣油屋呼出し申渡候様申達ス

且又一統ニも右之趣演達可仕旨相伺候処夫ニ不及之旨一学殿

御差図ニ候

一大目附松岡治部助ノ左之通被申開候

此間船頭町高瀬屋助八箱訴ニ付右躰之義等閑ニ捨置候義ハ

御政事ニ有之間敷義ニ候間以來早々埒明候様ニ下方ニも申

渡可置之旨御用番中御申ニ候

右之通大年寄源五兵衛へ申渡置候

一 中之町鮎屋藤吉孫勘吉義御中間奉公ニ差出度人別除願書差出御中

間頭内山洞太夫ニ懸合之上承り届

一 孤独扶持先日落候分二人前受取下代ノ差越大年寄へ相渡但式拾七

匁六歩五厘七毛也

九月十四日 快晴

一 左之通先触写大年寄ノ差出

覚

一 人足拾四人

内 四人乗物壹挺

式人具足

三人長持壹棹

壹人合羽籠

壹人竹馬

壹人両掛

壹人歩竿持

壹人分持

一 本馬 三疋

内 壹疋 人足式人ニ代ル

右 稻垣藤四郎当田方為檢見明十二日明六ツ時但州生野陣屋

出立作州西々条郡下原村迄被相越候条於宿々書面之人馬無遅

滞差出可被繼立候尤渡船川越止宿等之義前宿ノ通達いたし差

支無之様取計可給候此先触早々順達於留着之上可被相返候以

上

已九月十一日

藤岡元吉

片岡与惣治

中沢良右衛門

稻垣藤四郎手代

右宿々問屋年寄中

泊り付

十二日姫路 十三日佐用 十四日檜村 十五日下原

右先触御用番中へ紙面ニ差出先格之通取計可申旨申達大目附

も同断申達郡代所ニも及通用且又夜ニ入右先触写御用番中ノ被差

戻候付大目附へ差出候

一 左之面々五時ノ呼出し遂吟味候但立会孫八新左衛門新治源五兵衛

藤藏為治

博突參金不及白状

福渡町松田屋佐助

依之吟味中牢番預ケ申付候

右之段御用番 # 大目附へ手紙ニ而相届候

無宿盜賊弥助

右同断 十吉

右式人兼而盜賊及白状候付

口書取極候

一元魚町大庭屋善兵衛田地公事明日場所見分ニ作目附差出候間五

時ノ善兵衛義も罷出立合候様ニ郡代所ノ申来候ニ付其段大年寄へ

申渡候尤兩人計罷出候様ニ申来候

一但州生野御代官通行ニ付先格之通左之通取計候様申渡候

一通り筋改而不及掃除不見苦程ニ可致置事

一町々保頭先払

一同心組先払 但藤藏為治

一御使者立宿 材木町桶屋忠右衛門

但御使者 天野郡治

御使者有之天野郡士東大番所ニ而相勤候間先格之通立宿申付

候様小須賀貢ノ申来則立宿名面申遣候

一林田村流水借屋住伊助義新魚町角屋伊右衛門後家養子仕度人別人

願下方引合相济候段申出承り届

一河原町鎮守宵祭ニ付焼灯候段大年寄届出候

一信州木曾筑磨郡敷原宿古屋善吉一人例年之通木櫛卸売来候段中之

町小山屋与三右衛門宿切手出 十二日四月端ル

一播州網干天満屋義兵衛一人例年之通反物卸売来候段右同人宿切手

差出

一菜種引受之三人之油屋共へ先頃大坂兵庫江罷出相働候為雜用綿実

水車御入用之内ノ三百匁被下置候由上原彦藏ノ通用有之 # 当人も

御礼罷出候且又久山勘八江も同所ノ被下有之候由御礼罷出候

九月十五日 快晴 夜雨

一德守宮祭礼ニ付為開願元魚町 坪井町 西今町 鍛冶町 伏見町

二町目三町目組合ニ而一ツ都合六ツ野台差出度願書差出し御用番

主膳殿御他出ニ付一学殿へ罷越差出置候

一稲垣藤四郎殿町分通行無滞相济候段御先払藤藏為治届出御用番 #

大目附へ手紙ニ而相届候

一船頭町高瀬屋助八御箱訴ニ付一件懸合之もの共左之通呼出し源五

兵衛孫八新左衛門左十郎立合相札候

瓜生原屋平兵衛

病氣断 同 仁左衛門

同 宇吉

年寄 藤右衛門

同 文五郎

病氣断 同 才右衛門

作人 善五郎

同 長藏

釜屋 孫三郎

右相分兼候付答書差出候様申付置

一 牢舍人府右衛門取次質物三家屋幸三郎方脇差縁頭等有之受返し度願書差出し承り届

一 三町目菊屋藤藏借屋住備前屋喜兵衛悴新治義今般山下新治と相改与兵衛殿へ出入奉公仕度人別除願承り届

一 宗道大明神宵祭ニ付焼灯出候段届出承り置

一 盜賊十吉口書ニ船頭町高瀬屋助八箱訴在分懸合有之ニ付郡代所へ相廻候

九月十六日 雨

一 稲垣藤四郎殿夜前八ツ時下原村出立ニ而被帰候旨此間之通之人馬先触到来之旨八ツ時差出御用番ニ大目附へ相届ケ御先私百藏栄治即刻罷出候様ニ申付ニ町方取計諸事此間之通取計候様大年寄へ申付ル

一 稲垣藤四郎殿町分通行無滞相濟候段御先私百藏栄治五ツ時罷帰相届其段御用番ニ大目附へ手紙ニ相届候

一 徳守宮祭礼ニ付京町ノ野台差出度願書夜前及深更差出候付今朝主膳殿江紙面ニ差出候

一 三船新治不快引込届出候

九月十七日

一 町方野台願御催促旁主膳殿江罷越安岡町ノ野台之願書差出候旨

申上候処先差出候様被仰出御城へ紙面ニ差出候

九月十八日 快晴

一 御用日登城

一 徳守宮宵祭ニ付町方閔貫例年之通宵之内開置候段御用番ニ大目附へ相届候

一 三船孫八風邪引込ニ付加人老人大目附へ申立候処植月斧藏来依之

徳守警固小頭代石名左十郎申付ル

一 徳守宮祭礼ニ付御内意を経家台差出度願書八通差出置候処左之通於御用所主膳殿一学殿ノ御内談有之候

町方兼ニ困窮之由ニ付大破家も数多出来取繕も難出来往来

道筋迄も甚見苦敷相成候得共捨置右取締自力ニ難出来

趣之由極内密歎之差含も相聞候程之処神事とハ乍申此度八

町迄も野台差出度旨願書差出甚以不都合之義兼々町役之者

●心付相励候ハ、左程大破ニ相成間敷所役懸之もの共

心得違之義ニ付願書差戻候旨主膳殿ノ被仰渡候ニ付奉恐入

候段御請申上候処向座一学殿より左様ニ改ニ申筋ニ無之

右申達候ハ御内談之義ニ打割ニ申さハ兼ニ大破家之取締

も出来不申内歎之趣も極密相聞候事ニ候得ニ今般之野台願

ハ承り届置以後急と家作ニ道直等取繕候様ニ申付度ものニ

候得共夫ニ必定先行も致間敷候間最早致失墮等取拵居

候処差留以後之懲示ニ相成候様ニ役感^{マヤ}を以申付度と存候

事故同意ニ候ハ、右之通取計間敷哉と之御内談ニ候間表

向ニ恐入と申筋ニ無之候夫とも此上東新町同様ニ俄お

とり右願之内より一ツ差出候と申位之義ハ勝手次第ニ候得

とも余り大造ニ相聞候ニ付申達候事と被仰聞候ニ付委細奉

畏御尤至極之義弥奉恐入候と及御受引取

三浦十郎左衛門を以差扣相伺候所大目附ノ即答ニ左様之義ニ而者
無之絶而被相伺候義ハ不宜候間不及伺之旨被申聞候

大目附寺社奉行兼帯小須賀貢ノ社方ノも野台願有之候処御

差戻候由致承知併東新町之様ニ致差出候義ハ勝手次第と御

達候様ニ致承知候左候ハ、右之通ニ為相願候差含ニ候哉左

候ハ、此方ニ而も認直し為差出候間相尋候旨被申聞拙者返

答ニ者唯今御承知被成候通之大理拙者存寄ニ而申聞候ハ、

下としてハ最早願出候義ハ得致間敷事と存候御役筋ノ左様

之御尋も有之候義ハ此上略して差出候方思召ニ相叶候筋ニ

候哉此段承知仕如何様ニも思召次第ニ可仕旨及挨拶候所左

候ハ、月番松岡治部助へ相尋可及御答旨被申聞相扣居候所

治部助へ相尋候処此上町奉行ノ相談も有之候ハ、右願之内

一ツハ東新町同様ニ致相願候ハ、為差出候様ニ及返答候様

ニと御尋有之候由ニ候併被仰聞候通此上ハ誘も無之候而者

得相願申間敷右之内何れ之町一町と差別も難付ものニ候得

其俣ニ而捨置可然旨被申聞候

右ニ付大年寄源五兵衛呼出し右御内談之趣拙者存寄ニ致し申聞候

所委細ニ可申達恐入候義と申引取候

一伊之平悴初吉帰住願ニ先年之取計書相添治部助へ相渡置

一徳守宮宵祭警固小頭代左十郎平組藤藏文蔵為治左五兵衛五人差出

候

一西今町直屋善吉ノ削役人ニ出訴之処今日返書取帰リ難筋立候ニ付

内濟申付候尚又理害被仰聞可被下弥筋立不申候ハ、身代限り為相

渡可申旨申来候ニ付善吉所承り札可願義も有之候ハ、弁書為差
出候様大年寄へ申達候然ル所善吉存所承り候事ハ相止直ニ来書之
通廿三日内濟申付候

一沖村岩助ノ安岡町古川屋太兵衛正米老倭買取候間相札候様ニ申越

大年寄へ札申付候

一明十九日番割小頭ノ差出

祭礼警固左十郎徳藏為治当番磯兵衛 昼番文蔵 夜廻り門藏

一徳守宮宵祭ニ付西町共廿七町例年之通燈出候段大年寄ノ届出承

り置

一來ル廿三日秋葉宮宵祭同廿五日関守宮宵祭ニ付西今町ノ兩夕

共燈出候段大年寄ノ届出承り置

九月十九日

一徳守宮祭礼警固左十郎藤藏百藏為治榮治無滞相濟引取候段届出御

用番併大目附へ手紙ニ而相届候

九月廿日 時雨

一元魚町中野屋宇助大坂大川町淀屋橋綿屋義兵衛方へ三十日逗留ニ

而明廿一日出立願大年寄承り届差出十月三日補

一安岡町鍛冶長兵衛方へ盜賊十吉忍入鉄盜取候義相尋候処多之鉄之

義ニ付一向不心付候段申出候

一宮脇町土佐屋十藏家守戸川町作人清右衛門借屋住幸八娘義御領分

西北条郡沢田村作兵衛養女ニ差遣度人別除願下方引合相濟候段申

出承り届ル

一林田町常磐屋丈右衛門義大坂大川町綿屋義兵衛方へ三十日之逗留

二 明廿一日出立願差出承り届ル 十月十七日始

一 西今町湯田屋太郎左衛門右同断願差出承り届ル 十月廿一日始

九月廿一日 快晴

一 川下 江 之通船帰り荷物不相積セ候由爰元船持共一統ニ田原村あめ屋忠四郎恵助源太郎共ノ故障之由船頭共申出候得とも否之訳耽と不相分候ニ付金屋村治右衛門文右衛門御米上乘として差遣聞札候処船持恵助源兵衛ノ差留候段塩問屋申候ニ付右兩人 江 致直談候処御上へ相願弥差留候段申候由一昨夕罷帰候由ニ而弁書差出 是迄 藏元ノ懸合候書面扣差添昨夕差出然ル処尚又西大寺問屋肥後屋甚七と申ものより米屋藤右衛門へ書状差越 爰元惣荷主共へ廻状差越 以来船荷片積ニいたし候間登り荷物賃銭六割増一駄ニ付八匁ニ相極候段田原村船持共申出候間其旨得御意候由廻文藤右衛門より相廻し呉候様ニ致添状飛脚差越候ニ付右返書藤右衛門ノ双方得心之上片積ニ被致候事ニ而賃銭被上候義ニ候ハ、荷主中 江 も可及演達候得共田原船持中勝手ニ付被相極候義ニ候故難及演達旨可申遣下案認大年寄ノ差出 右一件ニ付大年寄三人 喜左衛門呼出何れも存寄承り種々致対談候処兼而相工候事故中々大庄屋以下之懸合ニ而者筋立申間敷藏合孫左衛門義ハ佐伯大庄屋小玉惣七と申ものニ内縁も有之殊ニ先年田原船出入有之大沢時分ノ後藤迄引継れ居候節も右佐伯大庄屋小玉惣七へ久山勘八差遣遂対談内濟候義も有之候得 者 旁以先早々藏合孫左衛門宮田喜左衛門 米屋藤右衛門 召連罷越如何ニも内濟取計可申方々一不相濟上ハ惣町ノ備前へ可致出訴歎役筋懸合か夫ニ而も不相濟節ハ江戸願ノ外ハ有之間敷最

早下方藏元共懸合位之事ニ而者不相濟旨何れも申出存寄之趣一々尤之義ニ付右之段大目附松岡治部助へ対談之上御用番主膳殿御宅へ罷越右之段委細ニ申上右書類不残差出候処何れ明日否可被仰出其内米屋藤右衛門ノ返書之趣ハ何之思召も無之候間下案伺之通及返書候様被仰出其段大年寄へ申付候

一 油屋三人之者共今日菜積致船積明朝出船可取計之処菜種ハ是迄御法度ものニ川下ケ致候義無之今般初而之義故運上等之御定も無御座裏判等も何方へ可願筋ニ而も可有之哉何れ運上ハ御免被下候様仕度願出候段大年寄申出差懸候義ニ付松岡治部助へ懸合運上御定之義ハ追而之義ニも可相成先明朝之処ハ為致出船度旨申達候処承知ニ而左候ハ、上原彦藏へ其趣致伝言先運上定なしニ運上奉行致裏印候様ニ被申聞其趣同人 江 申達候処承知ニ而其趣早々運上奉行 江 も可申達 小桁番人 江 も致添状可差遣旨挨拶ニ付其通大年寄へ申付候

一 小頭三船孫八今日致出勤候ニ付加人御使組明日ノ差戻候段大目附へ手紙ニ而相届候

一 札元玉置卯左衛門義先月十八日致出坂候処用事不相濟候ニ付今日計逗留仕度追願同役茂渡庄右衛門差出承り届ル 同日四日始

九月廿二日 雨

一 喜左衛門罷出昨日何れ 及 田原船ハ不罷越段耽と申上置候処田原宿共呼出し相糺候処不絶罷越殊ニ昨晚罷越候船頭共申趣 者 片積ニ相成候故御当所荷物差支無之様ニ致出積日々三艘つ、ハ着船いたし候仕向ニ而着岸早々荷物上ケ置船ハ差下し組頭老人相残り荷

物之取片着仕候申合之由申候左候ハ、格別差急候義も無御座候処
間違之義昨日申上置候段断申出候

一 大目附大田舎人ハ呼ニ来御城へ罷出候所夜前相伺候田原船一件之
義遂御熟談候様ニと被仰出右書類致披見候所御蔵元文通之趣ニ而

先惣兵衛平吉文吉文五郎兼而之応対振相札候而之手段ニも可有
之哉と被申聞依之昨日田原船不来趣ニ付火急ニ相伺候得共今朝申
出之趣田原船不絶来候得者随分ゆるやかに取計可然候間其旨相札
可申右間違之義申上候段申述候処其段ハ舎人ハ申達可置
旨挨拶ニ付右ニ付差扣可相伺哉と遂内談候処夫ニ者及間敷旨被申
聞候右ニ付四人之もの共相札候様大年寄へ申付候且又田原船来
候所^所不来旨昨日松岡治部助へ申達置候故間違候段紙面ニ而申達置
候

一 御蔵米六拾四匁五歩町米六拾匁五歩

一 書役新左衛門風邪引込断出候

一 借牢人竹田長綿入差越候間入可遣伺出承り届

一 牢舎人惣社村和七単物入遣度伺出承り届

一 牢舎人中川長屋利兵衛賄不差越候旨牢番届出受人江申付候様大年
寄へ申付候

一 牢舎持持三儀之内貸証文差出致奥印尤来月江八斗七升三合七勺五
才持越ニ相成候事

九月廿三日 時雨 夜雷雨

一 御用日登城

一 弓削役人ハ西今町直屋善吉出訴内済仕候様申渡呉候様先日申来候

ニ付紙面之通致承知其段可申付と申返書下案相認差添御用番中へ
相伺候処伺之通宜取計候様被仰出候尤扱人も可申付旨相認候処其
段ハ相除候様被仰出候依之右来書大年寄へ相渡来書之趣直屋善吉
へ可申付旨申付候右申渡相濟候上弓削へ返書可差遣其段大目附へ
も達置候

一 贖銀同類丈兵衛義。因州ハ尋之者と申来。候ニ付右一件之もの共
居

大鉢吟味詰り口書取極候事故右丈兵衛義ハ何れ因州人別ものニ而
向方尋之ものニ候得者是非共可相渡筋之ものニ候得者何れ引離し
相渡候而も此方同類取計ハ出来候義ニ候得者委細之義ハ不申遣一
ト通り遂吟味候処向方ハ申来候とハ出所も違候得共偽候程も難計
ニ付誰ニ而も見知候もの一人被差向弥尋之丈兵衛ニ相違無之候
ハ、可引渡旨文通下案相認御用番中へ相伺右ニ付贖銀一件之もの
共口書^書木山贖札札配り之もの共迄之口書不残差出御裁許之義ハ
追而可伺候得共先為御引合御読被成被置候様申上候処後刻一学殿
主膳殿ハ贖銀師取計先例も無之義ニ候得者兼而内々御留主居へ聞
合有之候而可然義ニ候間重便問合可申遣先右一件之もの共ハ此俣
吟味中之趣ニ而為致越年可然因州之文通も向方ハ催促も無之を幸
ニ聞合相濟候迄差延置可然旨被仰出依之右口書ハ不被遂御披見候
由ニ而直ニ御戻被成候依之右問合下案相認追而可伺段申上置候
一 昨日太田舎人ハ被申聞候田原船一件ニ付懸り之もの共相札し大年
寄ハ差出候付太田舎人江差出候所瓜生原屋惣兵衛平吉札方不宜尚
又相札し候様ニ被申聞候ニ付大年寄御城へ呼出し申付候
尤昨日も申達置候通田原船も不絶来候事ニ候得者左程差急ニも不

及義故此上も下方^ニ蔵元同様之もの差遣一ト通り懸合候上^ニ而
大年寄諸吟味差向内済為仕候様ニ仕候^而も可然旨大田舎人へ申達
置候

一此間郡代所々申来候沖村岩助々安岡町古川屋太兵衛正米壹俵買取
候段相札候所無相違旨口書取大年寄々差遣先例之通叱追込七日可
申付旨伺書相添郡代所引合之上御用番中へ相伺置候

一細工町長助役介しも義三十三才ニ罷成候所致乱心候ニ付借牢仕度
願書差出御用番御聞済ニ付大目附へ相達置御聞届申達勝手次第入
牢取計候様ニ組中へも申達置候

一稻荷之社床下ニ歛四枚牛歛壹枚莖ニ包ミ有之候段三軒屋番中尾藤
助見出其品預り置八幡神主^江も申遣置候段夜前小頭々届出今朝寺
社取次引合之上大目附へ相届候所細江武助々受取欠所もの、内へ
入置預置候様大目附中被申聞武助へ尚又懸合候所三軒屋々直ニ受
取置呉候様ニ挨拶ニ付其段藤助へ申渡受取置候様小頭へ申付候

一牢舎人中川登市長屋住利兵衛義牢賄ニ可取計旨御用番へ及御噂候
上ニ而明日々牢賄ニ申付候段大年寄^并小頭へ申渡候
一牢舎人元針綿入差越候間入遣度伺出承り届ル

九月廿四日

一稻荷山ニ有之候歛四枚牛歛壹枚中尾藤助差出受取欠所物之内へ入
置候様当番藤藏へ申付ル

一細工町作人長助役介しも借牢昼廻り々取計之

一油屋共一昨日菜種五拾石余綿実三千メ為積登太郎左衛門致上乘罷
登り且又大坂之懸合之様子ニ付丈右衛門八陸々罷出候段昨廿三日

於御席一学殿^江委細ニ申上置候

一船頭町瓜生原屋惣兵衛平吉再札出来大年寄差出太田舎人^江差出候
一公儀御触左之通大目附廻状到来

先達^而追々人相書を以相触候上州碓氷御関所を除山越致し
候武州本庄宿新助悻新五郎^并無宿九助兩人共召捕候之間不
及相尋候新五郎弟忠治郎^者いまた行衛不相知候間先達^而相
達置候通可心得旨向々^江可被相触候

右之御触書写取町中組中へ相触候

一大坂南本町うるし屋四郎兵衛と申もの兼^而馴染ニ候処此度用事有
之昨廿日罷越候付七日計逗留新魚町烏屋与三兵衛願書差出し候^ニ
付承り届ル

一弓削^江懸合之義西今町直屋善吉へ申渡相濟候ニ付返書相認明朝差
遣度^飛脚被仰付候様大目附へ相達候処御飛脚萩野勘十郎来相渡候

九月廿五日 快晴

一牢舎人弥市龍殿吟味中出牢申来為治藤藏差向出入取計之

一播州網干余六屋惣七一人例年之通八百屋物卸売来候段中之町津田
屋伝助宿切手差出^{翌正月二日拂ル}

一播州網干塩屋伊兵衛一人例年之通塩物荒物卸売来候段右同人宿切
手差出右同断

一播州網干平松屋惣九郎一人例年之通小間物卸売来候段中之町小山
屋与三右衛門宿切手差出

一下紺屋町長江朝庵義備前岡山橋本町讚岐屋喜右衛門方へ四十日計
之逗留^ニ而明廿六日出立願書大年寄承り届差出^{十二月八日拂ル}

一 船頭町船持共田原船持と出入一件之義昨日太田舎人瓜生原屋惣兵衛平吉再札之吟味書差出置候処今日太田舎人何之通先藏元同様之もの兩人計差遣内懸合致し夫不相済上ハ孫左衛門喜左衛門差遣可然候旨御用番中御差図付其旨取計可申段被申聞依之大年寄呼出し右之通取計候様申達候尤和泉屋銀兵衛田原宿船本屋佐助兩人可差遣旨付得申含候様委細申達候

九月廿六日 快晴

一 田原船持出入一件付和泉屋銀兵衛船本屋佐助兩人委細得度申含メ内済仕候様可取計旨申付今朝出立仕候段大年寄届出爰元船持共札書相写置候由本書差出依之右之段紙面太田舎人相届右札書差出候

一出羽守様御先触左之通御本陣御飛脚致持參候由源五兵衛写差出候

一 筆申入候少將殿病氣追々快方付来月中押而国許被致発駕度含候依之左之通休泊相究候間故障之義無之候ハ、各名之下被致印形此飛脚之者へ御渡可給候尤少々差障不自由之義ハ不苦候奈是非御差操御請可給候猶委曲飛脚之者へ申含候且又発駕四五日前関札為持可被差出候恐惶謹言

九月廿三日

雲州

岡田弥五左衛門

十月十八日 安木泊

同日 溝口休

同日 根雨泊

同日 新庄休

同日 勝山泊

同日 院庄休

同日 津山泊

同日 勝門田休

同日 土居泊

以下略

宿々本陣中

右御先触写御用番中へ差出大目附へ相届郡代所も及演説

一 鍛冶町山形屋惣兵衛義大坂大川町和泉屋六兵衛方へ十五日計逗留

二 而明廿七日出立願書差出承り届ル

一 大目附佐々木主馬呼来罷越候所去ル十九日徳守宮祭礼之御俄芸致見物候由御中間幸治と申もの京町小豆屋与平治庭

差一腰拾甚群集之義故亭主与平次へも難逢其俣持帰り其後小豆屋

方へ罷越右之段懸合候得共与平治不致承知候由御中間頭へ届

出候由其趣相違も無之候ハ、触流し取計可然付小豆屋与平次相

札候様被申聞其旨大年寄へ申付候

一 弓削へ差遣候飛脚萩野勘十郎受取取之罷帰り候

一 中買共来相場届不直之段去ル寛政六年六月七日申付候処同年十一月廿一日中買共願寄書ケ相場五歩つ、高く相調度段承り届

置候得共如何も不直之義付勘定奉行上原彦藏へ対談之上以来

ハ嚴重相調候所之正直之相場書上ケ候様大年寄源五兵衛へ申

付候

九月廿七日 時雨

(墨線にて抹消)

一 柴田石右衛門長屋住清藏と申もの材木町車屋左五郎後家夫引受

度人別入願承り届ル 此分除

一 船頭町高瀬屋助八箱訴付懸り合之もの共口書差出候

一 京町小豆屋与平治義昨日之落脇差之義為相札候処無相違趣并書差

出候付佐々木主馬へ差出候

一出羽守様御先触写御用番御下ケ被成候付大目附へ差出候

九月廿八日 曇

一 御用日登城

一 贖銀師御裁許之聞合田中幸助へ申遣候下案相認御用番へ差出候処
思召無之宜取計候様被仰出大目附へも為見置候

一 京町小豆屋与平次方ニ御中間幸治脇差拾候義疑敷事も候間為遠
監察候様太田舍人へ被申聞藏合孫左衛門へ申達候

九月廿九日 快晴

一 東新町種屋伊助持百間穀船車ニ無宿猿兵衛と申者致怪我夜前相
果候段大年寄届出其段御用番ニ大目附へ紙面ニ相届置委細之義
ハ見分之上可相届旨申達置ニ郡代所ニ申遣向方構場所之義

候得共不相果内ニ種屋伊助方へ引取ニ在方懸合之もの無之故立合
見分被差出候ニ及間敷哉之旨申遣候所同意之旨申来依之部屋目
附石名左十郎一人差向候所怪我ニ相違も無之夜前暮過伊助方へ猿
兵衛来支度度等いたし伊助義船車へ可参処用事有之候ニ付其間猿

兵衛義参り世話可致迎五ツ時頃船車へ遣引続五ツ半頃伊助義船車
へ参り見候所車留り居候付不思議ニ存這入見候所右猿兵衛義車之
真木ニ卷キ被メ居候付近辺之人々呼出し漸引離し候処呼吸ハ通ヒ
候得共正氣無之直ニ連レ帰り箕作丈庵吉武裕三相招治療仕候得共

不相叶九ツ時過相果候由左半身手足迄悉紫黒色ニ相成はね木ニ
右之脇坪を押付られ候由ニ候之旨見分一札取左十郎罷帰候

右無宿猿兵衛出生相糺候処河原町出生之由同人父ハ彦兵衛と申者

ニ彦兵衛義ハ泊州赤崎と申所之者之由

塩田屋嘉吉方へ

罷越作男相勤其後河原町へ人別入いたし背負仕居候由其節猿兵衛

致出生童名新吉と申候由然ル所右新吉義所々盜致し百敲候之上父

彦兵衛へ被引渡候者ニ天明二寅年十一月十九日右取計有之候段
申渡帳ニも相見へ右新吉其砌ニ離帳ニ相成候趣ニ父彦兵衛義其
後二階町へ致転宅候得共送りニも右新吉ハ無之由尤除帳之義不詳
候得「」右河原町ノ二階町へ送りニ無之候得ニ此節除帳ニ相成候

哉ニ被察候然ル所右彦兵衛夫婦ニ子供も不残致死去当時ハ親類一
人ニ無之何方ニ入帳不致流浪ニ相暮種屋方へも馴染ニ相成
折々罷越候由ニ候得共伊助義ハ却ニ委細之訳も不存候由併右之通

何方之差構も無之無宿之由大年寄ノ申出候段御用番主膳殿ニ罷越
右之趣委細ニ申上候所勝手次第取葬いたし候様被仰出夜ニ入其段
源五兵衛へ申達大目附ニ紙面ニ相届之且又吹屋町ニ右猿兵衛

姉有之趣申もの有之相尋候所右女ハ二歳之時父ニ付夫婦致離別母
をも不存不申母も再嫁いたし候哉と申義ハ承り候得共弟有之義も不
存由申候由ニ左十郎申聞候

一 茅屋町裏川土手ニ非人ノいざり病氣ニ行倒臥居候段茅町ノ注進
申出候段大年寄申出大目附構場所之義ニ付大目附佐々木主馬へ為
知申遣候所松岡治部助出勤ニ付月番相譲り候由ニ松岡へ手紙差
遣候所承知之旨申来候

一 御代官近藤宗左衛門斎藤隼太ノ町作御年貢取立入込候間不埒之者
も有之候ハ、手錠申付候段例年之通案内申来候

一 脇坂淡路守殿預り所当国久米南条郡福渡村五右衛門弟喜兵衛夫婦

二人美濃職人町三笠屋伊右衛門方ニ当巳年ノ来ル未ノ年迄三ヶ年

之間商売手伝ニ差置度願書差出し承り届

一 御領分西北条郡山北村弁藏夫婦^母娘右家内四人坪井町備中屋
喜兵衛引受度人別入願下方引合相濟候段大年寄申出承り届ル
一 関貫番賃銀例月之通相渡候

十月 大

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 小須賀貢

大年寄 齋藤孫右衛門
諸吟味 宮田喜左衛門

十月朔^丙 甲日 晴

一 自分義三浦十郎左衛門頼置致他出候

一 大目附小須賀貢^々昨日申達候茅町裏川土手^ニ行倒れ臥居候非人い

さり柳之土手杯へ為引取候^而可然候間其旨取計候様申来十郎左衛門^ノ及返書其旨大年寄へ申付候所右いさり病気快相成候由立去り候由候間其旨相達候様十郎左衛門^ノ申来候^ニ付大年寄呼出し尚又承り糺候処茅町^ノ之届源五兵衛へ申出候所同人義在宿不仕下方^ニ而も当月ハ孫右衛門月番と申義心得違彼是隙取候由右之段十郎左衛門^ノ申達双方行違^ニ相成候由右非人ハ昼前頃東之方へ立去り候由申之候^ニ付小須賀貢^江其段拙者^ノ申遣承知^ニ而相濟候

一 但州生野御代官稻垣藤四郎殿手代中沢良右衛門高橋督三郎勝部三五兵衛^ノ飛札到来米相場書之義例歳ハ十月十五日^ノ同晦日迄之日々之相場申遣候所当年ハ公儀^ノ被仰出十月朔日^ノ晦日迄之米大豆売買有之候日之相場申越候様^ニ申来尤以後例歳之義故度^々而^者不申遣候旨申来候尤翌二日及相答

一 備前田原^江通船出入付内々差遣候和泉屋銀兵衛船本屋佐助今夕罷帰候由孫右衛門喜左衛門申出向方之趣承り候処兼^而自分申付候^者乍内分も蔵元代り^ニ而遣候事^ニ候得^者田原庄屋甚七へ懸合候様^ニ申合候処大年寄共も少々心得違も有之候由銀兵衛存寄^ニも誠^ニ下方内分之義^ニ而一己之存寄^ニ而参候事故役人^江懸合候義ハ如何と存候趣^ニ而惠助源太郎へ種々と懸合候得共甚六ヶ敷申最早郡方へ相願置候義故下方^ニ而も難及懸合候得共荒荷物迄不残以後三步割遣候ハ、其段を以願下候ハ、濟可申哉^ニも考候得共是迎も難計旨申候口振^ニ相移り銀兵衛義も誠^ニ一己之存寄^ニ而罷越候義^ニ候得^者難及即答尚又右之趣ハ惣船持共へも得と不遂熟候^而者返答相成義^ニ而も無之^ニ付右相談^ニ罷帰り候由尤右対談中ハ船賃上ヶハ不

致是迄之通ニ致置弥及破談候ハ、其節ハ如何様共可致絶^ト申聞候
得共不致承知候旨申出候ニ付右荒荷物迄歩割いたし遣候様ニトハ
先頃御沙駄も有之候位之義ニ候間其段ハ船方中打寄得^与遂熟談故
障無之候ハ、其趣ニ而致内濟候様及差図置翌二日太田舎人^江其段
一ト通り申達置候

十月二日 晴

一御蔵米六拾五匁町米六拾匁但今日五分つ、引下ケ直段相止正
実之処相届候事

一出雲大社中官西村神太夫御師上下四人例年之通来候段坪井町川原
屋治助宿切手差出^{十一月十六日附}

一戸川町作人石右衛門借屋住清七妻妊娠六ヶ月ニ相成候所月取間違
之届書差出し例之通取計候様及差図

一牢舎人周蔵義先月廿七日断食いたし候旨牢番申出郡代^江所申達

一牢舎人十吉弥市病氣申出大年寄へ申達ス

一牢舎人乙松肌着入遣度届出承り届ル

一牢舎人無宿牢賄十三人之仕着例歳之通願出候ニ付取計候様小頭孫
八へ申付候

一牢舎人竹尾屋直兵衛蒲団入遣度旨去ル廿六日申出承り届

一牢舎人弥市蒲団入遣度右同断

一町方前訓講尺来ル四日相始候段喜左衛門届出候

十月三日 雨

一田原船へ荒荷物三步割渡可申義下方船持共遂相談候趣大年寄三人
諸吟味夜前及深更罷出申聞候^者船持共寄合遂熟談候処荒荷物三步

田原^江割遣候得^者長岡栗子等之船^江も同様ニ三步割渡不申候得^者
不致承知^者必定之義左候得^者当所之船ハ四歩之荷物ニ相成り夫^ニ
^而者船持共稼出来不申候間得不仕候由且又縦此方之船計荒荷三步
ハ分ケ遣可申と申候^而も長岡栗子船等百拾六艘之船持共不致承
知候得^者迎も田原^ニ而も不致承知事ニ候得^者当所計之存寄^ニ而相
決候義ハ元来難成義殊長岡栗子等之船持共此間致連判以後申談
を背間敷と約候由ニ相聞如何様之含有之義哉も難計中ニハ田原^江
随候ものも有之哉之風聞も相聞左候ハ、此方ハ卒尔之懸合も難出
来何れ^ニも爰元之船持共六歩荷物外へ被取候^而者商買不相成旨申
候ニ付此度之内濟ハ出来不申向方之様子承り候処下方^ハ却^而郡奉
行大庄屋之差含強様ニ相聞田原之船頭共爰元へ奉公致居候もの迄
郡奉行へ呼出し備前表之申談津山へ不漏様^ニと爪印被取候由風聞
有之且又爰元之船^ニ而田原船頭岡山へ廻り新川筋致拔荷候郡奉
行へ被呼出吟味有之彼是申披候得共以來手こり老ツも津山船^江
積間敷旨申候様ニ取沙駄も有之左候得^者大年寄諸吟味差遣候^而も
迎も内談も調中間敷且又西大寺金岡塩浜等^ニ而者津山船へ売買御
差留被成候^而者難洪之旨飴屋忠三郎一人を除其外之間屋ハ不残相
願候と申沙駄も有之左候ハ、今少見合候ハ、追々様子も相分り可
申当時^者田原船来候得共運賃上ケ不致承知候ハ、来中間敷左すれ
ハ問屋共差支相成候間其節^者願出可申其砌^ニ至り懸合ニ致候方^ニ
^而も可有之哉と何レも存寄^ニ候旨申出今朝太田舎人^江右之趣委敷
申達置候処猶又於御席一学殿^ハ御尋^ニ付右之大意申上候処何れ如
何様之訳^ニ而右一件差起り候事一向主意不相分縦懸合ニ致候共右

之趣ニ而者懸合難致候間何れそ一人工者成もの備前御藏元小倉屋

弥三郎方へ差遣し委細之訊聞糺候様可申付旨一学殿が被仰出依之

大年寄三人諸吟味共呼出し右之趣申付候処稻実屋義七郎差遣可然

と申義ニ付同人江申達候様申付候且又大年寄申聞候者銀兵衛佐助

談懸ニ罷帰候処右懸合振船持共迎も得心不致義ニ付右断ニ書状

差遣可然と申候ニ付其段一寸太田舍人江申聞候上ニ其通取計候

様及差図候

一但州生野手代が相場書之義申来候義例年可及御沙駄ニ義ニ無之

候得共当年者以来認方違候趣申来候義ニ付御用所初大目附へも一

卜通差出候

一安岡町古川屋太兵衛義沖村岩藏が御年貢米買取候御咎先例之通追

込七日と先日相伺候所思召ニ不叶再考被仰出候ニ付今日手錠十日

追込と認直し太田舍人江差出候

一御近領江相場書差遣し青縄油紙受取之書付大目附上印取之荒物方

へ相渡置候御作事へも挾板之書付例年之通申遣候

一船車ニ而致横死候猿兵衛届書見分一札共御用番御下ケ被成大目附

へ差出候

一出羽守様御止宿ニ付先年之通御本陣改御修覆等可有之哉と源五兵

衛伺出候ニ付大目附へ申達候然ル所三浦伴左衛門明日下見ニ罷越

候由ニ大年寄申出候

一大目附松岡治部助が左之通公儀が被仰出去ル廿三日御達申候様ニ

相認置候間其旨ニ記置候様被申聞候尤右延引之訊ハ難解御文段有

之江戸表へ尋遣置候付致延引候得共下方心得も可有之ニ付今日申

達候旨被申聞候

御勘定組頭

書付之趣申渡

勝与八郎殿

御勘定

木城貞右衛門

神尾磯五郎

山田常右衛門

銘々下ケ札

岡部美濃守

松平遠江守

小出信濃守

本多大和守

御名

松平讚岐守

松平駿河守

申渡

和泉国

岸和田

摂津国

尼ヶ崎

丹波国

蓬部町

播磨国

山崎町

美作国

津山町

讃岐国

高松町

豊後国

杵筑町

年々石代直段立方之義是迄取扱一區々ニ付

以来十月朔日同晦日迄之内領主払米余米

有之候俣ニ而米屋共買請取米直段を上米直段ニ

相立中下米代之義^者 仕来之通直段下ケ致し
右買請候節計之直段端銀共書付年々問合有

之候節相違無之様得^与 相改可被差出候

右^者 松平伊豆守殿へ伺之上申達候間可被得其意候

巳八月

口達之覺

石代直段相用候場所々々々々御代官御預り所々問合

有之候節別紙申達之通当年々相改相違無之様

書付可被差出事

八月

右之通中買共へ申付候様大年寄源五兵衛へ申付候尤御触留^ニも認
置候右余米之文字難解所^者 追^而可申達旨申置候

一 関貫番賃銀百四拾^(銀俵拾) 匁四歩広治^ル相廻候

切^十月四日 快晴

一 吹屋町三瀬屋助八御箱訴一件之もの共今九時^ル呼出大年寄諸吟味
小頭書役部屋目附立合逐吟味候

一 丹後久米浜御代官野村権九郎殿手代中村莊太左衛門清水若平広石
卷右衛門^ル米相場所頼来尤例歳と違十月朔日^ル晦日迄之三段相場
申来候及相答

一 紀州海士郡日方浦池谷町善四郎手代政右衛門一人例年之通梳折敷
類売^ニ来候段京町田戸屋宗十郎宿切手差出

一 筑前遠賀郡柏原浦小平治手代義平忠藏藤助三人例年之通梳折敷類
売来候段右同人宿切手差出

一 牢舍人周藏弥断食致候旨申出郡代所へ申達候

切^十月五日 時雨

一 牢浚申付候処無別条段文蔵左五兵衛届出候

一 公儀御触左之通大目附^ル廻状到来

延享元子ノ年以来之借金滞致出訴候^而も御取上ケ無之併
すたりと被仰出候義^ニ者 無之美義を以致借用候もの故実
義を以相對^ニ可抔事此已後之所ハ御取上ケ御裁許被成候
由也委細之義ハ触書扣^ニ記置

右御触書写取翌六日町方^并組中へ差出候但十三日之処^ニ認置

切^十月六日 時雨 晴

一 出羽守様来ル十八日御発駕同廿日勝山宿同廿一日院庄御休同晩当
所御止宿被成候^ニ付人馬御手合其外万端御頼被成候段向方御家
老^ル此方様御家老中へ申来候間宜取計候様大目附中^ル申来其段玉
置源五兵衛へ申付候

一 出羽守様御止宿^ニ付御本陣見分之義大目附中へ申達置候処内見分
^ニ小勘者三浦伴左衛門被差遣候所已前^ルハ手狭^ニも相成且又已前
之通御取繕有之候^而者 御入用も有之本陣も迷惑^ニ付成丈ケ^ニ相濟
手狭之儀故向之家一二軒下本陣と致し間を合其段御宿割へ可及断
之旨御本陣へ可申付旨大目附^ル申来源五兵衛へ申付候且又疊見分
^ニ者 今日御作事役人被差遣候間其旨も可申付候旨申来同人^并申達
候

一 牢舍人周藏今日^者 食餌少し給候由昼廻り^ル申出其段郡代所へ及通
用候

一 播州網干新在家加賀屋善七手代善兵衛一人例年之通小間物卸売来候段西新町山家屋利右衛門宿切手差出又翌正月八日

一 備州津宇郡妹尾村小判屋太郎兵衛一人例年之通畳表卸売来候段右同人宿切手差出又翌正月三日

一 西川役人平沢助八高橋金治例年之通米通場書頼来及相答尤今年者公儀被仰出も有之候間追而可得御意旨端書申遣候

十月七日 時雨

一 勝間田町裏土手大目附構場所因州之出生之者之由往来も不致所持非人躰之もの歩行不叶行倒臥居候段廻り之目附組申出候間柳之土手へ為引取快氣致候ハ、他領へ送り出候様大目附手紙申来其段大年寄へ申付候尤先月廿九日茅町裏土手行倒臥候いさり非人之由相聞候

一人馬間屋御給米受取証文奥印書取計候

一 御本陣疊見分今日御作事役人相改候由源五兵衛申出ル

一 秋元前関貫番人和助致病死右代り同人悴源蔵相勤候由受状小頭差出受取置

一 茅町阿波屋伝吉借屋住岡嶋屋幸助一人御領分西北条郡広原政吉借屋へ引越度人別除願下方引合相濟候段大年寄申出承り届ル

一 伯州米子麴町野上玄養と申医師西今町松尾屋源之丞療治相頼候付十二月迄逗留為仕度願書差出承り届ル暫時帰郷差出

十月八日 時雨

一 御用日登城

一 元新魚町住河本屋伊之平悴初吉義十三年已前十才母随出

奔仕当時流浪仕先非を悔恐入罷在候付帰住宅之歎書縁類黒田屋十吉願書差出旧日記取調候処御免被成候も不苦趣付大目附松岡治部助へ先達談置候処随分不苦候間差出候様被申聞今日御用番中へ相伺候処御聞届付大目附へ願書差出置御聞届申達候右九月改

二入

一 盜賊徳三郎弥助十吉右三人御裁許伺書口書添御用番中へ差出置候同十一日何濟

一 備前へ聞合差遣候稻実屋義七郎義昨晚罷帰候由夜前及深更孫右衛門喜左衛門罷出申聞候金岡小倉屋弥三郎西大寺肥後屋多吉へ問合候所元来鉛屋忠三郎起し立候趣強懸合候ハ、早速可相濟趣之由弁書差出候依之先暫見合置候ハ、運賃上ケ之荷物来り取合出来可申候間其節荷主問屋為懸合夫不相濟候ハ、役筋より懸合可然と申下札仕太田舍人差出し御用所御尋付粗一学殿へ申達置候同日一学殿御差戻し被成候

一 大目附昨日被申聞候勝間田町土手行臥非人夜前柳之土手へ引取候段届出候付大目附へ相達候

一 非人加廻り今夕先相止候様何濟付大目附へ申達大年寄へ申渡候

一 浜風岸右衛門義徳守花相撲興行之義出羽守様御通行後相始可申旨岡田繁太郎申出御用番大目附へ申達置候

一 安岡町古川屋太兵衛義正米買取候吟味書太田舍人差出候

一 宮脇町西関貫損届書差出候大目附へ差出候

一 米相場直段立方之義出来兼付伺書差出候付拙者考書

差添大目附へ差出候所下方^ニ而相極差出候様ニ被申聞右書類被差
戻候ニ付大^{年寄}■^{申付候}へ申付候

一吹屋町高瀬屋助八御箱訴ニ付吟味書治部助へ可差出候処当病ニ付
小須賀^江貢差出置候

一同心組大之字羽織五小頭^羽織一引かへ候義申出候ニ付大目附へ申
達相濟候

一出羽守様御止宿ニ付御取計諸事先年之通^ニ而御用所出役無之奉文
文^ニ而相濟候間其心得^ニ而取計候様大目附へ達有之尤御本陣改
も無之先日之下改^ニ而相濟候事

一錢通用百三文ニ相成候段大年寄へ届出候

一公儀^ハ此間御触有之候古借出入御取揚無之義大目附へ相尋候処大
坂ハ是迄之通と申事ニ相聞候間重便尋ニ可遣候得共当役^ハも申遣
候^而も可然旨貢挨拶^ニ候^{間世}日蓮尊大坂ハ是迄之通也

一出羽守様御止宿ニ付御道見分小頭三船孫八大年寄藏合孫左衛門諸
吟味宮田喜左衛門差出候所先々見苦敷所有之取繕申付候由且又徳
守宮築地東西二ヶ所見苦敷候段申出候ニ付寺社取次三浦十郎左衛
門へ及通用

十月九日 時雨 晴

一牢舎人戸嶋村弥市出牢切手郡代所へ相廻り認めへ出番為治差向ヶ
出牢取計候

一牢舎人松田屋佐助綿入差越候ニ付伺出承り届ル

一手嶋流講尺今日迄^ニ而相濟候由喜左衛門出席帳差出候

十月十日 曇

一牢舎人周藏義先日以來絶食候処牢番共不申出不埒ニ付小頭孫八^江
為相糺其段郡代所へ申遣候絶^而存寄も無之旨翌十一日申来候付左
候ハ、私場合切^ニ而叱置可申旨申遣其旨孫八^江申付候

十月十一日 曇 晴

一二町目福永屋藤助方へ昨夜八ツ時分之頃盜賊這入店戸棚ニ有之銀
札三貫目計銀式三丁錢箱壳溜四五拾文盜取候段届書差出右八福永
や裏戸川町細間へ這入候旨帰ハ山北屋内庭を通り出候由目明共申
出尤福永屋下男因州もの長助と申もの不快^ニ而一兩日宿下り致福
渡町ニ独居いたし居候由右之もの疑敷由申出候付番左十郎一人
差向為相糺当分組合預ヶ申付置右之段御用番中へ罷越相届候大目
附へハ手紙^ニ而相届候尤右盜賊出入通り道ニ付戸川町山北屋和助
齋藤孫右衛門へ届書差出候

一久世御代官所へ盜賊代吉義来ル廿二日御仕置ニ付右一件懸り合之
もの共差出候様郡代所へ申来候段通用有之依之左之もの共右之通
申渡候様大年寄へ申付候

津山東新町

山内屋藤右衛門下代

太助

同所元魚町

黒坂屋

幸助

右式人町役一人つ、差添印形持参其外預りもの持参来ル
廿一日迄ニ差出候様申来

右之段乍序御用番中へも及御沙駄置尚又左之通申付候

来ル廿一日久世へ町人差出候間 小野田為治

右差添申付候

一大神楽岡田忠太夫来候段大年寄の届出候ニ付御城下打廻り候段大

目附へ手紙ニ相届候

一牢舎人拾式人之御仕着代百五拾式匁五步証文差出奥書取計之尤老

ツニ付拾三匁限りニ取計候且又明朝相渡候様ニ申付候

一菓種兵庫江積登候御届之義大坂村尾左右衛門の大目附中へ御領分

中菓種惣高相認右之内手作何程引残ニ何拾何石と相認御届被成尤

何月何日何程つつ積出候段も御届被成候様ニ申来候由右書面郡代

所の相廻り候ニ付致出船候日限届書差出候様大年寄へ申付置右左

右衛門書面拙者の大目附へ差戻候

一町方大破家多出来候ニ付町年寄へ申渡書相認差出候様去ル八日一

学殿の被仰出候付相認今日致持参差出候尤大破家之取計書ハ致持

参候得共不差出町年寄へ申渡書計差出候

一船頭町川筋腰石垣掃除一昨卯年十月遊行上人通船之砌伊達与吉

郎の以来町方ニ致掃除候様達有之先規の定有之候処与吉郎一存

ニ即答ニ以来之形被相改候者不筋之義其節申立度存候得共御用

番も御親子之義ニ候得者迎も難相濟趣ニ付是迄差延候得共去ル五

日一学殿江罷越御内意申上候処認差出候様被仰聞候付今日致持参

差出候

一御蔵米六拾四匁五步町米六拾匁五步

届書差出候

一盜賊弥助徳三郎十吉御裁許去ル八日伺置候処伺之通取計候様一学

殿の今日被仰出候尤其段大目附へも紙面ニ申達置候尤取計ハ当

暮可仕筈也

一田原船取合之義稲実義七郎差遣候聞合之書付今日一学殿の御戻被

成候

一沖村伊平治払米吟味ニ付岡崎屋屋伊兵衛口書去ル八日大目附へ差

出置候処双方申口不致符合候ニ付右伊兵衛口書を以伊平次兵助郡

代所ニ再札有之候処弥不致符合候付郡代所の右両人口書相廻り

候ニ付安岡町岡崎屋呼出し立会例之通ニ直遂吟味口書取極メ郡

代所へ相廻り候

一御中間幸治義徳守宮祭礼之砌京町小豆屋与平治方ニ脇差拾候義

致監察候様佐々木主馬の達有之申付置候処何之風聞も無之見受候

ものも一人も無之旨孫右衛門書付差出候ニ付佐々木主馬へ差出候

一牢舎人一ノ宮文治山東村喜右衛門綿入差越候付入遣度申出承り届

ル 十月十二日 初雪

一御蔵米六拾四匁町米六拾匁

一御給米御役料例年之通相渡候御蔵廻状来組中此間申達置候処今

日何及頂戴仕候段御礼罷出候

十月十三日 雪 少雷

一御用日登城

一龍野役人関口作兵衛三沢清太夫の飛礼到来米相場之義従公儀御達

之写書差越頼来相答ニおよひ置公儀ノ之御達写相廻候事故御用番中[#]大目附へも差出候処即刻相戻候

一大破家之義ニ付町年寄へ申渡書去ル十一日一学殿へ於御宅差出置候処御存寄ニ不叶候由ニ御存寄之通御認御渡被成候尤考之上可及御答事

一安岡町岡崎屋伊兵衛口書太田舍人^江差出候処矢張まきらわ敷と申趣ニ申渡認差出候様被申聞候

一東新町種屋伊助船車ニ無宿猿兵衛致死去無宿者相頼候段不恙ニ付御叱可有之筋ニ候間今一応相考差出候様大目附小須賀貢被申聞候

一出羽守様御止宿ニ付左之通相極候間其旨可取計旨小須賀貢被申聞候

一御使者御取遣り[#]御用所大目附御機嫌伺相止其外ハ寛政六年三月八日俄ニ御止宿之節之取計ニ可相心得候

一町奉行是迄之通東西へ御着御見送り罷出御本陣脇ニ御逗留中可相詰候併是迄之通御本陣へ自分御機嫌伺ニ罷出ニ不及候

一御関札中ニ東西二ツ足輕番被仰付候義是迄町奉行ノ及挨拶候処当年ノ御本陣^江不罷出候間右之断御本陣源五兵衛ノ申通候様ニ可取計候

一町奉行も御関札内ニ出張之義も御本陣ノ御断ニ付御本陣へ伺^者不罷出候得共為非常出火等之節ハ御先乗仕候ニ付御関札内ニ出張仕候^段可及断事

一自分義夜も相詰万一出有之候ハ、本源寺大信寺へ御案内御

先乗可致候右ニ付火事場へ不罷出候間兼^而郡代^江通し置可申哉と相尋候処随分其通ニ^而宜候間其旨可相心得右等之節

ハ大目附も罷出候事故郡代と申談宜取計可申旨小須賀貢被申聞候ニ付其段三浦十郎左衛門へ通置候尤何等之節ニ^而も此心得之事也

一手嶋流講尺相濟喜左衛門ノ出席帳差出及一見差戻候

一船頭町高瀬屋助八借金滞出入先日治部助不参ニ付貢^江差出置候処今日治部助ノ先算様差引書不及差出候間夫ノハ先ニ取計等閑ニ致候もの共之誰々不調法と申義認出候様被申聞候ニ付左候ハ、先日

も大意ハ貢殿へ申達置候通大年寄町年寄御蔵元迄懸り合候もの何れも同様之義ニ^而あなち等閑と申筋ニ^も無之元来ハ助八頑急もの故之義ニ付ケ様ニ取継長か引候事ニ^而実ニ早速ニ^も難取計筋之

義ニ候絶不調法付候ハ、内濟申付置候処不申出ハ此方ノ度々及催促筋立可申処其義無之段不調法と申様成ものニ^而候段申達候ハ、其旨ニ^而も可書出何れ不調法人申上候様ニ^と御用番中御差図之旨

治部助申聞候付左候ハ、其旨調可出候得共左様之義ハ私共身ノ上数多有之事ニ候得^者自分之失を相調候上ニ^而可申達旨申置候

一成覚寺浜屋源右衛門出入一件内濟候段先日大年寄申出[#]右一件書類寺社取次三浦十郎左衛門ノ此間相戻り大年寄へ差戻尤内濟届書差出

一牢舍人庄助弥助病氣ニ付医師願出大年寄へ申達^候吉武祐三申付候一牢舍人周蔵義今以断食疲候旨牢番[#]昼廻り申出三浦へも通置候

一 牢舎人徳三郎肌着入遣度牢番伺出承り届ル

一 常盤屋丈右衛門義昨夜大坂へ罷帰候段届出大年寄も同人大坂兵

庫ニ懸合之趣口達ニ申出候ニ付弁書認出候様申達ス

一 牢舎人弥助取次質物黒つむき表地地布帷子ニツ受返し度旨安岡町

橋留屋喜与松願書差出承り届

一 西新町山家屋利右衛門願書差出候播州姫路外豆腐町椀屋藤兵衛

参来候処病身ニ相成候ニ付右代りニ播州三木下町山屋嘉兵衛と申

もの大工道具商売仕候者親類ニ付差越度由申越候段願書承り届ル

一 二階町仕立屋吉三郎差置候質物嶋布子古胴服取次ものニ付為受戻

候段戸河町打穴屋長七届出承り届ル

一 去ル五日従公儀が被仰出候借金出入御触左之通

大目附

一 延享元子年以来之金銀出入奉行所ニ取上之義同三寅年

相達以来已ニ五十年余追々金銀出入数多成行候元来人々

相對之上之借貸ニ候得者取上裁許も不及事ニ候間是迄

之分裁許者不申付自今出訴之分吟味之上取上夫々可申付

候尤買懸り諸職人作料手間賃等ニ至迄同断之事

但唯今迄取上裁許日限等申付置候分も濟方向後奉

行所ニ取扱致間敷候

一金銀借貸之義年古キ義ニ而も相互ニ実意を以之応対ニ候

得者容易ニ出訴裁許受ニも不及事ニ候処返濟方も貸方

も不実意多ハ猥ニ出訴ニおよひ風俗不宜候此度裁許限

相改候も唯今迄之借金銀棄捐ニ可致なと心得候者尤不

埒之次第ニ候又欲心を以事を企出入ニおよひ或全く利

徳ニ而已拘り不埒成出訴之類者吟味之上夫々急度咎可申

付事

一 以来濟方可申付分申渡之金高致不足毎度不束ニ候ハ、糺

之上急度可及沙駄事

以上

一 右之趣ニ付大坂御番所ニ而も来借金出訴ハ右之通ニ相成候事哉

役筋も取計懸ケ有之糺屋伊助大村屋源右衛門等大坂出訴有之

日限被仰出候事故問合大坂村尾左右衛門へ申遣候

一 價金銀取扱方江戸御留主居田中幸助へ問合申遣候

一 菜種為積登石数郡代所大目附へ届書被差出拙者も印形致可然

と大目附も申義ニ付致印形候認方左之通

六拾九ヶ村菜種作高

一百七拾七石三斗

内

百三拾式石三斗 油屋共手作手紋

残四拾石

右者兵庫問屋へ積登申候

右之通御届申上候以上

巳十月 増尾右門 印

三浦十郎左衛門 印

一 菜種出船之義油屋三人ノ左之通届書差出大目附へ差出候

御届申上候事

一 当御領分中当年出作菜種四十五石当九月廿二日当川岸積

出し撰州兵庫津田中屋久左兵衛灘屋吉三郎右兩人方^江差

登候ニ付御届申上候此段被仰上可被下候以上

丸亀屋勘治 印

寛政九丁巳年九月

他行仕付御印
右同斷

常盤屋丈右衛門 印
湯田屋太郎左衛門 印

大年寄三人宛

右之通届書差出候ニ付諸吟味役立合遂吟味候処相違無御座候ニ付奥書仕指上申以上

諸吟味役 宮田喜左衛門 印

巳十月 大年寄 三人 印

御町御奉行所

一 久世役所^江来ル廿一日町人百性被差出候付右差添山田新三郎^江被

仰付候由案内有之例之通相頼来廿一日朝五時於役宅可相渡旨申談

置候且又元魚町黒^坂屋幸助二男太兵衛幸助名目ニ而先達^而罷出向

方吟味之上幸助煩代太兵衛と申名目ニ相成不調之段先達^而咎申付

候今般も太兵衛罷出候付代人といたし可然哉と新三郎へ遂相談候

処随分其通^ニ而^而宜旨^ニ候且又山内屋下代太助も今以病氣^ニ付先達

而^而之通定七差出候段談置候

十月十四日 晴

一 御用番中ノ御達有之候ニ付罷出候様申来罷出候所左之通被仰出候

一米相場立方之義大目附中ノ被差出御披見候所御存寄^并御

不審も有之有増申述候得共何分御主意書之趣勘定奉行へ

遂熟談候上^ニ而^而申出候様被仰聞依之上原彦蔵へ談置追^而

可及御答事

一 出羽守様御止宿ニ付御本陣玉置源五兵衛ノ左之通拝借道具書差出候大目附へ差出置候

覚

一 白木御三方 一 御膳台 一

一 御水漉但布共 一 御刀掛 一

一 大文字付御挑灯^(ツ) 四張 一同台 四ツ

一 火鉢 十 一 炭取 二ツ

一 燭台 十 一 ことく大小 五ツ

一 御真な板 二面 一 水荷るい 式荷

一 手水桶 三ツ 一 御家具 五拾人前

一 縁取 五拾枚 一 手燭 五ツ

右之通拝借被仰付被下置候様奉願上候以上

巳十月 玉置源五兵衛

覚

一 馬桶 十 一 馬盥 五ツ

右之通拝借被仰付被下候様奉願上候以上

右之通拝借被仰付被下候様奉願上候以上

巳十月

玉置源五兵衛

一新魚町門屋源左衛門家守魚屋和助妻兼而病身ニ付不相分八月妊娠御届申候所○昨十三日女子生届出月取間違之義例之通叱取計候様ニ申達候

一大目附小須賀貢ノ昨日左之通御違有之候

当国之方言ニ而夜ル之事を夕と唱候得共夕と申ハ昼後之事ニ候得共以來無間達様ニ心得可相認候

十月十五日 晴

一但州生野御代官稲垣藤四郎殿手代槽村河岸出張矢代為右衛門馬場良藏ノ飛札差越御米今津屋平藏倉へ積入候間火盜之手当申付呉候様頼来承知之旨及返書右手当例年之通大年寄へ申渡候尤例歳ノ久世ノ申来候所当年ノ御支配代リニ付生野ノ申来候事

一牢舍人甚七和七拾入度旨牢番伺出承り届

一牢舍人上紺屋町新八義宿甚困窮仕牢賄町内ニ而も永々之義甚迷惑仕候段歎出右同類之者ハ牢賄ニ可仕旨九月廿三日伺済ニ候処彼義ノ上紺屋町住人之義ニ付不便之義ニ存是迄差延置候所歎出候ニ付明十六日ノ牢賄ニいたし候様夫々江申付ル

一米相場立方勘定奉行存寄書相廻り候ニ付其旨下方へ申付ル

十月十六日 快晴

一出羽守様御止宿ニ付御馬置場無之ニ付町会所ニ拾疋立之仮厩被仰付被下候様御本陣ノ願出旧記ニも見当り不申候得共先年も御作事ノ被仰付候様ニ源五兵衛杯も覚居候由寛政七年俄ニ御止宿ニ相成候節ハ吹屋町職場ニ割付置候処今般ハ左様も難仕殊ニ其節ハ御

馬手遠ニ而御間ニ合兼大いさこさニ相成是も六ヶ敷義之一ヶ条ニ候得者不得止事義故右書付大目附へ紙面ニ而差出候所承知之旨申来候

一久世御代官早川八郎左衛門殿手代貝塚五郎藏内藤大右衛門ノ米相場書頼来且又来春川除普請石代ニ相用候間昨十五日一日之米相場上中下三段此人ニ差越候様ニ例年之通申来候得共未相場立方決着不致評議中之義故無抛来月初旬一所ニ可相廻旨及返書候

一牢舍人十吉療治二廻り相済候得共未宜旨双方ノ申出代リ之医申付候処吉武修格へ申付候段申出候

一出羽守様御先触左之通及深更到来

以廻状致絡達候出雲少將殿為參府当月十八日国許被致発駕候依之繼馬三拾五疋繼人足式百三拾人駅々無間違御手合頼入存候尤久世ノ西宮迄之内者繼馬式拾五疋繼人足百八拾人入用ニ候則人馬望之人別板札ニ相記是迄之通銘々江相渡置候尤馬之分ハ壹番ノ三拾五番迄致番附置候依而人足手配帳ノ印鑑遣之候且又右帳面之外入用之分ハ例年之通紙切手仕出候間左様御承知可有之候右手配帳壹冊印鑑壹枚宛御留置御順達可有之候恐惶謹言

下ケ札ニ人足付方手配帳面之通仕来を以人馬相究如此先

触仕出候処人足付方相増候訳も有之候ハ、其増人足丈ケ増入用ニ相成候間其心得を以集置無滞御手合頼存候

津山明石御領駅之分ハ繼馬三拾疋御手合頼入存候

雲州人馬方

十月十三日

平井幸三郎 書判

桑原嘉市

片山良平

瀧 定七

宮川柳助

伯州溝口駅より西宮大坂通り東海道武州品川駅迄

宿々間屋中

追給至時人馬とも少々余分之義も可有之候間其節御手合頼

入存候且又同勢多くハ桑名ノ宮^江直渡候間佐夜神守万場三

宿之分ハ印鑑計壹枚ツ、御留置御順達可有之候已上

手配帳ノ高

駕籠 五拾式挺 乗物五挺 長持一棹 分持五拾六人

ノ百八拾三人

右先觸及深更候付翌十七日御用番中へ差出大目附へも達ス

十月十七日 快晴

一出羽守様弥十八日御発駕廿一日当所御止宿人馬先觸来候段郡代所

^江及通用右ニ付在方寄七馬八疋被仰付候様^并火用扣人足五拾人例

之通被相廻候様申遣候所承知之旨申来候

一米相場建方勘定奉行存寄之趣を以下方考付差出候ニ付一学殿へ持

参差出候

一西今町玉屋吉右衛門所持之旅人旅籠屋株当己歳々来ル寅歳迄十ヶ

年之間坪井町表屋甚六借り受商売仕度願書差出承り届^{日野屋久五郎へ貸置候}

株。廿八日之短ニ記置候願書致前後候事

一郡代所ノ盜賊龍巖元町方住居之ものニ付人別之義尋来新魚町新職人町相札候処人別ニ無之旨申出其段郡代所へ申達候

十月十八日 雨

一御用日登城

一大久保安芸守殿領分当国久米北条郡里公文上村百性安右衛門娘し

も義材木町万屋与三兵衛家守清兵衛養女ニ引受度人別入願御用番

中御間濟ニ付大目附へ差出置御間届申達候^{同月八日宅宅紙文差出}

一町方大破家多相成候付修覆仕候様町年寄へ申渡書御差図を以相認

御用番中へ差出置候

一出羽守様御止宿ニ付町方取計書大目附へ差出候

一東新町種屋伊助船車ニ而猿兵衛致変死候始末御叱書大目附へ差出

一京町小豆屋与平次方ニ而徳守宮祭祀之御御中間幸治拾取候脇差御

中間頭ノ町奉行所へ引渡候様被仰付候間請取置落もの、建札いた

し置落主弥不出節^者闕所もの、内へ入置候様大目附貢^ふ被申聞晚

方御中間頭三浦伴左衛門ノ右脇差小頭寸治持参候ニ付三船孫八ニ

為受取其段及返書右脇差ハ書役新左衛門へ預ケ置東西大番所関貫

ニ張紙取計候様大年寄へ申付候

一安岡町岡崎屋伊兵衛方へ沖村百性伊平次御年貢米持込粉敷趣ニ付

御叱追入之伺書大目附太田舍人^江差出候

一出羽守様御止宿ニ付御本陣拜借御道具書付大目附へ差出置候処大

目附小須賀貢^ふ紙面ニ而右申立之内膳椀^并薄縁^り院庄へ被差遣候

ニ付御貸不被成^并飼桶七馬盥^二ハ御貸渡被成候得共其余ハ無之ニ

付得御貸不被成候間膳碗薄縁桶盥共ニ何方ニ而も損料ニ而借り受

相濟右損料代ハ追^而可申立旨申来其段源五兵衛へ申達候^并小勘者
三浦伴左衛門^ハ右御貸道具裏下御門迄取^ニ差越候様申候^ニ付其段
も源五兵衛へ申付候尤火鉢も院庄^江差遣候間可致不足候旨伴左衛
門申聞其段も源五兵衛へ申達置候

一出羽守様御関札来候段源五兵衛^ハ申出其段御用番^并大目附へ相届
候

一出羽守様御止宿ニ付先例之通町触差出候

一御用番小須賀一学殿^ハ昨日差出候米相場建方之義伺之通御評決被
成候間以来其旨^ニ可取計段下方へ可申付^并銀歩之義も申出候通以
来式歩老歩と御極被成候間其段も可申渡旨於御席被仰渡候尤右伺
左之通

今般従公儀被為仰出候石代直段立方之義ニ付書付を以御覧
奉申上候処恩召被為仰出候趣を以猶相考左之通取計候^而宜
可有御座哉と奉存候

一十月朔日^ハ同晦日迄之内御払米米屋共買請候節計之直段上
米と相立可申旨被仰出候ニ付則当月三日^ハ六日迄日々尚又
十三日御払米御勘定所^ハ御達御座候^而私共仲間^并町方米取
扱之商人共迄入札指上則落札之者右御払米頂戴仕代^者正銀
^ニ上納仕来り候左候得^者当月中幾度^ニも右等御払米御
座候日々計其相場を上米相場と相立夫^ハ三匁落中米又三匁
落下米と先例之通三段^ニ相定書認指上候^而宜義と奉存候勿
論三段相場書も文字銀と認来り候事故右之通取計候得^者此
度被仰出候通嚴重成立方^ニ而惣^而差障り之筋も無御座候様

奉存候

一前段之通相定り候得^者十月一ケ月中^者右御払米落札直段其
日々々書上可仕候勿論私共帳面^ニも右御払米相場銀立故式
歩之歩合相加へ銀札相場ニ引直し度々帳面^ニ相記置可申^并
前後之相違も記置候事勿論之義^ニ御座候右再考之趣取究御
窺奉申上候

但當夏石代御改御役人様御吟味之節米相場立方之趣意勿
論是迄三段相場書等之御尋御座候^而則相場之義ハ御上御
払米直段相場之元と仕夫^ハ四匁落上米又中下米三匁ツ、
落と仕来候段申上則口書被成御取候然ル所右三段相場是
迄之立方恩召^ニ不被為叶今般右御払米を上米と仕候様被
為仰出則前段之趣^ニ而公儀御差図通^ニ相成申候然ル所是
迄之三段相場^ハハ余程高価^ニ相成候^ニ付方々一御國中御
公料百性共迷惑^ヲ存私共相場立方を相探り十月一ケ月
日々之銀札を以売買仕候御切手相場書留置右三段相場上
米^者商人共地合之相場を離レ銘々見込之入札勿論正銀立
銀札^ニ相直候得^者歩合相懸り旁以其日々々之引合相場^ニ
^者府合不仕候間其段不審を起し津山中買相場不直之立方
扱と百性共^ハ江戸表^江申立其趣を以若御察度御座候節私
共左之趣申披可仕差含^ニ御座候口書^ニも申上候御払米相
場之元と仕候処以後右御払米上米と可仕御差図^ニ御座候
^ニ付則其段取計申候御払米ハ米屋共銘々入札^ニ仕勿論正

銀上納ニ御座候右入札仕候義も相場之進不進を相考高下

共面々之見込を以価を定メ入札仕候義則人氣之趣所故取

りも不直其時々之相場ニ御座候惣ニ相場之義ニ暫時之

内ニも高下相動候ニ付同日たり共幾度相替り可申も難計

左候得者相手方之面々右相場閉合之時ニより高下之相違

も可有御座全不直之筋無御座被為仰出通三段相場嚴重ニ

取調差上申候勿論先達ニ御吟味之節口書通り御払米者米

相場之元ニ仕候義相違無御座候段速ニ申披候存寄ニ罷

在候且又右銀歩ハ御察度御座候得者先書ニ申上候通歩合

式歩と可申上奉存候間此儀者先日奉申上候通乍恐猶御窺

申上候

一大豆相場之儀者前段不被為仰出候得共是迄銀札立之相場を

以文字銀何拾何匁と書上来り候故此度相改候米相場之引並

を以銀歩式歩引候ニ正銀相場ニ引直し十月一ヶ月之内相場

替りく之日を幾度ニ而も右書上相場ニ相認候ニ差上可申

と奉存候

前書之通再応相考御窺奉申上候間此段宜被仰上可被下候以上

巳十月 茂兵衛 印

金右衛門 印

大年寄三人宛

前書之通米中買共申出候ニ付私共再取調相考候処右之趣

ニ而宜儀と奉存候以上

諸吟味役 宮田喜左衛門 印

大年寄 三人 印

一 先日已来御払入札を以代正銀納ニ買取候届書差出左之通

一 御払米三百俵十月三日正銀六拾四匁六分五厘ニ神田屋宇兵衛買取

一 御払米三百俵十月四日正銀六拾四匁六分六厘ニ鍋屋惣兵衛買取

一 御払米三百俵十月五日正銀六拾三匁六分三厘ニ小倉屋茂兵衛買取

一 御払米三百俵十月六日正銀六拾四匁三厘かへニ小倉屋茂兵衛買取

一 御払米三百俵十月十三日正銀六拾三匁四分三厘かへニ小倉屋茂兵衛買取

一 浜風岸右衛門義徳守宮於社地花相撲晴天三日願相濟候処尚又五日

ニ仕度旨追願差出候得共甚不筋之申立ニ付寺社取次三浦十郎左衛

門内々々小須賀貢ニ遂内談候処同意ニ差戻候

一 御家中之面々足輕ニ至迄分限不相応之会釈振等有之候間以後ハ急

度札義を札可及会釈旨大目附廻状去ル十五日来組中へ差出候委細

ハ触書扣ニ認置先日認置候故爰ニ記ス

一 牢番預ケ上紺屋町新八義九月廿三日御内々相伺置去ル十五日牢賄

ニ申付候位之義ニ付九月廿三日入牢申付候趣ニ而今日入牢切手

差遣候

一 西今町直屋善吉弓削役所へ出訴内済相調候旨源五兵衛内々申出

承り置

一 出羽守様継人馬手配帳大目附々取戻候大年寄へ差戻候

一 三町目北側ニ而南屋利兵衛借屋之裏通之北鍛冶町分之敷地東西七

間半南北七間半尤鍛冶町鍛冶又市郎持家之南ニ候処今般代銀八百五十。匆ニ相極鍛冶又市郎へ買戻度願書差出承り届ル

一出羽守様御本陣下改役福田八十助と申もの夜ニ入来御道中御故障有之勝山御宿之所久世御泊ニ相成廿二日当所御止宿ニ相成候段申聞候旨大年寄ハ申出其段御用番ハ大目附中江手紙ニ申達候然ル所御本陣源五兵衛ハ及深更左之通追触差出ハ福田八十助口達ニ申聞候者兼而廿一日御止宿之旨紙面ニ御頼被仰進候義故今般も紙面ニ尚又可被仰進之処差懸り候義ニ付不被及其義候間其段御本陣ハ御役人中江申通呉候様申置候段源五兵衛届出其旨翌十九日御用番ハ大目附へ申達候右追触写左之通尤御用番中へ差出候

一筆申入候少将殿為参府明後十八日弥国許發駕之議定ニ候然ル処泊一日相増候付而道割令相違左之通休泊相究候間故障之義無之候ハ、名之下被致印形此飛脚之者へ御渡可給候尤大藏谷ハ下地相極置候通ニ候得共一日日延ニ相成別紙之通関札日付御直置可給候猶委細飛脚之者江申含候恐惶謹言

十月十六日 雲州 岡田弥五右衛門

十月十八日安木泊 同十九日溝口休 同日式部泊 廿日根雨休 同日新庄泊 廿一日勝山休 同日久世泊 廿二日坪井休 同日津山泊 廿三日勝間田休 同日土居泊 廿四日三ヶ月休 同日齋崎泊 廿五日姫路休 同日加古川泊 廿六日大久保休

一出羽守様御止宿ニ付人足賃錢定左之通喜左衛門差出

請負証文之事

御手配帳面表之分

一 駕籠老挺ニ付 六匁五分宛

一 乗物老挺ニ付 拾匁宛

一 平人老人ニ付 壹匁七步宛

但分持ハ宿駕籠人足等之類

一 宵ハ買入候待賃老人ニ付四步宛

但御手配帳人足ハ宿駕籠平人等迄

右之通貨錢相究受負仕候処相違無御座候已上

人馬問屋

寛政九丁巳年十月

八十兵衛

同 佐右衛門

十月十九日 時雨

一出羽守様御止宿ニ付物頭風廻り被仰付候間先格之通東西ニ立宿申付右名面書可差出ハ御徒歩目附下目附組立宿名面も認差出候様大目附小須賀貢ハ申来候其段大年寄へ申付候且又物頭伊藤主水ハも右同断案内有之一而噂有之候通牛馬片側ニ撃候様取計申来其段も大年寄へ申付候
一出羽守様御止宿ニ付東西土橋有之候事故御船ニ不及義ニ候得共旧記ニ土橋有之候而御船ハ被差出候様ニも相見へ候ニ付郡代所江申遣候処近例土橋有之候得者御船ハ不差出仮波渡場取繕平日之渡船出置候由申来候

一出羽守様御止宿ニ付拙者御貸人之義挑灯持二人被差出候様小勘者

下宿扇屋吉

三浦伴左衛門へ申遣候所兼其通ニ申付置候由返答申越候

東伏見町小田屋伊平次

一出羽守様御止宿ニ付御本陣通行致間敷御触先格之通大目附廻状來

下宿小坂屋善兵衛

組中江差出候

一御徒目附下目附立宿

安岡町大坂屋喜与八

一出羽守様御止宿ニ付町方取計書左之通差出大目附へも差出候

一同御着後中宿

京町関屋喜兵衛

一御道筋見分

一御先私中立宿

安岡町初屋伊兵衛

一御触書出ス

一同御着後中宿

京町角屋磯吉

一惣町自身番

一在宿医師 四人

但高挑灯差出候御関札内ハ夜中相灯御関札外ハ宵暁御

北山修齋 高島生齋 笹岡休意 原田春桂

通之節計灯候事

一人馬問屋出役 宮田喜左衛門

一御本陣 玉置源五兵衛

一御関札 京町 坪井町

但御本陣前敷砂長手桶式つ亭主筋違橋迄御出迎御先立

右相建候入用竹代共向方様被下候事

仕御玄関前ニ下座仕候事御出立之節ハ林田中之町大

一 出火之節御除場 東 本源寺

一下宿 京町堺町二階町元魚町式丁目三丁目

一 右同断御除口 堺町路次口

坪井町 七町也

一 御本陣前後 箱番所二ツ 此方様御足輕番

一御本陣詰町人六人

但平野屋治兵衛 三津屋平右衛門前

平野屋助左衛門 櫻野屋茂一郎 稲実屋義七郎

一 向方様御玄関前箱番所ハ当向宮田喜左衛門店仮り用ニ

藤野屋多吉 野々口屋七郎右衛門 大村屋源右衛門

一 京町堺町横町貫切之事

一御奉行所御立宿 西今町坪屋藤十郎

一人留場所 京町出屋前 堺町三津屋前

一同下宿 同町今田屋伊助

一同所出役。三津屋前亀屋勘右衛門今出屋前家根屋喜助

一同御中宿 京町二文字屋嘉左衛門

右同人休息所 堺町中野伊助京町吉野屋甚吉

同下宿 同町原田屋嘉四郎

一惣町御通筋堅砂水桶差出之

一風廻り物頭立宿 西安岡町岡崎屋伊兵衛

一惣町御通筋堅砂水桶差出之

一 御時太鼓為知 橋本町

一 御馬宿 町会所

但拾正建飯御殿御作事_レ被仰付候事尤御馬數「」付
俄_ニ八正建_ニ仕候事

一 御着後大年寄式人御機嫌伺_ニ罷出候事

一 前宿御泊聞合老人差遣又

一 遠見 天王端式人 筋違橋式人

一 東西大橋立札為引取候事

一 御止宿之節惣町夜廻り金棒為引候事

一 御止宿之夜 鍛冶鑄物師職相止候事

一出火林田_ニ候ハ、西組 出火西町_ニ候ハ、東組

御本陣_江相詰候事

同中組ハ火元へ罷出候事

但大年寄老人ハ御本陣_江相詰老人ハ火元へ罷出候事

御銀札場_江者二階町半分坪井町半分罷出候事

一出火手当として在中人足五拾人新魚町へ相詰居出火之節

御本陣_江罷出候事

一 非人加廻 三組

御当日昼夜相廻り候事

但柳土手火之用心申付候事

一 御関札出口所々十一ヶ所_江非人式人つ、差出候諸道具為

持出間敷_并烏散成ル者往来差留候事

一 馬割宿 新魚町村本屋太四郎

一 導引 美濃職人町才右衛門 福渡町喜庵

二 階町伊八 吹屋町三之助 小性町清兵衛

一米中買式步中買御本陣_江罷出候事

但式步中買之内三人問屋へ罷出候事

一 御本陣_并下宿へ髮結罷出候事

一 御本陣_江 給仕人拾五人

但橋本町三人 新職人町三人 美濃職人町三人

戸川町三人 細工町三人

一夜具之取「」町割_ニ申付候事

一 郷中寄七馬八疋

一 山駕籠用意之事

一 拝借御道具之事

一 坪井町大納屋嘉兵衛義撰州大坂天満市場魚屋喜兵衛方へ三十日計
之逗留_ニ而明後廿一日出立願書大年寄承り届差出

一 播州龍野下町本屋佐吉一人例年之通書物売_ニ来候段新職人町松野

屋十右衛門宿切手差出十二月十三日始

一 久世御代官早川八郎左衛門殿手代貝塚五郎藏内藤大右衛門_レ当月

十五日一日之米相場書取_ニ来去ル十三日御払米相場申遣其後ハ

米無之由認遣候_并当年ハ相場建方公儀被仰出_ニ付相改候段端書_ニ

申遣候

一 来ル廿一日久世役所へ山内屋黒坂屋差出候_ニ付小野田為治差添申

付明廿日_レ番引候_ニ付加人老人大目附へ申達所日下勇助来ル

十月廿日 晴

一大目附_レ今日妙願寺振鬮有之候処殊之外大群集之旨_ニ相聞候間同

心組[#]目明差出見廻り遂警衛夜中も惣町中致用心候様可申付旨申

来候付番昼廻り夜廻り六人佐十郎藤藏^三蔵文藏^三砂兵衛勇助差向

□□□非人在宿之分不残差出候様申付尤出番夜廻り四人ハ振鬪

相濟夜ニ入候ハ、致手分町分端々迄相廻り可申非人も夜中三組廻

り申付惣町も町々金鉢引廻り相勤候様ニ夫々^五申付候処殊之外大

郡集並之万人講位之人数ニ^而因伯播州^六も数多来候趣之処無別条

相濟候段組之者罷歸り相届候

一出羽守様御止宿ニ付風廻り物頭[#]御徒目附下目附立宿名面差出候

様大目附^八申来左之通認出候尤物頭中^九も尋来候ニ付申達候

一物頭立宿 安岡町岡崎屋伊兵衛 下宿扇屋久米吉

同 伏見町小田屋伊平次 下宿小坂屋善兵衛

但廿二日風廻り植木左土 廿三日村上清太夫

一御徒目附下目附立宿 安岡町大坂屋喜与八

同 御着後立宿 京町関屋喜兵衛

一出羽守様御止宿ニ付同心組加人申達候処御使組加藤清右衛門吉田

菊次加藤茂助堀内吉次四人廿一日来

一奈良今井町墨屋伊兵衛手代藤七一人例年之通筆白粉売ニ来候段京

町美濃屋平五郎宿切手差出 翌十一月十七日始ル

一牢舎扶持内貸八俵之証文差出奥書取計之尤来月へ持越式石四斗有

之候

十月廿一日 晴

一久世^江差出候町人共左之通今朝五時呼出し立合例之通^ニ而山田新

三郎へ引渡し差出候

久世表へ御呼出しニ付

差添山田新三郎へ

引渡候間万端差因を受ケ

公辺向之義別^而相愼

可入念候

東新町山内屋多助^{下代}頼代 (頼代正)

三原屋定七

右町役

鍋屋惣兵衛

元魚町黒坂屋幸助頼代

太兵衛

右町役

豊屋喜兵衛

右差添

同心組小野田為治

右之通出立仕候段御用番[#]大目附へ相届候

一出羽守様御止宿ニ付両替屋下宿^一へ被呼候節差遣候人無之差支

候旨大年寄伺出近藤伊左衛門へ度々致文通候処不筋立候ニ付同人

宅へ罷越候処幸銀札場奉行兩人被居合委細申談候処武田七郎兵衛

方ニ出張役所いたし手代差遣置下宿^二呼^ニ来候ハ、手代差遣候様

ニ「^一」金奉行兩人^三札元庄^右左衛門へ被申付相濟候

一銀兩替歩式歩沓歩^ニ以来御定被成候旨此間被仰出候得共改^而銀札

場^六御達無之^ニ付表立難相触旨大年寄伺出其旨近藤伊左衛門へ懸

合候得共不相濟ニ付大目附小須賀貢^江罷越申達置候

一出羽守様御止宿ニ付同心組役割左之通

廿二日御先払 三船旗人 中山屋藏 日下勇助

供番 江原文藏 川野門藏

使用 加藤茂助 左五兵衛

右代り合 中山守藏 日下勇助

当番 萩野藤藏

昼番 加藤清右衛門

昼廻 石名左十郎 神田来治 吉田菊治

夜廻 石名左十郎 堀内吉次

廿三日御先払〔一〕船孫八
川邊修兵衛

馬石名左十郎
神田等治

当番百壽治

昼番堀内寛次

昼廻加藤野藤藏
加藤清石衛門

夜廻川原文藏
川原清石衛門

一出羽守様御止宿ニ付御本陣ニ手長桶廿枚共ニ拝借仕度申出昨日大目附へ紙面ニ而申達候処承知ニ而相濟候

一出羽守様御宿割清原太兵衛綿貫伝左衛門夜ニ入到着御止宿御相違無之旨申出翌朝御用番并大目附へ相届候

一土井大炊頭殿弓削役人石川多兵衛山中九十九直屋善吉へ托飛札差越同人義借銀出入致内濟候間承り届候旨申来候追而及御沙駄候上ニ而可及返書事

一出羽守様御様子閉合ニ久世江差遣候もの四ツ半時過罷帰り今七ツ半時久世江御宿〔一〕明朝六ツ時御立之旨承り罷帰候段大年寄ノ届出候明朝御用番并大目附へ可相届候事

十月廿二日 曇

一出羽守様御止宿ニ付四時過出宅西今町坪屋藤十郎方へ出張幕打之供立左之通

同口之者馬若菜前候同但組草履取鉢箱合羽籠 夜ニ入箱挑灯二張割場中間

一出羽守様御止宿ニ付町奉行爲下役御メリ之為人馬問屋へ近藤弥助被差出候間万端可致差図并右ニ付小頭書役之内差添問屋場へ差出可然旨御用番中御沙駄之由大目附ノ申来候処小頭ハ御先払ニ出書

役も用向有之事故詰而難差出尤夜半後ノハ平組式人差出候事故夫

ニ而も可相濟哉と申遣候処承知ニ而如何様共宜取計候様申来右ニ付政助義ハ為御メ被差出候事故組と同所ニ致着座候而者向方〔一〕

ニも不相成候間店之向上り口ニ屏風ニ而仕切着座場所取繕小差共迄往来之度々敬候様ニ取向ケ可申段喜左衛門へ得と申合候尤明朝御出立節御目通りへハ不差出候間平服ニ而可然旨買ノ申来其心得ニ申達置尚又書役新左衛門義も手透之間折々問屋へ差出為繕候

一大目附小須賀買ノ銀歩等之義以来御定之通勘定奉行伺通ニ今日被仰出候間夫々江相達可申旨申来

一銀札場両替之義別紙付之通銀札を以金銀錢引替遣候者銀歩二歩計ニ而包賃相止

一正金銀錢を以札ニ引替遣候者札歩壹歩計ニ而包賃相止可然被存候左之ケ条銀札場奉行考之通ニ而可然奉存候

一金切賃壹匁ニ付八分之処以後式分

一金子売買之間壹両ニ付八分違候処以後四四分

一小玉銀歩以後相止

一銀札場貸付方利足之義諸方貸付候者銀札場奉行考之通下地月壹歩半ツ、之処以後月壹歩式朱ニ而可然奉存候

一家質貸付之分者左之通

一貳拾年以上借り受候ものハ流れ切

一拾五年以上十九年迄之ものハ無利足拾年賦

一以後新ニ家質借受候もの利足是迄之通ニ而貸付拾五年借り詰候ハ、拾六年目ノ無利足拾年賦

前書之通ニ而可然哉と奉存候以上

十月 勘定奉行

右之通相極り被仰出候間差向候銀金切賃歩合等之義計書拔早々下

宿くへ相触追々惣町江も可相触旨大年寄へ申渡候家質御定之義
ハ不及触義故藏合孫左衛門相渡以來右之通ニ相心得候様申達候

一出羽守様人馬方役人致着繼馬三拾四疋入用之処先触書損ニ而三拾
疋と相触候処厚及断依ニ而今四疋不足之分差出呉候様達ニ被相頼候
由喜左衛門申出郡代所へ寄七馬申遣候所程能間ニ合暮過ニ来り
御間ニ合候

一大目附御本陣前東西之箱番所へ物頭組被差出候所下番中間休息
所無之申立有之御作事方相札候処先年ハ箱番所之内ニ而茶杯たき
候由其外相對ニ町家借り候様之義も有之哉之様ニも相聞候得共
右之通之趣故宜取計候様申来ニ伊藤主水も右之趣頼来依之下宿
大年寄へ申付候所左之もの共へ申付候由申出其段伊藤主水へ申遣

箱番所下番中間 堺町 江見屋佐兵衛
休息宿 京町 仕立屋新助

一出羽守様八半時過御着被成妙法寺前へ罷出名披露御目見仕候右御
着之旨御用番大目附へ紙面ニ而相届候拙者義夫ハ京町ニ文字屋嘉
左衛門宅罷越夜中相詰尤幕打高挑灯出之

一出羽守様ハ金子式百疋被下候由ニ而御本陣ハ相廻候依之右御礼ニ
可罷出義と存候得共兼ニ大目附中ハ当年ハ別ニ御断ニ付自分伺

も不出様ニ被相達候事故不申達罷出候も如何ニ付其旨大目附へ
手紙ニ而相談申遣候御礼罷出可然旨申来候付右御礼罷出候段御
本陣源五兵衛を以申込置案内有之罷出候所左之通申述候事

出羽守様乍御病中益御機嫌克御止宿被成恐悦奉存候兼ニ
御機嫌伺可罷出候所当年ニ都ニ出役堅御断被仰進候間差

扣不罷出様ニ役人共申聞候間御関札内ニ相詰居候へ共差
扣不罷出候然ル所不存寄御目録被下置難有仕合奉存候右
御礼參上仕候間御役人中様迄可然様奉頼候段申述畢ニ而自
分及挨拶且又出羽守様御容鉢相伺候処益御機嫌克御道中
へ御出被候も少も御障も不被成御座安心仕御供仕候旨
申事ニ御座候

御取次 中村為左衛門

一出羽守様明七ツ時御支度七ツ半時御供揃正六時御出立之旨御本
陣申出兼ニ頼ニ付御先乘風廻り村上清太夫江及通用

一人馬問屋も当年ニ人馬宵ハ配り置候故余程失墮ハ有之候得共至
手都合宜甚靜謐之事ニ候

十月廿三日 晴曇時雨

一出羽守様明ケ六時過御立被成林田町例之横丁へ罷出御見立申上候
処御駕籠脇ハ来唯今御間眠被成候間御会釈ニ不被及候旨挨拶有之
候夫ハ立宿京町ニ文字屋宅へ帰り東新町御離れ被成候住進相待罷
立帰リ懸一学殿御宅へ御届ニ罷越大目附江も乍序届申達置ニ而五
過帰宅仕

一御用日登城

一出羽守様御止宿取計之義御尋有之御用所へ罷出申上候大目附中へ
も右同断

一徳守宮花相撲来ル廿七日ハ相始候段浜風岸右衛門届書岡田繁太
郎ハ差出寺社取次引合之上口達ニ而御用所へ申上大目附へも相届
候

一 弓削役所へ直屋善吉出訴一件内濟候義申來候書面御用所差出相答
及候様相伺思召無之依之大目附^正も相達右^ニ付明朝出立飛脚被仰
付候様相達候所御飛脚山本八十助來相渡^候処受取罷帰候

一出羽守様へ被下物書付左之通大目附へ差出候

一金貳百疋

町奉行

一 鳥目三百文

廿二日御先弘小頭

一同 貳百文ツ、

同 日右同断平組式人

一同 三百文

廿三日御先弘小頭

一同 貳百文ツ、

同 日右同断平組式人

一 銀貳兩ツ、

馬駄出役同心組式人

一 銀三枚

御本陣玉置源五兵衛

一金百疋

右同人差上物ニ付被下

一出羽守様繼馬三拾四疋繼人足貳百七拾八人ニ相濟候段出役同心

組問屋へ書付取差出候

一 町方大破家数多出来候ニ付右取計方度々相伺候処御用所思召被仰

出右思召ニ随ひ町年寄共兼ニ心懸ケ悪敷不取計之段御叱之申渡相

認伺置候処今日於御用所御用番一学殿へ左之通被仰渡候

町方大破家出来ニ付取計一件伺之通ニ被仰付候間勘定奉行

近藤伊左衛門へ遂熟談候上ニ伺之通申渡宜取計可申候

伊左衛門へ遂熟談候上ニ申渡候様ニと被仰出候^者内々相伺置候

銀子口入之義伺通相濟候事と相見へ候右ニ付伊左衛門へ致対談候

処粗承り居候得共未睨々と取調不申義ニ付町方申渡^者今暫見合候

様ニと挨拶ニ候

一 御蔵米六拾三匁五歩町米五拾九匁五歩

一二丁目福永屋藤助方盜賊ニ付同人下人こしきたき預ケ申付置候処

弥疑敷義無之趣ニ付去ル十八日預ケ差免候所日記認落候ニ付爰ニ

記置候尤去ル十一日預申付候事

一大目附中^道郡代所々牢番預ケ無宿盜賊龍藏義御領分弘被仰付候間

其旨取計^{（疑義訂正）}申^{（疑義訂正）}尤此段御用番中^道直ニ御達有之筈ニ候間其旨ニ相

心得可申旨被申聞候付左候ハ、來ル廿五日取計可申段申置候右ニ

付於牢屋取計候様夫々^正申付置候

一 借金銀借出入御取揚無之旨公義御触有之候ニ付大坂左右衛門方へ

承合書狀遣候所昨日返書來大坂^ニ而^者右御触御取用ひ無之矢張是

迄之通ニ候旨申來候

一 西今町湯田屋太郎左衛門義昨夜罷帰候段届出委細懸合之義并書差

出候様申付候

十月廿四日 風烈

一 三船新治義病氣全快明日^道出勤候段届出候

一 牢舍人周蔵断食ニ付郡代所^道牢越ニ申聞候義有之下代差遣候段申

來立合川端砂兵衛差出候

一 菜種油三拾石大坂御蔵屋敷^道御用油として積出し候処和氣番所ニ

而^者差押通し不申候段蔵元^道申出候段大年寄申出右訳如何様之義ニ

候哉船頭共申趣^ニ而^者難相分ニ付御蔵元文五郎^并米屋藤右衛門差

遣番委細承り糺候上^ニ而^者御届可申上候間其上^ニ而^者御懸合被下候^而

も可然哉と蔵合孫左衛門伺出候ニ付其旨早々取計候様ニ申付置其

段初ニ懸りニ付太田舍人江申達候所同人ノ御用番中ヘ被申達候由
付拙者ノハ不申達候且又塩此節下直之所田原もの致高売候ニ付
高直ニ而者不買取様ニ可申付差含舍人江申達候所御用番中ヘ被相
伺候処何分今般藏元共罷帰候上之取計ニ而可然旨御差図之由舍人
被申聞候右畢而大年寄ノ文五郎藤右衛門明朝之出船ニ罷下り候旨
届出承置

一 神田栄治妻妊娠ニ相成候段小頭ノ届出候

十月廿五日 寒風烈少雪

一 六ツ半時小頭孫八書役新左衛門部屋目附出番藤藏勇助牢屋江差向
ケ左之通書役ノ読渡之古城村ヘ送り払庄屋一札取之差出候

其方義去ル八月五日院庄村清眼寺ニ而 無宿

衣四ツ盗取不届之事ニ候依之 龍殿江 申渡

御領分追払申付候以後立帰りに於令徘徊者 申渡

可為曲事者也

右取計相濟候段御用番并大目附ヘ相届候

一 安岡町久米屋友七義大坂土佐堀式丁目木屋与兵衛方ヘ廿日計之逗

留ニ而 明廿六日出立之願書大年寄差出承り届ル 十一月十一日 佛ル

一 牢舍人上紺屋町作人新八下女も （麻紙訂正） （麻紙訂正） 西今町正田屋ニ古蒲団一ツ五匁

之質置候間請返し度願書差出承り届

一 大坂久宝寺町切付屋小兵衛と申もの小間物御売ニ中之町小山屋与

三右衛門方ヘ年来罷越候処近年病身ニ罷成候ニ付右代りニ同人親

類播州網干新在家平松屋佐十郎と申もの挑灯張替（イ）差越度願出承

り届ル

一 上田邑村見内分松治と申もの咎牢舍人牢切手郡代所ノ相廻り役所
手形ニ認かヘ出番佐十郎差向入取計之

一 出羽守様御止宿ニ付人足入増人馬間屋入足入用六百七拾九匁七歩
之由算様書問屋目附喜左衛門ノ差出

一 久世手代貝塚五郎藏ノ此間山田新三郎ヘ伝言ニ而今般米相場建方
従公儀被仰出候御書付為見候様申越大目附小須賀貢江右ニ付飛脚
之義申達候所一学殿御存知寄被仰出文通下案差出候様被仰聞候ニ
付翌廿六日下案差出候

一 備前田原船出入一件ニ付中渕賀辺久世領塩払底之旨一学殿ヘ及御
噂候処久世表之風聞監察ニ人差遣候様被仰出候ニ付孫左衛門呼出
し内々申付候所野田屋佐右衛門明朝可遣旨申聞候

十月廿六日 曇

一 久世江相場立方之義従公儀被仰出候御書付相廻候下案相認紙面ニ
而差出候所一学殿御加筆付紙ニ而御差戻被成候

一 関備前守殿内佐々木武左衛門ノ左之通先触来候段大年寄ノ差出候

覚

一 継人足 五人

右者此度従公儀御引渡被成候囚人穢多者人召連拙者義明廿
三日但州生野出立備中新見迄罷返り候間書面之人足并左之
宿々止宿之心得ニ候間諸事無差支様御取計頼存候右可申述
如此御座候以上

十月廿二日

関備前守内

佐々木武左衛門

播州真弓村の屋形夫の山崎通り備中上熊谷村迄

右宿々御問屋中

廿三日泊屋形 廿四日泊山崎 廿五日泊土居 廿六日泊津山

廿七日泊勝山

猶以若囚人足痛等いたし候ハ、駕籠^井人足等差懸り御頼可申候

間此段も御心得無差支様頼入存候以上

右先触到来ニ付宿等之義伺出候ニ付寛政七^{乙卯}年六月十一日勝山

之囚人穢^多。止宿申来如何可取計哉勝間田杯^ニ而^キ問屋之納屋ニ差置

候哉と申風聞も有之如何と談候内向方之差添人之^心付^ニ而^シ□□穢

多村ニ為^致。止宿候由^ニ而^シ町内^江者不能越相濟其節以後之処談置公

儀囚人^ニ而^シ穢多頭呼出し急度預ケ候方可然と三浦十郎左衛門と

も懸合置候趣右門手覚帳ニ認置候故其趣を以郡代所へ申遣候処□

□村庄屋へ其旨申付候由申来右ニ付途中迄人差遣其趣申達候様ニ

可取計旨喜左衛門へ申付候所其内ニ最早問屋迄致着右之段申候所

先方も承知^ニ而^シ左候ハ、自是□□村穢多村へ可差戻候昨夜□□ニ

而^シ穢多村へ預り置預り一札取置候間穢多頭呼寄呉候様申候処問

屋答ニ穢多ハ支配違之もの故問屋共呼寄候義ハ難仕^井御先触来候

と直ニ其筋之御役所へ申達宿ハ被仰付有之候筈ニ候得共一札之義

ハ如何可有之哉難及御答候旨申候得^キ穢多を呼寄七直ニ不申付ハ

不安心之もの^ニ者候得共左様之筋^ニも候得^キ是^ハ引返さ七□□村

へ可差遣候間右預り手形差出候様被仰付有之候様ニ申達呉候様被

相頼候由問屋共申出候ニ付其段郡代所^江申遣候^処承知^ニ而^シ先触

之趣申付置候間尚又下方^ニ懸合可申申出候ハ、夫々宜可申付旨

返書来其段喜左衛門^江申達置候所其後大年寄^ハ届出候^キ向方之同
心組差添問屋^ハ案内之者申付□□村^江差遣候段申出候

一御藏米六拾式匁町米五拾八匁

一久世表へ差遣候同心組罷帰候ニ付御使組加人今日^ハ差戻候段大目

附へ手紙^ニ而^シ相届候

一牢舍人周藏義此間郡代所^ハ下代差遣相進候節粥少々給候得共其後

ハ一向給不申候段牢番義右衛門申出候ニ付郡代所へ参り直ニ其段

相届候様ニ申付候且又同人義蒲^之綿わた入差越候間入遣可申

哉と伺出候付承り届ル

一船頭町今岡屋浅右衛門永々病氣之処今暮時相果候段大年寄^ハ届出

候

一町方大破家之義ニ付町年寄へ申渡候義伊左衛門へ致対談候処今暫

見合候様ニと申義ニ候処最早申渡候^而も不苦旨伊左衛門^ハ今日申

来且右内分之一物之義ハ大年寄^ハ井口恵左衛門へ為懸合候様ニと

申義ニ候尤当役ハ不存振也

十月廿七日 晴

一町方大破家取繕之工面ニ銀五拾貫目無利足^ニ而^シ五ヶ年可貸渡候間

大年寄共^ハ井口恵左衛門へ懸合候様ニ勘定奉行近藤伊左衛門^ハ手

紙^ニ而^シ申来候ニ付大年寄三人^井諸吟味喜左衛門呼出し右之旨極密

ニ申合候尤外々^江当り障も有之ニ付勘定奉行^井拙者共場合^ニ而^シ者

決^而不存候振合之故^ニ至^而密々ニ申合町方大破家取繕致出精可遂

勘弁旨内々^ニ而^シ申渡候

一久世表監察ニ昨日差遣候野田屋佐右衛門夜前罷帰り久世領分塩之

差支無之仍而書 船之出入一件取沙駄一向無之旨申出候ニ付其段一
学殿江罷越申達候

一岡山石買町赤穂屋直助妻義玉置卯左衛門娘ニ候処今般妊娠ニ而逗
留ニ來候間來午三月迄為逗留仕度願書差出承り届十月廿七日男子出生

一安岡町茅町裏広原分道筋窪ニ有之滴水之砌流込難義仕候段先達而
願出大目附太田舍人江申達置候処当六月御直被下候処其段不相届
失念之段届書差出承り置

十月廿八日 快晴

一御用日登城

一坪井町倉敷屋理八中之町山手屋兵助右兩人義飛脚ニ被相頼九月十

二日出立仕十四日明石船ニ乗候処撰州駒ケ林と申処ニ而致破船漸
助船ニ乗移り助り候処明石ニ大津御代官石川清左衛門殿役人并大

坂御番所役人立会ニ而吟味有之其上大坂御番所ニも被呼出口書印
形等差出相済罷帰候段届出右飛脚躰之ものハ不相届致他參候事ニ

者有之候得共ケ様ニ届出候而者一ト通り叱置可然哉と相伺候処御
用番中御聞濟ニ而其旨取計候様ニ被仰出候大目附へ申達候所松岡

治部助心付ニ而右ハ夫々之御役人中へ御挨拶可入義ニ而も可有之
候間勘定奉行ニ者類例も可有之事故遂相談候様ニ被申聞近藤伊左
衛門へ談置候夫故御叱取計者差延置候尚追而可取計事

一伏見町玉屋源太郎家守忠七借屋住置屋平兵衛并娘右家内二人当七
月出奔仕百日尋申付置候所行衛不相知最早百日余ニ相成候ニ付人
別除願出御用番御聞濟ニ付大目附へ相達置御聞届申達候

一材木町福中屋多助後家義廿七年前御用銀七百匁差出候処当時甚

大難洪及渴命候段歎書差出難捨置義ニ付大目附江遂相談候上ニ而
於別席一学殿へ御内々差出置候

一西今町中野屋太郎兵衛義右同断御用銀壹貫五拾匁并八木四俵式斗
六升八合三勺五才差上候所當時甚大難洪ニ付右同断歎書差出右同
断取計置候

一德守宮花相撲廿七日并相始新治田藏差出候所無別条引取昨日之
処ニ認落候間爰ニ記置候

一德守宮花相撲佐十郎砂兵衛差出候処無別条引取

一德守宮花相撲二日之加日追願浜風岸右衛門差出寺社取次三浦十郎
左衛門へ引合之上差出候所御用番御聞濟ニ付大目附へ相達置御聞
届之旨岡田繁太郎へ紙面ニ而申達候勿論組中へも申達候

一備前田原船懸り合一件ニ付荷物差支難洪之旨美濃職人町元魚町二
階町中之町二丁目三丁目鍛冶町坪井町宮脇町西今町西新町東新町

堺町京町伏見町新魚町右拾六町并歎書七通差出御用所并太田舍人
江口達ニ而申達置何分和氣へ差遣候藏元共罷帰候上ニ而可相伺旨
申上置候

一東新町種屋伊助船車ニ而無宿猿兵衛致変死候始末無宿者相頼候段
不持ニ付叱置可申旨伺書差出候所御用番中御聞濟ニ付大目附へ相
達置明朝申渡候様大年寄へ申達候

一西今町玉屋吉右衛門所持之旅人旅屋株去辰歳并申歳迄五ヶ年之間
坪井町日野屋久五郎へ貸置候処今般取戻候届書差出承り届ル右株
ハ去ル十七日玉屋吉右衛門并坪井町表屋甚六へ貸渡候株ニ而願書

致前後候間其段為見合認置候

一 中山百藏義拝領屋敷へ引移新治と致同居候段小頭が届出ル

一 山田与市長屋住百之助義^母妹^右家内三人坪井町小倉屋喜助引受度人別人願承り届ル

一 今八時が惣町年寄不残呼出し大年寄三人諸吟味小頭孫八部屋目附

新治書役新左衛門立合^而右之通自分義直^ニ申渡

近年町家所々破損有之別^而御堀端 惣町年寄

等見苦敷場所所有之候其上通筋近來 不残^江 申渡

甚不掃除道造り等も閑故雨天之節^者往來^ニ

水溜り有之候役々之者迄平日心付無之不束之事^ニ候

御初人も無御程事^ニ候得^者是迄之通^ニ而^者不相濟候間夫迄

^ニ破損所裏屋迄見苦敷無之様追々為取繕平日も以後通り

節ハ勿論之義横丁迄道直掃除等怠申間敷候斯申付候上ハ万

一 於相背^者相糺候上当人其町之年寄共急度可申付候間得其

意候請書可差出候

右之通申渡当病等も有之義^ニ付引退キ得^与致承知候上請書差出候

様^ニ申付候右之内年寄当病不参左之通

西新町重右衛門 境町義七郎 二階町伊右衛門 宮脇町八

左衛門 茅町伊八 上紺屋町伊右衛門 新魚町^{惣五郎} 桶屋

町彦市 吹屋町齋右衛門 安岡町友七他所行 船頭町^{惣五郎}

御用他参 小性町平藏禁足

右之通申渡相濟候段御用番^江相届大目附^江も申渡書差出候

一 御藏御払米百五拾俵十月廿五日正銀六拾壹匁七步三厘小倉屋茂兵衛買取

十月廿九日 快晴

一 於大年寄宅左之通申渡之

無宿猿兵衛義先月廿八日其方

於船車致変死候処兼^而出所も

不相糺無宿者相頼候段不埒^ニ付依之

叱置候

右申渡相濟候段大年寄が届出其段御用番^江相届大目附^江者申渡書

差出候

一新魚町門屋源左衛門家守魚屋和助妻去ル十三日女子出生兼^而届月

取間違候段叱置候旨大年寄届出候

一 牢舍人田邑村松治拾入遣度旨牢番届出承り届

一 郡代所が牢舍人周蔵へ申達候義有之候間下代差向候付立合申来円

蔵差向候処弥食餌不給候由

一 江戸表田中幸助が返書来勝山領が和泉屋三之助造酒株讓受候義公

儀^江御届可取計勝山役人^江懸合候所未在所が不申来候由^ニ候間其

旨勝山へ懸合候様申来且又造酒株讓受以来有之候共委敷書類不及

相廻御届書左之通^ニ候間其旨^ニ相心得候様^ニと申越候

覚 御名領分

美作国津山何町

一 酒造米何石何斗

酒造株讓請人 何屋

誰様御領分

誰

同国何在可

讓人 何之

誰

右之通年月月讓受申候此段御届申上候以上

年号月日

御名内 何之誰

「但御一領之内案也も名面替候得者御届入候様ニ申越候事」

一 徳守宮花相撲警固文蔵為治無別条引取

十月晦日 快晴

一 御蔵元文五郎米屋藤右衛門昨晚和氣ハ罷帰候段夜前及深更大年寄届出尤向方ニ而取計大意左之通

去ル廿五日藤右衛門文五郎致出立同日晩方和氣ハ致着候所金

岡々小倉屋弥三郎代人紀伊国屋善兵衛と申もの和氣番所へ罷出

懸合居候由ニ承り候ニ付旅宿ニ扣居候処夜四時頃紀伊国屋善兵

衛番所ハ歸り懸来り同人申候者御番所至而六ヶ敷致迷惑候其元

方ハ宜所ハ御出被下幸之義ニ候得者供々ニ御口被添御わひ被下

候様申候ニ付拙者共ハ左様之義ニ而者不罷越御用荷物如何様之

訊ニ而差滞候事哉其段差詰而已罷越候義ニ而中々わひ抔いたし

候心底毛頭無之元来拙者共来候筋ニ而無之ケ様之義候得者小

倉屋弥三郎引受候義ニ候得者夫々筋立可被申出候処無其義第一

弥三郎殿ニも心得違と存候旨申候得者至極御尤之義明日ハ罷

歸り弥三郎差出し懸合可申候間先其内御番所へ御懸合ハ御延引

被下候様ニと申候ニ付左候ハ、少々見合可申旨及返答候所廿六

日善兵衛罷歸り翌廿七日弥三郎同道ニ而来船中ハ使差越唯今致

着船候間懸御目度旨申越候付弥三郎殿へ得御意候用事少も無之

候間御目ニ懸り申間敷及返答候得者弥三郎義ハ直ニ和氣番所

へ罷出候由之所夜四時頃番所歸ニ来及面談候処弥三郎申候者御

番所不相濟扱々致迷惑候由申候ニ付弥不相濟義ニ候得者最早此

方へ引受候間左様御心得可被成右不相濟と申訳ハ如何様之義ニ

候哉と相尋候所弥三郎ハ添状等も不致且又船頭共も御用荷物と

申義可相届所無其義段彼是取継ハ六ヶ敷ニ申候由相咄候ニ付藤

右衛門ハ相尋候ニ御用荷物ニ被致添状候と申義是迄不及承義

候左様之義有之事哉と相尋候所是迄左様之義ハ無之由申候ニ

付船頭ハ第一番ニ御用荷物と相届候事も未及承り義ニ候左様之

義も有之事哉と相尋候所是迄ハ無之義と弥三郎申候ニ付右二ヶ

条ハ明日懸合ニ入候事故耽と御尋候弥其段相違無之哉と差詰り

候処相違無之旨弥三郎申候ニ付最早外ニ御懸合候義も無之右船

差滞一件ハ最早此方へ御受取申候間左様ニ御心得可被成と及挨

拶置旅宿亭主呼出し明日ハ名主中ニ致面談度候間致案内候様ニ

相頼置右差滞候六艘之船頭不残呼出し此後暫逗留可致候間飯米

等致用意候様ニ申付并右船も定而番等も被仰付候様ニも可相成

候間随分相慎かさつ等無之様ニ可仕候旨嚴敷申付置明朝者早々

御番所へ可罷出致支度相休居候所九時後小倉屋弥三郎門をたた

き来り又々急ニ面談致度旨申入候ニ付逢候所弥三郎申候ニ過

刻得御意候節ハ各様御出之義御番所へ不申達候故其段申達候得

者各様御出之義ニ候得者御用荷物ニ相違も無之入御念候義故右

船差通し可申由^ニ而唯今相済申候旨申聞候^ニ付拙者共ハ船滞候

^ニ付罷越候事^ニ候得^者何之聊も無之右船相通り以後も申分無之

事^ニ候得^者絶^而御番所へ可懸合筋も無之候併申度義^者有之候得

共今般^者拙者共一存^ニ而右一件承り糺而已^ニ来候事故右之通相

済候上ハ最早御番所^江も罷出間敷可引取旨^ト申候所弥三郎申候

^ニ御番所役人中是迄御文通も有之候得共被得御意候義無之^ニ

付幸之折柄^ニ候間御出被下候様^ニ伝言被致候旨申候^ニ付船之義

不及御懸合候得^者可得御意筋無之無益之義と申述候得^者右一件

^ニ付可得御意と申義^ニ而無之幸之折柄^ニ付御知人^ニ成り置度

と被申候義^ニ候間是非被參候様^ニと申候^ニ付左様之義^ニ候ハ、

明朝帰り懸罷越御知人^ニ可相成と及挨拶置翌廿八日帰り懸御番

所へ罷越候所至^而懇勲叮嚀成挨拶^ニ而一ト通り時候挨拶畢^而立

懸ケ^ニ藤右衛門^ノ今般^ハ下方間違等之義も有之船御差留被成候

所御差通被成候上ハ聊可得御意義も無之候得共尔来無間違前々

之通御差通し被下候様^ニ申候所御用荷物何之^ニ差留候義ハ無之

先前之通^ニ通船いたし候間御安心可成と挨拶^ニ而罷帰候段申出

候

右之段懸り之義^ニ付大目附太田舍人^江逐一申達町方荷主共歎書差

出居候事^ニ候得^者最早岡山役人^江不懸合候^而相済申間敷と存候

付下案相認候段申達荷主共之歎書一通相添差出候所何分同役遂相

談御用番中へ可相伺と被申聞候

一坪井町倉敷屋理八中之町山手屋兵助撰州駒ケ林^ニ而難船逃候段届

書差出右ハ不相届致他国候段叱置候様申達置候所夜前申渡候旨大

年寄届出御用番^并大目附へ手紙^ニ而相届候

一番賃銀例月之通相渡尤当月^ノ炭代共相渡

一三町目太刀屋久治義因州鳥取川端四町目うと屋文藏方へ三十日之

逗留^ニ而来月二日罷越度願書大年寄承り届差出^{十一月廿五福}

一徳守宮花相撲警固孫八藤藏百藏無別条引取候段相届候

一牢舍人周藏義昨日^ノ粥之湯少々つ、給候旨牢番義右衛門届出候^ニ

付直^ニ郡代所へ相届候様^ニ申付候

一牢舍人新八綿入差越候間入遣届出承り届

一和気番所^ニ差押候御用油五拾石今晚致着岸候段大年寄^ノ届出候

十一月 大

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 山田主膳殿

大目附 太田舍人

藏合孫左衛門
大年寄
玉置源五兵衛

諸吟味
宮田喜左衛門

十一月朔^丙旦 雨風烈

一 御吉事日ニ付日參御役人四時揃五半時麻上下着用登城三奉行之面々^者御吉事日ニ付申上等も無之且又御用日ニも無之故並々之御用向ハ不申達差向候御用向ハ申上候事差向候御用向無之節^者役所ニ相扣居御用所御退出を相待下城之事

一 江戸御留主居田中幸助^江勝山領真嶋郡鹿田村武兵衛^江當町和泉屋三郎助へ先達^而讓受候造酒之義可相届勝山之類役^江懸合候所向方^江未申来候旨ニ候間其段勝山へ今一応申遣候様申越候ニ付其旨勝山役人渡部唐兵衛榊原九郎左衛門へ懸合之下案相認伺候処伺之通取計候様被仰出候ニ付幸今日米相場書取ニ来候間其飛脚ニ相渡遣候

一 久世^江石代立方公儀被仰出候書付相廻候ニ付此間伺濟^而下案調有之候之処今日相場所取ニ来候間可差遣哉と一学殿へ相伺候処山田新三郎明日木山參詣被仰付久世へ立寄候間同人ニ差遣候様被仰出候ニ付左候ハ、書面^ニ及問敷候間公儀被仰出之書付計可差遣哉と相伺候得共矢張書面共ニ同人へ頼遣候様ニと被仰出候付封之假山田新三郎へ頼遣候

一 大目附太田舍人^江山田新三郎義明朝立^而木山參詣と号し久世表

^江被差遣備前田原船出入通船懸合之義関口兵平へ内談被仰付候間右一件委敷相咄候様被申聞依之委細申達右懸合書面不殘為持遣候一中之町日上屋儀助義林田清水場辺之川瀬^而小船車四柄泊り拵度願御用番中へ差出置候所今日松岡治部助^江御用番中御聞濟ニ付其旨申達候様被申聞則右願書大目附月番へ差出置御聞届申達候一久世^江米相場書例歳之通取ニ来差遣候尤当年ハ從公儀被仰出ニ付相場立方相改候旨申遣候事外ニも右同断申遣候

一 西吉田^江相場書取ニ来右同断取計

一 勝山^江相場書取ニ来是又右同断取計^并造酒株讓受御届之義江戸へ通用有之候様ニ申遣候

一 徳守宮相撲雨天ニ付今日延引候段断出候

一 牢舍人庄助弥吉十吉療治昨日迄^而二廻り相濟快候付休棄仕候^而も可然旨双方^江申出承り届ル

一 吹屋町吹職之者共^江備前通船差滞候ニ付家職出来兼候段歎書差出一他領のものへ塩不売様ニ可相触旨被仰出候段太田舍人^江達有之存寄申達置候

一 備前通船差滞候ニ付御用ニいたし塩取寄度旨太田舍人^江申達候所御用番中へ伺之上今暫見合候様ニ被申聞候

十二月二日 晴

一 龍野御預り役所^江米相場書取ニ来昨日之通差遣

一 坪井役人吉井要助^江米相場書取ニ来右同断取計之

一 但州久美浜野村権九郎殿^江米相場書取ニ来右同断取計之

一 西川役人平沢助八高橋金治^江右同意相場書認坪井町羽織屋九一右

衛門方迄差出し置候

一他領之者へ塩売候義御差留被成候段昨日被仰出存寄申達置候所今朝太田舎人^ハ御用番中へ相伺候処左候ハ、先暫申達見合候様ニと手紙^ニ申来候

一天野郡治門前ニ非人坊主鉢之者行倒步行不相叶言舌相分り不申趣届有之候ニ付同心組へ引渡候様申達置候間同心組差出柳土手へ為引取候様可申付旨大目附太田舎人^ハ申来中山百藏差向候所最早相果候ニ付^{□□□}非人ニ番いたし候様申付候段百藏罷帰相届尤德

守宮神主召仕候義も有之哉之様ニも見覚候旨百藏申聞候^付其段太田舎人^ハ罷越申達候処徳守神主之方も承り可申候得とも町方^ニも宮脇町辺承り合候様ニと申来其段大年寄へ申付候

一戸川町作人惣七家守弥吉借屋住作人多藏娘義妊娠六月計ニ相見へ候由月取間違之届書差出候ニ付出産之上先例之通取計候様申達ス一坪井町勝尾屋茂七義備前^ハ酒取寄候処船争論ニ付差支難洪候段歎書差出

一備前田原船出入一件之義夜前一学殿^ハ被仰合候趣大年寄へ申達何^ニ存寄申出候様ニ大年寄諸吟味へ申達置

一徳守宮花相撲佐十郎円藏差出候所今日切^ニ無別条相济引取候段届出候ニ付其段御用番^ニ大目附へ紙面^ニ相届候

一天野郡治門前ニ行倒候坊主町方遂吟味候処福渡町阿賀屋助五郎借屋ニ当四月迄罷在候甚助と申もの^ニ当四月本琳寺長屋へ引越阿賀屋よりハ願書差出候所本琳寺^ハ内分^ニハ差置遣候得共引受願書ハ不差出と申存寄^ニ願書不差出依之寺社取次引合不相济由^ニ

而阿賀屋願書も差戻候之処其^ニ致置候旨申出双方不埒之義^ニ候得共未福渡町人別もの^ニ候得^者阿賀屋へ引受候様可申付哉之旨大年寄伺出右ニ付太田舎人^ハ罷越右之通申達候処先刻御徒目附下

目附差向遂見分候所病死ニ相違無之旨申出候間阿賀屋へ引取取葬為致候様ニ被申聞候依之届之義及相談候処内分^ニも可相济義ニ候得共最早檢使差出候事故何分考候^ニ明日可被申聞旨申義^ニ候依之阿賀屋助五郎方へ引取勝手次第葬取計候様大年寄へ申付候

十一月三日 雨

一御用日登城

一脇坂淡路守殿御預り所当国久米南条郡福渡村勘七娘ゆき義福渡町打穴屋茂兵衛家守唐松屋清吉妻ニ引受度人別入願御用番御聞濟ニ付大目附^ニ差出置御聞届申達候十月改^ニ入^ニ十一月廿九日住吉証文差出

一昨日天野郡治門前行倒坊主之義大目附中^ハも御届有之候間相届可然旨太田舎人^ハ被申聞依之御用番中へ相届尤近辺之義故早速^ニも可申出処福渡町阿賀屋助五郎^ハ大屋不申出候段ハ遂吟味候上様子^ニ寄可申上又ハ為差義^ニも無御座候ハ、最早申上間敷旨申上置候

右ニ付寺社取次細江武助へ懸合候所本琳寺も相札幌様^ニ被仰出候旨申候義ニ付右阿賀屋助五郎取計之趣并書差出候様大年寄へ申付候尤右甚助取葬ハ昨夜及深更葬相济候段大年寄申出候

一元魚町靴屋伊助京町大村屋源右衛門借銀出訴ニ来ル七日^ニ而六十日^ニ相成候処未筋立兼候ニ付登^{白樂訂正}可仕処病氣^ニ難罷出依之日延願書差出先例相調候処天明七未二月元魚町美濃屋彦兵衛借銀出訴之例^ニ随ひ右願書^ニ致奥書印形大坂村尾左右衛門へ先例之通致添

狀御用番中へ相伺候処伺之通取計候様被仰出依之大目附へ相違右
二付明朝立二日切御飛脚被仰付候様申達候所承知ニ而相濟右書類
小勘者内山洞大夫江為持遣

一惣町年寄共へ町方破損取繕之義申渡候受一札差出未安岡町年寄友
七一人他出ニ付調印無之候得共御用番中へ差出置候

一大目附太田舍人々今般通船出入ニ付一昨日他領へ塩壳候義差留候
様御用番中御差図之処触達不取計上御手違ニ相成候如何之存寄ニ
候哉存寄相尋候様ニ被仰出候間可承旨被申聞候右答ニ別ニ格別之
存寄と申義も無之一昨日昨日も毎度申上候通町方衰微之基ニ相成

候義ニ付役筋受前之義ニ候得者下情之処申上候義ニ御座候是以絶
而被仰出を相背触達仕間敷と達ニ申上候義も無之委細御承知之通
御役筋迄内存下情之趣申上候^{（御用打立）}其段御用番中へ御伺被成候所先

暫触達見合候様ニと御差図之旨御紙面ニ被仰下候故見合罷在候
義ニ而其餘格別申上候存寄ハ無之候併何れニいたし候ニ御上。

手違ニ相成候と御察度御座候者恐入候義ニ奉存候旨申述候所尚
又御用所へ御伺も有之候ニ又々舍人々被申聞候者御用番中へ申達

候所役筋之義ハ幾度も存寄可申聞答之義ニ候得者恐入候と申筋ニ
者無之候併塩他領へ壳候義ハ御差留被仰出候^間其段御同意ニも候

ハ、相触可申旨被申聞候付被仰出候通相触可申候得共御同意とハ
申上兼矢張是迄申上候通衰微之基とハ奉存候旨又々申述候処其段
ハ御用番中御承知ニ而追而塩他所壳御免被成候節運上等御免被成
候ニ而下直ニ壳出候得者元之通買手ハ來候事故其段ハ御構不被成候

旨ニ候間絶^之。存慮ニも無之候ハ、他領へ塩壳候義^{差留}。触達可取計

之旨舍人被申聞左之通ニ相触候様ニ被申聞候

川下通船出入一件落着迄俵塩他領へ壳候義差留候

尤小壳ハ不苦候

右之通触書相認惣町へ相触候様ニ大年寄へ申達候

一石代相場立方御触余米有之候候^ニ而と申義解兼大目附中^ニ御留主
居田中幸助へ尋ニ参候処返書來候由^ニ而大目附中被為見右大意ハ
左之通ニ候全文ハ御触扣ニ認置候間爰ニ略之

口米籠米等之余分^ニ之升目入有之候共右ニ不拘俵数^ニ而何石
と取扱可申事也

一沖村伊平次義弘米ニ粉敷致納米候一件ニ付古川屋太兵衛岡崎屋伊
兵衛伺之通御叱取計候様太田舍人被申聞郡代中へ懸合候所明後五
日可取計旨申來候

一茂渡兵吉義伯州日野郡黒坂村大塚安右衛門方へ往来十日之逗留^ニ
而明後五日出立仕度願書差出し承り届^{（同上）}届ル

一船頭町今岡屋熊吉義阿州藍玉宿引受居候所通船差支ニ付一統之歎
書差出し受取置

一江州多賀成就院院僧玄乘坊上下式人例歳之通來候段新職人町松野
屋十右衛門宿切手差出入^{（翌三月晦日届候）}

一牢舍人日上丈兵衛蒲苗肌着田邑村庄助蒲苗入遣度牢番伺出承り届
一牢舍人勝部新吉山本喜右衛門病氣申出医師之義大年寄へ申達候処
兩人とも不捨置容躰之旨中村易安申出療治申付候段届出候

十一月四日 曇
一御藏米六拾壹匁五步町米五拾七匁五步

一久世庄屋ハ大年寄共ハ当年之米相場立方ハ違候由ニ甚高直ニ而致迷惑候由ニ如何様之義ニ候哉実否承度尤代人差遣候間委細申越候様ニ書状差越候由ニ而右返書下案相認大年寄伺出右返書文言ハ從公儀

被仰出候旨ニ付立方違候義ニ候段申遣候事ニ而伺ニも不及義ニ候得共相分候義を尋越候者若哉後來巧等之義有之由ニ難計ニ付御用

番中ハ右來書下案共差出相伺候処恩召無之其旨取計候様ニ被仰出其段大年寄ハ申達候

一勝山渡部唐兵衛榊原九郎左衛門ハ鹿田武兵衛ハ當町和泉屋三郎助

ハ造酒株讓受候義御届可取計田中幸助ハ懸合候処未申不參候由ニ付通用被致候様ニ申遣候所先達而致通用置候所如何之間違哉尚又

早々江戸表ハ通用可致之旨片便ニ而返書來玉置源五兵衛ハ相届候一播州網干余陸屋武兵衛一人例年之通八百物（ト）鯉節壳ニ來候段中之町

小山屋与三兵衛宿切手差出（ト）選正月廿三日（ト）播州網干丸尾屋六三郎一人例年之通荒物類塩物卸壳ニ來候段右同人宿切手差出（ト）右同斷

一越中富山向河原町松井屋佐兵衛一人例年之通反魂丹壳ニ來候段右同人宿切手差出（ト）同廿四日罷船（ト）

一大神樂岡田忠太夫昨日帰り候段大年寄届出大目附ハ手紙ニ而相届候

一安岡町古川屋太兵衛岡崎屋伊兵衛明五日五ツ時呼出し大年寄ハ申達右立合之もの共夫々手配申渡候

一山田新三郎義今晚久世ハ罷帰り候由ニ而相渡置候田原船出入一件之書類差戻候（ト）從公儀被仰出之古借金銀出訴御取上ケ無之と申御

触之別紙取帰り候旨拙者留主ニ付右書類差置帰り候右御別紙（ト）左之通

今般御触有之候奉行所ニ而取扱申間敷旨之借金銀（ト）買掛り諸職人作料手間賃滞之義当已八月晦日迄之賃借（ト）濟方願出

候共不取上九月朔日ハ之借貸（ト）取上吟味之上濟方申付候事ニ候且公儀御貸附金（ト）勿論道中宿助成金其外御手当貸附金（ト）別段之事（ト）候且地代店賃屋質又（ト）船床髮結床書人奉公人

給金貸地（ト）買預米或ハ慥成質物を以金銀貸候類為替金等之滞願出候得（ト）御触以前之分（ト）而も取上吟味之上濟方可申付

質地之義（ト）吟味之上質地（ト）難立借金（ト）准し候分（ト）濟方之不及沙駄相對（ト）而可濟旨申渡候間各役所（ト）濟方願出候分も右

之趣相心得いづれ（ト）も相對之借貸（ト）買掛り諸職人作料手間貸之外（ト）候ハ、其度々相同差図請可被取計候

一唯今迄評定所（ト）奉行所手限（ト）而切金申付支配役所（ト）而月々取遣為致置候分有之候ハ、御触之趣申聞以來奉行所（ト）而

取扱間相對之上無如才濟方可致旨相手方（ト）申渡訴訟方（ト）へも右之趣申聞其段可被相届候

右之通申達候間廻状早々順達いたし承知之趣相記留りより自分方（ト）可被相返候以上

已十月 根岸肥前守 印

惣廻状 右廻状已十月四日到来

右書付翌五日御用番中ハ持參差出候

一 東新町作人甚吉兄久七夫婦悴新次右家内三人林田上之町甚七方へ引越度人別除願大庄屋引合相濟候旨大年寄申出承り届十月八日

一元魚町豊屋喜兵衛義同町年寄役兼帯申付置候所病身ニ付退役願出尤下方意味合も有之趣無余義義ニ付承り届ル

一新魚町黒田屋重吉役介白羽川初吉義相撲修行ニ江戸表当国伊勢海村右衛門方へ来三月迄差遣度願書承り届ル

十一月五日 晴

一 大年寄諸吟味小頭部屋目附立合左之通書役ノ読渡之

其方義沖村岩助ノ正米老俵買取候段 安岡町

兼而御触有之候所中買をも乍相勤不埒 古川屋太兵衛

至極ニ候依之手錠懸ケ追込申付候

但 日数十日

沖村伊平次義御年貢米を其方宅へ持込 同町

遂吟味候処申披粉敷不埒ニ候依之追込 岡崎屋伊兵衛

申付候

但 日数三日

岡崎屋伊兵衛江者自分并書役引取候而大年寄ノ申渡之古川屋太兵

衛義ハ手錠懸ケ出番文蔵差添參候事右取計相濟候段御用番并大目

附へ手紙而相届候

一去ル二日天野郡治門前ニ行倒相果候甚助坊主一件兼而取計不宜候

ニ付大家阿賀屋助五郎并家守万五郎并組合年寄御叱伺書方五郎口

書ニ相添御用番中へ紙面而差出相伺置候

一 昨日久世ノ差越候古借金銀出入取扱御別紙紙面而御用番中へ差

出

一 郡代所ノ沖村岩助入牢手形相廻り則手形認かへ昼廻藤蔵為治差向候

一 紀州高野山宝蓮院上下式人例蔵之通且那廻りニ来候段材木町正木屋才吉宿切手差出十月廿七日始

一 備前田原船出入一件ニ付通船差滞候ニ付町方荷主共ノ歎書差出候ニ付備前役人江右歎書写ニ書面差添飛脚を以急ニ申遣候様ニ御下案大目附中ノ被相渡候ニ付早々為相認御飛脚村上吉右衛門江七ツ

半時相渡候

一 備前田原村郡奉行之由竹内又右衛門ノ飛脚差越田原船持と津山船持と先前ノ荷物歩割致来候所先前之通申合不相調依之田原船持共

歎書差出候間相廻申候間無伏蔵被仰聞候様致度尤田原船持共運賃

上ケ仕度身勝手之義申出候間差留置候段申来并飛脚之者も今夕御

返事無御座候ハ、受取御渡可被下旨申出依之大目附太田舍人江及

対談受取相渡飛脚之者ハ差帰し書類ハ舍人江差出置候

一 福渡町甚助坊主行倒候一件懸り合之もの共御裁許伺之通取計候様

御用番中ノ手紙而申来明朝可取計々々手配申付置候

一 牢番足輕内田山七義今日請状仕小頭ノ差出候

一 銀札場家質先月廿二日被仰出候通年久數分ハ流ニ被仰付候段昨日

銀札場ノ御達有之昨今何れも御札罷出候

十一月六日 快晴

一 左之通もの共大年寄於宅今朝五時呼出し小頭部屋目附立合左之通

申渡

一 福渡町阿賀屋助五郎家守

其方借屋住甚助義当四月本琳寺

万五郎

長屋へ引越候処差詰り不宜矢張人別ニ詰置

其上去二日天野郡治門前ニ行倒死候処其俣捨置

人別候旨不申出重々不届ニ付追込申付候 但日数五日

右同断之処其方義ハ大屋殊ニ同町年寄役 宮脇町

乍相勤等閑ニ致置旁以不埒至極ニ候依之 阿賀屋助五郎

追込申付候 但日数七日

右同断ニ付急度叱

右組合年寄

右取計相濟候段御用番 # 大目附 紙面ニ相届候

一 備前田原郡奉行竹内又右衛門ノ来候書面大目附へ差出置候右返書

下案相認一諸ニ差出候様御用番中御差図之旨昨夜申来候ニ付下案

相認今朝大目附太田舍人 差出置候

一 坪井町小倉屋喜助役介百之介 # 同人母 # 妹右三人太田舍人家来古

川吉十郎妻子ニ差遣度人別除願差出承り届ル

十一月七日 曇

一 久世生野御廻米川下ケ相始候ニ付例歳之通番人申付候様郡代所ノ

申来り大年寄へ申付候

一 西北条郡沖村幾右衛門娘いく義西今町吉原屋庄吉妻ニ引受度人別

入願下方引合相濟候段申出承り届

一 二階町作人市右衛門借屋住初治義智教坊と改常宝院弟子ニ仕度願

書差出寺社取次引合之上承り届ル

一 大目附太田舍人ノ小性町瓜生原屋宗兵衛平吉義先達 小麦積下ケ

瓜生原ニ米ニ積かへ下り候事弥相違無之哉今夜中ニ相糺明日出

仕迄ニ申出候様ニ御用番中被仰出 # 船割之書付 # 備前 之懸ケ拙

者存寄り認出候様被申聞依之宗兵衛平吉呼出し立会例之通ニ遂

吟味候処弥相違無之旨申候ニ付尚又口書印形取之御藏元文五郎船

肝煎文吉も呼出し相糺候

一 岡山へ差遣候飛脚之者今夕四時前罷歸り湯浅新兵衛ノ拙者宛之口

上書ニ懸り之もの可及返書書付取罷歸候

十一月八日 曇

御用日登城

一 備前田原船一件ニ付瓜生原屋宗兵衛平吉夜前相糺候口書太田舍人

差出 # 拙者存寄申上候様ニと有之候ニ付何れ内済ものニ有之候

得 # 彼是糺立いたし候程引継候様ニ可相成哉と存品々旧記見候内

安永十年山北屋伊兵衛田原懸合出来其節先役守助取計ニ彼是不遂

吟味直ニ内済申懸ケ無何事相濟候義も有之旁以今般も向方ノ下済

ニ致度と申越候 # 幸之義依 下方答書不申付御内意ニ候間内済可

申付と直ニ申遣方可然と存其通り下案相認始終之覚悟ハケ程ニ致

候 不相済上ハ双方荷割申談を相止互ニ勝手次第交易登下いた

し候様ニ案内申遣候ノ外ハ有之間敷と存其段太田舍人 申述一件

書類不残差出候且又於御席 一学殿御尋ニ付其段申述候所思召ニ

叶至極同意ニ候と被申聞候右下案御評義候上大目附添削有之今日

認次第ニ差立可申飛脚之者申付置候旨大目附申来暮六ツ半時頃

御飛脚杉山源藏へ相渡

一 安岡町岡崎屋伊兵衛追込昨日ニ三日ニ相成候ニ付今朝差免候段

御用番 # 大目附へ相届候

一 脇坂淡路守殿御預り所当国勝南郡木知ケ原村勘七悻勇治義一人堺

町福本屋伊兵衛借屋住中村屋安治引受度人別人願御用番御聞濟
付大目附へ相渡置御聞届申渡候同十一日住宅証文差出

一湯田屋太郎左衛門常盤屋丈右衛門油方之義大坂兵庫ニ懸合候弁
書差出候ニ付御用番中へ差出置候然ル所一学殿ハ爰元ニ大坂之出
油屋申付候而如何可有之哉油方三人之ものへ考申付候様被仰出
候ニ付大年寄へ申達候

一福渡町戸川町ハ今般道造等被仰付候ニ付道可相直所溝縁石無之候
間大谷八臥ニ被下候様願書差出大目附へ差出候所早速聞届相濟
場所ニ寄り郡代所江案内も入候事故郡代所へ懸ケ合候様被申聞其
段通し置御聞届之旨大年寄へ申渡候

一西大寺問屋肥後屋多七中の屋宇平次ハ爰元荷主共へ今般六割増船
賃被差止以前之通ニ致運送候案内之廻状昨日来右写太田舎人江
差出候所即刻相戻り候

一今般船懸り合一件ニ付小測勘六江内通之義一学殿ハ先日被仰出喜
左衛門へ申付候処一昨六日相通候段申出其段及御噂候

一年久敷家質今般流ニ被仰付候御礼何及も申出候間其段一学殿へ及
御噂候

一大年寄共例歳之通歳末年頭献上物仕度去ル朔日申出候認落候間爰
ニ記ス

一〇〇〇〇〇へ預ケ置候行倒非人少も快次第追払候様ニ大年寄へ申達候
処少も油断不仕下方ニも大迷惑之段申聞候

一郡代所ハ町作之もの共呼出し候而も早々罷出御代官所迷惑ニ付
何卒町役人差添出候様ニハ相成間敷哉と頼有之候得共兼而年寄ハ

左様之義ニハ不出もの、様ニも心得居候間難及即答旨及挨拶候所
左候ハ、呼出し有之候節ハ早々罷出候様ニ達置呉候様ニと申義ニ
付其段大年寄へ申付候

一学殿ハ瓜生原屋平吉宗兵衛ハ禁足申付候而も可然哉ニ付大目附
江迷相談宜取計候様被仰出拙者義勿論同案之義ニ付大目附へ懸合
候処同意ニ付右兩人禁足申付候様大年寄へ申付申渡相濟候段届出
御両所江相届候

一下紺屋町常宝院兼帯所文珠院跡相統二階町住法明坊悴初治へ申付
度願書常宝院差出寺社取次細江武助へ懸合之上承り届ル

一西川役人平沢助八高橋金治へ米相場書相廻し候返書来り受取遣之
一米相場是迄之建方と今般之建方之違ニ而今年之所ハ例歳ハ四匁四
歩三厘八毛三ハ之高値ニ相成候事為見合記置候

十一月九日 晴

一今般俵塩他領売被差留候ニ付先年龍野ハ添簡ニ而願出候中測賀辺
之もの持船津山通り抜ケ致度右塩差支候ニ付川下へ参り塩買来度
今般之塩差留候を幸ニ願出候風聞有之候由喜左衛門申出依之早ク
被差免候様太田舎人江申達置候

一高石垣関貫番所繕普請出来候由喜左衛門届出候
一宮脇町西ノ関貫番所大破ハ兩人番之所狭く有之候間少々広く致度
願出候由喜左衛門申出候ニ付遂見分不苦筋ニ候ハ、可然取計候様
申達ス

一田原船取合一件蔵合孫左衛門考書差出昨日太田舎人江内々差出置
候

十一月十日 快晴

一 太田舎人^ノ先日差出候享保十二年之田原出入為取替証文写差出候様申来り差出候

一 太田舎人^ノ昨日申達置候塩他所売左之通申達候様紙面^ニ申来

俵塩他領売被差留候所格別差支も無之義^ニ付

被差免候間是迄之通勝手次第売買可致候

右之通町触差出候

一 牢舎人庄助病氣申出大年寄へ申付候所中村易安へ申付候段翌十一日届出候

一 牢舎人岩助ふとん肌着入遣度牢番伺出承り届

一 牢舎人ハ周蔵打続食餌給余程丈夫^ニ相成候^ニ付御吟味被下候様牢

番より願出候^ニ付直^ニ郡代所へ罷出其旨相届候様申付ル

一 油方引受湯田屋太郎左衛門常盤屋丈右衛門弁書昨日主膳殿^ノ御下ケ被成候

一 坪井町南側^ニ日野屋山三郎家屋敷表口三間裏行拾七間但老軒役

東隣ハ浜野屋嘉市西隣ハ増野屋喜助也右家屋敷丑十月下紺屋町紙

屋音四郎取次^ニ六百匁之質物^ニ書入候所今般元利返済相濟候段

届書差出候

一 備前へ差遣候飛脚今晚方受取書取罷歸り其段太田舎人^ハ相届候

十一月十一日 快晴

一 福渡町阿賀屋助五郎家守万五郎追込昨日迄^ニ五日^ニ相成候^ニ付

今朝大年寄於宅差免候其段届出候上御用番^ハ大目附へ紙面^ニ相

届候

一 大坂村尾左右衛門^ノ去ル七日之返書差越靴屋伊助大村屋源右衛門借銀出訴日延願書先格之通御番所へ相届濟候段申越候

十一月十二日 曇

一 御蔵米六拾老匁町米五拾七匁

一 備前田原通船出入之義^ニ付久世辺為監察人馬問屋佐右衛門久世迄

差遣候入用八匁六歩且又備前和氣^ニ御用油差留候^ニ付御蔵元文

五郎米屋藤右衛門和氣へ差遣候入用式拾九匁合^ニ三拾七匁六歩之

請取証文大年寄差出し奥印書取計候大年寄へ相渡候

一 新魚町鳥屋与三兵衛義亡父時分宝曆七丑年御用宿被仰付候^間四

拾一年相勤候処勝手向不如意^ニ罷成難相勤段願書差出し無余義趣

付承り届

一 堺町南側^ニ靈屋太郎兵衛所持之家屋敷表口四間裏行廿五間但一

軒役東隣ハ同居西隣ハ新魚町肥後屋宇吉也右屋敷地内南之方

裏地東西四間南北十老間右之場所納屋二ヶ所付御役三歩添代銀札

九百匁^ニ組合美濃出屋清右衛門^ニ売渡度願書承り届^{間十六日宛務状差出}

一 新魚町笹岡休意悻伊勢吉義小須賀一学殿へ出入奉公為仕度人別除

願差出し承り届

一 関貫番人御家中^ハ町方迄六時限り^ニ不出致遅刻^ハ宵之内番所戸を

閉居候由組中^ノ申出候^ニ付毎夜六時限^ニ罷出関貫^ハ宵之内小門開

置候内ハ番所戸を開キ往来見改候様^ニ急度可申付之旨大年寄へ申

達候処翌十三日申達候旨届出候

十一月十三日 晴

一 御用日登城

一御代官大岡越前殿支配所石州安野郡小屋村又四郎悴清藏義材木

町車屋佐五郎後家夫ニ引受度人別人願御用番御聞濟ニ付大目附へ

差出置御聞濟申達候

同廿四日任宅証文差出。 延寶八月十八日履録候條

一 小性町今津屋平藏家守山口屋久米治義悴梅吉娘右家内三人備前上道郡西大寺村徳之助方へ引越度人別除願右同断取計濟

一 官脇町阿賀屋助五郎追込昨日迄ニ七日ニ相成候間今朝差免候段御用番[#]大目附へ相届候

一 林田町^ノ往来道直ニ付宮川大橋北東側土手下川端之土被下置候様願書差出大目附へ差出候所申出候通土ハ被下候間取可申候併石垣際一ヶ所ニ取候^ニハ跡不宜候間随分川縁ニ^ニ平等ニ取可申旨被

申聞其段大年寄へ申渡候

一 惣町大破家取繕之義年寄共へ申付置候所左之町々

中之町 上紺屋町 材木町 小性町 新魚町 河原町 京町

船頭町 林田町 二階町 福渡町 坪井町 美濃職人町

茅町 桶屋町 吹屋町 勝間田町 元魚町 戸川町

右十九町年寄共^ノ種々勤弁仕候得共手段無之普請出来不申段歎書差出御用番中へ申上兼^ニ差合候通右町年寄共又々呼出し二度目之御叱可申渡と申上候処宜取計候様被仰出大目附へも其旨相達置尚又申渡候上申渡書差出候様ニと被申聞候仍^ニ明後十五日可申渡候間五時年寄召連罷出候様大年寄へ申渡組中へも手配申付置且又今般申付候通普請可仕と申町々左之通

東新町 西新町 橋本町 伏見町 境町 二丁目

三丁目 鍛冶町 下紺屋町 新職人町 宮脇町 西今町

安岡町 細工町

右十四町ハ自力ニ^ニ普請仕候段申出候

一 今般從公儀被仰出候古借金銀出入大坂ニ^ニ御用無之旨村尾左右衛門^ノ申来り久世表聞合候所別紙迄江戸表^ノ相廻り被仰出通ニ取

計候趣ニ相聞へ何れとも決着不仕差当り船頭町高瀬屋助八杯之出入も有之ニ付江戸表御聞合被下候様ニ大目附太田舍人^ニ申達置候

一 船頭町高瀬屋助八箱訴借金出入懸り之役人等閑之段松岡治部助^ノ申聞右懸り役人名面認出候所一々取計応対振ニ寄^ニ委敷御裁許付

差出候様治部助申聞一人つ、等閑之輕重を糺申出候様孫左衛門へ申達候

一 米相場建方相改候義他領ニ^ニハ甚致難決此間も久世領^ノ庄屋来り

中買頭へ懸合候趣尚又今朝も勝山大年寄^ノ爰元大年寄へ尋越候趣

委細ニ御用所[#]大目附中へ及囀置候

一 油方引受三人^ノ散実之義ハ外々ニ^ニ不買取引受之三人方へ持參候

様ニ仕度願書差出し勘定奉行近藤伊左衛門へ対談之上組屋忠三郎

方^ニハ散実不買取候様ニ被申付役所^ノも惣操屋共不買取右三人

方へ持參候様可申付旨大年寄へ申達候所大年寄場合^ニ當時くり

屋名面も睨と不解候間組屋忠三郎^ノ右之通演説可仕可申付由伺出

何れとも宜取計候様ニ及差図

一 船頭町年寄和泉屋清助へ可申付旨大年寄伺出其旨及差図

一 御家中関貫普請入用[#]南新座町臭橋摘込入用当正月^ノ閏七月迄之

分都合式百式拾匁三步六毛之由大年寄^ノ小頭へ差出小頭^ノ証文差出奥書印取計之

一 播州今市綿屋嘉市郎一人例年之通具服物買ニ來候段新職人町松野屋十右衛門宿切手差出十一月廿一日條

一 林田土手ニ而壁土道一盃ニ棟り不申様ニ可申付旨大年寄へ申達候

一 備前竹内又右衛門へ返書差越内濟之義も致承知候間田原村江扱之

者差越可申何れ古格之通ニ内濟致候得者田原船持申分無之旨申越

大田舍人江申達候処先受取書差遣飛脚ハ返し置下案相認明朝一諸

ニ差出候様被申聞候

十一月十四日 雪

一 御藏米六拾匁町米五拾六匁

一 備前竹内又右衛門へ返書下案扱人田原村へ差越候様申來候間出會

場所之義者下方申合ニ致度候間扱人名面被申聞候様ニ相認來書共

太田舍人江差出候所伺之通申遣候段被仰出尤早々差立候様ニと申

義ニ候得共扱人等申付候上之義ニ候得者明後十六日朝立ニ仕立候

而も可然旨太田舍人へ申來候

一 御代官稲垣藤四郎殿手代矢代為右衛門へ書状差越御廻米船差支候

ニ付十艘申付呉候様申越尤為右衛門義今夕今津屋平藏方ニ致止宿

明朝中測賀江罷越候由右使之者ニ明朝船十艘中測賀河岸へ相廻し

呉候様ニ口上ニ而申越候昨年も久世手代へ右同様之頼申越一学殿

へ相伺候処何分船相調候上ニ而可及御報之旨及即答置候様被仰出

右船調候義ハ御廻米中ニ付勘定奉行へ被仰付候間船數有無相分次

第可相達候間又々其旨申遣候様ニ被仰出其旨取計相濟候先格有之

候ニ付太田舍人江罷越右先格相咄候処其通ニ取計可然候間何

分勘定奉行へ調可申達候間先今夕之処者調之上可申遣旨及即答

置候様白紙型ニ被申聞候付其旨及返書尤此節船払底之趣ニ及承候間明日中ニ船數相揃候義難計候得共何分有合次第相廻候様ニ可申付旨申遣置候右之通取計候段御用番中へ紙面ニ而御届申上置候

十一月十五日 曇 少雪

一 大目附太田舍人へ昨夜之船之義勘定奉行へ相札候処今日者船無之

明十六日五艘明後十七日五艘有之候間右両日ニ宮尾河岸へ相廻候

様申付候間其旨稲垣藤四郎殿手代矢代為右衛門へ申遣候様申來候

ニ付昨年者船方へ差出候船數之札書相廻申候今年ハ如何可致哉と

申遣候所彼是いたし候程隙取候間先其通書面ニ而申遣候様又々申

來依之御用番中へ罷越右之趣申遣候段申上御聞濟之上右書面今津

屋方へ差遣候所為右衛門未出立不致受取候段使之者申出候

一 安岡町古川屋太兵衛義手錠追込昨日迄ニ而十日ニ相成候間今朝出

番田藏差向呼出し立會例之通ニ而手錠追込差免候段直ニ申渡其段

御用番者大目附へ相届候

一 牢舍人岩助出牢郡代所へ申來差紙相廻り認かへ出番藤藏差向出牢

取計之

一 無宿盜賊磯吉牢番預ヶ郡代所へ昨日申來出番栄治差向取計之昨日

認落候間爰ニ記置右磯吉義ハ元小性町柿屋伊助俸ニ而當八月致勘

当候もの也

一 田原出入一件ニ付備前へ差向候扱人稲実屋義七郎米屋藤右衛門船

持惣代高瀬屋勘右衛門右三人江申付候段大年寄届出其段太田舍人

江相届候

一 備前竹内又右衛門へ差遣候再返書明朝立ニ而可遣候間御飛脚之者

被仰付候様太田舎人へ申遣候所御飛脚萩野勘十郎へ相渡候

一 田原出入一件取計役筋^ニ而始終之見込之所認差出候様^ニ太田舎人^ノ被申聞認差出候

一 宮川大橋穴明候由橋本町^ノ注進書差出し大目附へ差出候

一 銀札場奉行^ノ錢十四ヶ川下ヶ申来裏書取計之

一 二階町豊屋多助家守借屋住仕立屋徳三郎相頼足袋^ニ足道服羽織打

穴屋に質^ニ置候候受返し度徳三郎入牢^ニ付伺出承り届

十一月十六日 雪

一 下紺屋町長江朝庵義備前岡山橋本町讚岐屋喜右衛門方へ三十日計之逗留^ニ而明後十八日出立願書大年寄承り届差出

一 久原三省長屋住弥兵衛夫婦^并娘右家内三人堺町丸屋幸吉引受度人

別入願差出尤元来備前もの^ニ而送り等も大年寄及見候段申出承り届

一 御領分西北条郡惣社村藤蔵夫婦^并娘右家内三人西新町山伏養樂院引受度人別入願大庄屋引合相濟候段申出承り届

一 京町北側^ニ而作屋たき家屋敷表口三間裏行十七間御堀切但五歩五厘役也東隣八原田屋嘉兵衛西隣ハ作人かかね也右家屋敷質物^ニ書入
当十一月^ノ来午十一月迄^ノ月巻歩半之利足^ニ而銀札四百匁借受
度願書差出承り届 同廿日本証文堂出、四月廿九日受返し直、元札候

十一月十七日 曇

一 牢舎人喜右衛門庄助療治二廻り相濟候処未相勝候由双方^ノ申出吉

武祐^三療治申付候

一 牢舎人新吉義ハ致全快候^ニ付休葉為仕候段双方^ノ申出候

一 牢舎人野辺文治食物至^而籠抹^三三日も以前^ニ炊置候様之相送り得

給不申其俣差戻候様之義^ニ付度々申遣候得共不致承知当人^及山林等も持居候事^ニ候得^者ケ様^ニ致間敷義と殊之外致立服候且又急^ニ御吟味受申度旨度々相願候段牢番山七^ノ申出郡代所^江申遣候

一 田原船出入一件^ニ付古キ書物致吟味差出候様申付置候処享保年中

出訴一件手扣帳巻冊姫路屋所持^ニ而差出齋藤孫右衛門所持覚書一

冊差出太田舎人^江差出置候猶又享保年中之為取替一札本書ハ無之

写計也

一 右^ニ付今般出訴之上之取計考蔵合孫左衛門認差出且又太田舎人^江差出置姫路屋恵三郎考認差出候得共同人義ハ病中之義^ニ付其俣受

取置候

十一月十八日 快晴

一 御用日登城

一 稲垣藤四郎殿手代矢代為右衛門^ノ此間船相廻候為挨拶飛札来御用所^并大目附へ差出候

一 備前竹内又右衛門^江差遣候飛脚今昼前返書取帰り向方^ニ而^者扱人盤梨郡弥上村名主清介同郡稗田村名主勇右衛門へ申付候由尤田原村へ被差越候義と存候処申遣候通下方^江も相移可置旨申越直^ニ太田舎人^江差出下方へ申遣為懸合候様^ニ可仕旨申遣置候

一 成覚寺義寒中夜念仏妙昌寺義右同断夜題目町分申廻り候段御聞濟^ニ付明十九日夕^ノ相廻候段寺社取次細江武助^ノ通用有之大年寄^并

小頭へ心得申達候

一 川下油法度大坂油相調候様申付候^ニ付彼是申ものも有之哉^ニも相

聞候間為心得御噂被成候由一学殿被仰聞大年寄へ申達致監察申聞

候様ニ申達置候

一 徳守宮振圖今日有之候ニ付昼廻り仕廻ニ宮脇町ニ見合候様ニ申

付差出置候処昼廻り文蔵為治々徳守宮ふりくし大郡集先月妙願寺

ふりくし却而多人数社人々も度々制呉候様相頼候旨尤中々而三

人ニ被為制候様之義ニ無之旨小頭へ申越候段伺出候ニ付致差

図候迄ハ警固致間敷隣町固メ居候様ニ申遣置大目附太田舍人江右

之段手紙ニ申達先月妙願寺ふりくし之節ニ警固可差出哉と

申遣候所最早晩景ニも相成り無程済可申候間警固ニ及間敷近町

見廻り手当ニ致し可然旨申来候依之他所もの多入込而最早時節柄

之義故先月妙願寺ふりくし有之候夜之通惣町金鉢引夜中廻り非人

加廻り三組差出候様大年寄へ申付其段御用番并大目附へ手紙ニ而

相届尤組夜廻りも先月之通夜廻り出番四人差出候尤ふりくし無別

条可也ニ相済候段暮過昼廻り式人罷帰り届出候

一 田原一件扱人共懸合候様ニ申達候所周匝ニ於可致出会と申遣候

下案大年寄差出候太田舍人江差出候処何之存寄も無之宜為取計候

様ニ即答有之并先日以来差出候書類不残被相返其内孫左衛門後ニ

差出候考書ハ御用所江出居候由ニ未被返候右ニ付右下案大年寄

へ差出宜取計候様申達候

一 堺町南側ニ團屋太郎兵衛家屋敷表口四間裏行拾四間土蔵巻ケ所

差添但七步役也西隣ハ新魚町肥後屋宇吉東隣ハ同居宅也右家屋

敷鳥屋与市取次ニ而今巳年ハ西歳迄五ヶ年之間巻ケ月巻歩式朱之

利足ニ而質物ニ書入老貫五百匁借用之願書承り届ル附日本書出

文化七年四月十三日
元利透清繕送し斷取出ス

十一月十九日 曇

一 町方普請先日申付置候所困窮ニ難出来段歎書差出候左之拾九町

年寄今五時呼出し孫左衛門源五兵衛喜左衛門新左衛門孫八新治立

合ニ而左之通申渡

町内大破家普請出来兼候段 元魚町 美濃職人町 戸川町

歎書差出候得共承り届候義 茅町 上紺屋町 二階町

不相成候間是非遂勘弁可致 新魚町 桶屋町 京町

之旨兼 伺済二度目申渡之 河原町 材木町 吹屋町

通申渡之 船頭町 中之町 林田町

当病不参戸川町喜兵衛 茅町伊八 二階町伊右衛門 新魚町恵三

郎 桶屋町彦市 京町清左衛門 河原町源右衛門 材木町武兵衛

吹屋町才右衛門 船頭町文五郎 勝間田町善七 小性町喜助

右取計申渡相済候段御用番へ手紙ニ而相届大目附へ申渡書差出

一 牢舍人二階町徳三郎義今日ハ牢賄申付候段小頭并大年寄へ昨日申

渡置候右徳三郎義ハ牢賄致兼且那寺ハ歎書差出候段寺社取次細江

武助ハ噂有之右徳三郎義ハ先達ニ而御裁許伺済ニ而当暮可取計もの

ニ付右之通申付候

一 阿州名西郡高原村平左衛門一人例年之通藍玉売ニ来候段船頭町今

岡屋熊吉宿切手差出ス

一 阿州板野郡高房村新兵衛一人右同断来候段右同人宿切手差出

一阿州板野郡成瀬村曾右衛門一人右同断来候段右同人宿切手差出
一藤堂勇四郎長屋住ちか^ハ娘ゆか右家内二人上紺屋町鉄屋与八郎引
受度人別入願差出承り届ル

一備中国領部郡守神村源治郎女房そめ義西国順礼罷出西吉田領福力
村^ニ相煩医療を加へ快候^ニ付送り出川部村^ニ送り来継送り候様
申付候段郡代所^ニ通用有之候^ニ付継送り候様大年寄へ申達候

一田原懸合一件^ニ付拙者^ハ孫左衛門考書差出置候所太田舎人^ハ被差
戻此度扱人被差出候付いか^ニも内済相調候様申合可申旨尤始終役
人懸合^ニも難致全内済ものと申義呉々被申聞其段大年寄へ申達候
一牢凌申付昼廻り藤蔵百蔵取計之無別条段届出候

十一月廿日 晴

一昨十九日午七刻寒^ニ入候^ニ付今日御徒格以上惣登城寒中御機嫌伺
例之通於七間廊下御奏者番^ハ三奉行迄一同申上之引懸ケ^ニ支配頭
寄り親^ハ廻勤候事

一御巡見^ハ遊行等之節入用上払町払之差別有之候ハ、調出候様大目
附太田舎人被申聞相調候処自他巡見使^ハ遊行来着之節も悉上御払
^ニ相成町入用^ニ相成候ものハ継人馬^ハ地廻り使人足給仕人等^ハ出
役之面々賄等ハ町入用^ニ相成其余ハ皆上払^ニ相成候段書付を以大
目附へ申達候

十一月廿一日 大雪

一田原船一件扱人共^ハ出会場所之義申遣候所承知之旨返書来大年
寄^ハ差出太田舎人^ハ差出候

十一月廿二日 晴

一牢舎人物社村和七綿入差越候間入遣度牢番伺出承り届ル

一牢舎人十吉病氣申出大年寄へ申達療治申付候段翌日申出候

一御領分東南条郡林田村治右衛門夫婦悴庄八右家内三人西新町武兵
衛後家引受度人別入願下方引合相済候段申出承り届

一牢舎扶持拾俵之内貸証文差出奥書印取計之但来月^ハ式石八斗式升
七合五勺持越^ニ相成候事

十一月廿三日 快晴

一御用日登城申上候御用向無之

一蔵合孫左衛門御賞書伺松岡治部助へ差出

一船頭町高瀬屋助八出訴取計役人等閑之段調出候処松岡治部助存寄
有之又々調候様申聞候

一播州高砂本町伊勢屋喜十郎例歳之通小間物売^ニ来候段新職人町松
野屋十右衛門宿切手差出^{十一月廿一日}

一御蔵米六拾匁五步町米五拾六匁五步

一牢舎人野辺文治牢賄今朝^ハ不持未給不申段晩方申出郡代所へ申達
ス

十一月廿四日 快晴

一田原船出入一件扱人稲実屋義七郎米屋藤右衛門船持惣代高瀬屋勘
右衛門今朝備前周匝^ハ出立仕候段届出大目附へ相届候

一牢舎人喜右衛門容鉢書差出郡代所へ相廻候

一茅町年寄大坂屋喜与八昨夜病死之段届出候

一高石垣稻垣前秋元前関貫番人不^レり無之様^ニ小頭^ハ昨日申渡候

十一月廿五日 晴

一夜前更廻り申付候所高石垣稲垣前秋元前関貫相改候処無別条候段
今朝小頭孫八書役新左衛門届出候

一昨夜惣町関貫より改^并博奕為監察当番文蔵相除其余八人不残更廻
り九時後より明迄所々踏込相改候処少も疑敷義も無之候由然ル所関
貫番人拾ヶ所計不埒有之候段書付差出候ニ付大年寄へ相渡尚又遂
吟味申付候様ニ申渡候

一牢舍人上田邑村見内分松治出牢帰村差紙郡代所より来尚又出牢切手
相認出番砂兵衛差向取計之

一太田村佐助^并同村幸藏新田村佐助右三人繰綿商売致候段町方より訴
出郡代所へ相廻置候処追込申付候段今日郡代所より申来大年寄へ申
達候

一南新座町臭橋明廿六日より摘込候段大年寄より届出候

一中川登市郎長屋住牢舍人利兵衛妻宿所無之難義之段大年寄より申出
内々伊達右門太へ相移候段取計置

一紀州高野山万性院使僧惠隼と申僧上下式人例歳之通来候段坪井町

河原屋治助宿切手差出 十一月十四日端

一播州網干新在家平松屋佐十郎一人^之焼灯張替来候段右ハ当十月相願
病人代ニ来候ものニ而^之当年初^之来候段中之町小山屋与三右衛門宿
切手差出

十一月廿六日 快晴

一贗銀師御仕置之義江戸御留主居田中幸助へ御並方御様子尋遣候所
今日返書来御並方承り合ニも不及此方様ニ而^之親殺等御仕置之御
先格有之候義ニ候得^者御仕置御取計被成候^而も不苦尤贗銀師ハ多

少ニ寄らす礫ニ相成候由夫共吟味之様子申越候ハ、尚又罪状之所
可申越旨申越候

一公料御廻米相済中上ヶ番人八出尻番所昨日迄^ニ而^之引取候段人馬間
屋より届出候段大年寄届出候

一戸川町清七妻去ル廿三日出産月取間違御叱来ル晦日可申渡旨大年
（貼紙訂正）
寄申出承り置

一伊勢山田河北助太夫名代辻田善治と申御師一人例歳之通来候段新
職人町松野屋重右衛門宿切手差出 同廿九日端

十一月廿七日 快晴

一西川平沢助八高橋金治より寒中為見廻例歳之通酒式升纏節三十差越
及相答

一元魚町米屋喜兵衛後家倅鹿之丞義大坂上本町広嶋屋源藏方へ当巳
年より来未ノ年迄三ヶ年之間奉公仕度尤家役家守之義ハ住屋市左
衛門引受候段願書差出し承り届^年 九月十七日掃退願書段此取置候

一銀札場家質式拾余^年ニ相成候もの共先日流ニ被仰出候分左之者共ニ
候由大年寄書付差出候

一百匁 正木屋甚右衛門 一 四百匁 鍛冶藤助

一百三拾匁 作人安兵衛 一 式百匁 沢屋惣左衛門

一百三匁 高瀬屋喜右衛門 一 式百匁 中田屋甚兵衛

一 式百匁 鍛冶太三郎 一 百匁 大工喜八

一 五百匁 団屋治右衛門 一 式百匁 鳥屋利兵衛

一 百匁 団屋甚兵衛 一 五百匁 鍛冶新右衛門

一 式百五拾匁 戸嶋屋伝吉 一 三百匁 瀧山屋惣兵衛

| | | | |
|---|---|--|----------------------------------|
| 一式百匁 鍛冶伝助 | 一式百匁 金具屋喜七 | 一百匁 鍛冶庄右衛門 | 一式百匁 平田屋平八但外 _ニ 百匁借増有之 |
| 一式百匁 大工善兵衛 | 一百五拾匁 坂本屋市右衛門 | 一百匁 鍛冶庄右衛門 | |
| 一百五拾匁 吉田屋半三郎 | 一百四匁 紙屋甚右衛門 | 一百七拾匁 塗師喜平次 | 一八拾匁 伊勢屋平六 |
| 一百匁 豊屋清右衛門 | 一百五拾匁 龜屋治郎右衛門 | 一百三拾匁 福嶋屋吉次 | 一式百匁 内海察州 |
| 一百匁 塗師八郎右衛門 | 一百五拾匁 福地屋嘉七 | 一七拾匁 堺屋伊助但外 _ニ 百拾匁借増有之 | |
| 一九拾匁 中谷屋利助 | 一拾匁 高角屋庄兵衛 | 三百匁 原屋甚助 | 一百匁 木屋長兵衛 |
| 一八拾七匁五歩鍋屋次郎右衛門 | 一 ^百 百四拾匁 井筒屋善助 | 一百五拾匁 山本屋周右衛門 | 一百匁 濃屋庄七 |
| 一百匁 木屋伊助後家 | 一四拾匁 熊野屋伝兵衛 | 一百匁 大工弥五郎 | 一百匁 西田屋忠助 |
| 一四拾九匁 錢龜屋兵吉 | 一三拾匁 夷屋清助 | 一百匁 小鉄屋小兵衛 | 一百五拾匁 丸屋甚六 |
| 一七拾匁 羽織屋 ^{百匁} 近衛 ^{百匁} | 一四拾匁 伊勢屋十右衛門 | 一式百匁 大工五百吉 | 一百匁 油屋才治 |
| 一百六拾七匁 吹屋甚兵衛 | 一 ^百 百三拾三匁 ^{百匁} 三歩三厘 | 一百五拾匁 岩見屋孫兵衛 | 一百匁 名木屋喜助 ^{但外 五拾匁借増有之} |
| 一式百三拾五匁七歩二厘 | 一 ^百 百三拾三匁 ^{百匁} 三歩三厘 | 一百四拾匁 井筒屋善助 | 一式百匁 老厘 鳥屋与三兵衛 |
| 河内屋夫兵衛 | 一三五拾匁 花屋忠八 | 一式拾匁 大鉢三貫七百式拾匁老厘位 | |
| 一式百匁 山西屋要助 | 一式百匁 鍛冶嘉右衛門 | 一 ^百 百拾四匁式歩八厘 河内屋夫兵衛追 ^而 増借 _ニ 付四年賦 _ニ 相成 | |
| 一四八八拾五匁 若松屋義助 | 一七拾匁 作本屋治助 | 一備前周匝 _江 田原船出入内濟懸合 _ニ 差出候米屋藤右衛門稻実屋義七郎夜四時前罷歸り内濟不相調候段手扣大年寄 _ノ 差出候 | |
| 一百匁 魚屋文助 | | 十一月廿八日 雨 | |
| ノ四拾三人 大鉢九貫八拾八匁五歩五厘位 | | | |
| 拾五年已上之分来午年 _ノ 拾年賦 _ニ 被仰付候分左之通尤明後廿九日被仰渡候筈也 | | | |
| 被仰渡候筈也 | | | |
| 一百七拾匁 辰巳屋文兵衛 | 一百五拾匁 仕立屋新助 | 一御用日登城 | |
| 一百五拾匁 鍛冶新兵衛但外 _ニ 式百匁借増有之 | | 一備前周匝 _ノ 扱人及破談罷歸候段太田舍人 _江 申達 _并 手扣帳差出右 _ニ 付此上 _ハ 向方 _ノ 差越候願書 _ニ 返答書為仕相廻し可然旨申達候所後刻太田舍人 _ノ 伺之通返答書相廻し兼 _而 無服臟 ^{マツ} 得御意候事故尚又内濟為取扱度旨且又右懸合中も登り船下方 _ニ 而 _而 差留候義 _ハ 当国耳ならず因伯迄も差支 _ニ 相成候間右之内も登り荷物為積候様 _ニ 可申遣 | |
| 一式百匁 藤屋清助 | 一百拾匁 阿波屋弥兵衛 | | |

旨御用番中御差図之旨舍人_レ被申聞依之返答書差出候様大年寄へ申付候

一人馬問屋_ノ町方為賑来午二月晴天十五日南京操芸居興行仕度願書差出寺社取次細江武助_ノ郡代三浦十郎左衛門へ懸合候所先来春之所ハ役節_ノ願書差出可然被申候_ニ付於別席御用番主膳殿_江内々相候所後刻於御用所御聞届被成候段被仰出仍_而右願書大目附へ相渡置御聞届申達候

一諸吟味宮田喜左衛門当暮御褒美之義_ニ付存寄於御別席主膳殿_江申上置御褒美之伺書差出候

一手嶋流講釈師_ノ世話人御賞年_ニ付御褒美被下候様書付御用番中へ差出候

一町方関貫番人去ル廿四日之夕不_レメ之町々も有之候_ニ付先例之通三百文つ、過料可申付相伺候処伺之通宜取計候様御用番中被仰出候_ニ付大年寄へ申付置候尤取計之上大目附へ相届候筈也

一田中幸助_ノ昨日差越候價銀取計聞合之返書御用番_ノ大目附へ差出候所即刻相戻候

一追々世上物騒之時節_ニも相成候_ニ付例歳之通来月朔日_ノ大三十日迄町方十一町廻り_ノ東西北町廻り_ノ非人加廻り二組可申付段御用番中へ相伺候処伺之通御聞濟_ニ付大目附へ相達置大年寄へ申付候
一京都烏丸通六角下ル七観音町二文字屋_ノく倅彦太郎一人新魚町屋野屋茂一郎引受度人別人願御用番御聞濟_ニ付大目附へ差出置御聞届申達候
十一月十七日住宅延文差出

一京都寺町通松原下ル町引藤屋理兵衛倅文助一人三町目一文字屋伊

三郎引受度人別人願右同断取計濟同前日住宅延文差出

一林田町三升屋勤吉借屋住作人太助義当八月出奔仕御届申上候処百日尋被仰付親類組合方々相尋候得共行衛相知不申最早百日余_ニ相成候_ニ付除帳願右同断取計濟

一西今町坪屋藤十郎家守中村屋吉兵衛夫婦娘右家内三人大久保安芸守殿領分当国久米北条郡和田南村新十郎方へ引越度人別除願右同断取計濟

一細工町作人長助役介しも義乱心致候_ニ付借牢相願候処此節本心_ニ相成候_ニ付出牢願差出御用番中御聞濟_ニ付大目附へ差出し置勝手次第出牢可申付旨大年寄へ申達候

一山田新三郎義町奉行郡代為下役度々久世_江差遣候付為御褒美三十匁被下置可然旨兩役連名_ニ而伺書十郎左衛門_ノ差出候

一英田郡角南村又治郎義日本廻国罷出大庭郡上長田村_ニ而病氣付医療相加へ快相成候得共歩行不叶送り出候往来等致所持院庄村_江送り来候_ニ付繼送り候様申付候段郡代所_ノ通用有之候_ニ付大年寄へ申付候

十一月廿九日 晴

一昨日何濟町方関貫番人共大年寄於宅左之通申渡

去ル廿四日之夜九時後

戸川町関貫番人 藤十郎

小門不_レ置不埒_ニ付

宮脇町右同断 忠助

過料三百文申付候

十助

福渡町右同断

伊助

右同夜月行事失念不埒_ニ付

細工町月行事 大工治助

過料三百文申付候

右取計相済候段大目附へ相届候

一去ル廿四日夜同心組更廻り申付候処左之関貫番不埒之段届出候
付大年寄宅^ニ而急度叱置候様申付候処今日申渡候段届出候

空錠^ニいたし居候

二階町北口関貫番人 新吉

錠前あしく候

同町南詰右同断 長八

空錠^ニいたし居候

元魚町北口右同断 定右衛門
丈右衛門

右同断

同町南詰右同断 仲平

錠前あしく候

船頭町新屋前右同断 権助
久兵衛

横木^メりあしく候

同町山北屋横右同断 喜助

錠おろし無之

桶屋町南詰右同断 七助

右同断

鍛冶町下横丁右同断 久右衛門

右之段急度叱以後相慎候様申付候事

一牢舎人松田屋佐助布子洗沢肌着入度伺出承り届

一牢舎人乙松ふとん入度伺出承り届ル

一牢舎人野辺文治食物今朝^も又々不差越旨牢番人届出郡代所へ申遣
候

一贖銀一件之内丈兵衛と申ものハ因州尋もの、由先達^而申来様子^ニ

寄可引渡と及返書置候^ニ付向方尋もの^ニ弥相違無之候ハ、可引渡

旨可申遣段先達^而相伺候処何分江戸聞合之上申遣可然旨被仰出候

処江戸^も返書来候^ニ付右之段主膳殿罷越相伺右一件之口書不残差

出置候

一田原一件備前^も差越候願書^ニ答書致候様昨日申付置候所出来差出
候^ニ付備前へ懸合下案差添太田舎人^江差出置候

一借牢舎人乱心しも義今日受取度申出候^ニ付昼廻りへ申付新治栄
治^も取計之

一郡代所^も生野手代下原村へ罷越候由^ニ付先触来候ハ、為知呉候様
申来候^ニ付申付置候所生野手代兩人今夕勝間田泊明晦日爰元通行
人足五人之先触来候段人馬問屋^も申出郡代所^江申遣候

一久原甫雲長屋住勘七^并悴直治右家内二人下紺屋町松五郎引受度人
別人願差出承り届

十一月晦日 快晴

一番賃銀例月之通相渡

一京都愛宕山長床坊使僧柳意坊上下二人例年之通旦那廻り^ニ来候段

小性町肥地屋繁藏宿切手差出

一勢州朝熊岳明王院使僧儀中坊宝藏坊休加坊悦中坊上下八人例年之
通旦那廻り^ニ来候段右同人宿切手差出

十二月 大

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 佐々木主馬

大年寄 玉置源五兵衛

諸吟味 宮田喜左衛門

十二月朔^丙日 晴

一 錢通用百式文二相成候段届出候

一 牢舍人喜右衛門庄助重吉右三人療治二廻り相濟候段届出大年寄へ

申付候処吉武修格へ申付候処未快候間可療之旨申出候間則修格へ

申付候段大年寄申出候

一 牢舍人新八布子入遣度伺出承り届

一 牢舍人藤助肌着洗沢仕度出入之義伺出承り届

一 雲州杵築多久十太夫上下三人例年之通來候段新職人町松野屋十右

衛門宿切手差出^{同廿一日梅}

一 田原一件之義備前へ懸合思召被仰出候付尚又存寄太田舍人^江申達

置候

十二月二日 曇

一 先月廿四日之夕関貫番人不埒ニ付過料錢拾四匁取り大年寄^ハ差出

候

一 田原一件伺之書類太田舍人^ハ被相戻彼是至^而六ヶ敷御存寄出候処

可也ニ訳立候程ニ漸相成候ハ、昼立^ニ差出候様ニト之義ニ候得

共舍人存寄明曉八ツ立可然候旨ニ付其旨御飛脚へ申渡候尤尚又内

濟為仕度且又懸り合中ハ双方申談無之勝手次第荷積為仕度旨申遣

候事御飛脚中谷孫右衛門^江相渡候

十二月三日 快晴

一 御用日登城

一 宮脇町徳守宮地子居新角屋庄九郎出店へ去月廿日暮六半頃^ハ四時

迄之内盜賊入込繰綿二本盜取候段届書差出御用番中へ申達大目附

へ差出置

一 馬持廿五人例年之通老人ニ大豆貳俵半つ、拝借願書差出勘定奉行

へ引合之上御用番中へ申達候処御聞濟ニ付右願書大目附へ差出置

御聞届申渡候

一 油屋三人之者共へ西川大黒屋^ハ頼之書状差越^并龍野領土岐領^ハ川

切手等相頼候段申出候付其旨一学殿へ具ニ申達候

一 贖銀一件之者共因州懸合可取計之旨先月廿九日主膳殿^江相伺置候

処今日主膳殿^ハ被差戻未利左衛門も不召捕義ニ付何分因幡懸合ハ

來春迄差延候様ニ被仰出候此段松岡治部助へも相咄置候

一 井崎与助四拾間拜領屋敷表之竹垣至^而不^レりニ付度々懸合候得共

睨々取繕出来不申昨日も小頭差遣懸合七候得共急ニ可出来趣^ニも

不相聞依之大目附佐々木右近へ於別席内々申談置候尤先達^而も太

田舍人^江も乃囀置候事也然ル所今日直ニ組頭へ御囀有之候由ニ相

聞候

十二月四日 快晴

一大目附佐々木主馬ハ呼ニ来相越候処去ル二日夜太田舎人長屋ハ盜

賊這入下女之衣類十三品盜取候段御用番ヘ相届候処触流ニも及間敷役筋ヘ相渡可遂吟味旨御差図之由品書被相渡候ニ付小頭呼出目

明共ヘ申付候様委細ニ申含候

一阿州名西郡桑嶋村平次兵衛手代庄助老人例年之通藍玉壳ニ来候段

京町今出屋半兵衛宿切手差出候一
翌年五月廿四日始

一阿州名西郡桑嶋村夫右衛門手代次右衛門一人右同断来候段右同人

宿切手差出候右同断

一阿州板野郡中留村兵助手代佐助一人右同断来候段右同人宿切手差

出申候右同断

一備前竹内又右衛門ハ昨日出之飛脚差越田原出入之義内濟破談之上

ハ手切ニ可致哉存慮承り度手切ニも致候ハ、登荷物先規之通差留

海辺浦々迄も可相移置段申越未此方ハ差遣候書面ハ不見趣ニ而飛

脚之者致足痛延着候旨届出候ニ付此方之存虜ハ此間得御意置候通

之義嘸御承知可有之ニ付一々不及答且又先規之通登り荷物差留候

と申ハ如何様之義哉此方ニ而者不存義ニ付解兼候間及御答兼候間

尚又委細被仰聞候様ニ及即答候而も可然哉ニ相考太田舎人江罷越

候処留主ニ付其旨手紙ニ而申遣候処先受取相渡飛脚差返候様ニ申

来其旨ニ取計候

一当夏石代改勝与八郎殿止宿入用先達而証文差出置候所松岡治部助

場合ニ留置候事之由下方ハも度々催促申出候付勘定奉行ヘ毎度及

催促候処先月廿八日相渡候様御用番御差図有之候由近藤伊左衛

門ハ通用有之候

十二月五日 曇

一郡代所ハ小座村上分宇助入牢申来例之通差紙遣出番為治差向取計之

一生野手代明日出立之旨院庄村ハ届出候段郡代所ハ通用有之候得共

取計無之事故承り置

一藤原村押測村船持共田原一件ニ付弥致出訴候旨願書之写米屋藤右

衛門方ハ為見候由同人ハ差出候旨大年寄ハ差出今日ハ太田舎人故

障ニ付佐々木主馬ヘ差出候

一昨夜差出置候備前ハ之来書佐々木主馬ハ被相戻下案相認差出候様

被申聞認差出候所一学殿御加筆有之其趣相認明朝立ニ而可差遣尤

飛脚も其趣ニ申付置候由且又返書之義ニ候得者差置可罷帰万一泊

候共岡山ニ不致止宿途中ニ泊り候様ニ可申付之旨亥ノ刻佐々木

主馬ハ申来御飛脚村上吉左衛門江其旨申付書状相渡候尤返書之趣

ハ御紙面之趣致承知此方ニ聊趣意無之委細者先書得御意置候通

之義ニ候間何分御報致承知度且又登り荷物下方ニ差留候義御止

さ七被下候段も致承知候段申遣候事

十二月六日 快晴

一備前ハ来書之趣登り荷物下方ニ差留候義相止さ七候段下方江得

と申聞置田原船江も差滞無之様ニ是迄之通荷積為致論中之義故万

端相慎取計候様ニ得と申付候様藏合孫左衛門ヘ申渡候尤右之通申

渡候段大目附佐々木主馬ヘ手紙ニ而相届候

一諸吟味御褒美調書勘功之所認差出候様佐々木主馬ハ申来認直し差出候

一備中小坂部水谷弥之助殿内中嶋幸右衛門近藤武左衛門ノ例年之通
米相場書差遣候為挨拶釜敷紙二束来及相答

一備前ニ登り荷物差留候義相止さセ候義下方へ申付候義主馬へ相
届候処昨日ハ頼ニ付取計候得共全躰舍人引受候義ニ付同人江相届
候様申来依之太田舍人へ紙面ニ而又々相届候

一今日銀札場へ贖札式拾匁庄藏と申もの致持参目孫兵衛へ被相渡
候由孫兵衛相札候処へ昼廻り同心組文藏為治通り懸り立会相札候

処右庄藏義ハ元雲州西神戸郡大池村出生之処五ヶ年已前国元罷出
所々致流浪堀田殿領分町川村喜兵衛娘を妻ニ致シ当春生野料梶並

間戸之村源藏と申もの、養子ニ夫婦共相成候得共未人別ニハ入不
申矢張無宿之由申之候右贖札之義相札候処同人妻之弟町川村喜二

郎方ニ此間致止宿候処山伏老人泊り合セ右山伏ノ受取候得共何方
之ものと申義ハ存不申右喜二郎御札被成候ハ、相分り可申旨申口

ニ御座候由文藏為治孫兵衛ノ届出捕手被差向候ハ、急ニ無之候而
手ニ入申間敷尤右庄藏義ハ無宿ニ付非人江預ケ置候段申出候付

其旨御用番一学殿へ罷越相伺候処伺之通宜取計候様被仰出依之文
藏為治孫左衛門非人式人子ノ刻頃出宅為致候彼是及深更候付大

目附へハ翌朝紙面ニ而相届非一学殿も右之趣認出候様被仰出翌
朝紙面ニ而差出候

十二月七日 快晴

一夜前之贖札之義大目附へ相届右ニ付加人式人被仰付候様申達候所
笹岡与三兵衛堀内吉次来

一蔵合孫左衛門嫡女今朝致出産即刻致落命候付孫左衛門引込届出候

ニ付忌服之義山下官弥江承り合候処忌十日服三十日之旨申来其段
御用番非大目附へ手紙ニ而相届候

一登り船下方ニ而差留候義相止候段諸荷主へも為相知可申旨源五兵
衛伺出孫左衛門と申談宜取計候様申達候

一西今町大橋らんかんニ毎々牛繫候義及見候付殿敷申付候様大年寄
へ申渡候

一暮大割帳差出都合三貫六百七匁三歩五厘也及一見差戻候

十二月八日 晴

一御用日登城御用向無之

一一昨晚贖札持参之庄藏義目明場合ニ而柳土手へ預ケ置候段申出候
ニ付其旨及御噂置候得共柳土手へ可預筋之ものニ無之故目明宅へ

引戻し問屋人足ニ而番致候様ニ小頭孫八江申付其段此間及御噂候
義故御用番中へ及御沙駄候然ル所目明宅ニ而も甚致迷惑候ニ付先

例も有之義ニ付旅籠屋へ被仰付候様ニ小頭孫八書役新左衛門非大
年寄共も申候ニ付旅籠屋へ申付候様大年寄へ申達尚又目明江も其

段申付候
一竹田村伝藏下男去月廿六日衣類五品代三拾六匁位之品之由触流取
計候様大目附ノ被申聞例之通取計大年寄へ申付候

一公儀御触左之通大目附廻状到来

宝曆甲戌曆差錯有之付而今度於京都改曆

宣下有之来牛年ノ新曆頒行之事ニ候

右之段従公儀被仰出候

右写取町方非組中へ差出候

一播州広峰魚住藏人例歳之通来扇子箱持参案内ニ来候尤宿花屋権兵衛同廿二日揚も届出候

一贗札持参庄藏伏見町吉田屋半三郎方へ宿申付番人八人馬問屋より足差出候段大年寄届出候

一大年寄共年頭歳未献上之義当月三日之日付ニいたし先月廿日先格之通江戸御奏者并小勤者へ申遣候先月認落候間爰ニ記ス

一備前へ差遣候飛脚今未刻過罷帰り返書ニ付差置可罷帰旨申候処向方より申遣候義有之候間相扣候様ニと申義ニ付相扣居候所返書出候由ニ取帰り候石返書双方和順為致候義者御同意ニ候然ル所船頭答書御廻被成致披見候処向方之申立とハ甚之相違ニ付又々再答書申付置候間追而可申越尤此節下方繁用之時節ニ付延引ニ可相成旨申来即刻太田舍人江差出候

十二月九日 快晴

一贗札召捕ニ差向候文藏為治町川村ニ山伏不居合因州へ越候趣ニ而追懸参候由因州商人ニ伝言いたし差越候由目明甚七申出候

一泊州日野郡柿原村七郎兵衛と申もの西国順札ニ罷出江州番場宿ニ而致足痛送り出川部村マヤへ送り来候ニ付継送り候様ニ申付候旨郡代所ノ通用有之大年寄へ申付候

十二月十日 快晴

一下紺屋町福住屋吉左衛門義福田屋藤十郎と改号仕度願書大年寄差出承り届

一林田町門屋亀藏借屋住人七兵衛夫婦并悴亀太郎紋吉右家内四人永見造酒助殿組岸本善十郎渡屋敷へ引越度人別除願差出承り届

一堺町玉置六郎左衛門所持之他国受酒株去辰十月元魚町中野屋佐助へ貸置候処此度取戻候届書差出

一村上清太夫組原久八娘美濃職人町杉屋幸吉妻ニ引受度人別入願差出承り届一二月三日毎日罷歸開届

一船頭町宮地屋豊娘菊義御領分南条郡林田村勘藏妻ニ差遣度人別除願下方引合相濟候段申出承り届

一太田舍人長屋へ這入候盜賊ハ大橋十太夫殿下屋敷ニ居候李佐と申もの心懸之旨佐々木主馬も内々被申聞尚又舍人江も承り候処弥疑敷もの、由申聞候付其段小頭并目明へも具ニ申聞候処兼而不宜もの、由目明共も目を付居候もの、由左候得者直ニ召捕候而も可然候得共少も手懸り無之候而如何ニ付計策申付候左十郎存付ニ

而京都ノ商内ニ参居候もの相頼古手買ニ仕立因州帰り之躰ニ持成し昨日十太夫殿下屋敷李佐方へ差遣候所古着有之西大寺へ持参り売候筈ニ候得共大坂ものと承候得者売可申明朝迄ニ勝間田旅宿へ

致持参可致相談と致約束置候段左十郎ノ申出昨晩方ノ左十郎目明甚七右服古手売并非人式人勝間田駅へ差遣置候所案之如く太田長屋被盜もの十二品致持参直ニ召捕今暮時罷帰り右李佐義ハ牢番預ケニ申付置右之段御用番中并大目附へ罷越相届十太夫殿江御下

屋敷ニ居候李佐と申もの吟味筋有之於勝間田駅召捕候段手紙ニ而及案内候処後刻十太夫殿ノ御報来右李助義ハ兼而不埒有之暇差遣人別ニ者無之段申来御心得違之趣ニ付罷越清記殿ニ内々相咄候所

十太夫殿も被出直ニも御内談申候所最早先刻暇申渡不殘受入江引取候様七ツ半時頃取計候間尚又不引戻候而者不相濟義ニも候

ハ、上ノ御沙駄も可有之候間拙者も右之段相届候様ニと被申聞候付又々御用番^并大目附へ十太夫殿返書之趣手紙^ニ而相届候右盗ものハ都合十三品之処木綿一反無之余ハ不残有之大鉢百匁余り之もの^ニ而も可有之打寄致許義候段小頭孫八申出候

一蔵合孫左衛門忌中明日^ニ而半減相濟候間明後十二日^ノ忌差免度御用番一学殿へ相伺候処後刻紙面^ニ而何之通宜取計候様申来候

一贗札召捕ニ差遣候もの共之義昨日伝言之趣申出承り置候所今日町川村喜治郎方^ノ在目明仙藏方へ右山伏ゆかりのもの召捕置候段申越候由仙藏^ノ孫兵衛甚七へ手紙差越候得共兩人其他參^ニ付否之訳も難相分候ニ付平助へ仮目附申付非人老人差添罷越様子承り糺帰候様ニ申付差遣候右之段乍序一学殿^并主馬へも及噂置候

十二月十一日 朝雪少 朝飯後晴

一大目附佐々木主馬^ノ手紙^ニ而夜前相届候大橋十太夫殿長屋もの空助義暇遣候段被申候得共未手不離筋ニ付其段申達置候間其旨可相心得旨申来^并十太夫殿^も三浦十郎左衛門を以昨夜ハ手離候段申候得共不手離筋ニ相成候間其旨相心得候様ニ申来候

一先達^而林田土手ニ行倒候非人坊主柳土手へ為引取置候所漸致全快今日立去り候段大年寄^ノ届出候ニ付其段大目附小須賀實^江相届候右ニ付先日以來養料認出候様ニ被申聞候

一仮目明平助昨日町川村へ差遣候所今昼後罷帰り町川村喜二郎へ致対談候処播州之山伏老人留置此間贗札持參候山伏之弟子^ニ而も可有之哉と働振^ニ而差押置候得共勿論弟子^ニ而も無之^并贗札之義ハ一向携り無之^ニ付其俣^ニいたし置罷帰り候段申出候尤右喜二郎義

姉婢庄蔵義爰元ニ被差留候難義と為取^ン種々相働右山伏を捕置唯今^ニ而者甚致迷惑候由ニ相聞候

十二月十二日 晴

一大目附佐々木主馬^ノ呼^ニ来罷越候処大橋十太夫殿長屋者空助妻義御棄人ニ付町奉行へ相渡され度十太夫殿^ノ御家老中へ御伺有之候処御聞濟ニ付受取候様御用番中被仰出候段達有之尚又十太夫殿^も家臣利右衛門来右之趣ニ付今夕^ニ而も可相渡旨口上申来候ニ付明十三日八時可受取候間受人差添可被差越旨及直答候

一贗札一件ニ付昨日仮目明帰り候趣佐々木主馬へ及噂置候
一贗札師召捕差向候文蔵為治^ノ宿繼飛脚を以書状差越東在^ニ而贗札師山伏快寿院得不召捕因州鳥取近辺迄追驅参り八上郡岩坪村^ニ而右贗札師快寿院召捕候得共板木有所未駈と不相分候間相糺候上^ニ而可罷帰左候得^者此上四五日も逗留可仕候段^并入用致不足もちかセ^ニ而式百匁致借用候旨申越佐々木主馬へ及噂候御用番中へ^者明日可及噂候

一蔵合孫左衛門義今日^ノ忌差免候段今朝奉書差遣候所御請ニ源五兵衛来不快ニ付得出勤不仕段届出候

十二月十三日 晴

一御用日登城
一江戸深川御抱屋敷三方御隣家焼失^ニ而此方様御堺目板壁焼失ニ付三奉行已上御機嫌伺有之候旨出仕之上通用有之平服之俣^ニ而例之通七間廊下ニ於て御奏者番^ノ三奉行迄左之通御機嫌奉伺候

深川御抱屋敷御隣家迄焼失ニ付奉伺御機嫌候

一御代官早川八郎左衛門殿支配所当国大庭郡上河内村新右衛門忰弁

藏夫婦二人二階町組屋忠三郎家守弥兵衛借屋住品屋恵十郎引受度

人別人願御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達候出御旨住老殿文

一贗札召捕ニ遣候もの共昨日之所ニ記置候趣御用番中へ及御噂候

一備前田原出入一件之義昨日喜左衛門申聞候ニ田原船へ荷割可遣申

聞候得共初来合居候ものハ備前ニ被仰付来聞候ニ付絶ニ及断荷

割不受取其後參候船頭ハ論中已前之通相成候義ハ備前ニ被仰付

致承知候得共田原ハ相談有之ニ付何れも帰り候様ニ申来居候間

直々西大寺江者得不參田原ニ船懸ケ隙取可申ニ付此方ハ荷割不受

取及断候旨絶ニ及断罷帰り候由尤夜前之処ニ田原船ハ壹艘も

不来合候旨喜左衛門申聞且又向方之風聞承り候所先頃及破談候得

直ニ片積聞届有之運賃上ケ可致と相極居候所追々上役人ハ相聞

郡奉行不取計之由郡代ハ察度有之竹内又右衛門甚不首尾ニ相成田

原之ものとも被叱候由右ニ付田原之者共大手違ひニ相成此趣ニ

而者丸負ニ可相成此趣ニ津山并西大寺金岡江も面皮も濟兼候ニ

付迎も船相続も出来申間敷ニ付船差上船商売相止可申と追々致相

談候様ニ相聞候旨喜左衛門相咄候ニ付其段一学殿舍人江も相咄置

候右ニ付向方之様子致監察候様ニ喜左衛門へも昨日申付置候

一月廻ニ付町方十一丁廻りハ去ル朔日ハ申付置候得共物騒之時節ニ

付来ル十五日夜ハ壹町切ニ全鉢引廻り候様大三十日迄可申付段御

用番中へ相伺候処其旨取計候様被仰出其段大目附へ相届置大年寄

へ申付候

一先達而行倒膝行非人柳土手へ為引取置候間入用孫左衛門ハ拾六匁

五歩式厘取替置右ニ諸入用相濟一日大鉢式歩位ニ相当り飢人扶

持同様之義ニ相当り候旨大年寄ハ証文差出致奥書右懸り大目附小

須賀貢へ差出置候

一手嶋流講釈入用九拾九匁壹歩厘有之由宮田喜左衛門ハ小手形差

出自分証文ニ相認右小手形差添勘定奉行近藤伊左衛門へ差出置候

一大篠東村源太郎方へ去ル三日盜賊入込衣類四品盜取候段触流取計

候様大目附ハ違有之例之通取計本書ハ大目附へ差戻候

一役所入レ物払底ニ相成候ニ付古長持一棹ニ書役硯当番硯損候ニ付

欠所銀ニ先格之通相調申度大目附主馬へ及噂候所宜取計候様ニ

挨拶有之候

一坪井町浜崎屋喜助買懸り借銀差滞銀主ハ大年寄場合へ願出取扱居

候処迎も差引出来兼候ニ付家賤不殘引渡度旨喜助ハ申出候ニ付其

旨為取計可申哉之旨大年寄伺出宜取計候様及差図

一二階町山本屋周右衛門心付ニ材木ニ竹近年高直ニ相成諸人迷惑

仕候右川下へ差下候故之義ニ付川留被仰付可然旨願書差出候得

共川留申付候ハ、在中ハ竹木差出間敷却ニ差支ニ可相成ニ付願

書差戻可然哉之旨大年寄伺出候ニ付心付之程ハ奇特ニ候得とも差

支も有之段為申聞願書差戻候様ニ及差図

一孤独扶持内貸百式拾四匁九歩五厘六毛勘定所下代ハ相廻候大年寄

へ相渡候

一伊勢山田村田三太夫名代高田重藏御師上下式人例年之通来候段新

職人町松野屋十右衛門宿切手差出翌三月八日届ル

一土岐山城守殿領分菜種油方三人ハ送状之写ニ生野御代官稻垣藤四

郎殿ハ大坂御奉行所ヘ御届書大坂御奉行所ノ兵庫江御下ケ被成兵庫問屋ノ油方三人ノ者ヘ相廻候写大年寄差出追而御用所ヘ可被差出事

一大橋十太夫殿ハ長屋住李助妻ニ受人兩人并中小性差添引渡ニ来小頭孫八出番砂兵衛差出受取之其上ニ而中小性ニ逢體受取候段及直答

大橋十太夫殿長屋住

李助妻 常

上受人 下紺屋町

江戸屋源治

下受人 二階町

備前屋藤吉

右女白砂ヘ呼出し送吟味候処盗物携一向無之ニ付請人兩人ニ急度預申付候右受取請人預ケニ申付候段御用番并大目附ヘも相届大年寄江も申達候

一牢番預ケ申付置候大橋十太夫殿下屋敷長屋住李助呼出し立合孫八新治新左衛門出番砂兵衛栄治目明甚七ニ而遂吟味候処太田舎人長屋ヘ這入盗取候ニ相違無之外ニ同類一人も無之妻も一向不存旨早速及白状口書爪印取之

一吹屋町高瀬屋助八御箱訴一件松岡治部助ハ被差戻何れも致直吟味口書取可差出尤御叱切ニ而も相済間敷候間御咎当りを付差出候様ニ被申聞候ニ付年内下方繁用之節ニ付早春可差出旨及挨拶置候

十二月十四日 快晴

一贖札召捕差向候江原文藏小野田為治似七札師無宿山伏快寿院因州八上郡岩坪村ニ而召捕今九時罷帰ル右快寿院と申山状者元丹後田辺紺屋町快宝院俸ニ而六ヶ年已前生国罷出所々致流浪當時無宿ニ而候処先月上旬作州ヘ罷越同月七日堀田殿領分勝北郡植月北村西

分常重村庄助方ヘ參り致一宿候処右庄助ハ贖札板行彫呉候様相頼候ニ付先月九日ハ彫懸り候処庄助娘見付やか間敷申候ニ付庄助と申談外ニ贖板木彫懸ケ之様子ニ拵紙ニ包娘之目之前ニ而庄助取上ケ火中致し右ニ而相止候躰ニ持成し矢張板木彫候処右娘義隣家并本家江右之様子申触し候ニ付急ニ立去り候様ニ庄助申候得共彫懸ケ之義ニ付右板木廿二日ニ致出来其假相渡置立去り候由然ル所右庄助養子娘を内々ニ而貫受妻ニいたし候致同道罷出候処右娘途中ハ実家之方ヘ罷帰り候ニ付其段庄助ヘ為可申達又々庄助方ヘ立帰候処庄助申候者唯今爰元ヘ来候而甚不宜候間急ニ遠方ヘ立去り候様ニ申聞右贖札四拾匁取出し是程出来合候間遣候間持帰り候様ニと申相渡候ニ付早々夜之内ニ立出夫ハ町川村喜二郎方ヘ罷越候所折節山状来致祈禱罷在手伝相頼候ニ付三四日致逗留居候処ヘ喜二郎姉輩庄藏と申もの来持合之銀札を見受絶而錢と引替呉候様致所望候得共贖札之義故爰元ニ而一所ニ相渡候而不宜存及断候得共達而致所望候ニ付式拾四匁引替遣申候右四拾匁之内八匁ハ板付不宜候ニ付焼捨残り八匁ハ小遣ニ致候由ニ付右山伏乍召捕植月江罷越右庄助を遂吟味候処漸板木并絵具并摺立贖札八匁并銀札紙少々取上ケ右庄助義ハ庄屋ヘ預ケ置一札を取罷帰り候尤用意銀致不足因州用ケ瀬大庄屋ニ而銀子二百匁借用いたし漸々遣合七罷帰

候旨申出右山伏快寿院呼出し一ト通り承り候処文蔵が申出之通相

達無之依之直ニ入牢申付候尤植月村庄助義内済も願候趣ニも候

ハ、可聞届存寄候所村中ニ悪ミものニ何がな申立除帳致度存

居候もの、由依之一向断申景敷無之向方ニ而も役所へ可届候旨申

居候由文蔵申出候併右懸合も一兩日見合候ハ、様子も相分可申候

ニ付西吉田役人江申遣候義ハ一兩日見合可然と文蔵江申聞置并因

州用ケ瀬大庄屋へ銀子差戻候義ハ明後日立ニ而目明孫兵衛可差遣

候間其旨申付置候様ニ小頭へ申付置御用番江罷越委細ニ申上板木

#庄助預一札等之書類差出候所御留置被成手際ニ好召捕候と御賞

被成西吉田懸合延引之義且又此間召捕置候贖札持参之庄蔵義ハ可

差帰旨相伺候所伺之通宜取計候様被仰出候右之段大目附江も立寄

委細ニ相届置候且又右之次第銀札場奉行兩人江為相知候処早速竹

内要左衛門来候ニ付右之段相咄右入用之義申談候承知ニ而役所

切之取計之義故入用次第可相廻旨申聞候ニ付委細ニ懸合置候

一大橋十太夫殿長屋住左助義太田舍人長屋ニ而盗取候木綿一反材木

町米子屋藤左衛門相頼三宝屋へ売候由ニ付藤左衛門呼出し遂吟味

口書取右木綿為差出候様ニ大年寄へ申付候処右藤左衛門吟味口書

#右木綿一反為致弁銀取戻候

十二月十五日 快晴

一贖札師植月村庄助縁類之もの#百性惣代老人昨夜通しニ来候由何

卒内済ニ致呉候様歎出候由文蔵申出先承り置候

一贖札吟味入用竹内要左衛門へ昨日懸合置候通金壹匁歩銀貳百四

匁三步相廻候

一因州用瀬大庄屋尾田佐左衛門ニ銀二百目文蔵為治借り候ニ付右為

返済目明孫兵衛明朝立ニ申付銀貳百匁一包#右為挨拶肴代百疋文

蔵為治の書状相添小頭孫兵衛へ相渡さ七候

一伊勢内宮藤波神主名代松井左兵衛御師老人例年之通来候段新職人

町松野屋十右衛門宿切手差出同廿七日也

一郡代所の中村忠五郎と申もの牢番預ケ申来出番藤蔵差出取計之

一大橋十太夫殿の長屋住左助御裁許之砌内々為相知候様此間之挨拶

旁手紙来

一贖札板木#書類御用番中夜前御差戻被成候ニ付大目附へ差出候

一贖札師召捕ニ差遣候同心組罷帰り候ニ付明日の加人式人共差戻候

段大目附へ手紙ニ而相届候

一牢舍人十吉喜右衛門最早休業候ニ而可然庄助義ハ代り医相願候由

#新吉義病氣ニ付医師相願候段牢番申出大年寄へ申達候

一牢舍人八子藤助単物#肌着入遣度伺出承り届

十二月十六日 風烈少雪

一牢舍人周蔵吟味ニ付郡代所の出入申来出番佐十郎円蔵差向取計之

一贖札師植月村庄助内済相歎候段御用番中へ相伺候所承り届候様被

仰出候ニ付大目附へ相届置承り届可遣段申達候様ニ文蔵へ申付候

十二月十七日 晴

一川端円蔵義又六と改号仕度口上書小頭を差出(貼紙訂正)り届

一宮田喜左衛門御褒美伺書老人役と申文字相除差出候様大目附の

来認かへ差出候

一京町田戸屋宗十郎持来候古道具屋株三町目余田屋房吉へ相讓申度

株札差出承り届名面認かへ相渡候

一 坪井町伊部屋利右衛門持来候古道具株三町目一文字屋文助讓受度願書差出承り届株札名面相改渡候

一 二町目北側^ニ而^ニ紙屋茂三郎所持之家屋敷表口三間裏行拾七間土蔵

一 一ヶ所添東隣ハ富屋茂七西隣ハ福永屋藤助也右家屋敷代銀札壹貫

五百匁^ニ相極三丁目川口藤十郎へ売渡願承り届ル

同廿四日宛券状出ス

一 牢舎扶持拾俵内貸証文與書取計之尤来正月へ式石七斗持越候

一 牢舎人新吉療治中村易庵へ申付候由大年寄申出候

一 牢舎人十吉喜右衛門庄助ハ休業申付候段大年寄申出候

一 小性町瓜生原屋宗兵衛平吉義今般船出入根本^ニ付禁足申付置候処

船稼為致候由相聞候付差留候様^ニ大年寄へ申付候

十二月十八日 晴

一 御用日登城

一 人馬問屋兩人来二月芝居興行御許容^ニ付東西大橋へ役者名面建札

仕度願書御用番御聞濟^ニ付大目附^江差出御聞届申達候尤名面付ハ

不差出候

一 備前田原船出入一件為監察山形屋宗兵衛差遣候所下説之通是迄ハ

郡奉行存寄候取計之所先日已来ハ郡代取計^ニ相成郡奉行存寄^ニ不

參何^茂見込違^ニ相成退役可相願杯と申由書付差出御用番中へ差出

候所即刻御辰被成太田舎人^江差出候

一 菜種引受三人之者其他領菜積廻し送り状之写差出御用番中へ差出

候所即刻御下ヶ被成大目附月番へ差出候

一 稲垣藤四郎殿支配中之菜種積登七御届書大坂御番所^ハ兵庫問屋へ

相廻同所問屋^ハ三人之油屋へ相廻候由写差出右同断取計之

一 大笹村源太郎被盜もの^ニ粉敷もの西新町高松屋忠右衛門方^ニ有之由書付差出郡代所へ相廻候

一 伊勢屋長右衛門娘死去^ニ付左之もの共引込申出御用番^并大目附へ相届候

相届候

姪^ニ付三日 茂渡藤右衛門 従弟^ニ付三日 山本三郎左衛門

従弟^ニ付三日 妹尾平兵衛 右同断 茂渡兵吉

一 東田辺万福寺へ去ル十二日盜賊這入仏具十三品盜取候^ニ付触流取

計郡代所へ相廻候様大目附^ハ違有之写取町方へ差出本書ハ郡代所

へ相廻候

一 林田町門屋久左衛門義再役申付度伺出承り届候所今日申渡候段届

出候

一 中之町鮎屋藤吉悻吉三郎と本多左門殿家来佐々之木十郎兵衛と致

喧嘩^并同町西屋治右衛門悻治三郎と日上屋義助悻致喧嘩候処右両

様共致内濟候段大年寄申出承り置

一 牢屋扨七月^ハ当月十五日迄百六匁五歩四厘有之候段小手形差出

一 牢舎人当年中之服薬數七百卷服有之候由小手形差出ス

一 非人加廻り^并臨時出候節ハ病犬之外^者式合五勺つ、扶持米可相渡

先格之処当正月玉置源五兵衛月番^ニ而^ニ加廻り扶持本廻り之通五合

つ、相渡其後ハ同役兩人も其通^ニ取計先月迄右之通^ニ相渡候得共

何れ^茂不心付此間^ニ至り心付取調申付候処全源五兵衛心得違不調

法之処其後同役共ハいつ相改候事哉不相糺無何心先月之例を以取

計候由何れも不調法奉恐入大年寄共差扣伺出尤右渡過米都合七斗

壹升有之候自分義も同様之義恐入候義ニ付右之段申上夫々御答取計候上自分義も差扣可相伺存寄ニ勘定奉行中へ及噂候所向方之役所も同様之義此節御用多之時節左様之義表立候ニ所々大差支ニ相成候御勝手ニ左様之義八間々有之義ニ候得者何卒証文認かへ過米相戻候得者濟候間何分内濟ニ致候様絶ニ被申聞其段ハ此方ニも同様之義ニ候得共後暗様ニ被存候間右之通ニ相届可申存寄之旨申達候所此候ニ差置候ハ、後暗共可申候得共御対談之上過米差戻候得者後暗キ筋ニ決ニ無之候間過米つぐない手有之候ハ、其通ニいたし呉候様勘定奉行兩人共被申聞候ニ付左候ハ、自分義つぐない可申候間春之証文認替過米代差添可差出と申談置大年寄諸吟味呼出し其通申達相濟候然ル所右過米ハ大年寄共つくない申度新左衛門を似申出候且又右ニ付大年寄共夜前差扣伺出候節諸吟味も差扣相同度由ニ候得共諸吟味以下ニ差扣相伺候先例無之ニ付却ニ恐入得不伺候段内意相聞へ候得とも先例無之義ニ候ハ、不及伺候旨及差置候

一 郡代中ノ明十九日五時ノ牢屋吟味ニ罷出候間木馬水責之用意致置穢多人足共罷出候様ニ申付呉候様被申聞其段小頭孫八江申付尤牢屋出入立合ニ出番差出候様ニ申達候

十二月十九日 快晴

一 昨夜郡代所ノ皿村ニ博奕参会之者召捕候処安岡町安井徳と申もの致参会候指口之旨来候ニ付安と申ハ何屋之安ニ候哉と相尋候得共昨夜之処ニ難相分候由ニ付番藤藏左十郎差向候安之字付候ものハ糺之内不殘預罷帰候様ニ申付番左十郎藤藏差向候処

徳ハちん徳事ニ當時尋之ものニ不居申安之字付候ものハ出屋安兵衛岡屋安兵衛兩人預ケ申付置江川屋安之丞と申もの居合不申候ニ付尋申付置候由届出尚又名面糺之義郡代所へ申遣置候所江川屋安之丞ニ有之候旨申来依之昼廻り藤藏為治差遣出屋岡屋兩人共ニ差免候様ニ申付江川屋安之丞尋申付候段大年寄共へ申達候但江川屋太郎市俣安之丞也

一 例年之暮之町触昨日差出候

一 郡代中五時ノ於牢屋周藏吟味水責有之出入立合百藏柴治差出之一 神田栄治妻出産男子致出生候段小頭ノ届出候

一 大橋十太夫殿下屋敷長屋住空助養子佐市致他参居候処罷帰候ニ付引渡十太夫殿ノ伺有之御用番中ノ当役江受取候様ニ御差有之候ニ付空助妻と一所ニ受取候振合ニ取計候様大目附中ノ手紙ニ申来且又十太夫殿ノ右之趣使口上ニ申来請人差添被差出候様

一 申遣候処即刻被差出小頭差出為受取之差添中小性致対面受取候段及直答右佐市白濁へ呼出し受人兩人江預ケ申付候

一 因州用瀬大庄屋尾田佐左衛門へ銀子為持遣候孫兵衛罷帰り受取候返書ニ文藏為治渡置候手形持帰り候

一 植月村庄助贖札内落歎彼是間違之事而已申庄屋年寄も一向不來甚不埒之義ニ付無是非手切之及挨拶候様ニ相成候ニ付源助太七三右衛門御酒代差遣度文藏ノ申出仍之源助太七へ式歩つ、三右衛門へ銀壹両差遣候様ニ申達文藏へ相渡候

十二月廿日 快晴

一 安岡町松屋伊助中風相煩家内老人小兒共ニ甚難洪歎出候得共急

度飢渴扶持も多人數之義故難申立先達而も工面もの、内少々被下候ニ付此度も右同様式儀程被下候様仕度大年寄伺出承り届

一三町目南側ニ而次田屋善右衛門家屋敷表口拾壹間裏行拾七間但二甲子六月朔日指

軒役也東隣ハ太刀屋久治借屋金川屋茂兵衛西者南北通筋也附り裏

通戸川町分地面ニ而土蔵三ヶ所三町目分ニ而土蔵三ヶ所合六ヶ所

右家屋敷質物ニ書入一ヶ月老歩弍朱之利足ニ而来午四月切ニ銀札

拾式貫目借用之願差出承り届翌廿一日本文差出

一坪井町南側ニ而日野屋山三郎家屋敷表口三間裏行拾七間但老軒役

也東隣者浜野屋嘉市郎西隣ハ益野屋喜助也右家屋敷質物ニ書入当

已十一月ノ来午四月切ニ而老ヶ月老歩半之利足ニ而銀札七百匁借

受度願書差出承り届同日本本文差出 廿七日指

一郡代所ノ博奕参会之者共召捕候ニ付左之もの共牢番預ケ申付候段
申来当番為治差出入牢取計之

新田村伊右衛門 同村孫右衛門悱仁十郎 二ノ宮村勘治 布原

村伊惣治 中嶋村仲平 同村新吉 一方村源藏 古城東村平

次 同村甚七 ヲ九人

一郡代所ノ博奕参会差口之者左之通申来出番新治藤藏差向候処最早
立去り候ものも有之左之趣ニ取計置候

去ル五日夕二ノ宮原筋新田村伊右衛門 安岡町

方ニ而博奕参会いたし候由 江川屋太郎市悱

最早立去り候ニ付尋申付候 安之丞事六兵衛

去ル四日一方村源藏方ニ而 船頭町

博奕参会いたし候由 うら 長八

最早立去り候ニ付尋申付置候

去ル五日博奕宿いたし候由 河原町一軒離屋住

組合預ケ申付置候 長七

去ル十一日新田村伊右衛門方ニ而 福渡町

博奕参会いたし候由 藤右衛門

組合預ケ申付候

右之外ニも魚町横町金十仏源治悱差口申来候得共勘当もの、義ニ

候且又紺屋町勘八と申もの申来候得共同町ニ同名無之定下而紺屋

町太閤勘八義ニ而も可有之同人義ハ当町出九大夫長屋ニ居候段申

遣候右之段取計置候段翌廿一日御用番并大目附へ手紙ニ而相届候

十二月廿一日 曇

一出九大夫長屋住太閤勘八義昨夜及深更十郎左衛門ノ大目附へハ明
日相達可申候間召捕具候様申来候得共九大夫義間柄ニ付頼来候者

格別異儀指之義左も無之ニ御家中長屋もの召捕候様ニ郡代所ノ相頼可

越謂無之筋達之義ニ付何分先刻も得御意置候通大目附へ御届被成

候ハ、御達可有之候間其上ニ而可召捕旨及返答置候所今朝右之段

十郎左衛門ノ大目附へ相届候由尤右勘八義ハ昨夜受人二人其外二

人出ノ番ニ付都合四人番ニ付居候所取逃候由九大夫ノも今朝相談

有之候右之段十郎左衛門ノ届振ニ付大目附ノ呼ニ来罷越候所右勘

八義郡代ノ為知有之候処役筋ニ而不召捕ハ不念之様ニ察度有之如

何之存寄ニ候哉承り度と被申聞候間火急之取もの杯ハ不及御沙駄

召捕候事ニ候得共勘八義ハ博奕之指口有之と申位之不慥成義殊ニ

急度主人有之四人迄番を付居候ものを踏込可召捕謂無之殊ニ十郎

左衛門ノ九太夫義ハ間柄之所無心元杯と申義ニ而先内々ニ而相渡置度杯と申義ニ候得者いかニも組差向可申得共朋輩内之長屋もの不埒有之迎郡代所ノ可頼謂無之ケ様之ものハ郡代所ニ而吟味之上差口之義ニも候得者早々大目附ハ相届大目附ノ差図之上可召捕筋ニ候段急度申披いたし候夫共拙者義不念と思召候様之義ニも候ハ、以後之覚悟も相改差扣可相伺哉と申候得者左様程之筋ニ而著無之御存寄之段承り置候段挨拶有之候

一 備前竹内又右衛門ノ夜ニ入飛札到来田原船持共再答書相廻し早春ノ片荷積ニ申付候段申来右書類即刻太田舍人ニ差出返書下案ハ明日可相伺旨申達備前飛脚ニ自是可及返書と申役所受取相渡差戻候

十二月廿二日 曇

一 備前竹内又右衛門へ返書下案相認候処ニ御好之御文段舍人ノ申聞候付両様相認太田舍人ニ差出候

一 植月村庄助贖札内済歎ニ昨晚庄屋煩代人年寄百性惣代村方惣メ役罷越色々相歎如何様ニも一札ハ可仕候得共此節庄屋年寄惣代之三判ハ銀子御借り入ニ付不残役所へ差出置候得者印判出来不申候得共聞届呉候様ニ相歎右印判之義も聞合候処弥相違も無之趣ニ相聞勿論庄屋病氣も相違無之趣ニ付印形無之もの共ハ爪印ニ而可差免候間誤一札案紙相渡承り届遣候様ニ文藏へ申付候処左之もの共印形取差出候此段明日可及御沙駄候

勝北郡植月北村西分

同村親類

当人 庄助

友治

同村組頭 平藏

同村惣メ役 善吉

同村百性惣代 平兵衛

同村年寄 善治郎

同村庄屋文助煩代 太郎右衛門

江戸村 多七

小野村 源助

一 播州広峰山魚住藏人昨日暇乞ニ来今朝出立宿届出候

一 太田舍人ノ田原出入之義長岡船之様子内々聞繕候様一学殿被申之由申来藏合孫左衛門へ申達候

一 当正月ノ之牢舍人用当役ノ五拾匁相払候残九拾七匁式歩八厘有之小頭ノ証文差出奥書取計之

一 牢舍人当年中之服薬数左之通差出奥書取計之

七百壹服代式百拾匁三歩 但一服三歩

一 大橋十太夫殿長屋住盜賊李助召捕入用都合左之通証文差出奥書取計之

三拾六匁壹歩

一 牢舍人新田村仁十郎蒲苗（アヤ）一同村清右衛門ふとん一併綿入一二ノ宮村勘治ふとん二ツ裕一古城村平治ふとん一同村甚七ふとん一方村源藏ふとん一入遣度牢番伺出承り届

一 中之町福寿屋要助所持之家屋敷中之町北側ニ而表口三間裏行拾七間但四歩五厘役也西隣ハ西屋治三郎東隣ハ米子屋いち右家屋敷質物ニ書入一ヶ月式歩之利足ニ而式百五拾匁借り受度願書承り届（開）

五百匁文出

一 伯州米子麴町医師野上玄養義当月迄逗留相願候処未本服不仕候ニ付来三月迄逗留為仕度西今町松尾屋源之丞追願差出承り届（開）

四月八日

一 伏見町小坂屋善兵衛持来候古道具屋株材木町材木屋佐助讓受度願書差出株札名面認かへ相渡承り届

一 堺町釘屋宗十郎持来候古道具屋株当已十二月来ル西ノ十二月迄五ヶ年之間西今町阿部川屋源左衛門借り受商売仕度願書差出承り届ル 老七月取戻文

一 坪井町浜屋源右衛門悴治兵衛義三ヶ年已前卯三月御願申当国之内真嶋郡新庄村平兵衛方へ出職為仕候処此度罷帰り申候然ル処尚又当已ノ年々来ル未ノ年迄三ヶ年之間出職為仕度願書差出承り届翌午年八月廿一日病死届出候

一 元魚町武本屋清藏義金兵衛と改号仕度古道具屋株札名面相改呉候様願書差出御作事へ申達名面認かへ相渡候

一 久世 生野御廻米積切候段今津屋平藏届出候

一 非人加廻り扶持渡過当正月拾四六步六厘九毛大年寄差出右証文認かへ差出奥書取計之

一 福渡町藤右衛門義去ル廿日手錠懸ケ組合預ケ申付置候処取逆候段届出敷敷尋候様ニ申付候尤明日可及御沙駄候

十二月廿三日 雪

一 御用日登城

一 贖札師西吉田領植月村庄助義歎之趣承り届誤一札御用番中へ差出候処右同類山伏快寿院も同様ニ可取計ものと御噂有之候ニ付直ニ伺書相認庄助被差免候上ハ彫刻師山伏快寿院も誤一札取置立去り可申付段相伺候処其通取計候様御即答有之候ニ付其段大目附へ手紙ニ而申達候

一 博奕御答初ハ過料ニ而相済し度重ル程重料ニ取計候様ニ郡代と申談可伺御用番被仰聞候

一 田原出入一件ニ付長岡船之風聞夜前藏合孫左衛門米屋藤右衛門承り候趣申出候付太田舍人江申達候処尚又長岡船ハ此方申立之通荷割可受取ものと存居候哉承り糺し可置且又破談ニ相成候得者登り荷可差留其節者如何可得心存念哉其段承り可置且又爰元ニ而荒荷物ハ不割渡ニ相違無之と申義年寄者藏元一札取置候様一学殿被申候由太田舍人被申聞藏合孫左衛門へ申達ス

一 備前一相廻り候田原船答書船方へ相渡再答書為致置候様太田舍人一被申聞備前返答書被差戻候付其段孫左衛門へ申達ス

一 非人加廻り扶持渡過大年寄共拾四六步六厘九毛相弁へ証文認かへ差出勘定奉行兩人江相渡古証文と引かへ被下候様ニ申達置候一 牢屋一相当役一相払候分拾老一式步六厘孫八江相渡候尤七月ニ拾八步四厘相払都合拾五拾四也 （麻紙訂正）

一 牢屋追払之節酒代三匁三步孫八江相渡

一 左之通於御用所大目附出席御用番一学殿一被仰渡候

町奉行江

左之通可被申渡候

一 役筋格別出精相勤候ニ付 大年寄
八木五俵被下之候 藏合孫左衛門

一 鳥目三百文 三軒屋番

加役使組場合之勤方格別出精 中村作治
相勤候ニ付被下之候

一御用多之所年中出精

相勤候ニ付八木五俵被下之候

一綿実油方出精相勤候ニ付本役被

仰付御合印門松被成御免候

一手嶋流講釈相勤候ニ付

銀三拾匁つ、被下之候

一銀三拾匁（采徳）

（石開明）受付

一銀拾五匁つ、

右同様諸方引受致世話候ニ付被下之候

諸吟味

宮田喜左衛門

組屋忠三郎

北山修伯

徳山朴也

宮田喜左衛門

玉屋伊左衛門

二月屋弁右衛門

菊屋清左衛門

糍屋伊助

福永屋幸蔵

生駒屋治右衛門

櫻野屋茂一郎

町棟梁 伊兵衛

弥五郎

跡見春鷗

木屋太兵衛

右申渡取計左之通

一蔵合孫左衛門義八切紙（麻紙訂正）ニ而呼出し於座敷小頭一人立合（麻紙訂正）ニ而

申渡之

一宮田喜左衛門義八大年寄（麻紙訂正）切紙（麻紙訂正）ニ而呼出し於座敷小頭大

年寄立合（麻紙訂正）ニ而申渡之

一跡見春鷗義八大年寄へ切紙遣呼出し小頭部屋目附大年寄諸吟味立合（麻紙訂正）ニ而於座敷申渡之

一北山修伯義八直切紙差遣尤於座敷可申渡処不快（麻紙訂正）ニ而罷出名代朴也（麻紙訂正）江書役部屋（麻紙訂正）ニ而申渡之

一徳山朴也義八大年寄へ切紙差遣諸吟味部屋目附迄立合（麻紙訂正）ニ而書役於部屋申渡之

一組屋忠三郎右同断申渡之

一木屋太兵衛右同断父子共呼出し申渡之

一中村作治義小頭（麻紙訂正）申遣於書役部屋小頭部屋目附立会申渡之

一町大工棟梁（麻紙訂正）手嶋学世話人（麻紙訂正）大年寄於宅申渡候様大年寄へ申渡候

右取計相濟候段御用番（麻紙訂正）大目附へ手紙（麻紙訂正）ニ而相届候

一大年寄共去ル十九日例歳之通御手当頂戴之御礼（麻紙訂正）罷出候由今日為治申聞候

一人馬問屋共来二月芝居興行小屋懸之内両側ニ棧敷懸ケ役人棧敷を

上面ニ懸ケ度願書差出候得共旧例無之事故不取上ケ差戻候

一牢舍人弥助（麻紙訂正）干吉（麻紙訂正）義兼（麻紙訂正）伺濟候通来ル廿五日歳（麻紙訂正）可取計候間例之

通立会被差出候様大目附へ手紙（麻紙訂正）ニ而申達候

一福渡町藤左衛門義昨夜取逃候段御用番（麻紙訂正）大目附へ相届候尤右組合

之者当番人左之兩人組合預ケ申付候

家守忠助代人

藤右衛門取逃候ニ付組合預ケ申付置候

与八

十吉

十吉

十二月廿四日 雪

一九時左之兩人呼出し立合例之通ニ而遂吟味候

去ル五日晩在分銀藏と申もの三人致同道 河原町

跡瓜生原村あまご兵藏一人同道ニ而来り 長七

博奕打候得共名面存不申由及白状

太田舎人長屋之外盜賊相働候義嚴敷 大橋十太夫殿長屋住

遂吟味候得共余罪無之旨不及白状 空助

一文藏為治目明牢屋へ差向贗札彫刻師山伏快寿院誤一札取置立去り

申付候尤目明へ引渡候非人一人申付御領分堺へ送り候事

贗札師庄助内濟承り届 元丹後田辺出生当時無宿山伏

差免候付差免立去り申付候 快寿院

以後ケ様之悪事仕間敷尤御領分へ立入申間敷と申

誤一札取置候

右取計相濟候段御用番并大目附へ紙町也相届右誤一札御用番へ手紙ニ而

差出し候

一今明日取計有之組致不足候ニ付加入二人今明日被仰付被下候様ニ

大目附へ相達候所内田数右衛門堀内吉次来

一昨日之御褒美勘者中々相廻り大年寄へ相渡候且又中村作治被下も

のハ向方ニ而直ニ被相渡候由作治申出候

一博奕打御仕置考并牢舎人数相改罪状迄書付来ル廿八日ニ差出候様

御用番中御差図之旨大目附江申来郡代江も及通用

一郡代所門松御免之ものも有之候ハ、用意有之候間及通用候様申

来福渡町跡見春鷗二階町組屋忠三郎右兩人被差免候間宜頼入候段

郡代所へ申達候

一田原一件ニ付長岡船へ荷割心得之義難相尋趣太田舎人江罷越申達ス

一小性町下横町ニ而浜田屋善六家屋敷表口二間五尺七寸裏行拾三間

五尺五寸但半役也北隣ハ芦田屋左介南隣ハ大溝也右家屋敷代銀江老

ノ三百匁ニ相極船頭町作人たけへ売渡度願書承り届差出候正月八日

一西今町中野屋太良兵衛父文吾義此度坂手文吾と相改小須賀一学殿

江出入奉公仕度人別除願差出承り届

一二階町豊屋多助家守借屋住仕立屋吉五郎亡父吉三郎名前ニ而衣類

四品打穴屋へ質ニ置有之候処受返し度願右兄弟徳三郎人牢ニ付伺

出無相違由ニ付勝手次第と及差図候

一御領分東南条郡林田上之町磯右衛門娘もと義小性町今津屋平藏家

守平三郎引受度人別入願下方引合相濟候段大年寄申出承り届ル

一綿改口銭左之通配分可取計旨伺出承り届ル

口銭高

一式拾式匁

一三貫拾四匁

一三百四拾五匁

一五百六拾七匁

一壹貫九百三拾匁

ノ五貫八百七拾八匁

右口銭左之通割渡

問屋五人江左之通割渡但六歩割

一壹貫八百八匁四歩

能勢屋源助

和泉屋清助

能勢屋源助

大坂屋鉄五郎

豊屋喜兵衛

高瀬屋勘十郎

一拾三匁式歩

和泉屋清助

一式百七匁

大坂屋鉄五郎

一三百四拾匁式歩

豊屋喜兵衛

一壹貫百五拾八匁

高瀬屋勘右衛門

改役兩人^江 式歩三厘五毛之割

一壹貫三百八拾壹匁三步二厘

米田屋藤右衛門
大村屋源右衛門

小遣壹人^江 七厘之割

一四百拾壹匁四步六厘

高瀬屋文吉

惣中買共五厘之割

一貳百九拾三匁九步

惣式歩中買共酒代

メ 貳貫八拾六匁六步九厘

差引

残^而 貳百六拾^四匁五步壹厘

当分諸吟味預り

一藏合孫左衛門義銀札場御土藏張出し出来候ニ付為宿料年々五儀
つ、増被下候段今日勘定奉行近藤伊左衛門ノ違有之候由同人ノ通
用有之当人も御札罷出候

十二月廿五日 晴

一左之もの共於牢屋取計候ニ付書役新左衛門小頭代新治部屋目附左
十郎出番百藏又六六半時差出御徒目附山田新三郎下目附本沢字八
立合左之通取計之但目明甚七

二階町仕立屋吉三郎悴

所々^ニ 賽銭等度々盗取候付

徳三郎

御領分追払申付

但御徒目附下目附立合無之

本覺寺へ這入品々盗取候ニ付

無宿盗人

五十敲之上

弥助

御領分追払

所々^ニ 小盗相働候ニ付五十敲之上

右同断 十吉

御領分追払

右取計相濟候段御用番^并 大目附へ手紙^ニ 相届大目附へハ口書伺
書ともニ差出候

一左之通申渡鉄取上ケ差出候様大年寄へ申付候

盗賊十吉義安岡町鍛冶

東新町鍛冶 善右衛門

長右衛門方^ニ 鉄五^メ 匁盗取善右衛門義式拾匁ニ買取候ニ
付出不相札買取候段叱代物損失申付鉄取上ケ差出候様申

付ル

一戸川町多藏妻月取間違之叱申渡候段大年寄届出候

一郡代所々小座村上分字助出牢切手相廻り^并 牢舎人乙松吟味ニ付立
合申付砂兵衛左十郎差向ケ出入取計之

一酒改共御役料無之其外何之品も無之事故年寄同様ニ老軒役差免可
然旨大年寄伺出承り届仍^而 組合相離候事

一西今町野々口屋七郎右衛門義近来別^而 出精相働候ニ付年寄上席櫻

野屋茂一郎次席ニ被仰付候様大年寄伺出其通申付ル

一西新町高松屋忠右衛門方之質物在方之もの見改候処盗ものニ相違

無之旨届出候由大年寄申出候

一備前竹内又右衛門へ之返書下案去ル廿二日伺置候処大目附執筆ニ

而別^ニ下案被相認其通差遣候様尤明廿六日立可差遣旨舍人^ノ被申聞候^ニ付右御下案之俣相認月番大目附^江飛脚之義申達候所松山源藏來相渡候

十二月廿六日 快晴

一 加人使組兩人今日^ノ差戻候段大目附^ヘ手紙^ニ而相届候

一 神田榮治血忌明ケ今日^ノ致出勤候

一 坪井吉井要助^ノ歳末之為祝義鯉節廿例歳之通差越及相答候

一 福渡町博奕打藤右衛門義來正月十五日限り敷敷尋申付候様大年寄^ヘ申達候

一 役所入物之長持二棹式拾三匁^ニ而欠所銀^ニ而相調候^并錠三ツ相調候^并硯之義も大目附^ヘ及噂置相濟居候得共宜硯無之仍之当番硯一面相調候書役硯ハ追^而可相調候

十二月廿七日 快晴

一 伊勢山田御炊太夫名代西佐助御師上下式人例年之通來候段宿新職人町松野屋十右衛門宿切手差出^{翌二月七日始ル}

一 贖札持參無宿庄藏番人^并諸人用八拾匁六厘之由大年寄証文差出奥書取計

十二月廿七日 快晴

一 無宿盗人十吉安岡町鍛冶長兵衛方^ニ而盜取候鉄東新町鍛冶善右衛門買取候代物式拾匁差出安岡町鍛冶長兵衛^ヘ相渡候様大年寄^ヘ申付候

一 万福寺被盜候仏具町方^ニ無之旨大年寄届出候

一 牢浚申付昼廻り文藏左五兵衛取計之別条無之段届出候

一 贖札師庄助^并快寿院召捕人用四百四拾三匁四步二厘右受取証文二

通^ニいたし小頭^ノ差出奥印書取計之尤今般之贖札惣入用都合

五百式拾三匁四步八厘也

一 目明仮役非人御酒代^并無宿者非人^江預ケ候賄代其外目明召連候受廻非人扶持等都合百六拾六匁八步三厘之証文小頭^ノ差出奥印書取計之

但目明仮役一日酒代五步 非人他所行一日酒代五步

計之

無宿もの柳土手^ヘ預り候賄代一日壹匁非人加廻り式合半つ、

十二月廿八日 快晴

御用日^并歳末御祝儀有役之面々登城之処自分義風邪^ニ付三浦十郎左衛門を以不參御断申達候^并御用向不残十郎左衛門^ヘ相頼遣候

一 備前^ヘ差遣候飛脚御報^ニ付此度不及再答最早明春可及懸合候申受取書取四時前罷歸り右受取書太田舍人^江差出候処不快^ニ付月番大目附^ヘ差出候様申來佐々木主馬^ヘ差出候

一 昨夜出番夜廻り藤藏為治百藏榮治博奕監察^并関貫改更廻り差出候所東大番所二階町三津屋前船頭町今津屋横鍛冶町山形屋前関貫四ケ所不^メリ之趣届出候^ニ付遂吟味夫々口書差出候様大年寄^ヘ申付候其外所々立入相改候処博奕沙駄ハ無之旨届出候且又小頭^并書役

一 田町関貫改申付候処小沢又右衛門横番所行灯消候^ニ付尋候処夜半後ハともし不申候由相答不埒之旨申出候付大年寄^ヘ糺候様^ニ申付候

一 備前牛窓大工五郎左衛門市兵衛喜右衛門半兵衛善助小作六人今朝罷歸候段新職人町松野屋十右衛門届出候

一 福渡町阿賀屋助五郎家守忠助借屋住按摩取喜齋病身^ニ相成稼出来

一 備前牛窓大工五郎左衛門市兵衛喜右衛門半兵衛善助小作六人今朝罷歸候段新職人町松野屋十右衛門届出候

一 福渡町阿賀屋助五郎家守忠助借屋住按摩取喜齋病身^ニ相成稼出来

一 備前牛窓大工五郎左衛門市兵衛喜右衛門半兵衛善助小作六人今朝罷歸候段新職人町松野屋十右衛門届出候

一 福渡町阿賀屋助五郎家守忠助借屋住按摩取喜齋病身^ニ相成稼出来

一 備前牛窓大工五郎左衛門市兵衛喜右衛門半兵衛善助小作六人今朝罷歸候段新職人町松野屋十右衛門届出候

一 福渡町阿賀屋助五郎家守忠助借屋住按摩取喜齋病身^ニ相成稼出来

付候

一 備前牛窓大工五郎左衛門市兵衛喜右衛門半兵衛善助小作六人今朝罷歸候段新職人町松野屋十右衛門届出候

一 福渡町阿賀屋助五郎家守忠助借屋住按摩取喜齋病身^ニ相成稼出来

一 備前牛窓大工五郎左衛門市兵衛喜右衛門半兵衛善助小作六人今朝罷歸候段新職人町松野屋十右衛門届出候

一 福渡町阿賀屋助五郎家守忠助借屋住按摩取喜齋病身^ニ相成稼出来

一 備前牛窓大工五郎左衛門市兵衛喜右衛門半兵衛善助小作六人今朝罷歸候段新職人町松野屋十右衛門届出候

一 福渡町阿賀屋助五郎家守忠助借屋住按摩取喜齋病身^ニ相成稼出来

不申極老之義親類縁者無之ニ付孤独扶持願出無余義趣ニ付十郎左衛門を以相伺候所御用番御聞濟ニ付大目附へ差出勘定奉行へも及通用置候段申来大年寄へ申達候

一 早川八郎左衛門殿支配所備中阿賀郡宮地村百性惣兵衛悻松五郎義伏見町小田屋伊平次養子ニ仕度人別人願右同断取計相濟翌正月廿九日住宅様文書出ス、六月廿三日離帳

一 脇坂淡路守殿預り所当国英田郡倉敷村日指屋増五郎弟竹吉義安岡町岡崎屋善吉後家養子ニ仕度人別人願右同断取計相濟翌正月廿七日住宅様文書出

一 桶屋町谷屋佐七妻致離縁親元兵庫門口町西代屋吉兵衛方へ差戻度人別除願右同断取計濟

一 来年年ハ七ケ年一度之人別改ニ付先格之通可申付哉と十郎左衛門を以御用番中へ相伺候処伺濟ニ付大目附江も相達置候旨申来候ニ付其旨先格之通取計候様大年寄へ申付候

一 博奕御咎考書三浦を以御用番中へ差出候

一 牢舍人数ニ罪状共認差出候様先日被仰出候付右同断差出候

一 土岐美濃守殿領分当国英田郡北村弁藏弟文藏夫婦娘右家内三人船頭町今津屋平藏引受度人別人願右同断取計相濟候

一 町方夜廻り并非人加廻り年内中と兼而伺書候間不及申上義ニも候得共為念三浦士を以御両所江及噂候

一 大三十日先格之通惣町関貫開立番付置候段三浦士を以御両所江申達候

一 二階町山本屋周右衛門居宅前ニ道分れ之懸札仕度願書差出右同断相伺候処是ハ下ノ可願筋ニ無之町役人ノ可申付筋ニ候間其旨取計

候様被仰出候旨申来候ニ付大年寄ノ願候様ニ申付置候

一 太田舍人長屋被盜もの受取度旨ニ付三浦ノ大目附へ及噂候所御用番中へ相伺候様ニ被申候由申来其旨舍人江相談申遣候所来春ニ而

も宜旨申来候然ル所又々佐々木主馬ノ伺濟ニ而引渡候ハ、舍人江も受取候様達候間其段相届候様ニと申来候段三浦士ノ通用有之候

一 馬持共年賦式百式拾匁船持共年賦式百拾六匁并船持共式メ七百匁今日御金藏へ相納候様可申付候様ニ勘定奉行近藤伊左衛門より申来大年寄へ申達候

一 町方関貫入用先年致拜借廿年賦ニ年々五拾匁つ、可相納候処是迄無其義今年ノ初而五拾匁相納大年寄ノ差出候付近藤伊左衛門へ手紙添差遣候翌正月十三日續取地字形取印形相納り大年寄へ相達候

一 欠所銀百六拾四匁八步六厘七毛例年之通当役ノ相納候欠所銀百六拾四匁八步六厘七毛例年之通当役ノ相納候

一 備前ノ差越候田原船持共再答書写取候由孫左衛門差出候

十二月廿九日 曇

一 太田舍人長屋ニ而盜賊全助盜取候品太田舍人江引渡候様大目附

佐々木主馬ノ手紙ニ而申来候ニ付引渡目録致印形手紙相添為持遣候処相答受取書来

一 贖札師快寿院并植月村庄助ノ取上ケ候板木類并絵具皿銀札紙并摺立候贖札類不殘銀札場奉行へ為持遣受取候返書来候

一 出九太夫長屋住勘八妻子請人江引渡候様御番頭ノ達有之候ニ付引渡候旨九太夫ノ被申聞候

一 一昨廿七日夕更廻り届出候左之四ケ所関貫番人大年寄ニ而相糺候処何れ成申訳無之不調法恐入候段口書差出候ニ付紙面ニ而御用番

中へ差出先格之通過料錢三百文つ、可申付旨相伺候処伺之通宜取
計候様ニ返書來其通申付候様ニ大年寄へ申付候

去ル廿七日之夕小門不_レメ

開置不_レ埒之至ニ付

過料錢三百文つ、

申付候

材木町大番所前

関貫番人 三六

庄兵衛

船頭町今津屋前

関貫番人 權助

久兵衛

鍛冶町山形屋前

関貫番人 和助

二階町南詰

関貫番人 長八

右取計相濟候段御用番中へ翌大三日相届大目附_江口書共差出し

相届候

一 牢舍人新吉義二廻り療治相濟快方ニ付休薬被仰付候_而も宜旨牢番

山七伺出承り置

一 小沢又右衛門横関貫番人大年寄_ニ而相札候処酒ニ給酔不調法仕恐

入候段口書差出左之通申付候様大年寄へ申付候

去ル廿七日之夕行灯消居候ニ付 小沢又右衛門横関貫番人

相答候処当時_者油代不相渡候付九後ハ

消候旨相答不埒ニ付相札候処全酒ニ給酔前後

不相覚尤油代不相渡義ハ決_而無之処如何心得左様ニ

相答候哉不覚段申出重々不埒至極ニ候以來急度

相慎大切ニ番相勤可申候此段急度叱置候

大三十日 快晴

一 関貫番人過料申渡候段御両所へ紙面_ニ而相届候

一 宮脇町阿賀屋助五郎家守福渡町忠助借屋住忠助義当月二日家出仕

所々相尋候得共行衛不相知段届書差出例之通百日尋申付候

一 牢舍人竹尾屋直兵衛義福永屋吉兵衛方へ女布子嶋一反余堅嶋单物

質物ニ置所持之品ニ相違無之ニ付受返度願書差出承り届

一 元魚町靴屋伊助京町大村屋源右衛門大坂御呼出病氣ニ付御断申上

候処今以不相勝候ニ付正月早々親類差出筋立可申旨届書差出候

一 牢舍人白銀屋利兵衛三家屋幸三郎方へ拾壹品質物ニ置候処所持之

品ニ相違無之ニ付受返度願書差出承り届

一 牢舍人田邑村庄助綿入差越候付入遣度伺出承り届

一 宮脇町阿賀屋助五郎家守万五郎借屋住浜田屋嘉七夫婦_并悴利吉伊

三郎宇吉又吉右家内六人松山寿庵長屋へ引越度人別除願承り届

津山郷土博物館紀要第二十一号

津山松平藩町奉行日記十五

平成十九年三月三十一日発行

編集
発行 津山郷土博物館 ©

岡山県津山市山下九二番地
印刷 株式会社 廣陽本社

岡山県津山市田町二二

